

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	スペシャリスト型SDGs アイデアマイニング 学生セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し、学生同士のブレインストーミングによって、SDGを達成するためのアイデアを発掘する。ファシリテーターの教員が示すUNDPの「重要な事実」を踏まえ、ひとつのSDGに対して異なる専門分野から意見を出し合い、ペアのディスカッション、グループ内でのディスカッションを通じて、ひとつのプロポーザルを導く。最終的にはその成果を全員の前でプレゼンテーションし、全体として17つのSDGsをカバーする包括的なアプローチを提案する。	
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し、広島県及び県内市町村の1つを取り上げ、SDGsの観点から課題を議論し、解決策を探索するセミナーである。ファシリテーターの教員が示すUNDPの「重要な事実」及び当該県市町村のプレゼンを踏まえ、その課題に関して異なる専門分野から意見を出し合い、最終的には課題の分析と解決策をひとつのプロポーザルにまとめ、市民も含めた全員にプレゼンテーションする。	
	普遍的平和を目指して	(概要) 本講義では、今日の国際社会において、緊急性の高い諸問題をテーマに、それぞれの専門領域の視点からその解決策を導き出す能力を身につけることを目指す。取り扱うテーマは、例えば、貧困・飢餓・難民・平和構築・ジェンダー・環境問題、世界各地の紛争などである。それぞれのテーマに関して具体例とともにその現状を学び、同時にその解決策を具体的かつ理論的に提示できる能力を身につける。理想社会と現実との間には、大きなギャップも存在する。本講義で得た知見によって、そのギャップを説明し、かつ乗り越えることを目指したい。 (オムニバス方式／全8回) (150 河合 幸一郎／2回) 途上国における貧困と飢餓について現状と解決策 (174 掛江 朋子／2回) 世界各地の難民問題の現状と課題 (173 山根 達郎／2回) 現代に蔓延する越境的な地域紛争の構造と紛争後における平和構築に向けた国際社会の取組み (151 中坪 孝之／2回) 水資源問題、地球温暖化を始めとした環境問題と平和の関わり	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・ データ リテラ シー 科目	データサイエンス	データサイエンスは、データそのものを対象とする科学である。データの蓄積や利用法に留まらず、データの抽出、解析、検証、問題解決にいたる一連の手順について講義を行い、必要に応じて実際に統計ソフトウェアを用いた計算を行う。具体的には、使用したいデータの取り出しと結合・欠損データの取り外しなどのデータクリーニング、ヒストグラム・ボックスプロットなどの単数データの視覚化、平均・分散などの基本統計量の計算等の初歩的な内容だけでなく、散布図・バイプロットなどの複数データの同時視覚化、重回帰分析やロジスティック回帰分析、さらにはクラスター分析などのより実践に即した内容も取り扱う。	
	パターン認識と機械学習	人工知能は、人間の脳の機能を人工的に模倣しようとする試みである。デジタルカメラでの顔検出や自動運転などの応用では、パターン認識や機械学習が重要な役割を担っている。最近では、ディープラーニングを用いた手法が画像認識などのパターン認識課題で高い性能を出したことで脚光を浴びている。また、膨大なデータの中から有用な情報を見つけ出すためのデータマイニングでは、基礎技術として機械学習が利用されている。本講義では、機械学習とパターン認識の基礎とその人工知能への応用について解説する。また、訓練データから予測や識別のためのモデルを構築するプログラムを作成することで、機械学習やパターン認識手法をより深く理解する。	
	データサイエンティスト養成	近年、ビッグデータや人工知能(AI)などの活用に関心が集まっている。企業においては製造・生産ラインの改善、素材等の探索、顧客データに基づく新商品開発など、膨大なデータを構造化することで企画立案などの意思決定をサポートすることができる人材ーデータサイエンティストーに対するニーズも高まってきている。一方、理工系分野に限らず、人文社会系を含めた幅広い研究分野においても、データサイエンスの知見や技術の応用が新たな学問的発見や価値創造に貢献することが期待されている。本講義では、これらデータサイエンティストとして必要になる統計分析能力やIT関連スキルのみならず、実際のビジネスや研究開発現場への応用を見据えた課題解決型テーマに取り組むことで実践力を養う。演習の際には、産業界やデータ関連分野の専門家などからの指導・助言を受けられるように配慮する。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目 キャリア開発・データリテラシー科目	医療情報リテラシー活用	<p>(概要) がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本講義では、医療情報を処理するために必要な知識、解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに、演習を行い、医療情報の解析法について履修する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(204 小笹 晃太郎／1回) 原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究。演習</p> <p>(1 工藤 美樹／1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則、功罪や有用性。演習</p> <p>(91 森野 豊之／1回) 医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法と演習</p> <p>(29 粟井 和夫・3 有廣 光司／1回) (共同) 医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題、情報の有用性と社会における活用と演習</p> <p>(182 田中 剛／1回) 広島県独自のHMnet (ひろしま医療情報ネットワーク Hiroshima Medical Network) を利用した医療情報共有の仕組みと活用と演習</p> <p>(12 田中 純子／1回) NDB (National data base) などの大規模医療データベースの種類、概要、倫理、疫学研究への活用と演習</p> <p>(63 大上 直秀／1回) がんゲノム情報の概要、倫理的課題、応用と活用と演習</p> <p>(22 服部 登／1回) 臨床治験の大規模化に伴う課題、功罪、応用と活用と演習</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	リーダーシップ手法	<p>組織でメンバーをリードして仕事を進めるのみならず、自身のキャリア開発と自己実現を図る上でもリーダーシップ力は不可欠である。本講義では、まず将来のキャリアパスの選択肢と社会の多様な場で活躍するために必要な能力等について概観し、自己実現にむけた自身の強みと弱みを理解する。内省と自己理解を踏まえた上で、国内外のリーダーの実像も交えながら、リーダーに求められる特性について概説する。また、リーダーシップを発揮するために必要な要素について実例と演習を通じて理解を深めるとともに、大学院における研究活動の中で自らのリーダーシップ力や他者への影響力を向上させるために何ができるかを考える。授業の全編を通じて、クラス参加者での積極的なグループ討議とディスカッションを行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目 キャリア開発・データリテラシー科目	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	グローバル化と科学技術の進展に伴い、社会における人材ニーズも時代とともに変化している。本講義では、多様な業界の関係者や職業に従事されている方々からの講義、ディスカッション、さらには自己理解を深めるためのワークを通じて、研究経験を有する専門性の高い人材が活躍できるキャリアの選択肢と必要な能力・資質等について理解する。多様なキャリアの意義や魅力を理解することで自分自身の研究経験の活かし方を考え、将来に亘って自身のキャリアをマネジメントしていくために必要となる姿勢、行動、特質についても考察を深める。なお、人文社会系から理工農系までの幅広い学生が自らのキャリアを考えることができるように配慮する。	
	イノベーション演習	新たな社会的・経済的価値を生み出すためには、科学的発見や技術的発明を効果的に融合し発展させることが必要である。近年では異業種や異分野間で知識、技術、サービス、ノウハウなどを組み合わせることで新たな価値を生み出すオープン・イノベーションが進んでいる。本演習では、新たな社会的・経済的付加価値を生み出す(=イノベーション)ために必要となる姿勢やアプローチについて理解するとともに、企業等が抱える実際の課題に触れ、その解決プロセスを通じて、異なる「知」「技術」「分野」を融合する力と他者と協働する力を習得する。企業等が提案する課題毎に数名のグループを形成し、異なる分野の学生のみならず、企業・団体等の関係者と協働することで、多様な視点や考え方を理解し、新たな価値やネットワークを生み出すプロセスを疑似体験する。なお、人文社会系から理工農系までの幅広い学生が授業で討論しやすいように配慮する。	
	長期インターンシップ	国内外の民間企業、公的機関、非営利団体などへの長期インターンシップを通じて、企業や社会の課題解決に貢献するとともに、実践的な能力の養成とキャリアオプションの拡大を図る。実習期間は原則、1～2ヵ月間以上のものを対象とする。受講希望者は応募申請書及び所属する専攻の指導教員からの推薦書をあらかじめ提出し、受講認定、事前カウンセリングなどの指導を受けて実施する。また、派遣前・派遣後プレゼンテーションも実施する。自己資金、学内資金、外部資金を問わない。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	生命・医療倫理学B	<p>(概要) 医学・歯学・薬学・保健学の医療・健康福祉領域で行われる教育・研究・臨床は、生命に対する尊厳、医療における倫理感、責任感に裏付けられたものでなければならない。本講義では、それぞれの領域の基礎的並びに最新の医療情報に関する問題等を学習し、研究・臨床における生命・医療倫理について考察することで学生自身の研究・博士論文作成に資することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 工藤 美樹/1回) 医学・医療に求められる倫理について、講義をする。 (183 高橋 規郎/1回) ヒトゲノム遺伝子解析研究倫理指針に関する教育及び研修について、講義をする。 (93 岡田 賢/1回) 新生児医療における生命・医療倫理について、講義をする。 (2 森川 則文/1回) 医薬品の使用における倫理について、講義をする (3 有廣 光司/1回) 病理分野における倫理について、講義をする。 (155 松浦 伸也/1回) 遺伝子診療における倫理について、講義をする。 (4 杉山 一彦/1回) 臨床試験と医療倫理について、講義をする。 (53 吉田 光由/1回) 歯科倫理と食べることに関わる倫理について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	研究方法論B	<p>(概要) 「研究方法」をキーワードとして、広く実験技術とその背景にある医学・生物学的知識を学ぶ。単に技術論に留まらず、学生自身の研究・博士論文作成に資する研究の心構えや、講義担当者の研究の方法論を学び、学生自身が種々の方法論を駆使して研究を展開できる能力を涵養することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 小澤 孝一郎/2回) ガイダンス及びR I 技術について、講義をする。 (5 橋本 浩一/1回) パッチクランプ法の原理と応用について、講義をする。 (156 宿南 知佐/1回) 培養細胞実験とiPS細胞のトピックスについて、講義をする。 (157 田代 聡/1回) 細胞画像解析について、講義をする。 (54 佐藤 健一/1回) 要因探索のための統計解析について、講義をする。 (55 金子 雅幸/1回) PCR法の原理と応用について、講義をする。 (56 木下 英司/1回) 生物物理科学的研究手法について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	アドバンスド生命科学 コースワーク	<p>スタートアップ生命科学コースワークを修得し、実験研究を遂行するために必要な基礎知識、技術、考え方を身に付けた学生を対象に、やや専門的な実験の知識、並びに手技を少人数で学ぶ。</p> <p>演習テーマは下記のとおり：</p> <p>A. デジタルPCRによるウイルスDNAの絶対定量 B. FACS解析 C. 免疫組織化学 D. 培養細胞を用いた染色体の観察 E. 培養細胞への遺伝子導入法 F. 質量分析によるプロテオーム解析 G. 次世代シーケンサーによる発現解析</p>	
研究科 共通科目	バイオメディカルサイ エンスの創生展開	<p>(概要) 医学・歯学・薬学・保健学の各領域において、共通の理解が必要となる分野及び他の領域にとって参考になる分野を中心に主題を選択し、それぞれの領域の基礎的並びに最新の話題を提供し、学生間相互で知識と理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(9 田原 栄俊/1回) 老化および癌におけるマイクロRNA及びエクソソームの役割について、講義をする。</p> <p>(159 松浪 勝義/1回) 医薬品発見のための天然物化学について、講義をする。</p> <p>(158 相澤 秀紀/1回) 神経及び精神障害におけるニューロン及びグリア機能障害の役割について、講義をする。</p> <p>(8 加藤 功一/1回) 再生医療用生体材料及びバイオデバイスについて、講義をする。</p> <p>(1 工藤 美樹/1回) 正常妊娠及び異常妊娠における胎盤酵素の役割に関する研究について、講義をする。</p> <p>(7 浅野 知一郎/1回) 代謝調節におけるプロリルイソメラーゼの役割について、講義をする。</p> <p>(156 宿南 知佐/1回) 軟骨と腱・靭帯との間の接合調節機構について、講義をする。</p> <p>(10 大段 秀樹・94 AMATYA VISHWA JEET/1回) (共同) 肝細胞癌の肝移植、中皮腫及び肺癌について、講義をする。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科共通科目	生体医工学イノベーションB	<p>(概要) 臨床に用いる医療機器やシステム等の技術開発を具体化するために必要な、研究マインドおよび開発プロセス、産学官連携活動や情報学・医学・工学領域間の連携に関する知識、態度を習得する。</p> <p>本講義では、マツダを事例にして、実際のビジネスや研究開発現場への応用を見据えたテーマに取り組み、グループディスカッションすることで実践力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(10 大段 秀樹/2回) ガイダンス及び技術開発の必要性について、講義をする。 (185 坂本 和夫/1回) 医療機器、システムの商品開発のプロセスについて、講義をする。 (175 笹岡 貴史/1回) 感性脳科学の応用について、講義をする。 (180 金山 範明/1回) 感性計測について、講義をする。 (184 農澤 隆秀/1回) これからの技術者に求められることについて、講義をする。 (186 高見 明秀/1回) モノづくりに必要な技術について、講義をする。 (212 西川 一男/1回) 人間工学・感性工学とその応用について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	多職種連携B	<p>(概要) 現代の医療では、各分野の専門スタッフが連携・協働して、治療に当たるチーム医療が重要視されている。本講義では、高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人の養成のため、医学、歯学、薬学、看護学、保健学それぞれの立場からチーム医療を円滑に実践するための知識を身に付けることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(30 志馬 伸朗/1回) ガイダンス及び多職種連携の必要性について、講義をする。 (160 折山 早苗/1回) 医療ケアに関する看護師の役割分担について、講義をする。 (161 桐本 光/1回) 急性期リハビリテーションチームについて、講義をする。 (162 浦川 将/1回) 医師・看護師・リハビリ関連職種との連携について、講義をする。 (34 木村 浩彰/1回) 医師からみた多職種連携の必要性について、講義をする。 (42 柿本 直也/1回) チーム医療における歯科医師が行う連携について、講義をする。 (14 松尾 裕彰/1回) 多色区連携における薬剤師の役割・課題・取組について、講義をする。 (163 内藤 真理子/1回) 周術期における歯科衛生士の役割について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目	臨床腫瘍学	<p>(概要) 臨床腫瘍学に関連する分野として、放射線腫瘍学、内科腫瘍学、外科腫瘍学、精神腫瘍学、病理腫瘍学、薬物腫瘍学がある。これらの各専門領域の最先端の研究や臨床について、各専門分野の教授に担当していただき、学生にわかりやすい入門教育を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 永田 靖/1回) 放射線腫瘍学の最前線について、講義をする。 (13 岡田 守人/1回) 腫瘍外科の最前線について、講義をする。 (3 有廣 光司/1回) 臨床病理学について、講義をする。 (4 杉山 一彦/1回) がん化学療法と副作用対策について、講義をする。 (14 松尾 裕彰/1回) がん薬物療法について、講義をする。 (116 三上 幸夫/1回、) がんのリハビリテーションについて、講義をする。 (115 小早川 誠・15 岡本 泰昌/1回) (共同) サイコオンコロジーについて、講義をする。 (12 田中 純子/1回) 肝がんの疫学と医学統計学について、講義をする。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	放射線統合医科学	<p>(概要) 放射線災害・医科学研究分野は、基礎生物学、臨床医学、疫学や社会医学など広範におよぶことから、分野横断型の研究推進が必要である。本講義では、放射線災害・医科学研究分野の主要テーマである、低線量放射線被ばくによる人体への影響の解明や、高線量放射線被ばくによるヒト疾患の発症機構、緊急被ばく医療のための再生医学、福島第一原発事故の発生により明らかとなった様々な課題への研究などに関する知識を習得し、最新の研究動向を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(155 松浦 伸也/1回) 放射線高感受性遺伝病について、講義をする。 (16 保田 浩志/1回) 放射線防護：放射線被ばく健康影響とその障害の防止について、講義をする。 (58 河合 秀彦/1回) 細胞に及ぼす放射線障害の概略について、講義をする。 (17 東 幸仁/1回) 急性障害：血管障害と再生について、講義をする。 (18 稲葉 俊哉/1回) 放射線発がんの基礎について、講義をする。 (179 宮本 達雄/1回) 放射線誘導性小頭症の発生機序について、講義をする。 (95 三原 圭一郎/1回) 原発事故の生体影響について、講義をする。 (11 永田 靖/1回) 放射線障害のない放射線治療について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻共通科目	薬物治療学	<p>(概要) 最近の医療関係のトピックスを交えながら、様々な疾患を取り上げ、その最新の薬物療法のあり方と問題点を、病態生理の分子メカニズム、治療薬の分子薬理メカニズム、分子メカニズムに基づいた薬物間相互作用、遺伝情報や生体メカニズムに基づいた薬物療法の最適化など、様々な視点から講義をする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 小澤 孝一郎/2回) 薬物治療学の最近の動向についてのオーバービュー及びサリドマイド等の既存の医薬品に期待される難治性治療薬としての可能性について講義をする。 (59 細井 徹/2回) 小胞体ストレスと病態との関連及び創薬への展開について講義をする。 (117 柳瀬 雄輝/2回) 細胞を解析するセンシング技術とその臨床応用及び血液凝固反応と免疫系の関わりについて講義をする。 (118 吉井 美智子/2回) 脂肪細胞のバイオロジーと肥満治療への試み、アルツハイマー病治療と治療薬開発の現状及びカルシウムチャネルの働きと疾病との関わりについて講義をする。</p>	オムニバス方式
	がん診療各論	<p>(概要) 各臓器別がんの最新情報を各領域の専門家にオムニバス方式で講義してもらう。具体的には、肺癌、乳癌、頭頸部癌、脳腫瘍、血液腫瘍、胃癌、大腸癌、膵臓癌、婦人科癌、泌尿器癌、皮膚がん、転移性腫瘍、食道がん、小児がん、である。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 永田 靖/1回) 転移性腫瘍について、講義をする。 (61 田邊 和照/1回) 胃癌について、講義をする。 (97 相方 浩/1回) 肝臓がんについて、講義をする。 (98 角舎 学行/1回) 乳がんについて、講義をする。 (19 一戸 辰夫/1回) 造血器腫瘍について、講義をする。 (119 平田 英司/1回) 婦人科がんについて、講義をする。 (60 亭島 淳/1回) 泌尿器がんについて、講義をする。 (96 河合 幹雄/1回) 皮膚がんについて、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻共通科目	死因究明学	<p>(概要) 法医学, 法病理学, 死後画像診断, 法中毒学, 法歯科医学, 児童虐待, 大規模災害をキーワードとし, 医療人における基礎的教養として損傷の成傷機転等の基礎的な考察法をはじめとする法医学の最新知識の習得を目指し, 講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(21 長尾 正崇/5回) 法医学, 法病理学, 法歯科医学, 児童虐待, 大規模災害について, 講義を行う。 (29 栗井 和夫/1回) 死後画像診断について, 講義を行う。 (65 奈女良 昭/2回) 法中毒学について, 講義を行う。</p>	オムニバス方式
プログラム専門科目	解剖学及び発生生物学特別演習	解剖学及び発生生物学分野における重要文献を探し出し, 読み, 他者へ紹介する。また, 他者による文献紹介に対して, それを理解し, 議論する能力を培う。これらを通して研究分野の知識を習得し, 最新の研究動向を理解する。	
	神経生物学特別演習	分子生物学の観点から脳の働きを理解することで精神・神経疾患の病態の解明や新たな治療法の開発を目指す。遺伝子改変による神経回路研究を指導する。特に, 研究の意義を理解し, リーダーシップをもってプロジェクトを推進する能力の習得に重点をおく。これらを通して神経生物学研究分野の知識を習得し, 最新の研究動向を理解する。	
	統合バイオ特別演習	主要な器官系の主な機能の形態学的基盤及び主要な器官の組織構築を理解するとともに, 主要な器官の構造を機能と関連付けながら説明できる能力を修得する。また, 顕微鏡を見て, 器官, 組織, 構成細胞を同定し説明できる能力を修得する。これらを通して, 研究分野の知識を修得し, 最新の研究動向を理解する。	
	心臓血管生理医学特別演習	循環器の機能についての分子から個体までを統合する制御機構に関する教育を行っている。循環器系である心臓・血管を対象とした研究を行いその成果を教育に還元する。心臓血管生理医学分野の知識を習得し, 最新の研究動向を理解する。	共同
	神経生理学特別演習	神経細胞は電気を用いて感覚情報処理や運動制御に必要な信号処理を行っており, 神経細胞が持つ静止膜電位, 活動電位, シナプス電位などの発生機序や, 神経回路レベルでの信号処理の基礎について学習する。また, 中枢神経系における感覚の受容とその信号処理, 運動野, 小脳, 大脳基底核などによる運動制御の機序, 自律神経系の働き等を学習する。英語論文を読み, それについて発表, ディスカッションを行い研究分野の知識を習得し, 最新の研究動向を理解する。	
分子細胞情報学特別演習	タンパク質合成の場として機能する小胞体の機能障害は「小胞体ストレス」と呼ばれる新概念として定着し, 神経変性疾患や糖尿病, 慢性炎症, 骨粗鬆症などの発症要因として注目が集まっている。小胞体から発信されるシグナルがどのように生体の機能調節に関わるのか, また小胞体の機能異常が疾患の発症へどのように繋がるのか, 関連する論文を抄読し, ディスカッションを行い研究分野の知識を習得するとともに最新の研究活動を理解する。		

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	医化学特別演習	生活習慣病を中心とした病態生化学の英語論文を読み、それについて発表し、ディスカッションを行い研究分野の知識を習得し、最新の研究動向を理解する。	共同
	神経薬理学特別演習	神経科学、神経免疫学及び分子生物学をベースに様々な神経疾患に対する薬物療法の開発に寄与する研究を教えている。神経薬理学、神経科学、神経免疫及び分子生物学の英語論文を読み、それについて発表、ディスカッションを行う。研究成果を理解し、ディスカッションを行うことにより研究分野の知識を習得し、最新の研究動向を理解する。	
	分子病理学特別演習	分子病理学、診断病理学、腫瘍学、特にがんの発生・進展の病理と分子基盤、新規診断・治療開発に関する教育を行う。消化管がん、泌尿器系がんの分子病理学実験を通して、実験手技・データ解析、英文科学論文作成能力を習得することができる。一方、病理専門医取得に向けて、研修マニュアルに基づき関連病院と連携して専門医教育を行う。	共同
	病理学特別演習	特にがんに関する病理関連雑誌から選んだ英語論文を抄読し、その内容を発表し、参加者からの質問、意見に答えられるように準備しておく。また、研究テーマの進捗状況を発表し、研究の助言を受ける。また、他の研究者の研究内容を理解し質問する。これらを通して研究分野の知識を習得し、最新の研究動向を理解する。	
	ウイルス学特別演習	微生物学、ウイルス学について、特に自分の研究テーマに関する最新の文献を読んで紹介することで知識を習得し、最新の研究動向を理解する。プレゼンテーション能力およびディスカッション能力を向上させる。これらを通してウイルス学分野の知識を習得し、最新の研究動向を理解する。	共同
	疫学・疾病制御学特別演習	疾病の原因・要因を追究し、疾病を制御、予防するために習得しておくべき分野であり、自ら医学研究を行うことを目標として必要な医学研究の基本的な方法、研究デザイン、解析の概要を学び、疫学研究方法論、医用統計学を習得する。これらを通して疫学・疾病制御学分野の知識を習得し、最新の研究動向を理解する。	共同
	公衆衛生学特別演習	医学・医療の目指す一義的目標（狭義）とされる「健康と長寿」の基本理念である”正義（Justice/社会経済健康等の格差の是正の思想と方法論等”を軸として、公衆衛生（Public Health/共同体としての組織的努力による「社会の健康の処方等」を描くこと）を学ぶ。このため、社会・地域の健康を予防・疫学・制度等の視点で捉えつつ、総体としての健康を担う社会医学の手法・実際などを医歯薬学の諸問題を通して学ぶ。	
	法医学特別演習	医療人における基礎的教養として、損傷の成傷機転等の基礎的な考察法をはじめとする法医学の最新の論文を抄読し、ディスカッションを行い、知識を習得し、最新の研究動向を理解する。	
	分子中毒学特別演習	社会医学領域で重要な化学物質の毒性機序を説明でき、臨床・死体所見から中毒起因物質（特に乱用薬物）の推定ができる知識と技能の習得を目標とする。また、依存性薬物の基礎的知識及び法律的問題点を提起する。文献・資料抄読方法や基本的研究手法を習得するとともに、プレゼンテーション能力およびディスカッション能力を向上させる。これらを通して研究分野の知識を習得し、最新の研究動向を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	免疫学特別演習	「免疫学の最近のトピックス」, 「研究方法特論: フローサイトメトリー」などを解説。英語論文の内容を理解しディスカッションを行う。研究成果を理解し, 免疫学的な考え方を議論することができる。これらを通して研究分野の知識を習得し, 最新の研究動向を理解する。	
	消化器・代謝内科学特別演習	消化器病学あるいは腫瘍内科学に関する英語論文の内容を理解しディスカッションを行う能力を培うとともに, 研究成果を十分に理解し, 発表を行う。これらを通して研究分野の知識を習得し, 最新の研究動向を理解する。	
	分子内科学特別演習	内分泌代謝疾患とは「ホルモンの異常によってもたらされる病気」であり, 各種ホルモンの分泌臓器は全身に分布し作用する組織も広範である。それら疾患は糖尿病や脂質異常症のような患者数の多い疾患から稀な疾患まで多岐にわたる。全身に症状や徴候が出現しあらゆる診療科との関連があるため, 臨床医としては正しい知識を習得する必要がある。多岐にわたる内分泌代謝疾患についての理解を深め, 臨床医にとって基本的な知識を習得することを目標に教育を行う。	共同
	脳神経内科学特別演習	急速な少子高齢化に伴い, 脳血管障害, 認知症やてんかん, パーキンソン病, 神経免疫疾患など脳神経内科が担うべき疾患が今後増加することが予想され, その対応が急がれている。一方で画像診断の格段の進歩や, t-PAや血管内治療の導入による革新的な治療が行われるなど脳神経内科を取り巻く状況は大きく変わり続けている。また, 神経変性疾患の病態解明, 神経免疫疾患に対する治療の開発においても目覚ましい発展が見られる。そういった中で当科は幅広い疾患に対し臨床的にも基礎的にも取り組む充実した診療・教育・研究を提供しており, 神経内科領域における臨床研究の組み立てやデータ分析の演習を行う。	共同
	精神神経医科学特別演習	近年の急速なグローバル化, 悪化する雇用状況などを受けてうつ病, 自殺が増えている。また, 急速な少子高齢化に伴って認知症が増える一方で, 数少ない子供たちにもいじめ, 不登校, 虐待, 発達障害が社会問題化している。「こころの問題」の重要性が認識され, 精神疾患は5大疾患に位置づけられ, わが国の重要政策の一つとなっている。当科では講義および臨床実習を通じて精神科での基本的面接技法, 診断分類法, コンサルテーション・リエゾン精神医学などの総論や, 気分障害, 統合失調症, 不安障害, ストレス関連障害, 器質性精神疾患, 認知症などの各種精神疾患について教育を行っている。精神医学および神経科学の観点から捉え, 文献・資料抄読方法や基本的研究手法を習得することを目標としている。	共同
	小児科学特別演習	小児保健と小児科領域の疾患について, 主要な項目を取り上げながら, 全般的な理解が得られるように教育を行う。小児医療のための基本的態度・面接法・診察法・診療手技などを学ぶとともに, 大学病院や市中病院・総合周産期母子センター・開業医での実習を通して, 小児医療の一次・二次・三次医療の実態を把握できるようにする。国内外で小児医療・医学のリーダーとして活躍することができることを目標としている。また, サブスペシャリティの専門医・指導医資格を目指す。	
	外科学特別演習	心臓血管外科の最先端技術と知識を学び, さらに今後の先端医療に結びつくような研究を考案して, 実験に結びつける。最新の論文を抄読し, ディスカッションを行い研究分野の知識を習得し, 最新の研究動向を理解する。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	消化器・移植外科学特別演習	消化器外科領域に特化し、上部消化管・下部消化管・肝胆膵・移植の4グループの専門分野で教育を推進している。大学院では専門性の高い研究を通じ、優れた研究者の養成と国内外への研究成果の発信を目指す。医学教育では診療参加型実習を通じて、基本的な外科診療手技の習得と問題解決型思考の実践を目標とする。“患者さんの痛み・苦しみを共感できる、しかも研究・技術・学識・人格に優れた”外科医師・外科科学者の育成に努めている。これらのことから、消化器・移植外科学分野の知識を習得し、最新の研究動向を理解する。	共同
	脳神経外科学特別演習	種々の脳腫瘍、脳血管障害に加え、てんかん、脊髄疾患、疼痛などの機能的脳神経外科疾患を対象とする高度で先進的な診療を行っている。また、中国四国地方を中心とした関連病院で、急性期疾患（脳卒中、頭部外傷）や予防的治療まで多く経験し、意識障害や麻痺など重症脳疾患患者の神経内科的疾患を診療する経験を得る。専門医機構の方針をも包含する教育システムを運用し、個人個人の資質を生かしながらより総合的能力の高い脳神経外科医を育成し、社会に貢献する。臨床・研究において活躍する人材を育てる。	
	整形外科学特別演習	医師として研究、診療において地域貢献のみならず、国際的にも貢献できるグローバルな人材育成を行うことを目標とし、充実した臨床研修および基礎研究体制を整えている。 講義は四肢一般の疾病、外傷、診断、治療を総論で行い、膝関節、股関節、肩関節、手、脊椎・脊髄疾患、腫瘍疾患、形成外科疾患についてのそれぞれの疾患、治療、またリハビリテーションなどを各論で講義する。実習では四肢一般の疾患について診断技術や治療方針の立案方法を学び、保存療法、外科的治療の基本技術の習得を目標とする。それぞれのテーマに応じて基礎研究を行い、また臨床分野においてはそれぞれのサブグループに所属し臨床を行うとともに、世界に先駆けた臨床研究を行う。これらを通して整形外科学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	皮膚科学特別演習	皮膚科学における教育内容は、皮膚と粘膜など体表面に生じる病的変化を対象とし、それに対する内科的・外科的治療を包括する。 皮膚の構造や機能、免疫機構を総論として学ぶ。各論では、皮膚を舞台とした様々な疾患の病態、診断、治療について学習する。学習する疾患は、蕁麻疹、アトピー性皮膚炎、皮膚腫瘍、熱傷、皮膚感染症、角化症、水疱症、薬疹、膠原病、遺伝性皮膚疾患など多岐にわたる。 皮膚科学を構成するあるいは皮膚に関連する学問領域における、基礎医学的研究手法から最新の臨床的課題を広く取り上げて紹介し、その意義を考え、討論する力を涵養する。	
	腎泌尿器科学特別演習	総論として泌尿器疾患の症状、泌尿器科で行う検査、処置、手術を、各論として泌尿生殖器癌、尿路感染症、尿路結石、尿路性器外傷、男性不妊症、性分化異常、尿路性器の発生と異常、排尿障害をテーマとした内容で行う。 このことを通して、腎泌尿器科学研究分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	共同
	視覚病態学特別演習	緑内障、角膜・眼形成、網膜、斜視、神経眼科の各専門グループから構成され系統立てて学ぶ。加えて、座学では学べない感染症における塗抹鏡検などは、ワークショップを独自に開催する。このことを通して、視覚病態学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学特別演習	耳鼻咽喉科では首から上で脳と眼球以外のすべてが対象となる。つまり耳と鼻、咽喉（のど）の病気に加えて、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚という感覚器の疾患、顔面神経麻痺、摂食・嚥下や発声の問題、唾液腺疾患そして頭頸部領域に発生する腫瘍を扱う。これらの疾患の包括的な理解を目指し、その病態生理・診断・治療の講義を行う。このことを通して、耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	共同
	放射線診断学特別演習	画像診断学（放射線診断学）は、現代医療を支える重要な領域の一つである。CT、MRI、PET等の核医学診断、デジタルラジオグラフィ等基礎的および応用的な画像解析法、読影法を教育しているほか、画像誘導下で行う低侵襲治療（インターベンショナルラジオロジー：IVR）についても教育を行う。 デジタル教材を使用して学生自身がインタラクティブに画像解剖や基本疾患の読影を学べるようにしているほか、IVRの手技についても実技を通して学ぶことができる。また、合理的で低侵襲な画像検査法あるいはIVR治療の立案法、画像検査に関する安全管理（造影剤のアレルギー・腎障害への対応など）についても教育し、最新画像診断のトピックスについてディスカッションを行う。これらを通して放射線診断学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	共同
	放射線腫瘍学特別演習	最新の高精度放射線治療を含めた外部照射、舌癌・子宮癌などに高い治療効果が得られる組織内照射、RI治療などの実地診療に基づく教育を行う。具体的には、診察、診断、治療方針の決定、治療計画の作成、実際の治療、効果判定、有害事象の検討、治療後の経過観察などを学習する。診断、治療計画、治療の進捗、問題点等についてのプレゼンテーションを行い、疾患への理解を深めるとともにプレゼンテーション能力を習得する。対象症例の多職種チームによる治療戦略の立案および集学的治療の進め方などを学習する。また、英語論文と教科書の抄読を行い、普遍的かつ最新の知識の習得に努める。	
	産科婦人科学特別演習	産科婦人科学における教育内容は、講義を通して妊産婦や婦人科疾患の病態、診断、治療法などを理解することを目標とする。 産科学ではとくに女性の一生においての大きなイベントである妊娠・出産についての正しい知識を習得し、妊娠・分娩時の異常を学ぶ。また、婦人科学では解剖、内分泌環境、腫瘍性病変等について学び産婦人科疾患特性を理解する。また、最新の論文を読むことにより、産科婦人科学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	麻酔蘇生学特別演習	麻酔蘇生学の臨床的な重要課題の解明・解析を行う。これらの課題は研究テーマとも密接に関係している。成果をカンファレンスで発表することにより、麻酔蘇生学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	循環器内科学特別演習	循環器内科学では心臓と各臓器を結ぶ血管系の正常構造・機能についての理解を深め、心血管系疾患の病態、診断、治療、予防について学習する。 我が国をはじめとする先進諸国では人口の高齢化、飽食化、運動不足といった生活習慣の変化により、動脈硬化を起因とする虚血性心疾患、弁膜症、動脈疾患、心不全、不整脈などの疾患が増加している。心血管病管理のための基礎的な知識と技術の習得、さらには新たなエビデンス創出に向けた考え方の習得を目指す。このことにより循環器内科学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	救急集中治療医学特別演習	主に災害医療・被ばく医療を含めた救急医療と小児～成人に至る集中治療が対象である。広島大学病院高度救命救急センター/集中治療部は、県内唯一、中四国で3施設しかないドクターヘリを有する高度救命救急センターのひとつである。3次救急を中心に県内の重症救急患者を最後の砦として、患者を受け入れて診療を行う。また、敗血症や体外式膜型人工肺（ECMO）の豊富な診療実績を活かし、院内院外の重症敗血症患者の治療、また国内トップレベルのECMO症例を中心に多職種での医療チームで連携してその管理を行っている。これらを通して、研究分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	共同
	内視鏡医学特別演習	現在、消化管癌（食道癌・胃癌・大腸癌など）・炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病など）などの消化管疾患は急増しており、種々の内視鏡手技、内視鏡診断学、治療内視鏡学、臨床病理学などは消化管専門医に必須である。特に消化管内視鏡専門医は、患者数も多く社会的な需要が極めて高く、関連病院においても消化管専門医は絶対的に不足している。日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医などを旨とした訓練を行うのみならず、研究分野の知識を修得する。	
	システム医療学特別演習	医療情報の電子化の進展に伴い、医療情報の管理・活用には様々な難しい問題が生じている。また、医療情報システムは使い次第で医療安全の阻害要因にもなり得る。そこで、電子的な医療情報管理のリテラシーを、保護と活用、利用者行動と医療安全等の観点から学習する。	
	感染症学特別演習	感染症の診療は、予防・診断・治療の他、院内感染対策がある。臨床での実践を経て、医療機関における各診療科の診療支援を担える人材を養成する。また細菌学講座との連携による耐性菌の分子疫学解析を通じて、基礎的根拠のある感染症診療を目指す。これらを通じて研究分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	病理診断学特別演習	病理診断と分子生物学的実験及びFISH法を通して外科病理学を履修し、様々な治療に対する効果予測因子を検索し、科学的な記述能力を習得する。	
	リウマチ・膠原病学特別演習	リウマチ性疾患の病態、診断、治療についてより深い知識を修得し、専門家を旨す上で必要な診察手技および研究手法を習得する。最新の論文を査読し、研究分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	リハビリテーション学特別演習	身体的、精神的、かつまた社会的に最も適した機能水準の達成を可能とすることによって、各個人がみずからの人生を変革していくための手段を提供していくことを目指す。また、最新の論文を査読し、研究分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	腎臓内科学特別演習	原発性糸球体・尿管間質性疾患、高血圧、糖尿病、膠原病、血液疾患などに伴う全身性腎疾患、急性腎不全、慢性腎不全、慢性維持透析（血液透析・腹膜透析）など、あらゆる腎臓病に対し幅広く診療に当たる。臨床医としての幅広く基本的な知識を習得し、さらに腎臓内科医としての専門的な知識・技術を習得することを目標とする。また、プレゼンテーション能力およびディスカッション能力を向上させるとともに、最新の研究動向を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	形成外科学特別演習	形成外科は、体表の形態に関わる先天異常や、熱傷・外傷・悪性腫瘍等に伴う組織欠損・機能欠損に対して、外科的治療により心身両面での社会復帰を支援する診療を行う。また、これらを遂行するために他科医師、コメディカルとの良好なチーム医療を行うことを要求される。形成外科的な基本手技の習得から、創傷治癒や組織移植に関する基礎知識、術後管理の基本、さらにはチーム医療に必要とされるコミュニケーション能力などを幅広く学ぶ。	
	総合診療医学特別演習	コミュニケーション学、内科学総論（診断学）、症候診断学、感染症、臨床実習、漢方、OSCE（医療面接）等、多岐にわたる研究分野の知識を修得する。	共同
	がん化学療法科学特別演習	がん患者に対して抗癌剤化学療法の効果を十分発揮させるためには、抗癌剤の効果を熟知するのはもちろんのこと、副作用についても同様に熟知して抗癌剤治療を実践していくことが重要である。抗癌剤治療計画の組み立てを学ぶとともに、外来化学療法室での副作用への対処、予想される副作用の軽減方法などを学ぶ。また、基礎的研究に関しては癌のモデルマウスまたは抗癌剤による薬剤性肺炎などの副作用惹起モデルマウスを作製して、研究テーマを立案し、それを証明していく過程を経験する。	
	生命科学特別演習	生命科学系実験として、ゲノム解析、トランスクリプトーム解析、蛋白解析、代謝産物解析までの最近の方法について学ぶ。ヒトゲノムが解明され、多くの網羅的な解析とともに、微量に存在する遺伝子変異や遺伝子発現、蛋白構造解析、さらに、高度なイメージング解析も可能となっている。様々な物質や遺伝子発現の局在について解明し、生命科学研究方法について理解する。	
	精神病態制御学特別演習	双極性障害（躁うつ病）の原因を解明し、診断法・治療法を開発することを目指して研究を進めている。精神病態制御学研究分野の最新の論文を査読し、発表し、ディスカッションを行うことで、精神病態制御学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	関節外科学特別演習	膝関節外科、股関節外科、肩関節外科研究分野の最新の論文を査読し、発表し、ディスカッションを行うことで、関節外科学の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	がん臨床制御学特別演習	がん臨床制御学研究分野の最新の論文を査読し、発表し、ディスカッションを行うことで、がん臨床制御学の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	共同
	がん化学療法演習	化学療法とは、抗がん剤を用いて癌を治療することを言う。抗がん剤には、癌細胞の増殖を抑えたり、再発や転移を防いだりする効果がある。手術治療や放射線治療が、癌に対する直接的・局所的な治療であるのに対し、化学療法では、より広い範囲に治療の効果が及ぶことが期待できる。この化学療法に関する最新の論文を査読し、研究分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
がん放射線療法演習	がん放射線療法は、腫瘍の成長を遅らせるために、あるいは縮小させるために放射線を使用する治療法であり、がんに侵された臓器の機能と形態の温存が可能である。また、がんの局所療法であるため、全身的な影響が少なく、高齢者にも適応できる患者にやさしいがん治療法である。がん放射線療法に関する最新の論文を査読し、研究分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	共同	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	乳がん治療演習	大学院生が、乳がんの発生・進展の病理と分子メカニズム、診断・治療に関する基礎的、臨床的研究論文(英語原著)について調査し、選択した論文内容についてプレゼンテーションを行う。自身の意見考えを明確に提示して、出席者全員で紹介論文について、討議する。	共同
	がん緩和医療演習	がん自体の症状のほかに、痛み、倦怠感などのさまざまな身体的な症状や、落ち込み、悲しみなどの精神的な苦痛を経験する。「緩和ケア」は、がんと診断されたときから行う、身体的・精神的な苦痛をやわらげるためのケアである。緩和ケアチームに同行し、緩和ケアの実習を行う。それにより、緩和ケアの知識と態度、そして倫理観について学習する。	共同
	集学的がん治療の実際	日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・日本放射線腫瘍学会専門医・日本緩和医療学会緩和ケア専門医・日本婦人科腫瘍学会専門医等の資格取得支援を行う。 広島大学病院で定期的に開催されているキャンサーボードに参加し、化学療法と放射線治療を中心に個々の患者に最適な集学的治療選択の意思決定過程を体験する。	
	婦人科がん治療演習	婦人科がんの特性を理解し、婦人科がん治療研究分野の最新の論文を査読し、発表し、ディスカッションを行うことで、婦人科がん治療の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。また、化学療法の薬剤耐性に関しての実験・臨床研修を行う。	
	臨床研究の基礎および実践	臨床研究、疫学研究、臨床試験の基礎を理解し、研究計画を立案する。臨床研究は、医薬品・医療機器等の開発候補物質が実用化可能かといった開発の探索的研究手段を理解する。また、同種同効薬同士の有効性に関する比較研究や、手術と抗がん剤の組み合わせとの関係で最も効果的な医薬品投与時期の研究など、様々な診療ガイドライン等の検討を行う場面においても臨床研究が実施されている。これらに関する論文を査読し、最新の臨床研究の基礎を学ぶ。	共同
	緩和ケアカンファレンス	緩和ケアに関する症例検討に参加し、緩和ケアの知識と態度そして倫理観について学習する。多職種(主治医・緩和ケア担当医師・薬剤師・看護師・心理士・理学療法士など)による視点から、専門性を活かして解決策を考え主治医や病棟・外来看護師と一緒にケアを提供し、つらい症状を緩和し、自分らしい生活が送れるよう、学習する。	共同
	腫瘍外科治療演習	腫瘍外科治療研究分野の最新の論文を査読し、発表し、ディスカッションを行うことで、腫瘍外科治療の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	小児がん治療演習	白血病, 脳腫瘍, 神経芽腫, リンパ腫, 腎腫瘍(腎芽腫, ウィルムス腫瘍)といった主な小児がんに関する最新の論文を抄読し, ディスカッションすることにより, 研究分野の知識を修得し, 最新の研究動向を理解する。	
	解剖学及び発生生物学特別研究	解剖学及び発生生物学分野における重要文献を探し出し, 読み, 他者へ紹介する。また, 他者による文献紹介に対して, それを理解し, 議論する能力を培う。これらを通して, 高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに, 博士論文作成の指導を行う。	
	神経生物学特別研究	分子生物学の観点から脳の働きを理解することで精神・神経疾患の病態の解明や新たな治療法の開発を目指す。遺伝子改変による神経回路研究を指導する。特に, 研究の意義を理解し, リーダーシップをもってプロジェクトを推進する能力の習得に重点をおき, これらを通して神経生物学研究分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに, 博士論文作成の指導を行う。	
	統合バイオ特別研究	主要な器官系の主な機能の形態学的基盤及び主要な器官の組織構築を理解するとともに, 主要な器官の構造を機能と関連付ける。これらを通して, 総合バイオ分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに, 博士論文作成の指導を行う。	
	心臓血管生理医学特別研究	(概要) 循環器の機能についての分子から個体までを統合する制御機構に関する教育を行う。循環器系である心臓・血管を対象とした研究を行い, その成果を教育に還元する。高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに, 博士論文作成の指導を行う。 (62 石田 万里) 動脈硬化や心不全など加齢に伴って生じる病態機序をDNA損傷応答・慢性炎症・老化の側面からみた包括的な研究指導を行う。 (99 小久保 博樹) 心臓の発生, 特に心筋の分化過程に焦点をあてた分子遺伝学的な研究の指導を行う。	
	神経生理学特別研究	電気生理学的, 形態学的実験手法を用いて実験することが出来る。得られた実験データについてディスカッションを行い, 神経生理学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに, 博士論文作成の指導を行う。	
	分子細胞情報学特別研究	生化学および細胞生物学実験を通して, 実験, データ解析, 科学論文作成手技を習得する。これらを通して, 高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに, 博士論文作成の指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	医化学特別研究	<p>(概要) 生活習慣病を中心とした病態生化学の英語論文を読み、それについて発表し、ディスカッションを行い、医化学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(7 浅野 知一郎) 高脂肪食負荷や肥満あるいは糖尿病のモデルマウスを用いて、その代謝異常を生じさせている原因のメカニズムを解明する課題について研究指導を行う。</p> <p>(100 中津 祐介) プロリン異性化酵素Pin1の発現量の変化によって脳、神経、肝臓、筋肉、脂肪などの臓器に及ぼす影響を解明する課題の研究指導を行う。</p> <p>(127 山本屋 武) 神経機能と代謝調節の両方に重要な役割を果たしている <i>trk-fused gene</i> (TFG)の機能を遺伝子改変動物を用いるなどして解明する課題について研究指導を行う。</p>	
	神経薬理学特別研究	<p>神経科学、神経薬理学および分子生物学実験を通して、実験、データ解析、科学論文作成手技を習得する。これらを通して神経薬理学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p>	
	分子病理学特別研究	<p>腫瘍分子病理学実験を通して、実験、データ解析、科学論文作成手技を習得する。これらを通して分子病理学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p>	
	病理学特別研究	<p>自分の研究テーマ沿った病理学的実験・実習、データ解析を行い、病理学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p>	
	ウイルス学特別研究	<p>(概要) 微生物学、ウイルス学について、研究テーマを決めて計画を立て実験を行い、結果をまとめてディスカッションを行う。これを繰り返すことで、ウイルス学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(167 坂口 剛正) 研究計画の立案、および研究の進行についてディスカッションを行い、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(64 入江 崇) 具体的な実験計画の立案、実験の指導を行い、結果のまとめとディスカッションを行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	疫学・疾病制御学特別研究	<p>(概要) 疫学と疾病制御学に関して、研究の実践、指導を行い、特に、疫学と疾病制御学について論文指導を行う。</p> <p>(12 田中 純子) 疫学、衛生学、数理疫学、理論疫学、ウイルス遺伝子解析学、分子血清疫学の手法を用いて、疾病制御と対策 (communicable disease, non-communicable disease, 特にウイルス肝炎の疫学と対策)、がん検診の有効性、血液事業と献血推進、データヘルスなど国内外の課題に関する研究指導を行う。</p> <p>(126 秋田 智之) 生物統計学の手法を用いて疫学研究、臨床疫学研究の課題について研究指導を行う。</p> <p>(128 杉山 文) communicable disease, non-communicable diseaseに関する疾病制御学、あるいは衛生学に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(120 大久 真幸) Big data解析手法を用いて、レセプト解析などによって明らかになる医療経済学、種々の疾患の患者数推計学に関する課題の研究指導を行う。</p>	
	公衆衛生学特別研究	<p>医学・医療の目指す一義的目標(狭義)とされる「健康と長寿」の基本理念である”正義(Justice/社会経済健康等の格差の是正の思想と方法論等)”を軸として、公衆衛生(Public Health/共同体としての組織的努力による「社会の健康の処方等」を描くこと)を学ぶ。このため、社会・地域の健康を予防・疫学・制度等の視点で捉えつつ、総体としての健康を担う社会医学の手法・実際などを医歯薬学の諸問題を通して修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p>	
	法医学特別研究	<p>分子・細胞毒物学実験、司法解剖を通して、実験、データ解析、科学論文作成手技を習得するとともに、法医学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させる。また、博士論文作成の指導を行う。</p>	
	分子中毒学特別研究	<p>履修生各自が種々の手法(簡易キットや分析機器)を使用して得られた結果をもとに、社会医学領域で重要な化学物質の毒性機序を説明でき、臨床・死体所見から中毒起因物質(特に乱用薬物)の推定ができる知識と技能の習得を目標とする。依存性薬物の基礎的知識及び法律的問題点を提起する。また、文献・資料抄読方法や基本的研究手法を習得するとともに、プレゼンテーション能力およびディスカッション能力を向上させる。このことを通して、分子中毒学分野における高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	免疫学特別研究	実験デザイン，研究方法，研究成果を理解し，免疫学的な考え方を議論する。免疫学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに，免疫学分野における博士論文作成の指導を行う。	
	消化器・代謝内科学特別研究	<p>(概要) 研究計画に従って実験を実施する。毎週行われているカンファレンスにおいて研究成果を発表する。また，研究レポートを作成する。消化器・代謝内科学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに，博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(66 伊藤 公訓) 胃がん発がん機構の解明と，その臨床応用について研究指導を行う。</p> <p>(198 越智 秀典) ヒトゲノムの遺伝的多様性と慢性肝疾患の病態進展や治療応答性，肝炎ウイルス変異の関連性についての研究・論文作成について指導する。</p> <p>(199 向谷 知世) ヒト肝細胞キメラマウス，およびヒト肝細胞キメラマウスから分離したヒト肝細胞を用いた研究課題の研究指導を行う。</p> <p>(200 高橋 祥一) ヒトゲノムの遺伝的多様性と慢性肝疾患の病態進展や治療応答性，肝炎ウイルス変異の関連性についての研究・論文作成について指導する。</p> <p>(213 石田 雄二) HBV感染全般に関わるホスト因子の同定と，感染及び複製を阻害する新規医薬品開発を目指した基礎研究に関して実施及び指導する。また，これらの成果をまとめた論文作成について指導する。</p> <p>(201 北台 靖彦) 動物モデルを用い，消化管腫瘍の転移メカニズムに関する研究および，画像解析一般の指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	分子内科学特別研究	<p>(概要) 胸部悪性腫瘍や間質性肺疾患における新規バイオマーカーの探索, さらに候補となったバイオマーカーの新たな作用機構の解析及び疾患発症に及ぼす環境因子・遺伝因子の検討, 治療応用への可能性の探索を行う。分子内科学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに, 博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(22 服部 登) 核酸治療法を応用して, 胸部悪性腫瘍や間質性肺疾患に対する新規治療法開発を試みる研究課題の研究指導を行う。</p> <p>(101 藤高 一慶) 胸部悪性腫瘍の新規バイオマーカーを探索する研究課題の研究指導を行う。</p> <p>(106 岩本 博志) 間質性肺疾患の新規バイオマーカーを探索する研究課題の研究指導を行う。</p>	
	脳神経内科学特別研究	<p>(概要) 神経科学の解明の為, 種々の実験的手法を用いた解析を行う。また, 脳神経内科学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに, 博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(23 丸山 博文) 分子生物学的手法を用いて神経変性疾患の遺伝子からみた発症機序の解明の研究指導を行う。</p> <p>(67 細見 直永) 分子生物学的手法および臨床的な評価方法の解析により脳血管障害の発症機序の解明の研究指導を行う。</p> <p>(107 高橋 哲也) 分子生物学的手法および免疫組織学的手法を用いて神経変性疾患の病理からみた発症機序の解明の研究指導を行う。</p>	
	精神神経医科学特別研究	<p>精神医学および神経科学の実験を通して, 実験, データ解析, 科学論文作成手技を習得する。また, 精神神経医科学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに, 博士論文作成の指導を行う。</p>	
	小児科学特別研究	<p>小児保健と小児科領域の疾患について, 主要な項目を取り上げながら, 全般的な理解が得られるように教育する。また, 小児科学分野における高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに, 博士論文作成の指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	外科学特別研究	<p>(概要) 外科学の最先端課題に関して、研究の実践、指導を行い、新しい外科治療法開発の研究について論文指導を行う。</p> <p>(68 村上 義昭) 膵臓癌拡大手術法と癌化学療法の有効性を免疫染色、遺伝子同定の手法を用いて、膵臓癌治療成績向上の課題の研究指導を行う。</p> <p>(102 上村 健一郎) 膵臓癌、胆管癌の治療に対する術前早期診断法を取り上げ、血中癌細胞のone cell analysisの課題の研究指導を行う。</p> <p>(129 栗原 将) 小児固形癌遠隔転移の原因を研究課題とし、癌増殖遺伝子の特定、遠隔転移に関与する遺伝子に関する研究指導を行う。</p>	
プログラム専門科目	消化器・移植外科学特別研究	<p>(概要) 消化器・移植外科分野における高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(10 大段 秀樹) 臓器及び細胞移植の臨床研究と免疫学的基礎研究及び肝胆膵外科学の研究指導を行う。 また全分野においての研究指導及び統括する。</p> <p>(69 田中 友加) 移植免疫及び腫瘍免疫研究と細胞治療についての研究指導を行う。</p> <p>(61 田邊 和照) 上部消化管悪性腫瘍に対する個別化治療の開発、低侵襲手術についての研究を指導を行う。</p> <p>(121 恵木 浩之) 内視鏡外科に関する基礎的研究と炎症制御療法の開発と癌治療への応用、医療工学についての指導を行う。</p> <p>(177 小林 剛) 肝癌の侵潤転移機序に関する分子生物学的研究及び肝胆膵外科臨床研究について研究指導を行う。</p> <p>(122 井手 健太郎) 臨床臓器移植と異種移植の免疫学的研究、腎臓移植に関する研究について研究指導を行う。</p> <p>(123 大平 真裕) 臓器移植と細胞療法免疫学的研究、肝臓移植に関する研究、再生医療に関する研究について研究指導を行う。</p> <p>(124 田原 裕之) 臨床臓器移植と移植免疫基礎研究、膵臓移植に関する研究についての研究指導を行う。</p> <p>(125 黒田 慎太郎) 肝虚血再灌流障害と安全な肝切除の研究、3Dプリンタや放射線マーカーについての研究について研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	脳神経外科学特別研究	脳神経外科学の実験等に必要最低限の細胞培養、組織染色、免疫染色が実施できるよう指導する。これらをもとに研究成果についてディスカッションを行う。脳神経外科学分野における高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
	整形外科科学特別研究	運動器の再生に関する最新の研究動向を理解し、研究を実践する。研究内容を発表し、討論する。これらを通して、整形外科科学分野における高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
	皮膚科学特別研究	皮膚科学、免疫学が関連する生命医学研究に必要な実験を通して、生化学、免疫学、細胞生物学に必要な実験技能を習得する。これらを通して、皮膚科学分野における高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
	腎泌尿器科学特別研究	<p>(概論) 総論として泌尿器疾患の症状、泌尿器科で行う検査、処置、手術を、各論として泌尿生殖器がん、尿路感染症、尿路結石、尿路性器外傷、男性不妊症、性分化異常、尿路性器の発生と異常、排尿障害をテーマとした内容で最新の研究動向を理解し、研究を実践する。これらをもとに、腎泌尿器科学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(26 松原 昭郎) 泌尿器科学、低侵襲治療、腹腔鏡手術、増殖因子に関する研究指導を行う。</p> <p>(60 亭島 淳) 前立腺がんの診断・治療、泌尿器科腹腔鏡下手術、腎がんの分子標的治療に関する研究指導を行う。</p>	
	視覚病態学特別研究	<p>(概要) 緑内障と角膜疾患のバイオメカニクスを検討する。角膜のバイオメカニクスパラメータをコルビス眼圧計で得る。緑内障疾患は視野障害の進行速度、角膜疾患に関しては角膜の形状測定装置、波面収差計で得られる角膜の収差とバイオメカニクスパラメータの関係を明らかにする。この目的に対して、研究の実践、指導を行う。統計手法を学んでいただき、緑内障や角膜疾患と剛性パラメータの関係に関する論文指導を行う。</p> <p>(27 木内 良明) 緑内障と角膜疾患のバイオメカニクスの関係を指導する。</p> <p>(71 近間 泰一郎) 角膜疾患のバイオメカニクスに関する助言を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	耳鼻咽喉科学・頭頸部 外科学特別研究	<p>(概要) 免疫・アレルギーおよび遺伝子実験を通して、データ解析、科学論文作成手技を習する。これらをもとに耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(28 竹野 幸夫) 分子生物学的手法（免疫組織化学、RT-PCR、遺伝子解析）、臨床観察研究などの手法を用いて、上気道アレルギー、好酸球性炎症の発症メカニズムと新たな治療法の開発へ向けた課題の研究指導を行う。</p> <p>(72 上田 勉) 頭頸部癌の発症のメカニズムと治療効果に関する研究を分子生物学的手法や観察研究の手法を用いて行い、頭頸部癌の早期発見や再発転移に関わるバイオマーカーの検出や新しい治療法の追及に関する研究、指導を行う。</p> <p>(108 工田 昌也) 内耳・嗅覚の障害、加齢に関する研究を分子生物学的手法を用いて研究し、新しい治療法の追及に関する研究、指導を行う。</p> <p>(130 石野 岳志) 人工聴覚機器での言語認知および耳鳴などの聴覚認知、難聴発症機序などにおいて、遺伝子工学、臨床観察研究などの手法を用いて研究指導を行い、実臨床に反映させることができるような高度な専門知識の修得を目指す。</p>	
	放射線診断学特別研究	<p>画像診断に関する基礎的ならびに臨床的データの解析法を習得する。放射線診断学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p>	
	放射線腫瘍学特別研究	<p>(概要) 最新の高精度放射線治療を含めた外部照射、舌癌・子宮癌などに高い治療効果が得られる組織内照射、RI治療などの実地診療に基づく教育を行います。これらを通して、放射線腫瘍学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行います。</p> <p>(11 永田 靖) 放射線腫瘍学全般にわたり指導を行うが、特に専門は体幹部定位照射や高精度放射線治療である。また臨床的専門領域としては、肺癌、肝癌、子宮癌、乳癌の指導を行う。</p> <p>(105 村上 祐司) 専門は強度変調放射線治療や化学放射線療法である。臓器別の専門領域としては、食道がん、頭頸部がん、直腸がん、前立腺がんの指導を行う。</p>	
	産科婦人科学特別研究	<p>周産期および婦人科腫瘍に関する基礎・臨床研究と実験方法の習得する。産科婦人科学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	麻酔蘇生学特別研究	麻酔蘇生学, 患者管理学, 疼痛制御学に一段と造詣を増する。麻酔蘇生学分野における高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに, 博士論文作成の指導を行う。	
	循環器内科学特別研究	(概要) 心血管病管理のための基礎的な知識と技術の習得, さらには新たなエビデンス創出に向けた考え方の習得を目指す。これらを通して, 循環器内科学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに, 博士論文作成の指導を行う。 (74 中野 由紀子) 不整脈の病態解明・リスク層別化・至適治療法の解明を研究課題として臨床的・分子生物学的研究の指導を行う。 (75 山本 秀也) 循環器病学に関する研究指導を行う。	
	救急集中治療医学特別研究	主に災害医療・被ばく医療を含めた救急医療と小児～成人に至る集中治療が対象になります。国内トップレベルのECMO症例を中心に多職種での医療チームで連携してその管理を行う。その他にも重症熱傷や小児集中治療管理など, 重症患者の特殊管理の研修が可能です。これらを通して, 救急集中治療医学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに, 博士論文作成の指導を行う。 (30 志馬 伸朗) 急性呼吸不全患者における患者血液あるいは気管支肺胞洗浄液を用いた病態生理メカニズム, 敗血症患者血清を用いた免疫麻痺のメカニズム解析, 低体温マウスモデルを用いた好中球分化機構の解明, 黄色ブドウ球菌の病原性解析, およびDPCデータを用いた重症患者診療と予後における影響の評価などに関する研究指導を行う。 (31 廣橋 伸之) 各種侵襲(低酸素, 放射線, 感染)における低酸素誘導因子(HIF)関連遺伝子の発現調整の研究, 原子力災害医療体制構築の研究などに対する研究指導を行う。	
	内視鏡医学特別研究	食道から肛門までの消化管の臨床を担当し, より良い診療を目指してトレーニングを行う。これらを通して, 内視鏡医学分野において高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに, 博士論文作成の指導を行う。	
	システム医療学特別研究	医療情報の電子化の進展に伴い, 医療情報の管理・活用には様々な難しい問題が生じている。また, 医療情報システムは使い方次第で医療安全の阻害要因にもなり得る。そこで, 電子的な医療情報管理のリテラシーを, 保護と活用, 利用者行動と医療安全等の観点から学習する。これらを通して, システム医療学分野における高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに, 博士論文作成の指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	感染症学特別研究	感染症の診療は、予防・診断・治療の他、院内感染対策がある。臨床での実践を経て、医療機関における各診療科の診療支援を担える人材を養成する。また細菌学講座との連携による耐性菌の分子疫学解析を通じて、基礎的根拠のある感染症診療を目指す。これらを通じて感染症学分野における高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
	病理診断学特別研究	実験計画の立案、病理学、分子生物学及び細胞遺伝子的検索を通して様々な実験の方法論の習得とそれにより得られた結果についての考察する。病理診断学分野における高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
	リウマチ・膠原病学特別研究	リウマチ性疾患の病態、診断、治療についてより深い知識を修得し、専門家を目指す上で必要な診察手技および研究手法を習得する。これらを通して、リウマチ・膠原病学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
	リハビリテーション学特別研究	身体的、精神的、かつまた社会的に最も適した機能水準の達成を可能とすることによって、各個人がみずからの人生を変革していくための手段を提供していくことを目指す。これらにより、リハビリテーション学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
	腎臓内科学特別研究	腎臓内科では、原発性糸球体・尿細管間質性疾患、高血圧、糖尿病、膠原病、血液疾患などに伴う全身性腎疾患、急性腎不全、慢性腎不全、慢性維持透析（血液透析・腹膜透析）など、あらゆる腎臓病に対し幅広く診療に当たっている。腎臓内科学に関する研究を通じて、実験、データ解析、科学論文作成手技を習得する。これらを通して、腎臓内科学分野における高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
	形成外科学特別研究	形成外科は、体表の形態に関わる先天異常や、熱傷・外傷・悪性腫瘍等に伴う組織欠損・機能欠損に対して、外科的治療により心身両面での社会復帰を支援する診療を行う。また、これらを遂行するために他科医師、コメディカルとの良好なチーム医療を行うことを要求される。形成外科的な基本手技の習得から、創傷治癒や組織移植に関する基礎知識、術後管理の基本、さらにはチーム医療に必要とされるコミュニケーション能力などを幅広く学ぶ。これらを通して、形成外科学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
	総合診療医学特別研究	<p>(概要)</p> <p>内科学総論（診断学）、症候診断学、感染症、臨床実習、漢方、リハビリテーション、生活習慣病等多岐にわたる研究分野の知識を修得する。これらを通して、総合診療医科学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(76 菅野 啓司)</p> <p>実臨床における問題から想定される研究課題を立ち上げ、基礎研究の遂行の指導を行う。</p> <p>(104 岸川 暢介)</p> <p>橋渡し研究を遂行するにあたり、必要とされる情報収集や研究の実践、論文作成の指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	がん化学療法科学特別研究	がん患者に対して抗癌剤化学療法の効果を十分発揮させるためには、抗癌剤の効果を熟知するのはもちろんのこと、副作用についても同様に熟知して抗癌剤治療を実践していくことが重要である。抗癌剤治療計画の組み立てを学んでいくとともに、外来化学療法室での副作用への対処、予想される副作用の軽減方法などを学ぶ。これらを通して、がん化学療法科学分野における高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
	生命科学特別研究	生命科学系実験として、ゲノム解析、トランスクリプトーム解析、蛋白解析、代謝産物解析までの最近の方法について学ぶことが出来る。ヒトゲノムが解明され、多くの網羅的な解析とともに、微量に存在する遺伝子変異や遺伝子発現、蛋白構造解析も可能となっている。さらに、高度なイメージング解析も可能となり、様々な物質や遺伝子発現の局在について解明していくことで、生命科学研究に方法について理解する。これらを通して、生命科学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
	精神病態制御学特別研究	双極性障害(躁うつ病)の原因を解明し、診断法・治療法を開発することを目指して研究を進めていく。これらを通して、総合精神病態制御学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
	がん臨床制御学特別研究	<p>(概要)</p> <p>がん臨床制御学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(194 谷山 清己) 消化器がん, 進行大腸がん, がん転移(微小転移), 肝細胞がん, 細胞診, 乳がん, 子宮頸がんに関する研究指導を行う。</p> <p>(195 下瀬 省二) 骨肉腫に関する研究指導を行う。</p> <p>(197 田代 裕尊) 肝がんに対する肝移植の基礎的研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(196 竹林 実) がん患者とご家族への精神的ケアに関する研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	死因究明特別研究	<p>(概要) 死因究明に関わる様々な解析(司法解剖, 死因・身元調査法第6条に定める解剖, 病理解剖及び死亡時画像診断)を指導者の下で実際に行い, 死因究明に関する手技, 解析法, 結果の解釈などを身に付けることを目標とする。法医学, 放射線診断学, 病理学に関連した解剖あるいは診断を3症例程度行い, 発表, レポート作成を行うとともに, 博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(21 長尾 正崇) 法医学に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(166 武島 幸男) 病理学に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(29 粟井 和夫) 死亡画像診断の研究指導を行う。</p> <p>(3 有廣 光司) 病理学に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(181 服部 拓也) 病理学に関する課題の研究指導を行う。</p>	
	English Presentation	<p>授業は参加型とし, 実際の学会会場での発表を想定して1日1人もしくは2人の発表者による発表と参加者による質問を行う。また, 外国人講師によるフィードバックを行い, より質の高い発表・ディスカッションを目指す。</p>	
	英語論文修辞学	<p>英語による論文を書くために, 論文の構成で一般的な「背景・目的・方法・結果・結論」の書き方, 過去・現在・現在完了の論文で主に使われる時制の使い方, 表現の幅が大きく広がる英語共起表現検索システムの活用等について講義するとともに, 各自の論文について, 論文の構造の解析を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 歯学専門プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目 持続可能な発展科目	スペシャリスト型SDGs アイデアマイニング 学生セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し、学生同士のブレインストーミングによって、SDGを達成するためのアイデアを発掘する。ファシリテーターの教員が示すUNDPの「重要な事実」を踏まえ、ひとつのSDGに対して異なる専門分野から意見を出し合い、ペアのディスカッション、グループ内でのディスカッションを通じて、ひとつのプロポーザルを導く。最終的にはその成果を全員の前でプレゼンテーションし、全体として17つのSDGsをカバーする包括的なアプローチを提案する。	
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し、広島県及び県内市町村の1つを取り上げ、SDGsの観点から課題を議論し、解決策を探索するセミナーである。ファシリテーターの教員が示すUNDPの「重要な事実」及び当該県市町村のプレゼンを踏まえ、その課題に関して異なる専門分野から意見を出し合い、最終的には課題の分析と解決策をひとつのプロポーザルにまとめ、市民も含めた全員にプレゼンテーションする。	
	普遍的平和を目指して	<p>(概要) 本講義では、今日の国際社会において、緊急性の高い諸問題をテーマに、それぞれの専門領域の視点からその解決策を導き出す能力を身につけることを目指す。取り扱うテーマは、例えば、貧困・飢餓・難民・平和構築・ジェンダー・環境問題、世界各地の紛争などである。それぞれのテーマに関して具体例とともにその現状を学び、同時にその解決策を具体的かつ理論的に提示できる能力を身につける。理想社会と現実との間には、大きなギャップも存在する。本講義で得た知見によって、そのギャップを説明し、かつ乗り越えることを目指したい。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(150 河合 幸一郎／2回) 途上国における貧困と飢餓について現状と解決策</p> <p>(174 掛江 朋子／2回) 世界各地の難民問題の現状と課題</p> <p>(173 山根 達郎／2回) 現代に蔓延する越境的な地域紛争の構造と紛争後における平和構築に向けた国際社会の取組み</p> <p>(151 中坪 孝之／2回) 水資源問題、地球温暖化を始めとした環境問題と平和の関わり</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 歯学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・ データ リテラ シー 科目	データサイエンス	データサイエンスは、データそのものを対象とする科学である。データの蓄積や利用法に留まらず、データの抽出、解析、検証、問題解決にいたる一連の手順について講義を行い、必要に応じて実際に統計ソフトウェアを用いた計算を行う。具体的には、使用したいデータの取り出しと結合・欠損データの取り外しなどのデータクリーニング、ヒストグラム・ボックスプロットなどの単数データの視覚化、平均・分散などの基本統計量の計算等の初歩的な内容だけでなく、散布図・バイプロットなどの複数データの同時視覚化、重回帰分析やロジスティック回帰分析、さらにはクラスター分析などのより実践に即した内容も取り扱う。	
	パターン認識と機械学習	人工知能は、人間の脳の機能を人工的に模倣しようとする試みである。デジタルカメラでの顔検出や自動運転などの応用では、パターン認識や機械学習が重要な役割を担っている。最近では、ディープラーニングを用いた手法が画像認識などのパターン認識課題で高い性能を出したことで脚光を浴びている。また、膨大なデータの中から有用な情報を見つけ出すためのデータマイニングでは、基礎技術として機械学習が利用されている。本講義では、機械学習とパターン認識の基礎とその人工知能への応用について解説する。また、訓練データから予測や識別のためのモデルを構築するプログラムを作成することで、機械学習やパターン認識手法をより深く理解する。	
	データサイエンティスト養成	近年、ビッグデータや人工知能(AI)などの活用に関心が集まっている。企業においては製造・生産ラインの改善、素材等の探索、顧客データに基づく新商品開発など、膨大なデータを構造化することで企画立案などの意思決定をサポートすることができる人材ーデータサイエンティストーに対するニーズも高まってきている。一方、理工系分野に限らず、人文社会系を含めた幅広い研究分野においても、データサイエンスの知見や技術の応用が新たな学問的発見や価値創造に貢献することが期待されている。本講義では、これらデータサイエンティストとして必要になる統計分析能力やIT関連スキルのみならず、実際のビジネスや研究開発現場への応用を見据えた課題解決型テーマに取り組むことで実践力を養う。演習の際には、産業界やデータ関連分野の専門家などからの指導・助言を受けられるように配慮する。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 歯学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・ データ リテラ シー科 目	医療情報リテラシー活用	<p>(概要) がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本講義では、医療情報を処理するために必要な知識、解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに、演習を行い、医療情報の解析法について履修する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(204 小笹 晃太郎／1回) 原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究。演習</p> <p>(1 工藤 美樹／1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則、功罪や有用性。演習</p> <p>(91 森野 豊之／1回) 医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法と演習</p> <p>(29 粟井 和夫・3 有廣 光司／1回) (共同) 医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題、情報の有用性と社会における活用と演習</p> <p>(182 田中 剛／1回) 広島県独自のHMnet (ひろしま医療情報ネットワーク Hiroshima Medical Network) を利用した医療情報共有の仕組みと活用と演習</p> <p>(12 田中 純子／1回) NDB (National data base) などの大規模医療データベースの種類、概要、倫理、疫学研究への活用と演習</p> <p>(63 大上 直秀／1回) がんゲノム情報の概要、倫理的課題、応用と活用と演習</p> <p>(22 服部 登／1回) 臨床治験の大規模化に伴う課題、功罪、応用と活用と演習</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	リーダーシップ手法	<p>組織でメンバーをリードして仕事を進めるのみならず、自身のキャリア開発と自己実現を図る上でもリーダーシップ力は不可欠である。本講義では、まず将来のキャリアパスの選択肢と社会の多様な場で活躍するために必要な能力等について概観し、自己実現にむけた自身の強みと弱みを理解する。内省と自己理解を踏まえた上で、国内外のリーダーの実像も交えながら、リーダーに求められる特性について概説する。また、リーダーシップを発揮するために必要な要素について実例と演習を通じて理解を深めるとともに、大学院における研究活動の中で自らのリーダーシップ力や他者への影響力を向上させるために何ができるかを考える。授業の全編を通じて、クラス参加者での積極的なグループ討議とディスカッションを行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 歯学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・ データ リテラ シー科 目	高度イノベーション人財のためのキャリアマネジメント	グローバル化と科学技術の進展に伴い、社会における人材ニーズも時代とともに変化している。本講義では、多様な業界の関係者や職業に従事されている方々からの講義、ディスカッション、さらには自己理解を深めるためのワークを通じて、研究経験を有する専門性の高い人財が活躍できるキャリアの選択肢と必要な能力・資質等について理解する。多様なキャリアの意義や魅力を理解することで自身自身の研究経験の活かし方を考え、将来に亘って自身のキャリアをマネジメントしていくために必要となる姿勢、行動、特質についても考察を深める。なお、人文社会系から理工農系までの幅広い学生が自らのキャリアを考えることができるように配慮する。	
	イノベーション演習	新たな社会的・経済的価値を生み出すためには、科学的発見や技術的発明を効果的に融合し発展させることが必要である。近年では異業種や異分野間で知識、技術、サービス、ノウハウなどを組み合わせることで新たな価値を生み出すオープン・イノベーションが進んでいる。本演習では、新たな社会的・経済的付加価値を生み出す(=イノベーション)ために必要となる姿勢やアプローチについて理解するとともに、企業等が抱える実際の課題に触れ、その解決プロセスを通じて、異なる「知」「技術」「分野」を融合する力と他者と協働する力を習得する。企業等が提案する課題毎に数名のグループを形成し、異なる分野の学生のみならず、企業・団体等の関係者と協働することで、多様な視点や考え方を理解し、新たな価値やネットワークを生み出すプロセスを疑似体験する。なお、人文社会系から理工農系までの幅広い学生が授業で討論しやすいように配慮する。	
	長期インターンシップ	国内外の民間企業、公的機関、非営利団体などへの長期インターンシップを通じて、企業や社会の課題解決に貢献するとともに、実践的な能力の養成とキャリアアップの拡大を図る。実習期間は原則、1～2ヵ月間以上のものを対象とする。受講希望者は応募申請書及び所属する専攻の指導教員からの推薦書をあらかじめ提出し、受講認定、事前カウンセリングなどの指導を受けて実施する。また、派遣前・派遣後プレゼンテーションも実施する。自己資金、学内資金、外部資金を問わない。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 歯学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	生命・医療倫理学B	<p>(概要) 医学・歯学・薬学・保健学の医療・健康福祉領域で行われる教育・研究・臨床は、生命に対する尊厳、医療における倫理感、責任感に裏付けられたものでなければならない。本講義では、それぞれの領域の基礎的並びに最新の医療情報に関する問題等を学習し、研究・臨床における生命・医療倫理について考察することで学生自身の研究・博士論文作成に資することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 工藤 美樹/1回) 医学・医療に求められる倫理について、講義をする。 (183 高橋 規郎/1回) ヒトゲノム遺伝子解析研究倫理指針に関する教育及び研修について、講義をする。 (93 岡田 賢/1回) 新生児医療における生命・医療倫理について、講義をする。 (2 森川 則文/1回) 医薬品の使用における倫理について、講義をする (3 有廣 光司/1回) 病理分野における倫理について、講義をする。 (155 松浦 伸也/1回) 遺伝子診療における倫理について、講義をする。 (4 杉山 一彦/1回) 臨床試験と医療倫理について、講義をする。 (53 吉田 光由/1回) 歯科倫理と食べることに関わる倫理について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	研究方法論B	<p>(概要) 「研究方法」をキーワードとして、広く実験技術とその背景にある医学・生物学的知識を学ぶ。単に技術論に留まらず、学生自身の研究・博士論文作成に資する研究の心構えや、講義担当者の研究の方法論を学び、学生自身が種々の方法論を駆使して研究を展開できる能力を涵養することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 小澤 孝一郎/2回) ガイダンス及びR I 技術について、講義をする。 (5 橋本 浩一/1回) パッチクランプ法の原理と応用について、講義をする。 (156 宿南 知佐/1回) 培養細胞実験とiPS細胞のトピックスについて、講義をする。 (157 田代 聡/1回) 細胞画像解析について、講義をする。 (54 佐藤 健一/1回) 要因探索のための統計解析について、講義をする。 (55 金子 雅幸/1回) PCR法の原理と応用について、講義をする。 (56 木下 英司/1回) 生物物理科学的研究手法について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 歯学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 共 通 科 目	アドバンスド生命科学 コースワーク	<p>スタートアップ生命科学コースワークを修得し、実験研究を遂行するために必要な基礎知識、技術、考え方を身につけた学生を対象に、やや専門的な実験の知識、並びに手技を少人数で学ぶ。</p> <p>演習テーマは下記のとおり：</p> <p>A. デジタルPCRによるウイルスDNAの絶対定量 B. FACS解析 C. 免疫組織化学 D. 培養細胞を用いた染色体の観察 E. 培養細胞への遺伝子導入法 F. 質量分析によるプロテオーム解析 G. 次世代シーケンサーによる発現解析</p>	
	バイオメディカルサイ エンスの創生展開	<p>(概要) 医学・歯学・薬学・保健学の各領域において、共通の理解が必要となる分野及び他の領域にとって参考になる分野を中心に主題を選択し、それぞれの領域の基礎的並びに最新の話題を提供し、学生間相互で知識と理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(9 田原 栄俊/1回) 老化および癌におけるマイクロRNA及びエクソソームの役割について、講義をする。 (159 松浪 勝義/1回) 医薬品発見のための天然物化学について、講義をする。 (158 相澤 秀紀/1回) 神経及び精神障害におけるニューロン及びグリア機能障害の役割について、講義をする。 (8 加藤 功一/1回) 再生医療用生体材料及びバイオデバイスについて、講義をする。 (1 工藤 美樹/1回) 正常妊娠及び異常妊娠における胎盤酵素の役割に関する研究について、講義をする。 (7 浅野 知一郎/1回) 代謝調節におけるプロリルイソメラーゼの役割について、講義をする。 (156 宿南 知佐/1回) 軟骨と腱・靭帯との間の接合調節機構について、講義をする。 (10 大段 秀樹・94 AMATYA VISHWA JEET/1回) (共同) 肝細胞癌の肝移植、中皮腫及び肺癌について、講義をする。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 歯学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 共 通 科 目	生体医工学イノベーションB	<p>(概要) 臨床に用いる医療機器やシステム等の技術開発を具体化するために必要な、研究マインドおよび開発プロセス、産学官連携活動や情報学・医学・工学領域間の連携に関する知識、態度を習得する。</p> <p>本講義では、マツダを事例にして、実際のビジネスや研究開発現場への応用を見据えたテーマに取り組み、グループディスカッションすることで実践力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(10 大段 秀樹/2回) ガイダンス及び技術開発の必要性について、講義をする。 (185 坂本 和夫/1回) 医療機器、システムの商品開発のプロセスについて、講義をする。 (175 笹岡 貴史/1回) 感性脳科学の応用について、講義をする。 (180 金山 範明/1回) 感性計測について、講義をする。 (184 農澤 隆秀/1回) これからの技術者に求められることについて、講義をする。 (186 高見 明秀/1回) モノづくりに必要な技術について、講義をする。 (212 西川 一男/1回) 人間工学・感性工学とその応用について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	多職種連携B	<p>(概要) 現代の医療では、各分野の専門スタッフが連携・協働して、治療に当たるチーム医療が重要視されている。本講義では、高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人の養成のため、医学、歯学、薬学、看護学、保健学それぞれの立場からチーム医療を円滑に実践するための知識を身に付けることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(30 志馬 伸朗/1回) ガイダンス及び多職種連携の必要性について、講義をする。 (160 折山 早苗/1回) 医療ケアに関する看護師の役割分担について、講義をする。 (161 桐本 光/1回) 急性期リハビリテーションチームについて、講義をする。 (162 浦川 将/1回) 医師・看護師・リハビリ関連職種との連携について、講義をする。 (34 木村 浩彰/1回) 医師からみた多職種連携の必要性について、講義をする。 (42 柿本 直也/1回) チーム医療における歯科医師が行う連携について、講義をする。 (14 松尾 裕彰/1回) 多色区連携における薬剤師の役割・課題・取組について、講義をする。 (163 内藤 真理子/1回) 周術期における歯科衛生士の役割について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 歯学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目	臨床腫瘍学	<p>(概要) 臨床腫瘍学に関連する分野として、放射線腫瘍学、内科腫瘍学、外科腫瘍学、精神腫瘍学、病理腫瘍学、薬物腫瘍学がある。これらの各専門領域の最先端の研究や臨床について、各専門分野の教授に担当していただき、学生にわかりやすい入門教育を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 永田 靖/1回) 放射線腫瘍学の最前線について、講義をする。 (13 岡田 守人/1回) 腫瘍外科の最前線について、講義をする。 (3 有廣 光司/1回) 臨床病理学について、講義をする。 (4 杉山 一彦/1回) がん化学療法と副作用対策について、講義をする。 (14 松尾 裕彰/1回) がん薬物療法について、講義をする。 (116 三上 幸夫/1回、) がんのリハビリテーションについて、講義をする。 (115 小早川 誠・15 岡本 泰昌/1回) (共同) サイコオンコロジーについて、講義をする。 (12 田中 純子/1回) 肝がんの疫学と医学統計学について、講義をする。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	放射線統合医科学	<p>(概要) 放射線災害・医科学研究分野は、基礎生物学、臨床医学、疫学や社会医学など広範におよぶことから、分野横断型の研究推進が必要である。本講義では、放射線災害・医科学研究分野の主要テーマである、低線量放射線被ばくによる人体への影響の解明や、高線量放射線被ばくによるヒト疾患の発症機構、緊急被ばく医療のための再生医学、福島第一原発事故の発生により明らかとなった様々な課題への研究などに関する知識を習得し、最新の研究動向を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(155 松浦 伸也/1回) 放射線高感受性遺伝病について、講義をする。 (16 保田 浩志/1回) 放射線防護：放射線被ばく健康影響とその障害の防止について、講義をする。 (58 河合 秀彦/1回) 細胞に及ぼす放射線障害の概略について、講義をする。 (17 東 幸仁/1回) 急性障害：血管障害と再生について、講義をする。 (18 稲葉 俊哉/1回) 放射線発がんの基礎について、講義をする。 (179 宮本 達雄/1回) 放射線誘導性小頭症の発生機序について、講義をする。 (95 三原 圭一郎/1回) 原発事故の生体影響について、講義をする。 (11 永田 靖/1回) 放射線障害のない放射線治療について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 歯学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻共通科目	薬物治療学	<p>(概要) 最近の医療関係のトピックスを交えながら、様々な疾患を取り上げ、その最新の薬物療法のあり方と問題点を、病態生理の分子メカニズム、治療薬の分子薬理メカニズム、分子メカニズムに基づいた薬物間相互作用、遺伝情報や生体メカニズムに基づいた薬物療法の最適化など、様々な視点から講義をする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 小澤 孝一郎/2回) 薬物治療学の最近の動向についてのオーバービュー及びサリドマイド等の既存の医薬品に期待される難治性治療薬としての可能性について講義をする。</p> <p>(59 細井 徹/2回) 小胞体ストレスと病態との関連及び創薬への展開について講義をする。</p> <p>(117 柳瀬 雄輝/2回) 細胞を解析するセンシング技術とその臨床応用及び血液凝固反応と免疫系の関わりについて講義をする。</p> <p>(118 吉井 美智子/2回) 脂肪細胞のバイオロジーと肥満治療への試み、アルツハイマー病治療と治療薬開発の現状及びカルシウムチャネルの働きと疾病との関わりについて講義をする。</p>	オムニバス方式
	がん診療各論	<p>(概要) 各臓器別がんの最新情報を各領域の専門家にオムニバス方式で講義してもらう。具体的には、肺癌、乳癌、頭頸部癌、脳腫瘍、血液腫瘍、胃癌、大腸癌、膵臓癌、婦人科癌、泌尿器癌、皮膚がん、転移性腫瘍、食道がん、小児がん、である。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 永田 靖/1回) 転移性腫瘍について、講義をする。</p> <p>(61 田邊 和照/1回) 胃癌について、講義をする。</p> <p>(97 相方 浩/1回) 肝臓がんについて、講義をする。</p> <p>(98 角舎 学行/1回) 乳がんについて、講義をする。</p> <p>(19 一戸 辰夫/1回) 造血器腫瘍について、講義をする。</p> <p>(119 平田 英司/1回) 婦人科がんについて、講義をする。</p> <p>(60 亭島 淳/1回) 泌尿器がんについて、講義をする。</p> <p>(96 河合 幹雄/1回) 皮膚がんについて、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 歯学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目	死因究明学	<p>(概要) 法医学, 法病理学, 死後画像診断, 法中毒学, 法歯科医学, 児童虐待, 大規模災害をキーワードとし, 医療人における基礎的教養として損傷の成傷機転等の基礎的な考察法をはじめとする法医学の最新知識の習得を目指し, 講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(21 長尾 正崇/5回) 法医学, 法病理学, 法歯科医学, 児童虐待, 大規模災害について, 講義を行う。 (29 栗井 和夫/1回) 死後画像診断について, 講義を行う。 (65 奈女良 昭/2回) 法中毒学について, 講義を行う。</p>	オムニバス方式
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	生体材料学特別演習	再生医療の実現に有用な生体材料や分析用デバイス等についてバイオエンジニアリングの側面から理解を深める。生体材料に関する最近の論文を紹介し, その論文を抄読する。論文の内容について, 発表し, 討議することによって, 生体材料学分野の知識を修得し, 再生医療などの最新の研究動向を理解する。	共同
	口腔生化学特別演習	生化学・口腔生化学について, 様々な生命現象の科学的側面を, 生体に関連する機能分子やその化学反応から理解することを目指す。また, 顎顔面領域の形成・維持・再生修復に関する幅広い基礎知識を身につけ, 最新の知見についても学ぶ。幹細胞生物学の研究, 発表, 論文作成に必要な基礎的知識を習得する。	
	口腔細胞生物学特別演習	人体の主要な硬組織である骨組織及び歯牙硬組織(象牙質, セメント質, エナメル質)について, それらの組織を構築している細胞の分化, 形態形成, 基質形成と石灰化, 成熟及び改築についての幅広い知識を習得し, 最先端の研究内容について理解を深める。口腔細胞生物学分野の知識を修得し, 最新の研究動向を理解する。	
	細菌学特別演習	微生物学について, 微生物の基礎, さらに広く医学領域で問題となる主な病原性細菌, 病原性ウイルスとその感染症, 抗菌(ウイルス)化学療法薬, 医療従事者として知るべき消毒・滅菌の基礎知識などについて学ぶ。これらを通して, 細菌学分野の知識を修得し, 最新の研究動向を理解する。	共同
	口腔生理学特別演習	生理学・口腔生理学について, 生体が保有する生理機能および生命システムの動作原理を学ぶ。生体が外的環境の様々な変化を感知し, 動的に内部環境の恒常性を維持する機構を学び, 恒常的状態の破綻である病態を理解するための基礎を身につける。また顎口腔領域における感覚機能・運動機能について理解を深めることを目指す。摂食行動の維持に重要な口腔機能・脳機能に関する基礎知識と最新の研究動向を理解することを目標とする。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 歯学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	細胞分子薬理学特別演習	ヒトの個体は50-70兆個に及ぶ細胞から構成されており、それら細胞は互いに連携して個体としてまとまった機能を発揮している。この授業では、細胞の不思議にふれ、細胞の魅力を知り、そしてそれが研究への活力となるよう、参加者が自由にディスカッションする。これらを通して、細胞分子薬理学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	口腔顎顔面病理病態学特別演習	病理学の目的は病気の原因や機序を解明し、新しい診断・治療法の開発に役立てることである。講義では口腔病変だけでなく、全身疾患についても、臨床との関係を示しながらわかりやすい講義をし、歯科医学・医療リーダーとなるための基礎作りをサポートする。英語論文を読み、その内容に関して発表・ディスカッションを行うことができ、これらを通して、口腔顎顔面病理病態学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	共同
	歯周病態学特別演習	歯周病の診断、治療、予防に関する基礎研究と臨床研究を行う。これらを通して、歯周病態学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	分子口腔医学・顎顔面外科学特別演習	分子口腔医学分野・顎顔面外科学分野などを講義し、口腔外科学、顎外科学、応用口腔医学及び実習を行い、口腔・顎・顔面領域の奇形、変形、発育異常、炎症、外傷、良性腫瘍及び悪性などの、診断・治療法について教授している。これらを通して、分子口腔医学・顎顔面外科学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	粘膜免疫学特別演習	粘膜免疫学研究室は、感染症・アレルギー・がんなどのヒトの生命を脅かす疾患から私たちのからだをまもる血液細胞（免疫細胞）の働きを講義し、“生命の神秘と不思議”に触発された“知的探究心あふれる歯科医師”の育成に努めている。消化管や呼吸器の粘膜で作動する免疫機構に関する最新の知見を学習し、生命科学の進歩と連動した免疫学研究の動向について理解を深める。	共同
	歯科放射線学特別演習	歯科医療に必須の放射線画像の成り立ちと症例に基づいた画像診断について講義している。歯や顎骨のX線診断やコンピュータ断層撮影法(CT)、磁気共鳴撮像法(MRI)や超音波診断法、また歯科用CTを用いた画像診断や、口腔癌の放射線治療について講義する。歯科放射線で利用研究されている特殊撮影について、構造、機能、得られる画像の特性について理解する。	
	硬組織代謝生物学特別演習	骨は、運動器としてのみならず生体の様々な器官と相互作用し、免疫系や中枢などとネットワーク（オステオネットワーク）を構築して生体を維持している。一方、カルシウム/リン代謝と関連して古くから知られていた腎との関連にも新たな発見があり、とくにリン代謝関連の様相が一変した。骨形成機構の、とりわけ石灰化の分子基盤は、歯牙形成あるいは血管等の異所性石灰化と共通点が多いとされる。また、骨粗鬆症に高頻度で合併する心血管疾患や癌の骨転移の一部に同様の分子基盤が関与することも示唆されている。この科目では、このような背景を十分に理解し、石灰化の分子基盤を中心とした新たなネットワークを探索するための基礎学力を養うことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 歯学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	歯科麻酔学特別演習	全身麻酔薬の作用機序や鎮静薬の薬理作用に関する知識を習得するとともに、最新の研究動向を理解する。文献などからの情報を収集し、それらをまとめて皆の前で発表することにより、プレゼンテーション能力およびディスカッション能力を向上させるとともに、歯科麻酔学分野における知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	歯髄生物学特別演習	虫歯、歯の中にある歯髄および根尖歯周組織の炎症性の病気の診断、治療法を主に教育している。細菌を除去し、炎症をなくすことによって、歯を保存し、歯の形態や機能を回復する方法を教えている。これらを通じ、歯髄生物学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	口腔外科学特別演習	口腔外科領域の疾患学、診断学、治療学に関する様々な基礎知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	先端歯科補綴学特別演習	口腔機能の形態学的・生理学的機構の基本的理解のもとに、歯・顎の欠損から生じる病態の回復を目指す先端的補綴治療に焦点をあてる。インプラント学、生体材料学、顎口腔機能学、高齢者歯科学等のエッセンスに加えて、各学術分野の新技术・新素材の開発などについても理解を深める。これらを通して、先端歯科補綴学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	歯科矯正学特別演習	歯科矯正学は、顎顔面の成長発育過程の正常な形態や機能を獲得し、顎骨の異常や不正咬合を改善するための学問である。歯科矯正学の基礎的な知識や技術だけでなく、矯正臨床に必要な研修を行う。これらを通して、歯科矯正学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	共同
	小児歯科学特別演習	小児歯科学は口腔の正常な成長発達とそれを阻害する口腔疾患の成因、病態、治療および予防について研究する学問で、講義、基礎実習および臨床実習を通して、口腔機能の健全な育成の重要性や「小児は単に成人を小さくしたものではない」ことを学ぶ。小児歯科専門医の資格取得も視野に入れて学位修得を目指している。	
	国際歯科医学・分子腫瘍学特別演習	この演習では、英語のみを使用した論文抄読会を行う。論文は、生命科学、医療全般にわたり、発表者の興味の対象となる分野から選ぶ。論文はインパクトファクター10以上の雑誌に最近発表された中から選ぶことを推奨しており、普段の研究に関連する分野での最先端の研究がどのように行われているかについて常に情報を得る機会を作る。それぞれの研究領域は異なるが、背景その他を説明をしっかりと行うようにしており、異なる分野から新しい知識を得て、それぞれの研究に活かすことができる。これらを通して、国際歯科医学・分子腫瘍学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 歯学専門プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	歯科医学教育学特別演習	欧米並びにアジアの医学・歯学教育研究者と連携を取りながら、グローバル規模で議論されている「教育研究とは何か」、「教育研究の目的や意義とは何か」などの教育研究にかかわるテーマについての学習を行いながら、地域医療の中核を担う歯科医療者並びに先端的研究を担う歯学研究者として、後進の育成・指導（教育）にあたる際に必要な歯学・医学教育技法についての態度、技能、知識を修得する。	
	障害者歯科学特別演習	障害者歯科に関わる論文をセミナー形式で抄読し、考察する。これらを通して、障害者歯科学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	法歯学特別演習	大規模災害時の遺体身元確認を想定した口腔内状況の記録、児童虐待における歯科の役割、口腔内の試料を利用したDNA鑑定などについて学修する。	共同
	矯正歯科専門医取得支援コース	矯正歯科専門の研修機関で5年以上矯正治療の研鑽をし、その後学会の行う検定審査に合格した人に与えられる矯正歯科認定医の資格取得に必要な研修を行う。	共同
	小児歯科専門医取得支援コース	小児歯科専門医の受験資格を得るための基礎的知識、診断能力、治療方針の立案等ができることを目標とする。	
	生体材料学特別研究	<p>(概要)</p> <p>再生医療の実現に有用な生体材料や分析用デバイス等についてバイオエンジニアリングの側面から理解を深める。生体材料に関する最近の論文を紹介し、その論文を抄読する。論文の内容について、発表し、討議することによって、生体材料学分野の知識を修得し、再生医療などの最新の研究動向を理解する。生体材料学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(8 加藤 功一)</p> <p>再生医療・組織工学、幹細胞操作・品質管理、遺伝子組み換えによるタンパク質性材料の分子設計等に関する研究指導及び論文作成指導を行う。</p> <p>(131 平田 伊佐雄)</p> <p>表面・界面化学及びそれらの改質、生体適合性、生体モデル表面等に関する研究指導を行う。</p>	
	口腔生化学特別研究	幹細胞生物学の研究に必要な基本的思考方法、知識、技術を実際にチューターとともに実験をすることによって学ばせる。具体的な実験計画を立案し、実験を実行し、さらにそのデータを整理して解釈させます。それらを通して、口腔生化学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 歯学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	口腔細胞生物学特別研究	組織・細胞の形態や機能を解明するうえで必要な、形態学的及び分子生物学的な基本的実験手技を修得させるとともに、これらを活用して実際に実験を行い、得られた実験データの解析方法や論文作成方法についても学ぶ。これらを通して、口腔細胞生物学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
	細菌学特別研究	(概要) 微生物学について、微生物の基礎、さらに広く医学領域で問題となる主な病原性細菌、病原性ウイルスとその感染症、抗菌(ウイルス)化学療法薬、医療従事者として知るべき消毒・滅菌の基礎知識などについて学ぶ。高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。 (188 菅井 基行) 薬剤耐性菌のゲノム解析を基にした病原および病因の検索並びに予防及び治療方法に関する研究指導を行う。 (187 柴山 恵吾) 薬剤耐性菌のサーベランス及び迅速検査法開発に関する研究指導を行う。	
	口腔生理学特別研究	(概要) 味覚システム、唾液腺分泌システム、咀嚼・嚥下システム、摂食行動制御システム等の機能と機能発現機構・機能制御機構および病態発生機序を解明するための研究の進め方、研究方法の原理・応用の仕方、具体的研究手法を習得することを目標とする。これらを通して、口腔生理学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。 (39 杉田 誠) 電気生理学的手法、および細胞・分子機能のリアルタイムイメージングを用いて、味覚システム・唾液腺分泌システム等の機能発現・制御機構を分子・細胞・システムレベルで研究し、論文作成することができるよう指導を行う。 (132 北川 道憲) ヒト・マウスを対象に、官能試験あるいは分子生物学的手法を用いて口腔機能の分子メカニズムに関する課題の研究指導を行う。	
	細胞分子薬理学特別研究	ヒトの個体は50-70兆個に及ぶ細胞から構成されており、それら細胞は互いに連携して個体としてまとまった機能を発揮している。この授業では、細胞の不思議にふれ、細胞の魅力を知り、そしてそれが研究への活力となるよう、参加者が自由にディスカッションする。これらを通して、細胞分子薬理学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 歯学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	口腔顎顔面病理病態学 特別研究	<p>(概要) 病理学および動物実験を通して実験，データ解析，科学論文作成技術を習得する。研究成果を理解し，ディスカッションを行うことにより，口腔顎顔面病理病態学分野における高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに，博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(80 宮内 睦美) 分子病理学，実験病理学的手法を用いて，歯周病や口腔疾患に関する研究指導を行う。</p> <p>(133 古庄 寿子) 分子病理学，実験病理学的手法を用いて，歯周病に関する研究指導を行う。</p>	
	歯周病態学特別研究	歯周病態学の研究を担当し，歯周病の診断，治療，予防に関する基礎研究と臨床研究を行っている。これらを通して，歯周病態学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに，博士論文作成の指導を行う。	
	分子口腔医学・顎顔面 外科学特別研究	分子口腔医学分野・顎顔面外科学分野などを講義し，口腔外科学，顎外科学，応用口腔医学及び実習を行い，口腔・顎・顔面領域の奇形，変形，発育異常，炎症，外傷，良性腫瘍及び悪性などの，診断・治療法について教授する。これらを通して，分子口腔医学・顎顔面外科学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに，博士論文作成の指導を行う。	
	粘膜免疫学特別研究	<p>(概要) 消化管や呼吸器の粘膜で作動する免疫機構に関する最新の知見を学習し，生命科学の進歩と連動した免疫学研究の動向について理解を深める。消化管や呼吸器などの粘膜で作動する免疫システム構築原理の基本的な実験手法の習得を目指す。これらを通して，粘膜免疫学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに，博士論文作成の指導を行う。また顎顔面領域に発生する増殖性疾患の原因遺伝子とその異常がもたらす病態についての研究指導も行っている。</p> <p>(41 高橋 一郎) 消化管粘膜における微生物免疫細胞内共生現象の免疫生物学的な意義について，粘膜における生体恒常性の成立維持・炎症制御という観点から，細胞生物学的・免疫遺伝学的手法を用いて解き明かし，最終的には粘膜を基点として発症する炎症性疾患の新しい予防・診断・治療法の開発に資する研究指導を行う。</p> <p>(82 飛梅 圭) 軟組織および硬組織に発生する増殖性疾患の発症と進展機構の解明を研究課題とし，疾患原因遺伝子機能とその変調がもたらす病態の解明について研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 歯学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	歯科放射線学特別研究	歯や顎骨のX線診断やコンピュータ断層撮影法(CT)、磁気共鳴撮像法(MRI)や超音波診断法、また歯科用CTを用いた画像診断や、口腔癌の放射線治療について研究する。歯科放射線で利用研究されている特殊撮影について構造、機能、得られる画像の特性について理解する。歯科放射線で利用研究されている特殊撮影について構造、機能、得られる画像の特性について理解する。これらを通して、歯科放射線学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
	硬組織代謝生物学特別研究	この科目では、石灰化の分子基盤を中心とした新たなオステオネットワークを探索するための基礎的研究手法として、マウスの骨形態計測、ex vivoまたはin vitroの培養実験などの実験手技を習得する。これらを通して、硬組織代謝生物学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
	歯科麻酔学特別研究	全身麻酔薬の作用機序や鎮静薬の薬理作用に関する行動薬理学、神経生理学および神経生化学実験を通して、実験、データ解析、科学論文作成手技を習得する。これらを通して、歯科麻酔学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
	歯髄生物学特別研究	虫歯、歯の中にある歯髄および根尖歯周組織の炎症性の病気の診断、治療法を主に教育している。細菌を除去し、炎症をなくすことによって、歯を保存し、歯の形態や機能を回復する方法を教えている。これらを通して、歯髄生物学に関する高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
	口腔外科学特別研究	口腔外科領域の疾患学、診断学、治療学に関する様々な基礎知識を修得する。これらを通して、口腔外科学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 歯学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	先端歯科補綴学特別研究	<p>(概要) 補綴治療を総合的に捉えるための基盤としての先端的基礎医学や生理学的ならびに生物学的研究手法と実験手技を学ぶ。これらを通して、先端歯科補綴学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(44 津賀 一弘) 顎口腔機能における舌圧機能を取り上げ、機能障害の原因を診断する手法に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(84 阿部 泰彦) 生体材料における材料理工学全般を取り上げ、各種評価の手法に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(85 吉川 峰加) 顎口腔機能におけるオーラルフレイル（口腔機能低下症）の課題の研究指導を行う。</p> <p>(53 吉田 光由) 顎口腔機能における摂食嚥下機能を取り上げ、機能障害の原因を診断する手法に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(110 久保 隆靖) 生体材料における生体親和性を取り上げ、動物実験手法に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(111 呉本 晃一) 生体材料における生体親和性を取り上げ、細胞培養の手法に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(134 岡崎 洋平) 生体材料における有機無機化合物を取り上げ、材料工学的評価の手法に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(135 岡田 信輔) 生体材料における細胞応答を取り上げ、評価の手法に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(136 森田 晃司) 顎口腔機能における咀嚼筋機能を取り上げ、評価の手法に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(137 是竹 克紀) 生体材料における生体力学を取り上げ、評価の手法に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(138 土井 一矢) 生体材料における金属工学を取り上げ、各種評価の手法に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(139 柄 博紀) 生体材料における有機化合物を取り上げ、合成の手法に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(140 牧原 勇介) 生体材料における骨増生を取り上げ、骨組織評価の手法に関する課題の研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 歯学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	歯科矯正学特別研究	<p>(概要) 歯科矯正学は、顎顔面の成長発育過程の正常な形態や機能を獲得し、顎骨の異常や不正咬合を改善するための学問である。歯科矯正学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(45 谷本 幸太郎) 歯科矯正学，未分化間葉系幹細胞，顎関節症、バイオミネラリゼーションに関する研究指導及び論文作成指導を行う。</p> <p>(86 上田 宏) 咬合接触面積，口腔内装置，咬合力，顎口腔機能，睡眠時無呼吸症候群に関する研究指導を行う。</p> <p>(112 加来 真人) 骨代謝に関する基礎的研究、エレクトロパラトグラフィを用いた構音機能の評価に関する研究指導を行う。</p> <p>(113 國松 亮) 歯の移動に対するレーザー照射の影響、歯根吸収発現機序の解明と治療法の探索に関する研究指導を行う。</p> <p>(141 麻川 由起) メカニカルストレスによる関節破壊機序に関する研究指導を行う。</p> <p>(142 廣瀬 尚人) 変形性顎関節症の治療法に関する研究指導を行う。</p> <p>(143 栗田 哲也) 矯正歯科治療におけるカリエスリスクの低減に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(144 吉見 友希) エナメル蛋白の再生医療への応用に関する研究指導を行う。</p>	
	小児歯科学特別研究	<p>小児歯科学は口腔の正常な成長発達とそれを阻害する口腔疾患の成因，病態，治療および予防について研究する学問で，講義，基礎実習および臨床実習を通して，口腔機能の健全な育成の重要性や「小児は単に成人を小さくしたものではない」ことを学び小児歯科学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに，博士論文作成の指導を行う。</p>	
	国際歯科医学・分子腫瘍学特別研究	<p>生命科学，医療全般にわたり，発表者の興味の対象となる分野から論文を選ぶ。普段の研究に関連する分野での最先端の研究がどのように行われているかについて常に情報を得る機会を作る。それぞれの研究領域は異なるが，背景その他を説明をしっかりと行うようにしており，異なる分野から新しい知識を得て，それぞれの研究に活かすことができる。これらを通して，国際歯科医学・分子腫瘍学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに，博士論文作成の指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 歯学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	歯科医学教育学特別研究	一般並びに健康科学及び教育における人間のコミュニケーション行動と、歯科医療における人間のコミュニケーション行動とを比較・分析し、歯科医学教育並びに歯科医療における行動科学的特殊性についての探求を行う。教育的介入と医学的介入によるコミュニケーション行動の違いを、客観的並びに科学的測定（評価）法を用いて探求する。コミュニケーション行動科学の歯科医学教育面や歯科医療面での指標づくりのために、新たな科学的測定（評価）法の開発についての研究を行う。教育や医療現場でのコミュニケーション行動についての研究計画の立案・データ解析・評価・プレゼンテーション技法について習得する。これらを通して、歯科医学教育学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を習得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
	障害者歯科学特別研究	障害者の歯科医療全般にまつわる広い分野を担当し、対象となる患者も、脳性麻痺、ALS、知的障害、自閉症、筋ジストロフィー、脳血管障害、嚥下障害など、非常に広い分野の障害を持つ障害者のことを理解し、良き支援者となり、社会に貢献できるように努める。これらを通して、障害者歯科学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
プログラム 専門科目	死因究明特別研究	<p>(概要)</p> <p>死因究明に関わる様々な解析（司法解剖、死因・身元調査法第6条に定める解剖、病理解剖及び死亡時画像診断）を指導者の下で実際に行い、死因究明に関する手技、解析法、結果の解釈などを身に付けることを目標とする。法医学、放射線診断学、病理学に関連した解剖あるいは診断を3症例程度行い、発表、レポート作成を行うとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(21 長尾 正崇) 法医学に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(166 武島 幸男) 病理学に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(29 粟井 和夫) 死亡画像診断の研究指導を行う。</p> <p>(3 有廣 光司) 病理学に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(181 服部 拓也) 病理学に関する課題の研究指導を行う。</p>	
	法歯学特別研究	<p>(概要)</p> <p>遺体の口腔内記録、児童虐待の早期発見の気付き、などについて実習するとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(21 長尾 正崇) 法歯学に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(178 岡 広子) 法歯学に関する課題の研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 歯学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	English Presentation	授業は参加型とし、実際の学会会場での発表を想定して1日1人もしくは2人の発表者による発表と参加者による質問を行ってもらう。また、外国人講師によるフィードバックを行い、より質の高い発表・ディスカッションを目指す。	
	英語論文修辞学	英語による論文を書くために、論文の構成で一般的な「背景・目的・方法・結果・結論」の書き方、過去・現在・現在完了の論文で主に使われる時制の使い方、表現の幅が大きく広がる英語共起表現検索システムの活用等について講義するとともに、各自の論文について、論文の構造の解析を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 薬学専門プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	スペシャリスト型SDGs アイデアマイニング 学生セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し、学生同士のブレインストーミングによって、SDGを達成するためのアイデアを発掘する。ファシリテーターの教員が示すUNDPの「重要な事実」を踏まえ、ひとつのSDGに対して異なる専門分野から意見を出し合い、ペアのディスカッション、グループ内でのディスカッションを通じて、ひとつのプロポーザルを導く。最終的にはその成果を全員の前でプレゼンテーションし、全体として17つのSDGsをカバーする包括的なアプローチを提案する。	
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し、広島県及び県内市町村の1つを取り上げ、SDGsの観点から課題を議論し、解決策を探索するセミナーである。ファシリテーターの教員が示すUNDPの「重要な事実」及び当該県市町村のプレゼンを踏まえ、その課題に関して異なる専門分野から意見を出し合い、最終的には課題の分析と解決策をひとつのプロポーザルにまとめ、市民も含めた全員にプレゼンテーションする。	
	普遍的平和を目指して	<p>(概要) 本講義では、今日の国際社会において、緊急性の高い諸問題をテーマに、それぞれの専門領域の視点からその解決策を導き出す能力を身につけることを目指す。取り扱うテーマは、例えば、貧困・飢餓・難民・平和構築・ジェンダー・環境問題、世界各地の紛争などである。それぞれのテーマに関して具体例とともにその現状を学び、同時にその解決策を具体的かつ理論的に提示できる能力を身につける。理想社会と現実との間には、大きなギャップも存在する。本講義で得た知見によって、そのギャップを説明し、かつ乗り越えることを目指したい。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(150 河合 幸一郎／2回) 途上国における貧困と飢餓について現状と解決策</p> <p>(174 掛江 朋子／2回) 世界各地の難民問題の現状と課題</p> <p>(173 山根 達郎／2回) 現代に蔓延する越境的な地域紛争の構造と紛争後における平和構築に向けた国際社会の取組み</p> <p>(151 中坪 孝之／2回) 水資源問題、地球温暖化を始めとした環境問題と平和の関わり</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 薬学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目 キャリア開発・データリテラシー科目	データサイエンス	データサイエンスは、データそのものを対象とする科学である。データの蓄積や利用法に留まらず、データの抽出、解析、検証、問題解決にいたる一連の手順について講義を行い、必要に応じて実際に統計ソフトウェアを用いた計算を行う。具体的には、使用したいデータの取り出しと結合・欠損データの取り外しなどのデータクリーニング、ヒストグラム・ボックスプロットなどの単数データの視覚化、平均・分散などの基本統計量の計算等の初歩的な内容だけでなく、散布図・バイプロットなどの複数データの同時視覚化、重回帰分析やロジスティック回帰分析、さらにはクラスター分析などのより実践に即した内容も取り扱う。	
	パターン認識と機械学習	人工知能は、人間の脳の機能を人工的に模倣しようとする試みである。デジタルカメラでの顔検出や自動運転などの応用では、パターン認識や機械学習が重要な役割を担っている。最近では、ディープラーニングを用いた手法が画像認識などのパターン認識課題で高い性能を出したことで脚光を浴びている。また、膨大なデータの中から有用な情報を見つけ出すためのデータマイニングでは、基礎技術として機械学習が利用されている。本講義では、機械学習とパターン認識の基礎とその人工知能への応用について解説する。また、訓練データから予測や識別のためのモデルを構築するプログラムを作成することで、機械学習やパターン認識手法をより深く理解する。	
	データサイエンティスト養成	近年、ビッグデータや人工知能(AI)などの活用に関心が集まっている。企業においては製造・生産ラインの改善、素材等の探索、顧客データに基づく新商品開発など、膨大なデータを構造化することで企画立案などの意思決定をサポートすることができる人材ーデータサイエンティストーに対するニーズも高まってきている。一方、理工系分野に限らず、人文社会系を含めた幅広い研究分野においても、データサイエンスの知見や技術の応用が新たな学問的発見や価値創造に貢献することが期待されている。本講義では、これらデータサイエンティストとして必要になる統計分析能力やIT関連スキルのみならず、実際のビジネスや研究開発現場への応用を見据えた課題解決型テーマに取り組むことで実践力を養う。演習の際には、産業界やデータ関連分野の専門家などからの指導・助言を受けられるように配慮する。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 薬学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・ データ リテラ シー科 目	医療情報リテラシー活用	<p>(概要) がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本講義では、医療情報を処理するために必要な知識、解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに、演習を行い、医療情報の解析法について履修する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(204 小笹 晃太郎／1回) 原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究。演習</p> <p>(1 工藤 美樹／1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則、功罪や有用性。演習</p> <p>(91 森野 豊之／1回) 医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法と演習</p> <p>(29 粟井 和夫・3 有廣 光司／1回) (共同) 医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題、情報の有用性と社会における活用と演習</p> <p>(182 田中 剛／1回) 広島県独自のHMnet (ひろしま医療情報ネットワーク Hiroshima Medical Network) を利用した医療情報共有の仕組みと活用と演習</p> <p>(12 田中 純子／1回) NDB (National data base) などの大規模医療データベースの種類、概要、倫理、疫学研究への活用と演習</p> <p>(63 大上 直秀／1回) がんゲノム情報の概要、倫理的課題、応用と活用と演習</p> <p>(22 服部 登／1回) 臨床治験の大規模化に伴う課題、功罪、応用と活用と演習</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	リーダーシップ手法	<p>組織でメンバーをリードして仕事を進めるのみならず、自身のキャリア開発と自己実現を図る上でもリーダーシップ力は不可欠である。本講義では、まず将来のキャリアパスの選択肢と社会の多様な場で活躍するために必要な能力等について概観し、自己実現にむけた自身の強みと弱みを理解する。内省と自己理解を踏まえた上で、国内外のリーダーの実像も交えながら、リーダーに求められる特性について概説する。また、リーダーシップを発揮するために必要な要素について実例と演習を通じて理解を深めるとともに、大学院における研究活動の中で自らのリーダーシップ力や他者への影響力を向上させるために何ができるかを考える。授業の全編を通じて、クラス参加者での積極的なグループ討議とディスカッションを行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 薬学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・ データ リテラ シー科 目	高度イノベーション人財のためのキャリアマネジメント	グローバル化と科学技術の進展に伴い、社会における人材ニーズも時代とともに変化している。本講義では、多様な業界の関係者や職業に従事されている方々からの講義、ディスカッション、さらには自己理解を深めるためのワークを通じて、研究経験を有する専門性の高い人財が活躍できるキャリアの選択肢と必要な能力・資質等について理解する。多様なキャリアの意義や魅力を理解することで自分自身の研究経験の活かし方を考え、将来に亘って自身のキャリアをマネジメントしていくために必要となる姿勢、行動、特質についても考察を深める。なお、人文社会系から理工農系までの幅広い学生が自らのキャリアを考えることができるように配慮する。	
	イノベーション演習	新たな社会的・経済的価値を生み出すためには、科学的発見や技術的発明を効果的に融合し発展させることが必要である。近年では異業種や異分野間で知識、技術、サービス、ノウハウなどを組み合わせることで新たな価値を生み出すオープン・イノベーションが進んでいる。本演習では、新たな社会的・経済的付加価値を生み出す(=イノベーション)ために必要となる姿勢やアプローチについて理解するとともに、企業等が抱える実際の課題に触れ、その解決プロセスを通じて、異なる「知」「技術」「分野」を融合する力と他者と協働する力を習得する。企業等が提案する課題毎に数名のグループを形成し、異なる分野の学生のみならず、企業・団体等の関係者と協働することで、多様な視点や考え方を理解し、新たな価値やネットワークを生み出すプロセスを疑似体験する。なお、人文社会系から理工農系までの幅広い学生が授業で討論しやすいように配慮する。	
	長期インターンシップ	国内外の民間企業、公的機関、非営利団体などへの長期インターンシップを通じて、企業や社会の課題解決に貢献するとともに、実践的な能力の養成とキャリアオプションの拡大を図る。実習期間は原則、1～2ヵ月間以上のものを対象とする。受講希望者は応募申請書及び所属する専攻の指導教員からの推薦書をあらかじめ提出し、受講認定、事前カウンセリングなどの指導を受けて実施する。また、派遣前・派遣後プレゼンテーションも実施する。自己資金、学内資金、外部資金を問わない。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 薬学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	生命・医療倫理学B	<p>(概要) 医学・歯学・薬学・保健学の医療・健康福祉領域で行われる教育・研究・臨床は、生命に対する尊厳、医療における倫理感、責任感に裏付けられたものでなければならない。本講義では、それぞれの領域の基礎的並びに最新の医療情報に関する問題等を学習し、研究・臨床における生命・医療倫理について考察することで学生自身の研究・博士論文作成に資することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 工藤 美樹/1回) 医学・医療に求められる倫理について、講義をする。 (183 高橋 規郎/1回) ヒトゲノム遺伝子解析研究倫理指針に関する教育及び研修について、講義をする。 (93 岡田 賢/1回) 新生児医療における生命・医療倫理について、講義をする。 (2 森川 則文/1回) 医薬品の使用における倫理について、講義をする (3 有廣 光司/1回) 病理分野における倫理について、講義をする。 (155 松浦 伸也/1回) 遺伝子診療における倫理について、講義をする。 (4 杉山 一彦/1回) 臨床試験と医療倫理について、講義をする。 (53 吉田 光由/1回) 歯科倫理と食べることに関わる倫理について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	研究方法論B	<p>(概要) 「研究方法」をキーワードとして、広く実験技術とその背景にある医学・生物学的知識を学ぶ。単に技術論に留まらず、学生自身の研究・博士論文作成に資する研究の心構えや、講義担当者の研究の方法論を学び、学生自身が種々の方法論を駆使して研究を展開できる能力を涵養することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 小澤 孝一郎/2回) ガイダンス及びR I 技術について、講義をする。 (5 橋本 浩一/1回) パッチクランプ法の原理と応用について、講義をする。 (156 宿南 知佐/1回) 培養細胞実験とiPS細胞のトピックスについて、講義をする。 (157 田代 聡/1回) 細胞画像解析について、講義をする。 (54 佐藤 健一/1回) 要因探索のための統計解析について、講義をする。 (55 金子 雅幸/1回) PCR法の原理と応用について、講義をする。 (56 木下 英司/1回) 生物物理科学的研究手法について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 薬学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 共 通 科 目	アドバンスド生命科学 コースワーク	<p>スタートアップ生命科学コースワークを修得し、実験研究を遂行するために必要な基礎知識、技術、考え方を身につけた学生を対象に、やや専門的な実験の知識、並びに手技を少人数で学ぶ。</p> <p>演習テーマは下記のとおり：</p> <p>A. デジタルPCRによるウイルスDNAの絶対定量 B. FACS解析 C. 免疫組織化学 D. 培養細胞を用いた染色体の観察 E. 培養細胞への遺伝子導入法 F. 質量分析によるプロテオーム解析 G. 次世代シーケンサーによる発現解析</p>	
	バイオメディカルサイ エンスの創生展開	<p>(概要) 医学・歯学・薬学・保健学の各領域において、共通の理解が必要となる分野及び他の領域にとって参考になる分野を中心に主題を選択し、それぞれの領域の基礎的並びに最新的话题を提供し、学生間相互で知識と理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(9 田原 栄俊/1回) 老化および癌におけるマイクロRNA及びエクソソームの役割について、講義をする。 (159 松浪 勝義/1回) 医薬品発見のための天然物化学について、講義をする。 (158 相澤 秀紀/1回) 神経及び精神障害におけるニューロン及びグリア機能障害の役割について、講義をする。 (8 加藤 功一/1回) 再生医療用生体材料及びバイオデバイスについて、講義をする。 (1 工藤 美樹/1回) 正常妊娠及び異常妊娠における胎盤酵素の役割に関する研究について、講義をする。 (7 浅野 知一郎/1回) 代謝調節におけるプロリルイソメラーゼの役割について、講義をする。 (156 宿南 知佐/1回) 軟骨と腱・靭帯との間の接合調節機構について、講義をする。 (10 大段 秀樹・94 AMATYA VISHWA JEET/1回) (共同) 肝細胞癌の肝移植、中皮腫及び肺癌について、講義をする。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 薬学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 共 通 科 目	生体医工学イノベーションB	<p>(概要) 臨床に用いる医療機器やシステム等の技術開発を具体化するために必要な、研究マインドおよび開発プロセス、産学官連携活動や情報学・医学・工学領域間の連携に関する知識、態度を習得する。</p> <p>本講義では、マツダを事例にして、実際のビジネスや研究開発現場への応用を見据えたテーマに取り組み、グループディスカッションすることで実践力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(10 大段 秀樹/2回) ガイダンス及び技術開発の必要性について、講義をする。 (185 坂本 和夫/1回) 医療機器、システムの商品開発のプロセスについて、講義をする。 (175 笹岡 貴史/1回) 感性脳科学の応用について、講義をする。 (180 金山 範明/1回) 感性計測について、講義をする。 (184 農澤 隆秀/1回) これからの技術者に求められることについて、講義をする。 (186 高見 明秀/1回) モノづくりに必要な技術について、講義をする。 (212 西川 一男/1回) 人間工学・感性工学とその応用について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	多職種連携B	<p>(概要) 現代の医療では、各分野の専門スタッフが連携・協働して、治療に当たるチーム医療が重要視されている。本講義では、高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人の養成のため、医学、歯学、薬学、看護学、保健学それぞれの立場からチーム医療を円滑に実践するための知識を身に付けることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(30 志馬 伸朗/1回) ガイダンス及び多職種連携の必要性について、講義をする。 (160 折山 早苗/1回) 医療ケアに関する看護師の役割分担について、講義をする。 (161 桐本 光/1回) 急性期リハビリテーションチームについて、講義をする。 (162 浦川 将/1回) 医師・看護師・リハビリ関連職種との連携について、講義をする。 (34 木村 浩彰/1回) 医師からみた多職種連携の必要性について、講義をする。 (42 柿本 直也/1回) チーム医療における歯科医師が行う連携について、講義をする。 (14 松尾 裕彰/1回) 多色区連携における薬剤師の役割・課題・取組について、講義をする。 (163 内藤 真理子/1回) 周術期における歯科衛生士の役割について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 薬学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目	臨床腫瘍学	<p>(概要) 臨床腫瘍学に関連する分野として、放射線腫瘍学、内科腫瘍学、外科腫瘍学、精神腫瘍学、病理腫瘍学、薬物腫瘍学がある。これらの各専門領域の最先端の研究や臨床について、各専門分野の教授に担当していただき、学生にわかりやすい入門教育を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 永田 靖/1回) 放射線腫瘍学の最前線について、講義をする。 (13 岡田 守人/1回) 腫瘍外科の最前線について、講義をする。 (3 有廣 光司/1回) 臨床病理学について、講義をする。 (4 杉山 一彦/1回) がん化学療法と副作用対策について、講義をする。 (14 松尾 裕彰/1回) がん薬物療法について、講義をする。 (116 三上 幸夫/1回、) がんのリハビリテーションについて、講義をする。 (115 小早川 誠・15 岡本 泰昌/1回) (共同) サイコオンコロジーについて、講義をする。 (12 田中 純子/1回) 肝がんの疫学と医学統計学について、講義をする。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	放射線統合医科学	<p>(概要) 放射線災害・医科学研究分野は、基礎生物学、臨床医学、疫学や社会医学など広範におよぶことから、分野横断型の研究推進が必要である。本講義では、放射線災害・医科学研究分野の主要テーマである、低線量放射線被ばくによる人体への影響の解明や、高線量放射線被ばくによるヒト疾患の発症機構、緊急被ばく医療のための再生医学、福島第一原発事故の発生により明らかとなった様々な課題への研究などに関する知識を習得し、最新の研究動向を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(155 松浦 伸也/1回) 放射線高感受性遺伝病について、講義をする。 (16 保田 浩志/1回) 放射線防護：放射線被ばくの健康影響とその障害の防止について、講義をする。 (58 河合 秀彦/1回) 細胞に及ぼす放射線障害の概略について、講義をする。 (17 東 幸仁/1回) 急性障害：血管障害と再生について、講義をする。 (18 稲葉 俊哉/1回) 放射線発がんの基礎について、講義をする。 (179 宮本 達雄/1回) 放射線誘導性小頭症の発生機序について、講義をする。 (95 三原 圭一郎/1回) 原発事故の生体影響について、講義をする。 (11 永田 靖/1回) 放射線障害のない放射線治療について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 薬学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目	薬物治療学	<p>(概要) 最近の医療関係のトピックスを交えながら、様々な疾患を取り上げ、その最新の薬物療法のあり方と問題点を、病態生理の分子メカニズム、治療薬の分子薬理メカニズム、分子メカニズムに基づいた薬物間相互作用、遺伝情報や生体メカニズムに基づいた薬物療法の最適化など、様々な視点から講義をする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 小澤 孝一郎/2回) 薬物治療学の最近の動向についてのオーバービュー及びサリドマイド等の既存の医薬品に期待される難治性治療薬としての可能性について講義をする。</p> <p>(59 細井 徹/2回) 小胞体ストレスと病態との関連及び創薬への展開について講義をする。</p> <p>(117 柳瀬 雄輝/2回) 細胞を解析するセンシング技術とその臨床応用及び血液凝固反応と免疫系の関わりについて講義をする。</p> <p>(118 吉井 美智子/2回) 脂肪細胞のバイオロジーと肥満治療への試み、アルツハイマー病治療と治療薬開発の現状及びカルシウムチャネルの働きと疾病との関わりについて講義をする。</p>	オムニバス方式
	がん診療各論	<p>(概要) 各臓器別がんの最新情報を各領域の専門家にオムニバス方式で講義してもらう。具体的には、肺癌、乳癌、頭頸部癌、脳腫瘍、血液腫瘍、胃癌、大腸癌、膵臓癌、婦人科癌、泌尿器癌、皮膚がん、転移性腫瘍、食道がん、小児がん、である。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 永田 靖/1回) 転移性腫瘍について、講義をする。</p> <p>(61 田邊 和照/1回) 胃癌について、講義をする。</p> <p>(97 相方 浩/1回) 肝臓がんについて、講義をする。</p> <p>(98 角舎 学行/1回) 乳がんについて、講義をする。</p> <p>(19 一戸 辰夫/1回) 造血器腫瘍について、講義をする。</p> <p>(119 平田 英司/1回) 婦人科がんについて、講義をする。</p> <p>(60 亭島 淳/1回) 泌尿器がんについて、講義をする。</p> <p>(96 河合 幹雄/1回) 皮膚がんについて、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 薬学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目	死因究明学	<p>(概要) 法医学, 法病理学, 死後画像診断, 法中毒学, 法歯科医学, 児童虐待, 大規模災害をキーワードとし, 医療人における基礎的教養として損傷の成傷機転等の基礎的な考察法をはじめとする法医学の最新知識の習得を目指し, 講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(21 長尾 正崇/5回) 法医学, 法病理学, 法歯科医学, 児童虐待, 大規模災害について, 講義を行う。 (29 栗井 和夫/1回) 死後画像診断について, 講義を行う。 (65 奈女良 昭/2回) 法中毒学について, 講義を行う。</p>	オムニバス方式
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	生理化学特別演習	英文原著論文(イノシトールリン脂質の生理的役割に関する論文)を精読し, 当該論文のキーワード・背景・実験方法・実験データについて詳細に紹介する。当該論文の意義と問題点について議論する。これらを通して生理化学分野の知識を修得し, 最新の研究動向を理解する。	
	生体機能分子動態学特別演習	医薬品, 化粧品などのパーソナルケア製品, 食品添加物, 工業原料, 農薬などの化学物質は私たちの生活に欠かせないものになっている。しかし, その安全性は十分に調べられていないケースがある。また, 環境中にこれらで汚染されると, ヒトだけでなく野生生物にも影響を与える。「生体機能分子動態学」は化学物質が体内に取り込まれたときに生体内でどのような動態(吸収・分布・代謝・排泄)をたどり, 各組織に到達した化学物質はどのような影響を与えるのか, そのメカニズムを解明する学問である。毒性学, 薬物代謝学, 神経化学を通して実験, データ解析を行う。これらを通して生体機能分子動態学分野の知識を修得し, 最新の研究動向を理解する。	共同
	細胞分子生物学特別演習	細胞分子生物学分野の論文を抄読し, 当該論文のキーワード・背景・実験方法・実験データについて詳細に紹介する。当該論文の意義と問題点について議論する。これらを通して細胞分子生物学分野の知識を修得し, 最新の研究動向を理解する。	
	臨床薬物治療学特別演習	薬物治療を行う上で, 臨床で使用される各種医薬品のヒトにおける薬物動態を知る必要がある。本演習では, 根拠に基づく薬物治療を専門とする優れた医療従事者を養成し, 薬物治療の質の向上を図り, 国民の福祉に貢献できる研究者を育成することを目指す。そのために, 感染症および抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬の薬物動態を中心に, 細菌学的・臨床的効果の薬力学も踏まえた薬物濃度解析・投与設計の実践を通じて, 薬物治療の実際を体験する。受講生は, これを修得することによって, 臨床薬学領域における基礎理論および実践方法論を身に付けることができる。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 薬学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	治療薬効学特別演習	問題点を、病態生理の分子メカニズム、治療薬の分子薬理メカニズム、分子メカニズムに基づいた薬物間相互作用、遺伝情報や生体メカニズムに基づいた薬物療法の最適化など、様々な視点から講義を行う。	共同
	病院薬剤学特別演習	薬剤師が主体的に薬物治療に参加するためには、薬学の知識に加えて、課題発見、情報収集、判断、行動、思考能力といった問題提起・解決能力が必要である。基礎および臨床薬学に関する知識を習得するとともに、最新の研究動向を理解する。プレゼンテーション能力およびディスカッション能力を向上させる。病院薬剤学分野の知識を修得する。	共同
	核酸分析化学特別演習	「遺伝情報を維持する機構」や「医薬品としての核酸」を主軸に、核酸全般に関する理解を深めるように授業を行っている。核酸分析化学分野における論文を査読するとともに詳細に紹介する。これをもとに論議することで、核酸分析化学分野の基礎知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	漢方診療学特別演習	臨床薬理学(PBL形式)や臨床医学概論等の講義・実習を通して、生活習慣病などの日常よく遭遇する疾患の基本病態・診断法・薬物治療について学ぶ。これらにより漢方診療学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	生理化学特別研究	イノシトールリン脂質の生理的役割についての実験課題を通して、生物化学・細胞生物学の実験技術を身につけ、研究結果の解析方法や発表方法(学会、論文)について学ぶ。これらを通して生理化学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
	生体機能分子動態学特別研究	(概要) 当研究室では、「衛生薬学」と「創薬」の観点から環境化学物質と医薬品の体内動態と毒性影響について研究し、毒性学、薬物代謝学、神経化学実験を通して、実験、データ解析、科学論文作成手技を習得する。 (49 古武 弥一郎) 毒性学、神経化学、細胞生化学の手法を用いて、化学物質の神経毒性、神経変性疾患の環境因子解明に関する研究指導を行い、研究遂行能力を身に付ける。 (145 佐能 正剛) 薬物代謝学、薬物動態学、分析化学の手法を用いて、医薬品を含めた化学物質の代謝と毒性およびそのヒト予測に関する研究指導を行い、研究遂行能力を身に付ける。	
	細胞分子生物学特別研究	細胞分子生物学分野の論文を抄読し、当該論文のキーワード・背景・実験方法・実験データについて詳細に紹介する。当該論文の意義と問題点について議論する。これらを通して細胞分子生物学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 薬学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	臨床薬物治療学特別研究	<p>(概要) 感染症および抗菌剤の薬物動態に関して、研究の実践、指導を行い、抗菌剤の薬物動態解析に基づいた薬物治療の質の向上を目指した論文指導を行う。</p> <p>(2 森川 則文) 高性能薬物濃度測定機器 (HPLC等) および薬物動態解析 (モンテカルロシミュレーション等) の手法を用いて、ヒトにおける抗菌剤の薬物動態の解明という課題の研究指導を行う。</p> <p>(88 猪川 和朗) ヒトに投与された抗菌剤に対する病態特性の差を取り上げ、ヒトの病態時における抗菌剤の薬物動態の統計学的差の解釈という課題の研究指導を行う。</p>	
	治療薬効学特別研究	<p>(概要) 授業の到達目標：最先端の薬学研究に触れ、薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。 授業の概要：肥満を中心とする各種病態とその発症機構における分子レベルでのメカニズムについて、当該分野の最新の研究動向を把握しながら研究を立案・計画し解明を試み、さらにその治療薬の探索を行う。これらを通して治療薬効学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(6 小澤 孝一郎) Western blottingなどの細胞生物学的手法を用いて、肥満や糖尿病など生活習慣病、悪性腫瘍、中枢神経系疾患などについて発症機構をタンパク質レベルで解明し治療薬を探索する研究指導を行う。</p> <p>(59 細井 徹) 遺伝子導入や遺伝子組換えなどの遺伝子操作技術を用いて、生活習慣病、悪性腫瘍、アルツハイマー病などの発症機構を遺伝子レベルで解明し治療薬を探索する研究指導を行う。</p>	
	病院薬剤学特別研究	<p>(概要) 先進医療・先端薬学研究の発展に貢献するため、臨床における医薬品の安全かつ適正使用につながる研究テーマを実施している。基礎および臨床薬学に関する研究を通して、実験、データ解析、科学論文作成手技を習得する。</p> <p>(14 松尾 裕彰) アレルギーの治療法および予防法の開発、薬剤の適正使用を研究課題とし、実験手技および論文作成指導を行う。</p> <p>(89 横大路 智治) 食物アレルギーの体内動態の解明、アレルギーの発症予防を研究課題とし、動物実験、生化学実験等の研究指導を行う。</p> <p>(146 埴越 崇範) 薬物動態と薬物投与設計に関する研究について、薬物血中濃度測定および解析手技の指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 薬学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	核酸分析化学特別研究	「遺伝情報を維持する機構」や「医薬品としての核酸」を主軸に、核酸全般に関する理解を深めるように授業を行う。核酸分析化学分野における論文を査読するとともに詳細に紹介する。これをもとに論議する。これらを通して、核酸分析化学分野における高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
	漢方診療学特別研究	臨床薬理学(PBL形式)や臨床医学概論等の講義・実習を通して、生活習慣病などの日常よく遭遇する疾患の基本病態・診断法・薬物治療について学ぶ。これらにより漢方診療学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。	
	English Presentation	授業は参加型とし、実際の学会会場での発表を想定して1日1人もしくは2人の発表者による発表と参加者による質問を行う。また、あいだに外国人講師によるフィードバックを行い、より質の高い発表・ディスカッションを目指す。	
	英語論文修辞学	英語による論文を書くために、論文の構成で一般的な「背景・目的・方法・結果・結論」の書き方、過去・現在・現在完了の論文で主に使われる時制の使い方、表現の幅が大きく広がる英語共起表現検索システムの活用等について講義するとともに、各自の論文について、論文の構造の解析を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 放射線医科学専門プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目 持続可能な発展科目	スペシャリスト型SDGs アイデアマイニング 学生セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し、学生同士のブレインストーミングによって、SDGを達成するためのアイデアを発掘する。ファシリテーターの教員が示すUNDPの「重要な事実」を踏まえ、ひとつのSDGに対して異なる専門分野から意見を出し合い、ペアのディスカッション、グループ内でのディスカッションを通じて、ひとつのプロポーザルを導く。最終的にはその成果を全員の前でプレゼンテーションし、全体として17つのSDGsをカバーする包括的なアプローチを提案する。	
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し、広島県及び県内市町村の1つを取り上げ、SDGsの観点から課題を議論し、解決策を探索するセミナーである。ファシリテーターの教員が示すUNDPの「重要な事実」及び当該県市町村のプレゼンを踏まえ、その課題に関して異なる専門分野から意見を出し合い、最終的には課題の分析と解決策をひとつのプロポーザルにまとめ、市民も含めた全員にプレゼンテーションする。	
	普遍的平和を目指して	<p>(概要) 本講義では、今日の国際社会において、緊急性の高い諸問題をテーマに、それぞれの専門領域の視点からその解決策を導き出す能力を身につけることを目指す。取り扱うテーマは、例えば、貧困・飢餓・難民・平和構築・ジェンダー・環境問題、世界各地の紛争などである。それぞれのテーマに関して具体例とともにその現状を学び、同時にその解決策を具体的かつ理論的に提示できる能力を身につける。理想社会と現実との間には、大きなギャップも存在する。本講義で得た知見によって、そのギャップを説明し、かつ乗り越えることを目指したい。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(150 河合 幸一郎／2回) 途上国における貧困と飢餓について現状と解決策</p> <p>(174 掛江 朋子／2回) 世界各地の難民問題の現状と課題</p> <p>(173 山根 達郎／2回) 現代に蔓延する越境的な地域紛争の構造と紛争後における平和構築に向けた国際社会の取組み</p> <p>(151 中坪 孝之／2回) 水資源問題、地球温暖化を始めとした環境問題と平和の関わり</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 放射線医科学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・ データ リテラ シー 科目	データサイエンス	データサイエンスは、データそのものを対象とする科学である。データの蓄積や利用法に留まらず、データの抽出、解析、検証、問題解決にいたる一連の手順について講義を行い、必要に応じて実際に統計ソフトウェアを用いた計算を行う。具体的には、使用したいデータの取り出しと結合・欠損データの取り外しなどのデータクリーニング、ヒストグラム・ボックスプロットなどの単数データの視覚化、平均・分散などの基本統計量の計算等の初歩的な内容だけでなく、散布図・バイプロットなどの複数データの同時視覚化、重回帰分析やロジスティック回帰分析、さらにはクラスター分析などのより実践に即した内容も取り扱う。	
	パターン認識と機械学習	人工知能は、人間の脳の機能を人工的に模倣しようとする試みである。デジタルカメラでの顔検出や自動運転などの応用では、パターン認識や機械学習が重要な役割を担っている。最近では、ディープラーニングを用いた手法が画像認識などのパターン認識課題で高い性能を出したことで脚光を浴びている。また、膨大なデータの中から有用な情報を見つけ出すためのデータマイニングでは、基礎技術として機械学習が利用されている。本講義では、機械学習とパターン認識の基礎とその人工知能への応用について解説する。また、訓練データから予測や識別のためのモデルを構築するプログラムを作成することで、機械学習やパターン認識手法をより深く理解する。	
	データサイエンティスト養成	近年、ビッグデータや人工知能(AI)などの活用に関心が集まっている。企業においては製造・生産ラインの改善、素材等の探索、顧客データに基づく新商品開発など、膨大なデータを構造化することで企画立案などの意思決定をサポートすることができる人材ーデータサイエンティストーに対するニーズも高まってきている。一方、理工系分野に限らず、人文社会系を含めた幅広い研究分野においても、データサイエンスの知見や技術の応用が新たな学問的発見や価値創造に貢献することが期待されている。本講義では、これらデータサイエンティストとして必要になる統計分析能力やIT関連スキルのみならず、実際のビジネスや研究開発現場への応用を見据えた課題解決型テーマに取り組むことで実践力を養う。演習の際には、産業界やデータ関連分野の専門家などからの指導・助言を受けられるように配慮する。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 放射線医科学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・ データ リテラ シー科 目	医療情報リテラシー活用	<p>(概要) がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本講義では、医療情報を処理するために必要な知識、解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに、演習を行い、医療情報の解析法について履修する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(204 小笹 晃太郎／1回) 原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究。演習</p> <p>(1 工藤 美樹／1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則、功罪や有用性。演習</p> <p>(91 森野 豊之／1回) 医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法と演習</p> <p>(29 粟井 和夫・3 有廣 光司／1回) (共同) 医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題、情報の有用性と社会における活用と演習</p> <p>(182 田中 剛／1回) 広島県独自のHMnet (ひろしま医療情報ネットワーク Hiroshima Medical Network) を利用した医療情報共有の仕組みと活用と演習</p> <p>(12 田中 純子／1回) NDB (National data base) などの大規模医療データベースの種類、概要、倫理、疫学研究への活用と演習</p> <p>(63 大上 直秀／1回) がんゲノム情報の概要、倫理的課題、応用と活用と演習</p> <p>(22 服部 登／1回) 臨床治験の大規模化に伴う課題、功罪、応用と活用と演習</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	リーダーシップ手法	<p>組織でメンバーをリードして仕事を進めるのみならず、自身のキャリア開発と自己実現を図る上でもリーダーシップ力は不可欠である。本講義では、まず将来のキャリアパスの選択肢と社会の多様な場で活躍するために必要な能力等について概観し、自己実現にむけた自身の強みと弱みを理解する。内省と自己理解を踏まえた上で、国内外のリーダーの実像も交えながら、リーダーに求められる特性について概説する。また、リーダーシップを発揮するために必要な要素について実例と演習を通じて理解を深めるとともに、大学院における研究活動の中で自らのリーダーシップ力や他者への影響力を向上させるために何ができるかを考える。授業の全編を通じて、クラス参加者での積極的なグループ討議とディスカッションを行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 放射線医科学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・ データ リテラ シー科 目	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	グローバル化と科学技術の進展に伴い、社会における人材ニーズも時代とともに変化している。本講義では、多様な業界の関係者や職業に従事されている方々からの講義、ディスカッション、さらには自己理解を深めるためのワークを通じて、研究経験を有する専門性の高い人材が活躍できるキャリアの選択肢と必要な能力・資質等について理解する。多様なキャリアの意義や魅力を理解することで自分自身の研究経験の活かし方を考え、将来に亘って自身のキャリアをマネジメントしていくために必要となる姿勢、行動、特質についても考察を深める。なお、人文社会系から理工農系までの幅広い学生が自らのキャリアを考えることができるように配慮する。	
	イノベーション演習	新たな社会的・経済的価値を生み出すためには、科学的発見や技術的発明を効果的に融合し発展させることが必要である。近年では異業種や異分野間で知識、技術、サービス、ノウハウなどを組み合わせることで新たな価値を生み出すオープン・イノベーションが進んでいる。本演習では、新たな社会的・経済的付加価値を生み出す(=イノベーション)ために必要となる姿勢やアプローチについて理解するとともに、企業等が抱える実際の課題に触れ、その解決プロセスを通じて、異なる「知」「技術」「分野」を融合する力と他者と協働する力を習得する。企業等が提案する課題毎に数名のグループを形成し、異なる分野の学生のみならず、企業・団体等の関係者と協働することで、多様な視点や考え方を理解し、新たな価値やネットワークを生み出すプロセスを疑似体験する。なお、人文社会系から理工農系までの幅広い学生が授業で討論しやすいように配慮する。	
	長期インターンシップ	国内外の民間企業、公的機関、非営利団体などへの長期インターンシップを通じて、企業や社会の課題解決に貢献するとともに、実践的な能力の養成とキャリアオプションの拡大を図る。実習期間は原則、1～2ヵ月間以上のものを対象とする。受講希望者は応募申請書及び所属する専攻の指導教員からの推薦書をあらかじめ提出し、受講認定、事前カウンセリングなどの指導を受けて実施する。また、派遣前・派遣後プレゼンテーションも実施する。自己資金、学内資金、外部資金を問わない。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 放射線医科学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	生命・医療倫理学B	<p>(概要) 医学・歯学・薬学・保健学の医療・健康福祉領域で行われる教育・研究・臨床は、生命に対する尊厳、医療における倫理感、責任感に裏付けられたものでなければならない。本講義では、それぞれの領域の基礎的並びに最新の医療情報に関する問題等を学習し、研究・臨床における生命・医療倫理について考察することで学生自身の研究・博士論文作成に資することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 工藤 美樹/1回) 医学・医療に求められる倫理について、講義をする。 (183 高橋 規郎/1回) ヒトゲノム遺伝子解析研究倫理指針に関する教育及び研修について、講義をする。 (93 岡田 賢/1回) 新生児医療における生命・医療倫理について、講義をする。 (2 森川 則文/1回) 医薬品の使用における倫理について、講義をする (3 有廣 光司/1回) 病理分野における倫理について、講義をする。 (155 松浦 伸也/1回) 遺伝子診療における倫理について、講義をする。 (4 杉山 一彦/1回) 臨床試験と医療倫理について、講義をする。 (53 吉田 光由/1回) 歯科倫理と食べることに関わる倫理について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	研究方法論B	<p>(概要) 「研究方法」をキーワードとして、広く実験技術とその背景にある医学・生物学的知識を学ぶ。単に技術論に留まらず、学生自身の研究・博士論文作成に資する研究の心構えや、講義担当者の研究の方法論を学び、学生自身が種々の方法論を駆使して研究を展開できる能力を涵養することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 小澤 孝一郎/2回) ガイダンス及びR I 技術について、講義をする。 (5 橋本 浩一/1回) パッチクランプ法の原理と応用について、講義をする。 (156 宿南 知佐/1回) 培養細胞実験とiPS細胞のトピックスについて、講義をする。 (157 田代 聡/1回) 細胞画像解析について、講義をする。 (54 佐藤 健一/1回) 要因探索のための統計解析について、講義をする。 (55 金子 雅幸/1回) PCR法の原理と応用について、講義をする。 (56 木下 英司/1回) 生物物理科学的研究手法について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 放射線医科学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 共 通 科 目	アドバンスド生命科学 コースワーク	<p>スタートアップ生命科学コースワークを修得し、実験研究を遂行するために必要な基礎知識、技術、考え方を身につけた学生を対象に、やや専門的な実験の知識、並びに手技を少人数で学ぶ。</p> <p>演習テーマは下記のとおり：</p> <p>A. デジタルPCRによるウイルスDNAの絶対定量 B. FACS解析 C. 免疫組織化学 D. 培養細胞を用いた染色体の観察 E. 培養細胞への遺伝子導入法 F. 質量分析によるプロテオーム解析 G. 次世代シーケンサーによる発現解析</p>	
	バイオメディカルサイ エンスの創生展開	<p>(概要) 医学・歯学・薬学・保健学の各領域において、共通の理解が必要となる分野及び他の領域にとって参考になる分野を中心に主題を選択し、それぞれの領域の基礎的並びに最新の話題を提供し、学生間相互で知識と理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(9 田原 栄俊/1回) 老化および癌におけるマイクロRNA及びエクソソームの役割について、講義をする。 (159 松浪 勝義/1回) 医薬品発見のための天然物化学について、講義をする。 (158 相澤 秀紀/1回) 神経及び精神障害におけるニューロン及びグリア機能障害の役割について、講義をする。 (8 加藤 功一/1回) 再生医療用生体材料及びバイオデバイスについて、講義をする。 (1 工藤 美樹/1回) 正常妊娠及び異常妊娠における胎盤酵素の役割に関する研究について、講義をする。 (7 浅野 知一郎/1回) 代謝調節におけるプロリルイソメラーゼの役割について、講義をする。 (156 宿南 知佐/1回) 軟骨と腱・靭帯との間の接合調節機構について、講義をする。 (10 大段 秀樹・94 AMATYA VISHWA JEET/1回) (共同) 肝細胞癌の肝移植、中皮腫及び肺癌について、講義をする。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 放射線医科学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	生体医工学イノベーションB	<p>(概要) 臨床に用いる医療機器やシステム等の技術開発を具体化するために必要な、研究マインドおよび開発プロセス、産学官連携活動や情報学・医学・工学領域間の連携に関する知識、態度を習得する。 本講義では、マツダを事例にして、実際のビジネスや研究開発現場への応用を見据えたテーマに取り組み、グループディスカッションすることで実践力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(10 大段 秀樹/2回) ガイダンス及び技術開発の必要性について、講義をする。 (185 坂本 和夫/1回) 医療機器、システムの商品開発のプロセスについて、講義をする。 (175 笹岡 貴史/1回) 感性脳科学の応用について、講義をする。 (180 金山 範明/1回) 感性計測について、講義をする。 (184 農澤 隆秀/1回) これからの技術者に求められることについて、講義をする。 (186 高見 明秀/1回) モノづくりに必要な技術について、講義をする。 (212 西川 一男/1回) 人間工学・感性工学とその応用について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	多職種連携B	<p>(概要) 現代の医療では、各分野の専門スタッフが連携・協働して、治療に当たるチーム医療が重要視されている。本講義では、高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人の養成のため、医学、歯学、薬学、看護学、保健学それぞれの立場からチーム医療を円滑に実践するための知識を身に付けることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(30 志馬 伸朗/1回) ガイダンス及び多職種連携の必要性について、講義をする。 (160 折山 早苗/1回) 医療ケアに関する看護師の役割分担について、講義をする。 (161 桐本 光/1回) 急性期リハビリテーションチームについて、講義をする。 (162 浦川 将/1回) 医師・看護師・リハビリ関連職種との連携について、講義をする。 (34 木村 浩彰/1回) 医師からみた多職種連携の必要性について、講義をする。 (42 柿本 直也/1回) チーム医療における歯科医師が行う連携について、講義をする。 (14 松尾 裕彰/1回) 多色区連携における薬剤師の役割・課題・取組について、講義をする。 (163 内藤 真理子/1回) 周術期における歯科衛生士の役割について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 放射線医科学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目	臨床腫瘍学	<p>(概要) 臨床腫瘍学に関連する分野として、放射線腫瘍学、内科腫瘍学、外科腫瘍学、精神腫瘍学、病理腫瘍学、薬物腫瘍学がある。これらの各専門領域の最先端の研究や臨床について、各専門分野の教授に担当していただき、学生にわかりやすい入門教育を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 永田 靖/1回) 放射線腫瘍学の最前線について、講義をする。 (13 岡田 守人/1回) 腫瘍外科の最前線について、講義をする。 (3 有廣 光司/1回) 臨床病理学について、講義をする。 (4 杉山 一彦/1回) がん化学療法と副作用対策について、講義をする。 (14 松尾 裕彰/1回) がん薬物療法について、講義をする。 (116 三上 幸夫/1回、) がんのリハビリテーションについて、講義をする。 (115 小早川 誠・15 岡本 泰昌/1回) (共同) サイコオンコロジーについて、講義をする。 (12 田中 純子/1回) 肝がんの疫学と医学統計学について、講義をする。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	放射線統合医科学	<p>(概要) 放射線災害・医科学研究分野は、基礎生物学、臨床医学、疫学や社会医学など広範におよぶことから、分野横断型の研究推進が必要である。本講義では、放射線災害・医科学研究分野の主要テーマである、低線量放射線被ばくによる人体への影響の解明や、高線量放射線被ばくによるヒト疾患の発症機構、緊急被ばく医療のための再生医学、福島第一原発事故の発生により明らかとなった様々な課題への研究などに関する知識を習得し、最新の研究動向を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(155 松浦 伸也/1回) 放射線高感受性遺伝病について、講義をする。 (16 保田 浩志/1回) 放射線防護：放射線被ばく健康影響とその障害の防止について、講義をする。 (58 河合 秀彦/1回) 細胞に及ぼす放射線障害の概略について、講義をする。 (17 東 幸仁/1回) 急性障害：血管障害と再生について、講義をする。 (18 稲葉 俊哉/1回) 放射線発がんの基礎について、講義をする。 (179 宮本 達雄/1回) 放射線誘導性小頭症の発生機序について、講義をする。 (95 三原 圭一郎/1回) 原発事故の生体影響について、講義をする。 (11 永田 靖/1回) 放射線障害のない放射線治療について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 放射線医科学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目	薬物治療学	<p>(概要) 最近の医療関係のトピックスを交えながら、様々な疾患を取り上げ、その最新の薬物療法のあり方と問題点を、病態生理の分子メカニズム、治療薬の分子薬理メカニズム、分子メカニズムに基づいた薬物間相互作用、遺伝情報や生体メカニズムに基づいた薬物療法の最適化など、様々な視点から講義をする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 小澤 孝一郎/2回) 薬物治療学の最近の動向についてのオーバービュー及びサリドマイド等の既存の医薬品に期待される難治性治療薬としての可能性について講義をする。</p> <p>(59 細井 徹/2回) 小胞体ストレスと病態との関連及び創薬への展開について講義をする。</p> <p>(117 柳瀬 雄輝/2回) 細胞を解析するセンシング技術とその臨床応用及び血液凝固反応と免疫系の関わりについて講義をする。</p> <p>(118 吉井 美智子/2回) 脂肪細胞のバイオロジーと肥満治療への試み、アルツハイマー病治療と治療薬開発の現状及びカルシウムチャネルの働きと疾病との関わりについて講義をする。</p>	オムニバス方式
	がん診療各論	<p>(概要) 各臓器別がんの最新情報を各領域の専門家にオムニバス方式で講義してもらう。具体的には、肺癌、乳癌、頭頸部癌、脳腫瘍、血液腫瘍、胃癌、大腸癌、膵臓癌、婦人科癌、泌尿器癌、皮膚がん、転移性腫瘍、食道がん、小児がん、である。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 永田 靖/1回) 転移性腫瘍について、講義をする。</p> <p>(61 田邊 和照/1回) 胃癌について、講義をする。</p> <p>(97 相方 浩/1回) 肝臓がんについて、講義をする。</p> <p>(98 角舎 学行/1回) 乳がんについて、講義をする。</p> <p>(19 一戸 辰夫/1回) 造血器腫瘍について、講義をする。</p> <p>(119 平田 英司/1回) 婦人科がんについて、講義をする。</p> <p>(60 亭島 淳/1回) 泌尿器がんについて、講義をする。</p> <p>(96 河合 幹雄/1回) 皮膚がんについて、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 放射線医科学専門プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻共通科目	死因究明学	<p>(概要) 法医学, 法病理学, 死後画像診断, 法中毒学, 法歯科医学, 児童虐待, 大規模災害をキーワードとし, 医療人における基礎的教養として損傷の成傷機転等の基礎的な考察法をはじめとする法医学の最新知識の習得を目指し, 講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(21 長尾 正崇/5回) 法医学, 法病理学, 法歯科医学, 児童虐待, 大規模災害について, 講義を行う。</p> <p>(29 粟井 和夫/1回) 死後画像診断について, 講義を行う。</p> <p>(65 奈女良 昭/2回) 法中毒学について, 講義を行う。</p>	オムニバス方式
プログラム専門科目	細胞修復制御学特別演習	放射線などによるゲノム修復機構に関する研究手法を習得するとともに, 最新の研究動向を理解する。プレゼンテーション能力およびディスカッション能力を向上させる。これらを通して細胞修復制御学分野の知識を修得し, 最新の研究動向を理解する。	共同
	疾患モデル解析学特別演習	疾患モデル解析学分野に関連する論文を抄読し, その論文について発表し, 討議を行う。また, 遺伝子改変マウス関連のテーマを与えて実験を行い, その実験結果について発表する。これらを通して, 疾患モデル解析学分野の知識を修得し, 最新の研究動向を理解する。	共同
	分子疫学特別演習	英語論文を読み, それについて発表, ディスカッションを行う。これらを通して, 分子疫学分野の知識を修得し, 最新の研究動向を理解する。	共同
	計量生物学特別演習	生存時間データの解析に関する諸手法を習得する。学生が自分自身で, 生存時間データを編集し, 統計解析をすることができる能力を身につける。これらを通して, 計量生物学分野の知識を修得し, 最新の研究動向を理解する。	
	線量測定・評価学特別演習	放射線被ばくの評価に用いる量, 生物医学的な影響, 健康リスクの推定手法, 測定・安全管理のための技術, 大規模な原子力事故への対応策等, 関連する事項について広く最新の知見を学ぶと共に, それらの高度化に関する研究に取り組む。これにより, 線量測定・評価学分野の知識を修得し, 最新の研究動向を理解する。	
	放射線ゲノム疾患学特別演習	放射線ゲノム疾患学の講義を行う。また, 放射線ゲノム疾患学の論文を査読することで放射線ゲノム疾患学分野の知識を修得し, 最新の研究動向を理解する。	
	ゲノム障害病理学特別演習	緊急被ばく医療開発を目指した細胞療法を推進するために, 放射線による血管障害に対する現行の再生医療・細胞療法を組織的に有事利用するシステムについて講義する。これらを通して, ゲノム障害病理学分野の知識を修得し, 最新の研究動向を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 放射線医科学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	がん分子病態学特別演習	がん分子病態学分野の論文を抄読し、詳細に紹介する。それに基づき議論を行う。それらを通して、がん分子病態学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	分子発がん制御学特別演習	放射線被曝による細胞や組織への影響に関する基礎的な知識を習得するとともに、放射線によって誘発されるがんの分子メカニズムについての最新の知見を理解することを目指しています。また、福島第一原子力発電所事故以降、社会的な不安が高まっている低線量放射線の被曝影響とリスクに関する知識と研究について学び、放射線災害の学術的基盤に関する教育を行う。これらを通して、分子発がん制御学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	共同
	幹細胞機能学特別演習	幹細胞を用いた再生医療の発展に期待が膨らんでいる。幹細胞とそれを制御する分子機構について最新の情報を提供することを目指す。これらを通して、幹細胞機能学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	放射線医療開発学特別演習	原子力災害医療・緊急被ばく医療、DNA損傷応答と放射線の論文を査読し、詳細に発表し、議論を行うことで、放射線医療開発学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	血液・腫瘍内科学特別演習	演習課題として、血液・腫瘍内科学領域における最先端の臨床的・科学的疑問を選択し、文献の包括的な読解と実験を通じて、それらの問題をより深く理解するための方法を修得する。また、文献の読解によって得られた医学的情報を明確に要約するとともに、科学的プレゼンテーションの技術を用いて効果的に発表するための方法を修得する。	
	腫瘍外科学特別演習	腫瘍の発生・進展の病理と分子メカニズム、診断・治療、特に外科学に関する基礎的、臨床的研究論文(英語原著)について調査し、選択した論文内容についてプレゼンテーションを行う。また、自身の意見考えを明確に提示して、出席者全員で紹介論文について、討議する。これらを通して、腫瘍外科学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	共同
	放射線誘発突然変異解析特別演習	放射線誘発突然変異解析分野の論文を査読し、内容について詳細な発表を行い、議論を行う。これらを通して、放射線誘発突然変異解析分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	放射線健康影響疫学特別演習	放射線健康影響疫学分野の論文を査読し、内容について詳細な発表を行い、議論を行う。これらを通して、放射線健康影響疫学分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	生体ゲノム制御機能特別演習	生体ゲノム制御機能分野の論文を査読し、内容について詳細な発表を行い、議論を行う。これらを通して、生体ゲノム制御機能分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 放射線医科学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	がん重粒子線治療法特別演習	がん重粒子線治療法分野の論文を査読し、内容について詳細な発表を行い、議論を行う。これらを通して、がん重粒子線治療法分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	分子イメージング診断法特別演習	分子イメージング診断法分野の論文を査読し、内容について詳細な発表を行い、議論を行う。これらを通して、分子イメージング診断法分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	低線量放射線安全研究特別演習	低線量放射線安全研究分野の論文を査読し、内容について詳細な発表を行い、議論を行う。これらを通して、低線量放射線安全研究分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	緊急被ばく医療開発特別演習	緊急被ばく医療開発分野の論文を査読し、内容について詳細な発表を行い、議論を行う。これらを通して、緊急被ばく医療開発分野の知識を修得し、最新の研究動向を理解する。	
	細胞修復制御学特別研究	<p>(概要) 細胞生物学および生化学実験を通して、実験、データ解析、科学論文作成手技を習得する。高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(157 田代 聡) 細胞生物学的実験を用いたゲノム修復機構についての研究について、実験計画、実施から論文作成までの指導を行う。</p> <p>(114 孫 継英) 生化学的実験を用いたゲノム修復機構についての研究について、実験計画、実施から論文作成までの指導を行う。</p> <p>(148 堀越 保則) 分子生物学的実験を用いたゲノム修復機構についての研究について、実験計画、実施から論文作成までの指導を行う。</p>	
	疾患モデル解析学特別研究	<p>(概要) 疾患モデル解析学分野に関連する論文を抄読し、その論文について発表し、討議を行う。また、げっ歯類疾患モデル、および小型魚類関連のテーマを与えて実験を行い、その実験結果について発表する。これらを通して、疾患モデル解析学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(19 一戸 辰夫) ゼブラフィッシュを用いた造血免疫細胞の解析手法を修得し、移植モデルにおけるリアルタイムin vivo イメージングの研究課題指導を行う。</p> <p>(90 藤本 成明) げっ歯類疾患モデルを用いた甲状腺、前立腺疾患等の解析手法を習得する。これらのモデルを用いた放射線影響解析の研究課題指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 放射線医科学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	分子疫学特別研究	<p>(概要)</p> <p>疾患の発生・進展と分子基盤，診断・治療開発に関する基礎的・臨床的研究論文(英語原著)について調査し，研究室で行なわれている研究の進捗状況と今後の展開に関するミーティングに参加することで，分子疫学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに，博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(52 川上 秀史) 神経疾患の遺伝因子に関する研究指導を行う。</p> <p>(91 森野 豊之) 神経疾患の遺伝学的解析に関する研究指導を行う。</p> <p>(147 大澤 亮介) 神経解剖学・神経病理学に関する研究指導を行う。</p>	
	計量生物学特別研究	<p>疾患罹患に関する数理モデルの構築法を習得し，そのモデルに基づいた疾病罹患危険度データの解析を行い，応力を身につける。また，計量生物学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに，博士論文作成の指導を行う。</p>	
	線量測定・評価学特別研究	<p>放射線被ばくの評価に用いる量，生物医学的な影響，健康リスクの推定手法，測定・安全管理のための技術，大規模な原子力事故への対応策等，関連する事項について広く最新の知見を学ぶと共に，それらの高度化に関する研究に取り組む。これにより，線量測定・評価学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに，博士論文作成の指導を行う。</p>	
	放射線ゲノム疾患学特別研究	<p>放射線ゲノム疾患学の講義を行う。また，放射線ゲノム疾患学の論文を査読することで放射線ゲノム疾患学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに，博士論文作成の指導を行う。</p>	
	ゲノム障害病理学特別研究	<p>緊急被ばく医療開発を目指した細胞療法を推進するために，放射線による血管障害に対する現行の再生医療・細胞療法を組織的に有事利用するシステムについて講義する。ゲノム障害病理学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに，博士論文作成の指導を行う。</p>	
	がん分子病態学特別研究	<p>がん分子病態学分野の論文を抄読し，詳細に紹介する。それに基づき議論を行いがん分子病態学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに，博士論文作成の指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 放射線医科学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	分子発がん制御学特別研究	<p>(概要) 放射線被曝による細胞や組織への影響に関する基礎的な知識を習得するとともに、放射線によって誘発されるがんの分子メカニズムについての最新の知見を理解することを目指す。また、福島第一原子力発電所事故以降、社会的な不安が高まっている低線量放射線の被曝影響とリスクに関する知識と研究について学び、放射線災害の学術的基盤に関する教育を行う。これらを通して分子発がん制御学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(171 神谷 研二) 実験動物を用いて、低線量、低線量率放射線発がんのリスク評価および、その分子機構解明に関する研究指導を行う。</p> <p>(92 笹谷 めぐみ) 実験動物を用いて、放射線発がんにおける幹細胞の役割に関する研究指導を行う。</p>	
	幹細胞機能学特別研究	<p>幹細胞を用いた再生医療の発展に期待が膨らんでいるが、造血細胞移植療法はもっとも実用化が進んでいる再生医療である。移植する造血幹細胞を確保することが重要であるが、未だに増幅法は確立されていない。そこで、本研究では造血幹細胞の活性を支持する分子基盤の解明を目指す。また、幹細胞機能学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p>	
	放射線医療開発学特別研究	<p>原子力災害医療・緊急被ばく医療、DNA損傷応答と放射線の論文を査読し、詳細に発表し、議論を行う。これらを通して、放射線医療開発学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p>	
	血液・腫瘍内科学特別研究	<p>最新の実験技術を用いて、血液・腫瘍内科学領域における実験科学的な研究の方法論を修得することを目標とする。受講者は教員の指導の下に自ら生物学的仮説を立案し、その仮説を証明するための実験を計画・遂行する。これらを通して、血液・腫瘍内科学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 放射線医科学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	腫瘍外科学特別研究	<p>(概要) 大学院生が、腫瘍の発生・進展の病理と分子メカニズム、診断・治療、特に外科学に関する基礎的、臨床的研究論文(英語原著)について調査し、選択した論文内容についてプレゼンテーションを行う。自身の意見考えを明確に提示して、出席者全員で紹介論文について、討議する。これにより腫瘍外科学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(13 岡田 守人) 大学院生が行う研究論文プレゼンテーションにおいて、論理構成の組み立て方、考え方の方向性を多角的に議論させることにより、大学院生の研究遂行能力を向上させつつ、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(77 宮田 義浩) 大学院生が行う研究論文プレゼンテーションにおいて、その腫瘍学、腫瘍免疫学に関する内容の分子メカニズム、免疫学の基礎的手法についての専門知識を理解、習得できるよう指導を行う。</p>	
	放射線誘発突然変異解析特別研究	<p>放射線誘発突然変異解析分野の論文を査読し、内容について詳細な発表を行う。発表をもとに議論を行う。これらを通して、放射線誘発突然変異解析分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(214 内村 有邦) 生殖細胞変異に関する研究指導を行う。</p> <p>(203 野田 朝男) 放射線の遺伝影響解析、突然変異体検出系の開発、被ばくと老化機構との関連に関する研究指導を行う。</p>	
	放射線健康影響疫学特別研究	<p>放射線健康影響疫学分野の論文を査読し、内容について詳細な発表を行う。発表をもとに議論を行う。これらを通して、放射線健康影響疫学分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(215 坂田 律) がん疫学に関する研究指導を行う。</p> <p>(204 小笹 晃太郎) 放射線の健康リスクの評価、疫学による危険因子解明のアプローチ、地域での疫学情報、疫学における個人情報保護等に関する研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 放射線医科学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	生体ゲノム制御機能特別研究	<p>生体ゲノム制御機能分野の論文を査読し、内容について詳細な発表を行う。発表をもとに議論を行う。これらを通して、生体ゲノム制御機能分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(216 伊藤 玲子) がん細胞の増殖に関与する物質に関する研究指導を行う。</p> <p>(205 楠 洋一郎) 免疫系の構成と細胞応答メカニズム、生体防御における免疫細胞・分子の役割、老化と免疫等、ヒト免疫学に関する研究指導を行う。</p> <p>(206 林 奉権) 疾患発生のゲノム研究、分子疫学・ゲノム研究の論理と方法、免疫・炎症に影響する環境と宿主要因、放射線関連疾患の分子疫学に関する研究指導を行う。</p>	
	がん重粒子線治療法特別研究	<p>がん重粒子線治療法分野の論文を査読し、内容について詳細な発表を行う。発表をもとに議論を行う。これらを通して、がん重粒子線治療法分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(207 辻 比呂志) 重粒子線によるがん治療の臨床研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(204 小笹 晃太郎) 医学物理学・線量計測学に関する研究指導を行う。</p>	
	分子イメージング診断法特別研究	<p>分子イメージング診断法分野の論文を査読し、内容について詳細な発表を行う。発表をもとに議論を行う。これらを通して、分子イメージング診断法分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p>	
	低線量放射線安全研究特別研究	<p>低線量放射線安全研究分野の論文を査読し、内容について詳細な発表を行う。発表をもとに議論を行う。これらを通して、低線量放射線安全研究分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p> <p>(209 柿沼 志津子) 発達期被ばく影響の分子機構に関する研究指導を行う。</p> <p>(210 仲野 高志) ホールボディカウンタを用いた測定や、その結果を元に、内部被ばく線量評価に関する研究指導を行う。</p>	
	緊急被ばく医療開発特別研究	<p>緊急被ばく医療開発分野の論文を査読し、内容について詳細な発表を行う。発表をもとに議論を行う。これらを通して、緊急被ばく医療開発分野の高度な専門知識と研究遂行能力を修得させるとともに、博士論文作成の指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医歯薬学専攻 博士課程 放射線医科学専門プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	English Presentation	授業は参加型とし、実際の学会会場での発表を想定して1日1人もしくは2人の発表者による発表と参加者による質問を行う。また、あいだに外国人講師によるフィードバックを行い、より質の高い発表・ディスカッションを目指す。	
	英語論文修辞学	英語による論文を書くために、論文の構成で一般的な「背景・目的・方法・結果・結論」の書き方、過去・現在・現在完了の論文で主に使われる時制の使い方、表現の幅が大きく広がる英語共起表現検索システムの活用等について講義するとともに、各自の論文について、論文の構造の解析を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	Hiroshimaから世界平和を 考える	<p>(概要) 被爆地広島に立脚する広島大学は、理念の第一に平和を希求する精神を掲げる。本講義の目的は次の二点である。ヒロシマの基盤ともいべき原爆・被爆被害の概要を理解する。さらに、ヒロシマを基軸としながらも普遍的で恒久的な平和のあり方を模索する。そこでは、今日的に緊急性の高いテーマである。例えば、貧困・飢餓・難民・環境問題そして世界各地の地域紛争等をテーマに、理想と現実との間にあるギャップをも理解し、理想的な平和のあり方を検討する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(169 川野 徳幸／2回) 被爆地「Hiroshima」における原爆・被爆被害の概要</p> <p>(206 小宮山 道夫／2回) 原爆と広島大学の関わり、広島の歴史、広島に課された役割</p> <p>(167 河合 幸一郎／1回) 途上国における貧困と飢餓、食糧生産の現状と課題</p> <p>(168 中坪 孝之／1回) 地球温暖化、環境破壊、天然資源の枯渇等の現状と解決のための方策</p> <p>(205 山根 達郎／2回) 現代における地域紛争の特徴、紛争後の平和構築の在り方</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続 可能な 発展科 目	<p>Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace</p> <p>(英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University “Pursuit of Peace” and the long-term vision “Splendor Plan 2017”. The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these. When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of social development from the above aspects.</p> <p>lesson1 Guidance of the course lesson2 JICA chugoku center lesson3 Yuichiro Yoshida “Japanese policy experience: Success and Failures” lesson4 Ichihashi Masaru “Industrial Policy and Economic growth” lesson5 Junyi Zhang “History of environmental policies in Japan”1 lesson6 Junyi Zhang “History of environmental policies in Japan”2 lesson7 Osamu Yoshida “Japanese ODA and its Asia Policy” lesson8 Mari Katayanagi “Reconstruction of Hiroshima from Peacebuilding Perspective”</p> <p>(和訳) 本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョン Splendor Plan 2017をベースとして、SDGsについて議論する。SDGsは、世界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGsは包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初のOECD加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では社会の発展における日本の経験に関して学ぶものである。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続 可能な 発展 科目	(オムニバス方式／全8回) (174 金子 慎治／1回) 本講義のガイダンス, 概要説明 (312 三角 幸子／1回) JICAの活動, 役割 (170 吉田 雄一郎／1回) 日本の政策経験 (175 市橋 勝／1回) 産業政策と経済成長 (171 張 峻屹／2回) 日本の環境政策の歴史 (172 吉田 修／1回) 日本のODAとアジア政策 (173 片柳 真理／1回) 平和構築から見た広島復興	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	持続可能な発展科目	<p>Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health</p> <p>(英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University “Pursuit of Peace” and the long-term vision “Splendor Plan 2017”. The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these. When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of human development from the above aspects.</p> <p>lesson1 Guidance of the course lesson2 Maharajan Keshav Lall “Japanese experience of development in Agriculture and Remote area” lesson3 Koki Seki “Socio-cultural Aspect of Modernization of Japan: Focusing on the Transformation of Norm, Mentality, and Way of Living” lesson4 Kinya Shimizu “A History of Education in Japan” lesson5 Kinya Shimizu “Lesson Study in Japan: As a tool of PDSI in Japanese Education” lesson6 Junko Tanaka “International cooperation and research collaboration in the field of public health” lesson7 Michiko Moriyama "Healthcare system in Japan: its characteristics and history" lesson8 Discussion</p> <p>(和訳) 本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョンSplendor Plan 2017をベースとして、SDGsについて議論する。SDGsは、世界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGsは包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初のOECD加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では人類の発展における日本の経験に関して学ぶものである。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続 可能な 発展科目	(オムニバス方式／全8回) (178 馬場 卓也/1回) 本講義のガイダンス, 概要説明 (177 MAHARJAN, KESHAVLALL/1回) 農業開発における日本の経験 (207 関 恒樹/1回) 日本の現代化における社会文化的側面 (176 清水 欽也/2回) 日本における教育開発 (12 田中 純子/1回) 公衆衛生学分野の国際協力と共同研究 (22 森山 美知子/1回) 日本のヘルスケアシステム (178 馬場 卓也/1回) まとめ	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	持続可能な発展科目	<p>SDGsへの学問的アプローチA</p> <p>(概要)SDGsは持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかしこの課題は単独での問題解決に止まらず、分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに、その解決には、援助国、被援助国のみならず、地方自治体、民間企業、市民社会が協働して取り組む新しい社会の在り方が求められている。本SDGsへの学問的アプローチAでは、人権を中心に取り組む。Bと合わせて受講することが推奨される。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (括弧内SDGs目標番号)</p> <p>(178 馬場 卓也／1回)</p> <p>1. コースの概要, SDGsと貧困問題 (1, 17):SDGsの設置経緯について説明し, 17の目標の中で, 貧困は様々な問題の根底に位置することについて説明, 議論する。</p> <p>(180 実岡 寛文／1回)</p> <p>2. 持続可能な消費と飢餓 (2, 12):地球規模で食料の持続可能性を考える時, 先進国と途上国のインバランスが問題となる。持続可能な生産消費形態, 栄養改善などについて議論する。</p> <p>(12 田中 純子／1回)</p> <p>3. 公衆衛生と社会医学 (3, 6):安全な水の供給と確保は人が健康に生きていくための不可欠の開発課題であることから, 疾病対策を含む健康維持のための社会医学的, 公衆衛生的側面からの持続可能な管理と問題について講義する。</p> <p>(22 森山 美知子,97 RAHMAN MD MOSHIUR／1回) (共同)</p> <p>4. 健康と福祉 (3):プライマリ・ヘルスケア, リプロダクティブ・ヘルス, 非感染性疾患と高齢化などグローバルな健康問題について講義する。</p> <p>(181 永田 良太／1回)</p> <p>5. 教育と社会 (4):情報化による急激な変化が進む中で, 先進国と途上国の境目がなくなりつつある。今後の教育に求められる役割と課題について議論する。</p> <p>(179 石田 洋子／1回)</p> <p>6. ジェンダー問題と平等な社会 (5, 10)/ジェンダーの平等と女性のエンパワーメントに向けた課題, 国家間及び各国内の不平等削減に係る課題, そしてこれら2つの課題解決が他のSDGsゴール達成に深く関わることについて議論する。</p> <p>(313 隈元 美穂子／1回)</p> <p>7. 国際機関の取り組み(17): SDGsを推進している立場から, その取り組みの課題と進捗状況について議論する。</p> <p>(178 馬場 卓也／1回)</p> <p>8. 総括討議</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続可能な 発展科目	<p>SDGsへの学問的アプローチB</p> <p>(概要)SDGsは持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかしこの課題は単独での問題解決に止まらず、分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに、その解決には、援助国、被援助国のみならず、地方自治体、民間企業、市民社会が協働して取り組む新しい社会の在り方が求められている。本SDGsへの学問的アプローチBでは、環境、社会、ガバナンスを中心に取り組む。Aと合わせて受講することが推奨される。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (括弧内SDGs目標番号)</p> <p>(173 片柳 真理／1回) 1. コース概要, 平和な社会(16):SDGsの設立経緯について説明し、それら目標の最終ゴールとして、平和な社会の実現について議論をする。</p> <p>(208 長谷川 祐治／1回) 2. 気候変動と防災(13):気候変動の兆候がますます顕著になりつつあり、その影響を軽減するための防災、緊急対策について議論する。</p> <p>(209 日比野 忠史／1回) 3. エネルギーと持続可能な都市(7, 11):安価かつ信頼できる持続可能なエネルギーへのアクセスを確保し、包摂的、強靱(レジリエント)で持続可能な環境の実現について議論する。</p> <p>(224 佐野 浩一郎／1回) 4. 経済成長と雇用(8):すべての人々の雇用と働きがいのある労働環境の実現と、持続可能な経済成長の可能性と課題について議論する。</p> <p>(183 河合 研至／1回) 5. インフラと産業(9):包摂的で強靱(レジリエント)なインフラ構築, 持続可能な産業化及びイノベーションの可能性と課題について議論する。</p> <p>(182 小池 一彦／1回) 6. 陸上資源 生物資源学(14, 15): 農業・畜産・水産業における生物資源の利用と生態系保全とのジレンマについて講義する。</p> <p>(314 川本 亮之／1回) 7. 地域社会の取り組み(地方自治体)(17, 11):広島県内の地方自治体での種々の取り組みを, SDGsの観点から議論する。</p> <p>(173 片柳 真理／1回) 8. 総括討議</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続 可能 な 発 展 科 目	<p>ダイバーシティの理解</p> <p>(概要)SDGsの達成を目指す社会において、ダイバーシティ&インクルージョンの価値を理解し、それを実現するスキルを習得することは、いかなる専門性を有する人材にとっても重要である。この授業では、ダイバーシティのリスクとメリットを理論的・実践的に理解し、インクルージョン実現のためのシステム構築について考える力を習得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(184 坂田 桐子・210 ヘイズ櫻井 里穂/2回)(共同)</p> <p>1. ダイバーシティに関する理論:特に組織におけるダイバーシティのリスクとメリットについて、理論的背景及び組織における現状について理解することを目的とする。</p> <p>(226 北梶 陽子/5回)</p> <p>2. ゲーム演習:多様な人々で構成される集団や社会において、異なる他者の視点を取得し、問題を解決するプロセスを体験できるシミュレーションゲームを行う。</p> <p>(185 大池 真知子・226 北梶 陽子/1回)(共同)</p> <p>3. ディスカッション:理論とゲーム演習の体験に基づき、ダイバーシティ&インクルージョンの価値と実現方法について議論する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	キャリア 開 発 ・ デ ー タ リ テ ラ シー 科 目	データリテラシー	<p>(概要)ICTの普及とともに様々な分野で膨大なデータが蓄積され、これを活用した新しいビジネスも展開されるようになり、データ解析の技能や統計学の知識をもった人材が社会から必要とされている。本講義では、社会的背景、データを取り扱う手法として機械学習、統計学といったデータ科学の考え方について紹介し、いくつかの具体例を通してデータの取り扱い等に関して注意すべき点を解説する。また、セキュリティ、個人情報の保護といった問題についても触れる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(211 宮尾 淳一/4回)</p> <p>ビッグデータと呼ばれる膨大なデータの活用に関する現状を理解することを目的とする。具体的には、ビッグデータの機械学習への利用例と最新の成果を示し、その可能性を理解すると共に、AIへの応用なども解説する。また、ディープラーニングによる実行例なども提示する。さらに、ビッグデータの取り扱いに関する問題点や注意点についても触れる。</p> <p>(186 柳原 宏和/4回)</p> <p>本格的な統計解析手法を学ぶ前の取り掛かりとして、記述統計を学ぶことを目的とする。具体的には統計ソフトRを用いて、データの取り込み、抽出、結合、ヒストグラムやボックスプロット、散布図などによるデータの視覚化、平均や分散などの基本統計量の計算を行う。さらに、単回帰分析を用いた変数間の関連を明らかにする手法も紹介する。</p>

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	キャリア 開発・ データ リテラ シー科 目	<p>医療情報リテラシー</p> <p>(概要)がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するためには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本講義では、医療情報を処理するために必要な知識、解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに、その慎重な取り扱いに求められる情報セキュリティ、倫理、法律などについても触れる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(233 小笹 晃太郎／1回) 原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究</p> <p>(1 工藤 美樹／1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則、功罪や有用性</p> <p>(85 森野 豊之／1回) 医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法</p> <p>(72 粟井 和夫・3 有廣 光司／1回) (共同) 医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題、情報の有用性と社会における活用</p> <p>(234 田中 剛／1回) 広島県独自のHMnet(ひろしま医療情報ネットワークHiroshima Medical Network)を利用した医療情報共有の仕組みと活用</p> <p>(12 田中 純子／1回) NDB (National data base)などの大規模医療データベースの種類、概要、倫理、疫学研究への活用</p> <p>(14 安井 弥／1回) がんゲノム情報の概要、理的課題、応用と活用</p> <p>(16 服部 登／1回) 臨床治験の大規模化に伴う課題、功罪、応用と活用と演習</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	キャリア開発・データリテラシー科目	人文社会系キャリアマネジメント	この講義の目標は次の2点である。1. キャリア理論を学習することで、大学院での自分の研究とキャリア(生き方)を、どう関連付けるかを考える契機とする。2. 大学院から社会へのトランジションについて意識し、課題発見解決力やコミュニケーション力等、充実して生きていくために必要な力を養成することを目指す。これらの目的を達成するため、授業では次の3点に取り組む、1. 自己理解。2. 社会の現状を知る。3. グループワークや自主活動を行う。じっくり考える事と行動の両立によって、社会で通用する力を身につける。
	理工系キャリアマネジメント	コミュニケーション力は、社会で活躍するうえで必要不可欠な能力である。本講義では主として対話・発話によるコミュニケーションについて解説する。対話・発話によるコミュニケーションにおいて非言語情報(表情、視線、態度など)は重要な意味を持つため、本講義では非言語情報と言語情報の両面からコミュニケーションについて理解を深め、演習を通してスキルを向上させる。具体的な内容は、1)対話によるコミュニケーションの基礎、2)プレゼンテーション、3)高度なコミュニケーションスキルである傾聴、4)ファシリテーション、である。 本講義の目標は次のとおりである。1. 対話コミュニケーションにとっては、言語情報だけでなく非言語的要素(視線、あいづち、うなずき等)が重要であることを理解する。2. 目的に応じた研究概要書の作成方法、研究内容のプレゼンテーション方法を修得する。3. 傾聴スキルの基本について理解する。4. ファシリテーションスキルについて理解し、グループでのディスカッション方法を習得する。	
	ストレスマネジメント	現代は、社会・経済環境の変化や家族関係の変化によってストレスが増大している。ストレスの多くは心理・社会的な要因によるものであり、対処が適切でないと、心身の健康や対人関係に影響を及ぼし、個人や組織の生産性を低下させることになる。したがって、社会で活躍し充実した人生を過ごすためには、ストレスを上手にコントロールすることが必要不可欠となる。 そこで、本講義では実践的なストレスマネジメントについて解説し、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を習得するための演習を実施する。 講義の目標は、次のとおりである。1.心理・社会的ストレスと、その特徴について知り、ストレスマネジメントの本質的な考え方について理解する。2.心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を修得する。3.ネガティブな感情や思考に巻き込まれずに、「今、ここ」の自分を客観的に観察する方法について理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	生命・医療倫理学A	<p>(概要) 医学・歯学・薬学・保健学の医療・健康福祉領域で行われる教育・研究・臨床は、生命に対する尊厳、医療における倫理感、責任感に裏付けられたものでなければならない。本講義では、バイオエシックス/バイオメディカルエシックスの歴史的背景から最近のゲノムを含めた医療情報に関する問題等を学習し、研究・臨床における生命・医療倫理について考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 工藤 美樹/1回) 医学・医療に求められる倫理について、講義をする。 (236 高橋 規郎/1回) ヒトゲノム遺伝子解析研究倫理指針に関する教育及び研修について、講義をする。 (117 岡田 賢/1回) 新生児医療における生命・医療倫理について、講義をする。</p> <p>(2 森川 則文/1回) 医薬品の使用における倫理について、講義をする (3 有廣 光司/1回) 病理分野における倫理について、講義をする。 (5 松浦 伸也/1回) 遺伝子診療における倫理について、講義をする。 (4 杉山 一彦/1回) 臨床試験と医療倫理について、講義をする。 (86 吉田 光由/1回) 歯科倫理と食べることに関わる倫理について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	研究方法論A	<p>(概要) 「研究方法」をキーワードとして、広く実験技術とその背景にある医学・生物学的知識を学ぶ。単に技術論に留まらず、研究の心構え(特に研究方法総論)や、講義担当者の研究の世界まで、幅広い領域をカバーし大学院課程で学ぶ内容を豊富なものとする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 吉栖 正生, 8 小澤 孝一郎/1回) (共同) ガイダンス及びR I技術について、講義をする。 (9 檜山 英三/1回) 遺伝子発現プロファイリングと次世代シーケエンギングについて、講義をする。 (7 橋本 浩一/1回) パッチクランプ法の原理と応用について、講義をする。 (188 宿南 知佐/1回) 培養細胞実験とiPS細胞のトピックスについて、講義をする。 (10 田代 聡/1回) 細胞画像解析について、講義をする。 (87 佐藤 健一/1回) 要因探索のための統計解析について、講義をする。 (88 金子 雅幸/1回) PCR法の原理と応用について、講義をする。 (89 木下 英司/1回) 生物物理科学的研究手法について、講義をする。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	スタートアップ生命科学 コースワーク	医学系・生物学系研究に必要な最も基本的な実験の知識並びに手技を少人数で学ぶ。予め回答が用意されていない実験研究を遂行するために必要な基本的な知識、技術、考え方の習得を目指す。培養細胞を用いて、薬剤添加による特異的遺伝子発現量への影響を、mRNAレベル、タンパクレベルで解析を行う。一連の活動を通して、実験の3原則を守り、科学的に正しく実験を行い、客観的に結果を評価し、論理的に考察するとはどういうことかを体験する。	
	生体医工学イノベーションA	<p>(概要) 臨床に用いる医療機器やシステム等の技術開発を具体化するために必要な、研究マインドおよび開発プロセス、産学官連携活動や情報学・医学・工学領域間の連携に関する知識、態度を習得する。</p> <p>本講義では、マツダを事例にして、技術・理論を商品・サービスに応用して結びつけるために必要な要素でカリキュラムを構成しています。本講義の受講により、受講生は、大学で習得した技術・理論を実社会、ビジネスに活かすことのできる基本的考え方、プロセスを身に付けることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 大段 秀樹/2回) ガイダンス及び技術開発の必要性について、講義をする。 (238 坂本 和夫/1回) 医療機器、システムの商品開発のプロセスについて、講義をする。 (212 笹岡 貴史/1回) 感性脳科学の応用について、講義をする。 (227 金山 範明/1回) 感性計測について、講義をする。 (237 農澤 隆秀/1回) これからの技術者に求められることについて、講義をする。 (239 高見 明秀/1回) モノづくりに必要な技術について、講義をする。 (294 西川 一男/1回) 人間工学・感性工学とその応用について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	多職種連携A	<p>(概要) 現代の医療では、各分野の専門スタッフが連携・協働して、治療に当たるチーム医療が広がっており、高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人の養成のため、多職種との関係を深化させていく。医学、歯学、薬学等の医療技術、治療法等を講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(76 志馬 伸朗/1回) ガイダンス及び多職種連携の必要性について、講義をする。 (33 折山 早苗/1回) 医療ケアに関する看護師の役割分担について、講義をする。 (35 桐本 光/1回) 急性期リハビリテーションチームについて、講義をする。 (37 浦川 将/1回) 医師・看護師・リハビリ関連職種との連携について、講義をする。 (77 木村 浩彰/1回) 医師からみた多職種連携の必要性について、講義をする。 (78 柿本 直也/1回) チーム医療における歯科医師が行う連携について、講義をする。 (75 松尾 裕彰/1回) 多色区連携における薬剤師の役割・課題・取組について、講義をする。 (54 内藤 真理子/1回) 周術期における歯科衛生士の役割について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	医学統計パッケージ演習	臨床研究・疫学研究で頻用されている統計解析手法について講義及び統計解析ソフトによる実習を行い、医学データ解析の基礎力・実践力を身につけることを目的とする。統計ソフトはJMP, SPSSなど、またグラフソフトはデルタグラフ, GraphPad Prismなどを予定している。	
専攻 共通科目	生命医療科学論	<p>(概要) 医学系について一般的総論及び情報科学系、工学系に関連した医学の各論的講義を行い、情報・工学系の学士課程学生に医学の基礎的・専門的知識を提供する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 大段 秀樹, 13 池上 浩司/1回) (共同) 人体構造学(解剖学・発生学)について、講義する。 (6 吉栖 正生/1回) 細胞機能学(生理学)について、講義する。 (12 田中 純子/1回) 社会医学と医療倫理・研究倫理について、講義する。 (14 安井 弥/1回) 病因・病態学(病理学)について、講義する。 (15 浅野 知一郎/1回) 細胞機能学(生化学・分子生物学)について、講義する。 (16 服部 登/1回) 臨床医学概論(分子内科学)及び臨床医学各論(呼吸器系)について、講義する。 (17 永田 靖/1回) 臨床医学各論(放射線診断・治療学)について、講義する。 (91 久保 忠彦/1回) 臨床医学各論(整形外科)について、講義する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目	栄養学	<p>(概要) 超高齢社会になり, 高齢者の栄養摂取の重要性が注目されている。特にオーラルフレイルと言われる口腔内環境の悪化や, 歯の喪失, 義歯の不適合などによって食の摂取量の減少がサルコペニアを引き起こし, 筋力低下による転倒骨折から寝たきりになるという悪循環, 砂割フレイルティサイクルに陥ることを防ぐことが重要である。このような高齢社会における問題に対して, 栄養学として, 口腔の機能と栄養摂取の重要性についてオムニバス形式での講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(19 里田 隆博/1回) 消化管の一般構造及び発生過程, 摂食嚥下の仕組み及び頭頸部の発生(体節と鰓弓に関して)について, 講義を行う。</p> <p>(20 津賀 一弘/1回) 咀嚼機能についてについて, 講義を行う。</p> <p>(92 吉川 峰加/1回) 高齢者の嚥下について, 講義を行う。</p> <p>(240 加藤 秀夫/1回) 栄養代謝と臓器相関及び時間栄養学と健康について, 講義を行う。</p> <p>(86 吉田 光由/1回) サルコペニアと口腔について, 講義を行う。</p> <p>(241 天野 秀昭/1回) 小児の口腔機能の発達と栄養摂取及び学童期の口腔機能と食育教育について, 講義を行う。</p> <p>(295 妻木 陽子/1回) 食物アレルギーの発症メカニズム及び食物アレルギーの食事管理について, 講義を行う。</p> <p>(18 二川 浩樹/1回) 口腔機能と唾液の検査法について, 講義を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目	健康生活科学	<p>(概要) 高齢化社会における健康生活分野の課題 (高齢化社会, 健康生活, 感染症, 現代食, 痛風, 食生活, 生活習慣病, 化学, 加齢, 男性ホルモン, 眼疾患, 白内障, 緑内障, 加齢加齢黄斑変性, 放射線, 広島, 長崎, 被曝, セミパラチンスク, チェルノブイリ, マーシャル諸島, 福島, 甲状腺癌, 甲状腺ホルモン, がん検診等) について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 大段 秀樹, 243 渡邊 一雄/1回) (共同) ガイドダンス及びこれからの感染症問題について, 講義を行う。 (244 瀬山 一正/1回) 現代食の問題点 食を通じた痛風の予防法について, 講義を行う。 (242 渡邊 敦光/1回) 本人の食生活の変化 食生活の改善による生活習慣病やがんの予防について, 講義を行う。 (245 田中 春彦/1回) 生活の中の化学について, 講義を行う。 (246 碓井 亜/1回) 加齢に伴う男性ホルモンの変化について, 講義を行う。 (247 三嶋 弘/1回) 眼の老化 (高齢者時代に伴い増加する眼疾患, 白内障, 緑内障, 加齢黄斑変性等) について講義行う。 (248 星 正治/1回) 放射線の人体への影響とリスク評価の意義について, 講義を行う。 (249 武市 宣雄/1回) 甲状腺癌の発生及び予防と医療 (甲状腺ホルモンの働きを含めて) について, 講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	予防医学・健康指導特論 A	<p>(概要) 本講義は, 予防医学に基づく健康管理を専門とする優れた医療従事者を養成し, 予防医療の向上を図り, 国民の福祉に貢献することを目指す。そのために, 基礎・社会医学から臨床医学, 歯学, 薬学, 法令等, にわたる幅広い最新知見を含む講義を設定し, これを履修することによって, 医歯薬学, 保健学領域における基礎理論及び実践方法論を身に付けることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(12 田中 純子/2回) 予防医学総論及び健康の有効性, 有用性の評価の方法について, 講義する。 (13 池上 浩司/1回) 解剖学及び組織学について, 講義する。 (118 米田 真康/1回) 臨床医学特論: 肥満とメタボリックシンドローム及び糖尿病の成因・病態と治療について, 講義する。 (94 山本 秀也/1回) 心血管疾患について, 講義する。 (16 服部 登/1回) 喫煙による身体疾患, 心血管疾患, 脳血管疾患について, 講義する。 (93 細見 直永/1回) 脳血管疾患について, 講義する。 (144 杉山 文/1回) 予防医学について, 講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目	予防医学・健康指導特論 B	<p>(概要) 本講義は、予防医学に基づく健康管理を専門とする優れた医療従事者を養成し、予防医療の向上を図り、国民の福祉に貢献することを目指す。そのために、基礎・社会医学から臨床医学、歯学、薬学、法令等、にわたる幅広い最新知見を含む講義を設定し、これを履修することによって、医歯薬学、保健学領域における基礎理論及び実践方法論を身に付けることができる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(12 田中 純子／2回) 医学研究のデザイン及び疾病予防、医学研究総論について、講義を行う。 (96 日山 亨／1回) 消化器疾患について、講義を行う。 (23 濱田 泰伸／1回) 生活習慣と疾病・予防について、講義を行う。 (22 森山 美知子／1回) 行動変容モデルについて、講義を行う。 (21 岡村 仁／1回) ストレスマネジメントについて、講義を行う。 (95 横崎 典哉／1回) 面接技法と指導技法について、講義を行う。 (144 杉山 文／1回) 肝疾患について、講義する。</p>	オムニバス方式
	Health Communication and Health Promotion	<p>(英文) This course is planned for master's course students to brief about health communication strategies and the importance of health promotion to achieve health equity.</p> <p>The overall objectives of the course for participants are to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Describe many ways of health communication to improve population health outcomes and health care quality. 2. Outline health promotion strategies and understand the impact of health promotion to reform the primary health care services. 3. Identify the importance of health communication to reduce disease burden and health crisis management. 4. Discuss the concept of health education, communication, development and health equity. 5. Continue the practice of English communication. <p>Specific course objectives: After successful completion of the course participants will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Define the principles of health communication to enhance the public health problems. 2. Develop the strategies of behavior change communication to raise knowledge and attitude towards the contagious diseases. 3. Explain the strategies and methods of health promotion for primary health care maintenance. 4. Recognize the social & behavioral determinants of health, school health programs and necessity of adolescent health promotion. 5. Formulate the communication strategies for safe motherhood, mental health and rehabilitation. 	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目		<p>(和訳) 本科目は修士課程の学生に対して、健康格差の解決に向けたヘルスコミュニケーション戦略とヘルスプロモーションの重要性について議論する。</p> <p>達成目標: 本コース終了時点で学生は以下ができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集団に対する健康アウトカムとヘルスケアの質を向上させるヘルスコミュニケーションの複数の手法について述べるができる。 2. ヘルスプロモーション戦略の概略を述べるとともに、ヘルスプロモーションがプライマリ・ヘルスケア・サービス改革に与える影響について理解できる。 3. 疾病負担を低減させ、健康危機管理につながるヘルスコミュニケーションの重要性が理解できる。 4. 健康教育、コミュニケーション、格差のない健康に関する概念について議論できる。 5. 英語でのコミュニケーションに挑戦し続けることができる。 <p>具体的な目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生上の問題を改善するためのヘルスコミュニケーションの原則を述べるができる。 2. 感染性疾患に対する住民の知識と態度の向上、住民の行動変容に向けたコミュニケーション戦略を考えることができる。 3. プライマリ・ヘルスケアを推進するためのヘルスプロモーション戦略と方法論を説明できる。 4. 健康、学校保健、青少年のヘルスプロモーションを推進するための社会的・行動学的決定要因を理解することができる。 5. 母子保健、精神衛生及びリハビリテーションを推進するためのコミュニケーション戦略を考えることができる。 	
	Research Methodology in Health Science	<p>(英文) This course is intended for graduate course students. It is to inform the application or practice of research in health science to address the public health issues.</p> <p>The overall objectives of the course for students are to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Accurately describe the fundamental concepts and approaches in qualitative and quantitative research methodology 2. Identify how moral, ethical, cultural, social, political and environmental issues and responsibilities impact on research. 3. Critically review and critique the literature using valid resources, and thereby provide informed opinion. 4. Demonstrate skills in critical thinking by accurately synthesizing new research results in science/health. 5. Apply introductory descriptive and inferential statistical concepts and techniques in the analysis of data. <p>Specific course objectives:</p> <p>After successful completion of the course, students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Define the principles of research in health science to enhance the public health problems. 2. Illustrate the association with the exposure and risk factors in health science. 3. Describe the different types of research methodology involved in health science. 4. Evaluate the implications of research methodologies on evidence based practice and their impact on clinical practice and policy. 5. Demonstrate skills consistent with lifelong learning. 	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻共通科目		<p>(和訳)</p> <p>本科目は、大学院生を対象としている。公衆衛生に関する研究課題に対して、どのように研究に取り組むのか、その方法について教授する。</p> <p>本コースの到達目標を以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 量的・質的研究方法について、その基本的な概念を正しく描写できる。 2. 道徳的、倫理的、文化的、社会的、政策的、環境的な課題と責任が研究に与える影響について理解できる。 3. 有効なリソースを使用して文献を批評的にレビュー、批評し、情報に基づく意見を提供することができる。 4. 新たに明らかになった結果を健康科学の中に正しく統合することで、批判的な思考のスキルを示すことができる。 5. データ分析について基本的な説明的・推論的統計概念を適用することができる。 <p>具体的な目標: 本コース終了時点で学生は以下ができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生問題を改善するための健康科学における研究の原則を定義することができる。 2. 健康科学における危険因子への暴露との関係について説明できる。 3. 健康科学領域で用いられるさまざまな研究の方法論について説明できる。 4. エビデンスに基づく実践と臨床実践、政策への影響に関する研究方法論について評価することができる。 5. 生涯にわたって学び続けることのできる能力を示すことができる。 	
プログラム専門科目	保健科学特論 I (調査研究)	<p>(概要) 保健学領域において用いる探索的研究手法である調査法の基礎的理論と方法の概要を理解する。また、対象者の選定、倫理的配慮、調査実施の手順、質問項目の設定、各種総計手法を理解し、研究目的に応じた適切な調査研究計画を立案し、実施する能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(21 岡村 仁/3回) ガイダンス及び質問紙調査について、講義をする。</p> <p>(24 中谷 久恵/2回) 調査研究法について、講義をする。</p> <p>(25 梯 正之/2回) 統計の解析とモデル形成について、講義をする。</p> <p>(26 宮下 美香/2回) 統計解析の活用について、講義をする。</p> <p>(28 花岡 秀明/2回) 調査研究の応用について、講義をする。</p> <p>(29 宮口 英樹/2回) 実験研究に繋げるための調査研究法について、講義をする。</p> <p>(27 小林 敏生/2回) 調査研究法のまとめについて、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	保健科学特論Ⅱ(質的研究)	<p>(概要) 質的研究について、量的研究との哲学的違い、歴史的発展を踏まえた上で、基礎理論に基づいて構築された質的研究法の方法論について理解を深める。また、質的研究方法論及びデータ分析の実際を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(22 森山 美知子/3回) ガイダンス及び質的研究の哲学的基礎、質的研究の歴史的発展について、講義をする。</p> <p>(30 國生 拓子/2回) 質的研究方法の特長について、講義をする。</p> <p>(31 大平 光子/2回) 質的研究方法の実際について、講義をする。</p> <p>(32 祖父江 育子/2回) 質的研究方法の実際について、講義をする。</p> <p>(29 宮口 英樹/2回) 質的研究における科学性を裏付ける方法について、講義をする。</p> <p>(33 折山 早苗/2回) 質的データの分析結果の記述について、講義をする。</p> <p>(21 岡村 仁/2回) 研究成果の臨床への応用について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	保健科学特論Ⅲ(実験研究)	<p>(概要) 実験的な研究手法や技術に関する知識や最新情報を理解習得し、実験的研究で得られたデータに関する整理方法や論理的かつ科学的な考え方を習得する。また、英語で論文発表を行う重要性と必要性を認識し、英語による論文発表の基本を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(28 花岡 秀明/3回) ガイダンス及び地域における介入研究について、講義をする。</p> <p>(34 弓削 類/2回) 分子細胞生物学的研究法とその応用について、講義をする。</p> <p>(35 桐本 光/2回) 診断法から導く研究テーマについて、講義をする。</p> <p>(36 砂川 融/2回) 臨床疑問に基づいた研究法について、講義をする。</p> <p>(37 浦川 将/2回) 研究計画、予備実験の重要性について、講義をする。</p> <p>(23 濱田 泰伸/2回) 基礎研究と臨床研究について、講義をする。</p> <p>(38 浦邊 幸夫/2回) スポーツリハビリテーション学の研究の推進について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	専門共通	<p>Epidemiology and Disease Prevention</p> <p>(英文) This course is intended for master's course students. It is to inform the application or practice of epidemiology and prevention of diseases to address the public health issues.</p> <p>The overall objectives of the course for students are to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Explain the essential information of epidemiology and describe the importance of epidemiologic studies. 2. Introduce basic concepts and issues of epidemiologic methods as well as disease control procedures. 3. Determine the etiologies of and effective preventive measures for communicable and chronic diseases. 4. Expand understanding of disease determinants and disease prevention in local and international settings. 5. Continue the practice of health related English communication skill. <p>Specific course objectives: After the successful completion of the course students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Define the components of the epidemiologic triad and techniques of epidemiology, basic statistics, and situation analysis to public health problems. 2. Illustrate the association with the concentrations in exposure, epidemiology, and risk factors in the environmental health. 3. Describe the different modes of violence and injuries in a population and address the preventive strategies. 4. State the epidemiologic approaches to social and behavioral determinants of infectious disease emergence, transmission, pathogenesis and prevention. 5. Focus on diseases and conditions, as well as preventive methods, specific to chronic diseases in Japan. <p>(和訳) 本科目は修士課程の学生が公衆衛生上の課題に取り組むために、疫学や疾病予防の知識をどのように用いるのかについて教授する。 達成目標: 本コース終了時点で学生は以下が達成できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学における必須情報や疫学研究の重要性について説明することができる。 2. 疫学的方法の基本的な概念と問題、並びに疾病管理の手続を説明することができる。 3. 感染性疾患及び慢性疾患について、その病因と効果的な予防方法について説明することができる。 4. 地域の、または国際的な場における疾病の決定要因と予防について理解を広げることができる。 5. 健康関連の英語によるコミュニケーションスキルの訓練を続けることができる。 <p>具体的な目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学における三角形モデル構成要素と疫学, 基本統計, および公衆衛生問題に対する状況分析の技法を理解することができる。 2. 環境における曝露, 疫学, および危険因子との関連を示すことができる。 3. 集団におこる暴力や外傷のさまざまな形態とその予防的戦略について説明することができる。 4. 感染症の出現, 伝染, 病因および予防の社会的および行動的決定要因に対する疫学的アプローチについて説明することができる。 5. 日本における慢性疾患に特有の疾病, 病状, 予防方法に焦点を当てて考えることができる。 	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通	Statistics in Health Science	<p>(英文) 'Statistics in Health Science' provides an opportunity to learn basic and advanced statistical methods commonly used in researches in health sciences. Methods referred in the lecture cover multivariate analyses including multiple regression analysis, logistic regression analysis and factor analysis, after confirming the knowledge on classical statistical methods such as chi-square test, t test and simple linear regression. This lecture is presented mainly in English for the convenience of overseas students.</p> <p>(和訳) 「Statistics in Health Science(健康科学領域の統計学)」では、健康科学の研究でよく使われる基本的で高度な統計的方法を学ぶ機会を提供する。本講義では、カイ二乗検定、t検定、単回帰などの古典的統計法の知識を確認した上で、重回帰分析、ロジスティック回帰分析、因子分析などの多変量解析を扱う。この講義は、留学生の便宜を考慮し、主に英語で行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	専門共通	<p>Global Health Challenges and Solutions I</p> <p>(英文) This class is open to graduate students in Health Sciences, who intend to work on issues in local, country level, and/or worldwide. We will discuss WHO SDGs (Sustainable Development Goals) and solutions introduced from WHO; also we will discuss using our real strategic approaches implemented in Japan and other countries. Special guest speakers for lecture and discussion will be invited.</p> <p>At the first session, students will select their theme working through the semester, based on your own specialty and interest. Also, we discuss themes below from wide viewpoints.</p> <p>Specific course objectives: After successful completion of the course, students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Explain the global health strategies and estimate the Japan public health services and future needs. 2. Describe the development of international health and priority programs of sustainable development goals (SDGs). 3. Detect the impact of globalization and compute the challenges of urban health care management. 4. Identify the emerging & reemerging health threats and suitable approaches to overcome the situations. 5. Acknowledge the achievement of public health development and develop communication skills to reduce global health related burden. <p>(和訳) 本科目は、地方、国レベル及び世界の問題に取り組む意欲のある保健科学の大学院生に開講する。WHO SDGs(持続可能な発展目標)と解決策について議論する。学外講師による日本や他の国々で実施されている実際の戦略的アプローチを事例に用いて議論する。 初回講義で、学生は自身の専門性や関心に基づきセメスターと通して取り組む課題を選定する。また、以下の課題についても幅広い視点から議論する。 具体的な目標:本コース終了時点で学生は以下ができる。 1. グローバルな健康戦略を理解し、日本の公衆衛生サービスと将来のニーズについて議論できる。 2. 持続可能な発展目標(SDGs)に関する国際保健および優先プログラムの開発について議論できる。 3. グローバリゼーションの影響を検討し、都市の保健医療マネジメントの課題を導き出すことができる。 4. 新興する/再発する健康上の脅威とその状況を克服するための適切なアプローチを明らかにすることができる。 5. 公衆衛生が達成してきたことを理解し、世界の健康に関連する負担を軽減するためのコミュニケーション能力を発展させることができる。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目 看護学 領域	健康推進科学特論	疾病予防及び健康保持・増進(ヘルスプロモーション)の概念の理解を深める。具体的には国外における環境と健康に関連する最新の英語文献を講読し、分析討議を行うことで、修士論文の作成並びに将来の研究能力、さらに保健・医療職としての実践活動能力を習得する。	
	健康情報学特論	疾病のリスクファクターや健康増進につながる知識など、健康に関わる情報を「健康情報」とよぶ。健康情報を実際に生み出すだけでなく、健康情報を生み出す方法や健康情報の質の評価、流通の状況や問題点などを研究するのが「健康情報学」である。健康情報学特論では、従来からの疫学や保健統計学を基礎に、著しく発達した情報通信技術を活用することを考慮しながら、健康情報学の基本的な事項について、事例を交えながら認識を深めることを目指す。	共同
	基礎看護方法学特論	看護の本質・倫理等に関する理論・知識を関連文献から理解を深め、看護の実践への適用を考える。また、看護の実践活動に必要な看護ケアに関する研究文献を読み理解を深めるとともに、実践への適用を考える。さらに、自己の研究の課題を見出すとともに研究方法の基礎を理解する。	
	助産・母性看護方法学特論	(概要) 性別を越えてライフサイクル各期のReproductive Health Rightsおよびsexualityに関する対象者および家族、親子関係形成期であるマタニティサイクルにある対象者の特性および健康課題解決に関連する概念・理論・最新の知見を理解し、助産・母性看護学の対象者への看護の有り方や看護の質向上について具体的に考える能力を養う。また、健康課題・健康課題解決に向けて、多職種連携および協働・共同、地域包括ケアを踏まえて看護への具体的展開を論じることが出来る能力を養う。 (オムニバス方式／全15回) (31 大平 光子／12回) ガイダンス及び質問紙調査について、講義をする。 (251 崎山 貴代／2回) 不妊カップルの支援、家族看護について、講義をする。 (250 佐々木 くみ子／1回) 親子関係の支援について、講義をする。	オムニバス方式
	小児看護方法学特論	小児の健康に関する多様な問題について、遺伝学や脳科学の最新の知見を含めた学際的な知見を活用し、生態学的健康の視点から考察する。また、小児の歴史的・社会的背景を踏まえ、「子どもの権利条約」の理念と実効性を学習し、社会の中で生る子どもの健康と幸福を、社会との相互作用の観点から考察する。子どもの健康を、環境との相互作用から包括的に捉え、「小児の健康と幸福」へのアプローチする研究方法について考究する。	
	成人看護方法学特論	これまでの臨床実践を振り返るとともに、病者の側からとらえる視座を学び、慢性病の看護において医学モデルからの転換を図る。加えて、慢性病特有の複雑で解決困難な問題とその背景及び慢性病をもつ人の行動の理解を深めるフィールドワークの方法、病いの説明モデル、そして、苦悩に迫るナラティブ・アプローチについて学ぶ。	共同
	成人健康学特論	がんを中心とした成人疾患に対する知識と理解を深め、その予防法や疫学、環境問題や患者QOL面などに関するエビデンスを示し、考察を加える。また各種疾病の病態生理と診断・治療に関する情報も教授することで、研究計画の立案やアイデアを検討する上で役立てて頂く。講義を中心として授業を進めるが、履修学生からの積極的な質問を中心に全体討論を重ねて理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専攻科目 看護学領域	老年・がん看護方法学特論	がんサバイバーが有する課題について、がん看護学の視点から捉え、関連する概念や理論、がん治療、症状緩和法などの知識を得て、がんサバイバーに対する支援を考察する。	
	精神保健看護方法学特論	精神保健看護学領域と関連する課題を取り上げ、分析考察し、プレゼンテーションと討議を通して深め、精神保健看護的な見方を通じた検討力を高める。	
	地域・在宅看護方法学特論	生活習慣病や慢性疾患、障害を有する人への支援における特徴的・代表的理論を解釈し、その基礎的な応用と実践へ活用した文献を精読し、生活意欲を高めるセルフケアにおける保健行動と行動変容における周辺理論を用いた研究の動向を把握できる。	
	地域・学校看護方法学特論	学校における保健室を中心とした看護活動および地域の中にある学校から地域へひろげる健康の保持増進のための活動の課題と構築方法、学校と地域連携のあり方について学ぶ。	
	健康情報学解析特論	個人の特性(行動を含む)や、その個人を取り巻く環境の特性について、数多くのデータがある。また、人間集団について、個人特性の分布(時間的・空間的変動を含む)に関するデータもある。その中には、個人の健康に関するデータも含まれている。健康情報学解析特論では、個人の健康に関わるデータ(特性や分布)が他のどのようなデータと関連し、影響を受けているかを分析するための考え方やモデル(認識枠組み)について理解し、分析手法(数理的・統計的手法)について、その基本的なスキルを身に付ける。	
	看護学教育特論	看護学教育の基盤、職業的アイデンティティの構築、学習理論・動機付け、教育方法、教育評価について、基礎教育から生涯教育/現場教育まで、その理論や実践への応用について理解を深める。また、臨床現場におけるスタッフ教育や患者教育についても学び、具体的なコミュニケーションスキルのトレーニングも取り入れる。さらに、看護実践能力の向上について、教育カリキュラムや教育プログラムの構築の仕方学ぶ。	
	健康推進科学特別演習	疾病予防及び健康保持・増進(ヘルスプロモーション)の概念の理解を深める。具体的には国内外において、環境と健康及び食生活と健康との関連について、最新の文献や論文を講読し、批判的に分析討議を行うことで、修士論文の作成並びに将来の研究能力、さらに保健・医療職としての実践活動能力を習得する。	
	健康情報学特別演習	本演習では、健康情報学特論で身につけた健康情報学の基本的事項をもとに、健康情報学の個別の研究に題材をとりつつ、健康情報学のさまざまな具体的な技法を学びながら、知識を広げ、スキルを磨くことを目指す。取り扱う技法としては、統計的なデータ解析の手法(一般化線型モデルや構造方程式モデリングなどの多変量解析を含む)のほか、コンピュータによるシミュレーションなども取り扱う。	
	基礎看護方法学特別演習	人々の健康にかかわる看護実践学の特質について、看護の対象、看護の本質、看護の倫理、等に関する文献を通して講究する。関連文献から興味ある文献を選択し、内容を要約し、考察する中で、研究分野の基礎知識を習得し、最新の研究動向を理解する。	
助産・母性看護方法学特別演習	国内外の研究論文を通して、reproductive health 及びsexuality における健康課題、マタニティサイクルにある対象者に対する援助方法における新しい知見について理解を深めるとともに研究のプロセス及び主な研究デザインについて理解する。また、先行研究や文献における研究課題の追究に適した研究方法の選択、研究における倫理、結果の解釈、考察の適切性について、批判的に吟味する基礎的能力を養う。第1回から8回はゼミナール形式で基本的事項については講義を行う。第9回から15回は学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心に展開する。	共同	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目 看護学 領域	小児看護方法学特別演習	小児の健康に関する研究に必要な基礎的能力を涵養するために、疫学研究、臨床研究の基礎を学習する。リサーチ・クエスチョンの構造化に必要なPICO/PECO (Patient, Exposure/Intervention, Comparison, Outcome)を、先行研究の検討を通して学習する。また、サンプルサイズの計算、尺度と各種統計法の関連、多変量解析について統計ソフトSASを用いた演習を行う。	共同
	成人看護方法学特別演習	慢性病及び慢性に経過する症状や障害をもつ人々及びその家族の病いや障害をもって生きるという体験を理解し、疾病や障害の個人や家族への影響を理解する理論や概念を学ぶ。加えて、個人や家族がもつ苦悩や療養行動の悪化を生み出す悪循環とその背景を理解し、この解決のために家族のサポートを引き出し、個人・家族が成長できるような支援方法について学ぶ。	
	成人健康学特別演習	生活習慣病(特に悪性腫瘍)及び急性期医療に関して、各々の病態に対する現在及び未来へ向けた問題提起を行い、これら関連分野における受講者の現時点で考えている研究課題に即したデータ収集方法並びに研究・解析方法を演習する。また、各自の研究課題について、研究計画の立案や研究方法及び論文作成、文献レビューの仕方等について指導する。特に、がん患者の抱えた臨床課題への解決やQOLを向上させる支援方法やその対策についてEBMの面から検討できる能力を養う。本演習での指導を通して、受講者が立案した研究課題を、よりの確かな修士論文が作成できるよう指導する。	
	老年・がん看護方法学特別演習	高齢者、がん患者・サバイバー及びその家族が有する健康課題とその解決策について、文献検討により理解を深め、取り上げた文献において用いられている方法論、結果の解釈、考察の適切性について批判的に読む能力を養う。	
	精神保健看護方法学特別演習	精神看護学、精神保健に関する先行研究レビューを行い、プレゼンテーション、討議によって精神保健看護学領域の知識を得て、研究的視点、上級ケア実践者としてのケアの視点を習得する。	
	地域・在宅看護方法学特別演習	地域看護学の領域における関連する研究プロセスを自身の研究課題に当てはめ、既存研究を踏まえた実際的な研究計画の立案と実施における方法と技術を学ぶ。	共同
	地域・学校看護方法学特別演習	人々の健康に関わる課題、および衛生行政、教育行政における健康の保持増進に関する課題をそれぞれの専門分野の役割から考察し、具体的な活動課題を検討する。さらに、活動課題に対して、実践を評価する理論・方法を学ぶ。実践または既存のデータを活用しながら健康課題の解決方法の評価指標のあり方への考え方を深める。また、実際の事業を通じて、自治体・学校等活動の場による特質や、役割を学び、実践能力を高める。	共同
	健康推進科学特別研究	疾病予防及び健康保持・増進(ヘルスプロモーション)の概念の理解を深め、個別研究テーマについて、修士論文の作成並びに将来の研究能力を獲得し、さらに保健・医療職としての実践活動能力を習得する。	
	健康情報学特別研究	健康情報学特別研究では、健康情報学特論・健康情報学特別演習で身につけた健康情報学の基本的知識・基本的研究スキルをもとに、健康情報学において受講者の選択した研究課題に取り組み、教員の指導のもとで学術論文の作成を行う。	
	基礎看護方法学特別研究	基礎看護論文を執筆するための基礎的知識を習得し、研究テーマを明確化した上で研究計画、データの収集方法並びに論文作成の基礎的能力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目 看 護 学 領 域	助産・母性看護方法学特別研究	ライフサイクル各期にある対象者のReproductive Health Rights及びsexuality又はマタニティサイクルにある対象者の健康課題の特性や健康課題解決に向けた各自の研究課題について、研究課題に関連する概念・理論・最新の知見や文献を批判的に吟味し、適切な研究方法を用いた研究計画を立案して、修士論文作成に向けた研究を遂行する能力を養う。第1回から第8回の研究のプロセスの理解及び研究課題に適した研究方法の吟味についてはゼミナール形式で学生のプレゼンテーションを中心に展開する。第9回から15回は研究疑問から研究計画書及び倫理審査申請書を作成できるよう学生のプレゼンテーションにより研究計画を検討する。	
	小児看護方法学特別研究	小児看護に関連する研究課題について、研究を通して解決に至る能力を涵養する。関心領域のリサーチ・クエスチョンを、研究目的・仮説へと洗練させるための文献検索と文献検討について指導する。研究倫理(研究参加者の保護、科学的原則の遵守等)の厳格な遵守に基づき、研究計画を立案・実施し、解析過程を通して、各種統計法や質的研究の分析法を習得する。研究結果と先行研究の知見を考察し、研究の意味と重要性を理解する。	
	成人看護方法学特別研究	各自の研究課題について、そのresearch questionの解決に向けた研究計画の立案、研究方法及び論文作成、文献のクリティカルレビュー等について指導する。特に、成人老年期の人々の健康問題の解決やニーズ調査、患者や家族の行動変容を促し、QOLを高める援助方法の調査・開発、緩和ケアにおけるQOLを高める援助方法の検証や開発、費用対効果の高い医療提供体制の構築と改善など、国際的視野に立って検討できる能力を養う。	
	成人健康学特別研究	生活習慣病(特に悪性腫瘍)及び急性期医療に関する分野において、受講者自らが立案した研究課題に基づいて、研究的デザイン、すなわち研究目的とその研究方法を完成させる。また得られた結果において、先行研究と比較検討することで、本研究成果を整理し考察する等、修士論文を完成できるよう指導する。特に、がん患者の抱えた臨床課題への解決策やQOLを向上させるための支援方法やその対策について、EBMの面から検討を加えることで臨床への十分に貢献できるような研究となることを目指す。	
	老年・がん看護方法学特別研究	老年看護学・がん看護学領域の文献により研究課題を明確にし、適切な科学的手法を用い、課題を解決する過程を経て研究の基礎的能力を養う。	
	精神保健看護方法学特別研究	精神保健看護学領域の文献により研究課題を明確にし、適切な科学的手法を用い、課題を解決する過程を経て研究の基礎的能力を養う。	
	地域・在宅看護方法学特別研究	地域看護学領域での研究とは何かを理解し、専門分野における研究のデザインから実施・論文作成・成果発表までの研究プロセスを主体的に進められる能力と技術を習得する。	
	地域・学校看護方法学特別研究	地域・学校における研究の実施を通じて、関係職種との連携調整方法、手続き・倫理的配慮、研究結果の実践への活用について学ぶ。また、研究のまとめや課題を明らかにする能力を養う。	
	看護理論	卓越した看護実践の基盤となる看護の諸理論の発展過程とその特徴を理解し、看護実践の場における現象の理解と援助方法への適用を考察し、専門看護師の役割遂行における看護理論の位置づけを明確にする。	共同
	看護研究	専門看護師が卓越した看護実践を行ない、専門知識と技術の向上を図るうえで必要とする現象を科学的に分析する技法、及び現象を論理的に記述する手法を、看護研究法を通じて学習する。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目 看護学領域	看護倫理	コールバーグやギリガン等の理論を学び、倫理に関する基礎的理解を深める。倫理の歴史的発達を、人権に関する条約等の成立過程から考究する。専門看護師として、倫理に関する理論と倫理的意思決定法に関する知見を、多様な事例を通して得る。看護実践における倫理的問題・葛藤に対する意思決定法を学び、専門看護師として実践応用できる。倫理的問題の解決過程における関係者間倫理調整法を学び、専門看護師として実践応用できる。	共同
	コンサルテーション論	コンサルテーションの基本概念をふまえ、看護分野におけるコンサルテーションに関連する理論及び技術を習得する。また、模擬コンサルテーション、事例分析を通して看護職を含むケア提供者に対するコンサルタントの実際を理解する。	共同
	臨床薬理学	高度な看護実践へ活かすため、薬剤の投与・管理に必要な薬理学の基礎である薬物の作用・力学、薬物動態、薬物代謝について、理解を深める。 また、緊急応急処置、症状マネジメント、慢性疾患管理に必要な薬剤の使用判断と投与管理を理解し、患者の服薬管理能力を高めるための知識と技術を養う。	共同
	フィジカルアセスメント	高度実践看護師に必要な、身体・心理(精神)を含めたヘルスアセスメントの方法を学び、特に複雑な健康問題をもった対象の身体状況を診査し、臨床判断を行うために必要な知識と技術を習得させる。このため、ヘルスアセスメント及び身体診査技法の基本を学んだ後、Advanced Physical Assessmentとして専門的な領域のアセスメント技法、異常結果等の解釈を学ぶ。 また、小児や高齢者の場合の特徴や血液や尿検査結果の判断を学ぶとともに、身体診査結果、検査結果、精神の総合的な解釈について理解を深める。	
	病態生理学	対象に起こり得る主な疾病や症候の原因・要因、危険因子、メカニズムを理解し、病態生理学の知識を深める。 また、対象の病態生理学的変化を把握、モニタリング、管理するために必要な情報を理解し、エビデンスに基づく解釈と判断を行い、高度な看護実践へ統合するための知識と技術を身に付ける。	共同
	がん看護学特論1	がんの要因・発生・病態生理について、疫学、分子生物学、免疫学、遺伝学の観点から理解し知識を深める。 また、がんの発生・病態生理学に基づき、がん看護の特定領域における専門的な医学的知識を探求する。	共同
	がん看護学特論2	がんの専門的な看護を実践する上で、基盤となる主要な概念・理論並びにその活用について探求する。 また、がん患者とその家族を全人的に捉え、がん看護実践に役立つ関連学問領域の概念・理論を探求する。	共同
	がん看護学特論3	がんの予防、早期発見、病名・予後告知、治療の選択、診断、治療過程に関する最新の知識を得て、患者が有する複雑な健康問題に対し、包括的な支援を提供するための看護援助法を探求する。 また、がんの診断、治療の原理を理解し、それに伴う患者や家族の反応へ適切に対処するために、アセスメント、身体管理、看護援助を学ぶ。	共同
	がん看護学特論4	がんがもたらすあらゆる苦痛症状及び苦悩を包括的に理解し、ケアとケアを統合したエビデンスに基づく援助を提供する能力を身につけ、リソースを活用した介入の展開法を探求する。 また、End of Life Care、家族のグリーフワークを学び、終末期がん患者・家族のQOL維持向上に寄与する援助法を探求する。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目 看護学 領域	がん看護学特論5	がん放射線治療を受ける患者の急性期と晩期の有害事象及び苦悩のアセスメント法及び予防・緩和法を理解し、治療の継続、治療中の患者の安全・安楽をはかりつつ、最大限の治療効果が得られるような援助法とセルフケア能力を高める方略を探求する。 また、放射線防護の原則を理解し、教育・相談活動の実際を理解する。	
	がん看護学演習1	がん薬物療法を受ける患者の急性期と晩期の有害事象及び苦悩とアセスメント法を理解する。 がん薬物療法がもたらす急性期と晩期の有害事象及び苦悩を予防・緩和し、治療の継続、治療中の患者の安全・安楽をはかりつつ、最大限の治療効果が得られるような援助法とセルフケア能力を高める方略を探求する。	
	がん看護学演習2	がんがもたらす苦痛症状及び苦悩を理解し、アセスメント法を探求する。 また、がんがもたらすあらゆる苦痛症状及び苦悩を予防・緩和するため、薬物療法や代替・補助療法、心理社会的、霊的な支援などを用い、ケアとキュアを統合した包括的な援助法を開発する。	共同
	がん看護学実習1	がん医療における診断、治療に伴う臨床判断の実際を学び、臨床判断能力と身体管理能力を養うことを主な目標とし、診断、治療に伴う臨床判断に必要な情報を正確に収集する知識と技術を身につけ、エビデンスに基づき、対象の意向も考慮した上で、的確な臨床判断と身体管理を行う能力を身につける。	
	がん看護学実習2	エビデンスに基づく高度ながん看護実践能力を身につけることを主な目標とし、がん看護領域において焦点を当てる領域であるサブスペシャリティを開発・発展させ、がん患者への卓越した直接ケアを習熟し、更に、看護実践の中で理論と実践の融合を図りつつがん看護専門看護師としての基礎的な態度や判断能力、実践能力を身につけることを目的とする。また、学生は課題研究に結び付けられる課題を見出すことができるよう問題意識を持って取り組む。	共同
	がん看護学実習3	がん医療における地域連携の実際を通じ、がん患者・家族へ適切な治療・療養支援を提供する多職種・多施設間の緊密な連携を理解することを主な目標とし、多施設・多職種が協働して支援を提供するがん患者・家族への理解を深め、がん患者の病態や治療、支援資源を考慮し、課題と必要な支援を見出し、更に、多施設・多職種が協働し支援計画を立案、実施する過程の見学・参画を通じ、がん患者・家族へ必要な支援をタイムリーに提供する地域連携の方略を学ぶ。	共同
	がん看護学実習4	がん看護専門看護師としての役割遂行能力を養うことを主な目標とし、がん看護専門看護師の実際の活動を通じ、がん看護専門看護師の役割(実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究)を学び、活動戦略及び役割開発などの今後の発展について考察することを目的とする。	
	がん看護学実習5	がん看護専門看護師としての役割遂行能力を養うことを主な目標とし、これまでの講義や実習で学んだ内容について、学生がサブスペシャリティとする領域における実践を生かしながら、対象のニーズに応じたがん看護専門看護師としての役割を実践することにより、総合的ながん看護専門看護師の役割遂行能力を養う。	共同
	がん看護学課題研究	特論・演習・実習を通して特定の研究課題を明らかにし、適切な研究方法を用い、がん看護実践の発展に貢献できる知見を研究論文としてまとめる。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目 看護学領域	慢性疾患ケア看護学特論 1	わが国及び諸外国の保健・医療・福祉・介護保険制度における慢性疾患ケアの位置づけと問題点、新たなシステムの構築の必要性や、慢性疾患をもつ人々のQOLや臨床アウトカムを向上させるための疾病管理及び慢性疾患ケアモデル及び向上に必要なEBCP(Evidence-based Clinical Practice)を学ぶ。 また、慢性疾患ケアの継続的質改善のためのアウトカムマネジメント、アウトカムマネジメントに必要なITの活用とデータマネジメント及びそれに関する倫理について学ぶ。 さらに、医療施設又は地域資源を利用する慢性疾患をもつ人々に対するサービス提供体制の再構築に向けて専門看護師の取る役割について学ぶことにより、慢性疾患患者・家族に対するケア提供システムの分析と改善ができるようになることを目指す。	共同
	慢性疾患ケア看護学特論 2	慢性疾患をもつ人々のQOLや臨床アウトカムを向上させるためのベストプラクティスを継続的に提供するための治療療養環境整備の手法について学ぶ。 ケアの連続性を確保するための仕組み--医療機関と職域・地域保健との連続、一次予防から三次予防のケアの連続、急性期から終末期までの連続の視点から、地域包括ケアシステムの活用と構築について学ぶ。 質の高い生活を導くための、治療療養環境整備と地域社会資源の調整・活用(ナーシングケースマネジメント)の方法を学ぶ。 治療環境の整備や地域社会支援の調整に向けた専門看護師の役割、組織の中での動き、倫理問題への対応を学ぶ。	
	慢性疾患ケア看護学特論 3	慢性病及び慢性に経過する症状や障害をもつ人々及びその家族の病いや障害をもって生きるという体験を理解し、疾病や障害の個人や家族への影響を理解する理論や概念を学ぶ。加えて、個人や家族がもつ苦悩や療養行動の悪化を生み出す悪循環とその背景を理解し、この解決のために家族のサポートを引き出し、個人・家族が成長できるような支援方法について学ぶ。	
	慢性疾患ケア看護学特論 4	慢性病をもつ個人、家族及び集団に対し、疾病のさまざまな変化する時期に対応した優れた看護ケアが提供できるよう、その専門的支援技術と評価方法に関する理論や方法論について学ぶ。特に、個人、家族、集団に対する慢性病の予防、診断・治療にともなう専門的看護支援やセルフマネジメント支援について学ぶ。	共同
	慢性疾患ケア看護学特論 5	慢性病をもつ個人及び家族に対し、疾病/障害の特徴及び疾病のさまざまな変化する時期に対応した優れた看護ケアが提供できるよう、その専門的支援技術と評価方法に関する実際の方法を学ぶ。特に、複雑な機能障害を伴う長期療養の必要な患者とその家族/介護者のQOL向上に向けた専門的支援について学ぶ。	共同
	慢性疾患ケア看護学演習 1	慢性疾患をもつ人のヘルスアセスメントを学ぶことで、問題解決技法を身に付ける。 また、代表的な慢性疾患の病態生理と診断基準、疾病ステージに応じた治療/薬物等管理について学ぶ。加えて、治療やケア選択の判断根拠となる基準等について学ぶ。 さらに慢性疾患をもつ人の社会資源の活用及び治療環境に関するニーズアセスメント及びナーシングケースマネジメントについて学ぶ。	共同
	慢性疾患ケア看護学演習 2	学生は、選択したサブスペシャリティ領域における慢性に経過する疾病をもつ成人の重症化予防・症状マネジメント、QOL向上のために必要な高度看護実践技術を習得する。 また、選択したサブスペシャリティ領域において、患者に最善のアウトカムを導くために必要な高度看護実践技術を習得する。 学生は、身に付けるべき技術について計画を示し、それに基づいて、学内演習に加え、病院の専門外来・専門部署、診療所、訪問看護ステーション等に赴き実践を強化する。また、これらの実践に必要な理論やモデルを習得する。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目 看 護 学 領 域	慢性疾患ケア看護学実習 1	<p>さまざまな問題を抱える慢性疾患をもつ者及びその家族に対して、理論的・倫理的基盤に基づいた高度な専門看護実践を展開する能力を養うとともに、慢性疾患看護領域での教育支援、コンサルテーション、コーディネーション能力を身に付ける。加えて、慢性疾患看護領域での家族を含む患者集団のケアの質向上のためのアウトカムマネジメントを現場の管理者及びスタッフと連携して開始し、ベストプラクティスを提供するためのChange Agentとしての手法の基礎を身に付ける。</p> <p>本実習では、慢性疾患看護専門看護師の役割と機能、組織から期待されること、及び組織内外との連携調整等を含む専門看護師に必要なコミュニケーションスキルを学ぶ。慢性疾患看護専門看護師に必要なスキルのうち、実際の看護ケアの提供を通して、高度な実践能力を身に付ける。</p>	共同
	慢性疾患ケア看護学実習 2	<p>さまざまな問題を抱える慢性疾患をもつ者及びその家族に対して、理論的・倫理的基盤に基づいた高度な専門看護実践を展開する能力を養うとともに、慢性疾患看護領域での教育支援、コンサルテーション、コーディネーション能力を身に付ける。加えて、慢性疾患看護領域での家族を含む患者集団のケアの質向上のためのアウトカムマネジメントを現場の管理者及びスタッフと連携して開始し、ベストプラクティスを提供するためのChange Agentとしての手法の基礎を身に付ける。</p> <p>本実習では、慢性疾患患者のセルフマネジメントを促進し、増悪を予防・改善し、QOLを高めるために、高度実践看護師として必要な診断と治療について学ぶ。</p>	
	慢性疾患ケア看護学実習 3	<p>さまざまな問題を抱える慢性疾患をもつ者及びその家族に対して、理論的・倫理的基盤に基づいた高度な専門看護実践を展開する能力を養うとともに、慢性疾患看護領域での教育支援、コンサルテーション、コーディネーション能力を身に付ける。加えて、慢性疾患看護領域での家族を含む患者集団のケアの質向上のためのアウトカムマネジメントを現場の管理者及びスタッフと連携して開始し、ベストプラクティスを提供するためのChange Agentとしての手法の基礎を身に付ける。</p> <p>本実習では、慢性維持期、回復期又は終末期にある慢性疾患を有する患者及びその家族への、在宅での支援方法を学ぶ。また、この実習を通して、急性期から終末期までの医療・看護の連続性と医療機関と在宅との連携、医療システム全体を俯瞰できるようになる。</p>	
	慢性疾患ケア看護学実習 4	<p>さまざまな問題を抱える慢性疾患をもつ者及びその家族に対して、理論的・倫理的基盤に基づいた高度な専門看護実践を展開する能力を養うとともに、慢性疾患看護領域での教育支援、コンサルテーション、コーディネーション能力を身に付ける。加えて、慢性疾患看護領域での家族を含む患者集団のケアの質向上のためのアウトカムマネジメントを現場の管理者及びスタッフと連携して開始し、ベストプラクティスを提供するためのChange Agentとしての手法の基礎を身に付ける。</p> <p>本実習では、慢性疾患看護領域の実践を通して、組織の中で、患者・家族及び患者集団の臨床アウトカムとQOLの向上に向けた働きかけができる。具体的には、専門看護師として、看護師及び他の職種へのコンサルテーションや関連職種・社会資源のコーディネーション能力の基本を学ぶ。また、倫理的な問題や葛藤の解決を図る能力の基本を身に付ける。</p> <p>また、組織を分析し、戦略を組み立てる手法を学び、実習最後の段階では、実習Ⅴに向けた、臨床アウトカムを向上させたい領域を特定できる(change agentとしての基盤形成の準備を行う)。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目 看護学 領域	慢性疾患ケア看護学実習 5	さまざまな問題を抱える慢性疾患をもつ者及びその家族に対して、理論的・倫理的基盤に基づいた高度な専門看護実践を展開する能力を養うとともに、慢性疾患看護領域での教育支援、コンサルテーション、コーディネーション能力を身に付ける。加えて、慢性疾患看護領域での家族を含む患者集団のケアの質向上のためのアウトカムマネジメントを現場の管理者及びスタッフと連携して開始し、ベストプラクティスを提供するためのChange Agentとしての手法の基礎を身に付ける。 本実習では、臨床アウトカムの向上に向けたアウトカムマネジメントの取り組みを現場スタッフと実施し、組織の管理者との連携のもと、変化を起こす役割(Change Agent機能)を学ぶ。加えて、看護職に対し、看護ケアを向上させるための教育・相談・研究指導を学ぶ実践を行う。	共同
	慢性疾患ケア看護学課題研究	博士課程前期修了者(看護学修士取得者)としてふさわしいよう、自ら研究が展開でき、かつ他のスタッフの指導ができる基礎知識を身に付ける。 理論的・倫理的基盤に基づき、慢性病者及びその家族の療養生活の向上、問題解決につなげるための研究手法の基本を身に付ける。	共同
	健康情報学教育演習	健康情報は、観察データにより検証することによって、その真偽を判断することができる。それを行うためには、統計学的・疫学的な分析手法を学ばなければならない。健康情報学教育演習では、健康情報の検証に必要な分析手法を、学習者に対してどのように教育することが望ましくかつ有効であるか、実際に教育現場にふれることを含めて、理解と経験を深める。	
	健康開発科学教育演習	環境と健康及び食生活、運動、休養と健康との関連について、最新の文献や論文を講読し、批判的に分析討議を行うことで、疾病予防及び健康保持・増進(ヘルスプロモーション)の概念の理解を深める。さらに学術論文の作成並びに将来の研究能力に加えて、保健・医療職としての実践活動能力の向上を目指す。	
	基礎看護方法学教育演習	看護の本質・倫理等に関する理論・知識並びに看護の実践活動に必要な看護ケアについて、実践への適用を理解する。さらに、それらを教授する上で効果的な教授方法を自ら探求できる能力を身に付ける。また、看護学教育課程における基礎看護学の位置づけを理解し、学習指導計画および教材作成を修得し、講義並びに演習における展開方法を習得する。	
	助産・母性看護方法学教育演習	看護学教育特論で修得した教育方法及び教授-学習過程を基盤として、助産・母性看護分野の実際の授業及び演習において教授-学習過程を展開する。また、教授-学習過程と授業リフレクションを通して、展開した教授-学習過程における学習者の学びのプロセス、自身の教育的関わりについて学び、教育観を涵養する。	
	小児看護方法学教育演習	小児看護実践における教育の理論とアプローチ法について、内外の基本的な知見と、先駆的な取組みを紹介し、小児看護の教育法を先行研究の検討を通して学習する。また、小児看護学の教授法として、講義・演習・実習で構造化した学習内容の精選と発展を、多様な演習を通して学習する。小児の知見の統合による講義案の作成、小児看護技術に関する講義と演習を通しての実習への展開へと、具体的な立案作業を実施し、教育技法を習得するとともに、カリキュラムの構築について学習する。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目 看護学領域	成人健康学教育演習	成人看護学（特に急性期，周手術期やがん外科治療）における研究を進める上での方法論について指導する。特に成人健康学教育演習では，当該領域の臨床現場での問題・課題について，最新の先行文献や著書等を参考にしながら，それらの解決策・対処案等について一緒に考える。更にそれらを臨床現場へ応用し，実践できる能力の獲得を目指すとともに，後進の医療職者へのエビデンス（EBM）に基づいた教育指導技術も習得できるよう教授する。	
	成人看護方法学教育演習	臨床での患者教育，さらにはセルフマネジメント教育を中心に，理論を基に臨床応用の具体についてトレーニング，フィードバックを行う。	
	精神保健看護方法学教育演習	精神疾患をもつ者及びその家族に対する診断，治療に伴う臨床判断と看護ケアの実際，社会復帰支援について学ぶ。また実践に必要な理論やモデルを習得する。さらに臨地実習学生指導のための課題と必要な支援の基本を身に付ける。	
	地域・在宅看護方法学教育演習	健康づくりや予防活動，在宅療養における訪問看護などの場で実践される看護活動を理解し，教育的指導を行う方法論を用いて教育計画をまとめることができる。	
	地域・学校看護方法学教育演習	通常の生活をしている様々なライフステージにある人々への健康支援は，対象のニーズを把握しつつ，予防活動として将来を見据えた潜在的課題も解決する必要がある。これらの活動の特徴を捉え，学習者に対してどのように教授するかを学習する。特に，対象の発達段階や，ニーズ，多様性に関して，学習者の学習段階に応じた到達目標の設定についても学ぶ。	
	老年・がん看護方法学教育演習	高齢者及びがん患者へ質の高い看護を提供するためには，対象の特徴的な健康課題を理解し，的確なアセスメント能力と，健康課題を有する対象への適切な援助法を身に付けることが必要である。そのためにどのような教育方法が効果的か，実際の教育場面を通じ，理解と考えを深める。	
	健康情報学臨地教育実習	医療従事者を養成するための教育の一環として行われる実習においては，カルテ情報などたくさんの個人情報にふれることになる。これらを適切に取り扱い，また，その情報の持っている価値を十分に発揮できるように利用するためには，個人情報の保護に関する倫理的な視点からの理解が不可欠である。健康情報学臨地教育実習では，実習を受ける学習者が，適切に個人情報を取り扱うための教育上の重要なポイントについて，実際に教育現場にふれることを含めて，理解と経験を深める。	
	健康開発科学臨地教育実習	疾病予防及び健康保持・増進（ヘルスプロモーション）の概念の理解を深め，研究テーマに関連して，実際に地域及び職域における実習を行い，学術論文の作成並びに将来の研究能力の獲得を目指す。同時に保健・医療職として，地域におけるヘルスプロモーションの実践活動能力を向上させる。	
	基礎看護方法学臨地教育実習	基礎看護学は，看護学の学問的基盤であり，看護の対象理解，看護歴史や看護の役割と責務，倫理的側面を有し，看護学の基本的かつ主要な概念，看護理論，基礎看護技術の展開・体系化を図る学問である。臨地教育実習を通して看護の現象を捉え，視野を広げ，看護の本質を探求することで，看護の未来に貢献できる能力を身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目 看護学領域	助産・母性看護方法学臨地教育実習	看護学教育特論で修得した教育方法及び教授-学習過程を基盤として、学生が助産・母性看護分野に関する既習の知識・技術を看護として具現することができるよう、臨地実習における教授-学習過程を展開する。教授-学習過程の展開において、看護実践現場である臨地実習の場で、学生が経験したことを教材化し、学生、実習指導者、教員が学び合う場を創り出す方法を修得する。また、実習における学生・指導者との関わりについて授業リフレクションおよびフィードバックを通して、教授-学習過程における相互性を学ぶ。	
	小児看護方法学臨地教育実習	小児看護学実習の指導を通して、小児看護実習における教育理念を構築し、教育技法を習得する。健康な小児の生活と病児の生活について体験に基づき学ぶ実習を通して、学生が小児保健と小児看護の統合モデルへと学習内容を発展できるよう、教授能力を涵養する。また、学生が看護実践における倫理的視点に着目し、現代の子どもと家族が抱える問題、小児包括ケアの課題へと、看護の役割とあり方を探求できるよう、指導法について学習する。	
	成人健康学臨地教育実習	成人看護学(特に急性期、周手術期や救命救急領域)における課題や対策について学び、実際に教育現場にふれることを含めて、理解と経験を深める。	
	成人看護方法学臨地教育実習	大学病院を中心に、慢性疾患ケアについて、その学生教育、患者教育、フィードバックについて、その方法論の実際を学ぶ。	
	精神保健看護方法学臨地教育実習	精神疾患をもつ者及びその家族に対する診断、治療と看護ケアの実際、社会復帰支援の実際について、病院、外来、デイケア等臨地に赴いて実践能力を養う。臨地実習学生指導を通して教育支援方法について学ぶ。	
	地域・在宅看護方法学臨地教育実習	保健活動や在宅療養における主要活動の場で実践される看護活動を理解し、そこでの教育的指導を行う教育計画に基づき、教育効果を高める指導方法の知識と技術を習得する。	
	地域・学校看護方法学臨地教育実習	住民及び学校における健康増進活動・疾病予防活動における具体的な目的や方法を、学習者が学ぶために必要な情報を実際の活動において収集、まとめることを学び、学習支援の具体的手段について理解する。また、学習者が通常と異なる学習場所において、学習者の状況を理解し、学習者個別の教育計画についても理解する。	
	老年・がん看護方法学臨地教育実習	高齢者及びがん患者への健康と生活の自立を支援するためには、対象の心身の特徴と健康レベルの多様性を理解し、対象のニーズを的確に捉え、それに応じる看護を実践する能力が必要である。併せて、対象の生活を支える保健・医療・福祉施設の役割・機能を理解し、他職種との連携・協働、看護の果たすべき専門的役割と責任を考えることが求められる。ここでは、これらの能力を身に付けるための効果的な教育について、臨地での教育実践を通じ理解と考えを深める。	
	健康情報学総合臨地教育実習	医療機関・地域など保健医療の現場では、健康に関わる項目を含んだたくさんの個人情報を取り扱っている。これらを適切に取り扱い、また、その情報の持っている価値を十分に発揮できるように利用するためには、個人情報の保護に関する倫理的な視点からの理解が不可欠である。健康情報学総合臨地教育実習では、保健医療の現場での適切な情報の取り扱いについて学ぶ学習者が、適切な個人情報の取り扱いについて理解するための重要なポイントについて、実際に教育現場にふれることを含めて、総合的に理解と経験を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目 看護学 領域	健康開発科学総合臨地教育実習	実際の地域及び職域において多職種が協同した実習を行うことで、包括的なヘルスプロモーションの実際を習得する。臨地における疾病予防及び健康保持・増進(ヘルスプロモーション)の実践の理解を深め、保健・医療職としての実践活動能力を向上させ、学術論文の作成並びに将来の研究能力の獲得を目指す。	
	基礎看護方法学総合臨地教育実習	基礎看護学は、看護学の学問的基盤であり、看護の対象理解、看護歴史や看護の役割と責務、倫理的側面を有し、看護学の基本的かつ主要な概念、看護理論、基礎看護技術の展開・体系化を図る学問である。臨地実習において、学習者が理論と実践の統合が可能となるよう、看護実践の総合的能力育成のための教授方法を身に付ける。また、学習者が主体的に自らの役割と機能を自覚し促進できるよう指導し教育できる能力を身に付ける。	
	助産・母性看護方法学総合臨地教育実習	看護学教育特論で修得した教育方法及び教授-学習過程を基盤として、助産・母性看護分野において、学生が保健医療福祉チームの一員として、多職種と連携協働する能力、既習の知識・実習における経験を統合し、看護師としての役割および責務についての理解を深めることができるよう、学生の経験を教材化し、教授-学習過程を展開する。実習における教授-学習過程の展開における、学生・指導者との関わりについて授業リフレクション及びフィードバックを通して、教授学習過程における相互性、臨地実習指導者との連携・協働の戦略についても学ぶ。	
	小児看護方法学総合臨地教育実習	本科目は、小児看護学を総合し、臨床への橋渡しとなる総合実習の教育技法について学習する。総合実習での教育を通し、多職種連携、継続看護、看護実践におけるキャリアラダーを習得するための教育法を学習する。小児とその家族の入院生活を支援する多職種連携、小児とその家族の退院から在宅、復学を支援する多職種連携と継続看護についての教育プログラムの構築法を学習する。また、看護職のキャリアラダーについての教育プログラムを、教育支援と看護管理システムを基盤に構築する。	
	成人健康学総合臨地教育実習	成人看護学(特に急性期、周手術期や救命救急領域)における課題や対策について総合的かつ横断的に学び、実際に教育現場にふれることを含めて、総合的に理解と経験を深める。	
	成人看護方法学総合臨地教育実習	訪問看護ステーションを中心に、在宅での療養支援の実際を、学生教育と患者へのケア(適切なアセスメントと介入、評価)、そのフィードバックについて、実際に学ぶ。	
	精神保健看護方法学総合臨地教育実習	精神疾患をもつ者及びその家族に対する診断、治療に伴う臨床判断と看護ケアの実際、社会復帰支援の実際について、主に大学病院における精神科領域の看護実践と看護管理について学ぶ。さらに臨地実習学生指導を通して教育支援の基本を身に付ける。	
	地域・在宅看護方法学総合臨地教育実習	地域看護と連携する場で働く他職種の専門性と活動の場の特殊性を理解し、看護職の責任と役割を学ぶ学習者の教育効果を高める指導を実践し、教育者としての知識と技術を習得する。	
	地域・学校看護方法学総合臨地教育実習	住民及び学校における健康増進活動・疾病予防活動において学習者が体験することが難しい、予算や倫理規定、長中期的観点、国の施策との連動等について、他職種との連携等の観点から、学習者に対する学習方法を総合的に理解し、実際の実習体験によって経験を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護学 領域	老年・がん看護方法学総合臨床教育実習	臨床における質の高い看護を実践するためには、看護基礎教育課程で学習した基礎的知識と技術を統合することにより、臨床実践応用能力を高めることが必要である。そのためには、看護管理者の役割、チーム医療における看護の役割を理解し、実際の臨床現場で行われている複数の対象に対する看護活動を知ることが必要である。ここでは、これらの知識と能力を身につけるための効果的な教育について、臨地での教育実践を通じ理解と考えを深める。	
	生体構造学特論	近年の研究では、免疫染色、PCR法、電気泳動、ELISA、遺伝子組み換えなど、様々な技術が使われる。論文を読んで正しく理解したり、自分自身の研究を適切に計画し実行するには、各種の実験方法を知っておくことが有用である。また、測定データを正しく評価するには、方法の原理、長所や短所に関する知識が役立つ。これらを理解して、自分の研究を進めたり、文献を読む上で参考にできることを目標とする。	
プログラム 専門科目 保健学 領域	スポーツリハビリテーション学特論	スポーツ外傷の発生状況を学習し、どのようにすれば外傷発生を予防できるか考察する。実際に、スポーツ外傷予防プログラムを考案し、その有効性について討論する。	共同
	生体運動・動作解析学特論	これまでに報告されている研究で示される多くの情報を基に、運動制御により行われる動作群を多角的に分析する手法を学ぶ。また、分析に必要な機器、データの記述及び記録、解析と分析、結果の予測に関する知識を得る。	共同
	生体機能解析制御科学特論	運動時には日常と異なった生体反応が起こるが、運動生理学的観点・理学療法的観点からその反応について習得することを目標とする。	共同
	運動器機能医科学特論	研究テーマに関する最新研究動向を理解し、抄読会の参加を通じて以下のアカデミックなディスカッション能力を身に付ける。 1) 自身の研究遂行に必要な、基礎的知識の整理 2) 近年の研究状況を把握するための効果的な論文検索の方法習得 3) 最新論文を理解するために必要な研究手法/統計解析とその理解を含む研究者としての基礎力強化 4) 相互ディスカッションを通じた、アカデミックな議論方法の習得	共同
	生体環境適応科学特論	生体が様々な環境に適応していくうえで、細胞レベル・組織レベルでの生体反応から、ヒト個体レベルでの適応反応まで、体系的に学習する。具体的には、分子細胞生物学、再生医療、ニューロリハビリテーション、脳機能評価に関して基本的事項から最新の知見までを最新の研究内容を交えて講義する。ヒトの環境適応に関して、細胞レベルから個体レベルまでの知識を幅広く理解することを目標とする。	
	生理機能情報科学特論	看護ケア及びリハビリテーションケアと深く関係する人体生理機能に関する基礎的知識や最新研究の知見を得る。また、科学的なものの方や洞察力を身に付ける。	
	作業行動探索科学特論	作業療法領域の研究分野の基礎知識を修得し、最新の研究動向を理解する 1) 作業療法領域のための基礎知識 ひとの運動、感覚、知覚、認知、心理等の基礎医科学と生活科学 2) 人の行動と保健学、作業療法的研究 3) 生涯発達の視点からみた作業療法研究	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目 保健学領域	作業機能制御科学特論	超高齢社会を迎え、高齢者の生活行為(活動レベル)や参加(役割レベル)の向上を促し、高齢者自身が主体的に生活することを支援することが求められている。様々な視点から高齢者の健康や生活等に関する知識を学ぶ必要があり、これから研究を行うための基本的な知識を習得することを目標とする。 具体的には、前半は、超高齢社会の諸問題、介護予防、こころの健康、認知症予防等をテーマとした講義を行う。後半は、高齢者の生活障害に関連した文献からレジュメの作成とプレゼンテーションを行い、それに基づいた討論を行う。	
	上肢機能解析制御科学特論	上肢、特に手と脳の機能的関連ならびに上肢の動作解析についての文献抄読ならびに専門テキストの通読により基礎知識を習得し、最新の研究動向を理解する。また文献抄読では紹介論文の利点、欠点を検討し、研究計画の手法、論文作成方法の基礎を学習する。さらに適切な質疑応答の手法についても学習する。	共同
	精神機能制御科学特論	精神(心理・社会的側面を含む)機能の障害をリハビリテーションの立場から捉え、その概念、評価法や治療法についての知識を、文献抄読や討論などを通して習得することを目標とする。そのために、まず精神障害者、認知症を含む高齢者、がん・終末期患者に対する心理・社会的リハビリテーション領域に関する基礎的知識を標準的な教科書により体系付ける。その上で、各種の評価法や治療法について、国・内外の最新の文献を抄読しながら、その理論と方法について論述する。	
	感覚運動神経科学特論	感覚運動系機能の回復を促通するニューロリハビリテーションに関連する最新の論文を精読し、その概要を他者に説明する、すなわち抄読会の当番をつとめるために必要な基礎知識を習得することを目標とする。まずは、ヒトの随意運動を制御する感覚運動系システムの基礎について解説する。次いで、ニューロリハビリテーションで用いられる機器、方法に関する解説を行う。さらには神経の可塑性の存在について議論され始めた1990年代から現在までのニューロリハビリテーションの変遷について解説する。	
	生体構造学特別演習	国内外の文献や本などから保健学に関連深いものを選び、1文ずつ精読して正確に意味を理解する能力を養う。また、教材に書かれている内容に関連した事項について適宜解説を加える。	
	スポーツリハビリテーション学特別演習	スポーツ外傷の発生状況を学習し、どのようにすれば外傷発生を予防できるか考察する。実際に、スポーツ外傷予防プログラムを考案し、その有効性について討論する。	
	生体運動・動作解析学特別演習	身体運動・動作の分析対象の課題を詳細に検討し、結果を理解・考察する。 また、最終回終了時には、修士論文作成を視野に入れた研究に着手可能な知識、技術、実行能力を体得する。	
	生体機能解析制御科学特別演習	内部障害患者及び高齢者に対する運動療法について、最新の文献を購読するとともに、運動処方論や実際の理学療法について、より専門的な知識・技術の習得を目指す。	
	運動器機能医科学特別演習	運動器に関わる筋・骨格系/神経系の解剖学的知識整理と演習を通じた3次元構造理解から、生体機能の考察を行う。 1) 解剖学アトラスほか解剖学関連書籍から、知識の整理を行う 2) 骨格標本、脳標本等を用いて3次元構造の理解を深める 3) 相互ディスカッションを通して解剖学知識の共有と、その臨床適応を目指す。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目 保健学領域	生体環境適応科学特別演習	細胞レベルから個体レベルまでの専門的な知識の取得・整理, 基本的な研究手法の習得を目的とする。抄読会を通して, 最新の専門的な知識を習得するとともに, 論文検索手法, プレゼンテーション能力, ディスカッション能力等の研究に必要な基本的技能の習得も目指す。	
	生理機能情報科学特別演習	生理機能学に関する最新専門知識の理解や英文の読解力を養う。 また, 研究計画の立案, データの科学的な取り扱い方及び英語論文の書き方を学ぶ。	
	作業行動探索科学特別演習	高齢者のQOL(生活の質)向上を目的とした評価や介入に関する知識を習得すると同時に, それらを研究に応用する能力を養うことを目標とする。具体的には, 高齢者に関連する作業療法介入等に関する国内外の論文を抄読して, これらを通して研究を計画し, 評価・介入できるように討論を行う。現在, 課題となっている地域在住高齢者の介護予防, 認知症高齢者に対する作業活動の効果等に関する介入等をテーマとする。	共同
	作業機能制御科学特別演習	高齢者のQOL(生活の質)向上を目的とした評価や介入に関する知識を習得すると同時に, それらを研究に応用する能力を養うことを目標とする。	
	上肢機能解析制御科学特別演習	上肢特に手の三次元動作解析方法, 筋電図学的検査方法, 脳機能マッピングや大脳に対する低侵襲直接刺激法などの大脳生理学的実験方法を理解し, 実際に計測を行いデータの収集を行う。また, 取得したデータの解析方法を習得し, 実践する。統計学的解析方法を学習し, 自身の研究計画に適切な解析方法の選択方法と実際の解析を行うことができるようにする。グラフや表の作成法についても理解し実践する。	
	精神機能制御科学特別演習	精神(心理・社会的側面を含む)機能の障害に対するリハビリテーションの評価についての技術を習得するとともに, それらを研究に応用できる能力を養うことを目標とする。そのために, まず精神障害者, 認知症を含む高齢者, がん・終末期患者に対する心理・社会的リハビリテーションに関して, 症候論, 評価法についての演習を行う。さらにそこで得られた知識をもとに, 国・内外の適切な論文を抄読し, 研究への利用, 応用へと発展していけるよう討論する。	
	感覚運動神経科学特別演習	感覚運動神経科学領域に関する研究成果を国際学会に発表することを目標とする。第一に与えられた研究テーマに関連する論文を渉猟し, 研究背景について熟知する。これと並行して実験に使用する機器の操作, 実験環境のセットアップ技術について反復訓練を行い, 技能の向上に努める。次いで得られた結果を分かりやすくまとめ, 適切な統計処理を行い, 結果に対して生理学的な考察を行う。最終的には抄録の作成, 発表用ポスター又はスライドの作成方法を学ぶ。	共同
	生体構造学特別研究	実際の研究を通じて, 実験技術を習得し, 得られた結果を客観的に評価したり, 論理的に考察できる能力を身につける。また, 指導の下に, 研究のとりまとめや新たな実験を計画する能力を育成することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目 保健学領域	スポーツリハビリテーション学特別研究	<p>(概要) 研究疑問を持つための発想について教員と学生が討論し、各自の研究テーマを決定する。 研究テーマや研究目的を解決するために、どのような対象でどのような分析を試みれば、正しい結果を導くことが可能になるかを考察する。 研究疑問を解き明かす「方法」について特に詳しく学修する。</p> <p>(38 浦邊 幸夫) 競技スポーツ選手のスポーツ外傷後のリハビリテーションとスポーツ外傷の予防について、特に受傷機序の分析から研究を進める。また、スポーツを健康増進につなげるために、どのように導入するかを研究テーマとして取り上げて、検討する。</p> <p>(122 前田 慶明) 障がい者スポーツを発展させ、アダプテッドスポーツ、パラスポーツという視点で、競技者への専門的な対応について研究方法を教示する。 次に、一般に普及するための方策について検討する。</p> <p>(153 笹代 純平) オリンピック、パラリンピック参加者に対して、どのような身体的サポートをすることが望まれているか、実践例を挙げて検証する。理想的な、選手サポートについて実証研究を進めていく。</p> <p>(276 及川 友好) 災害と疾病について、統計データから読み解けるものは何かを究明する。この分析結果から、災害医学にどのような清が可能かを考察する。</p>	
	生体運動・動作解析学特別研究	<p>(概要) 修士論文の作成に必要な最新の知識、情報、研究に関する手法や技術を体得する。</p> <p>(37 浦川 将) 高齢者や障がい者の運動・動作の問題に関わる研究計画立案に必要な指導をとおして、適切な実験の枠組み、知識・技術、データ解析法に関する研究指導を行う。</p> <p>(123 高橋 真) バイオメカニクスや神経生理学的手法及びこれらの客観的な情報を取得するための機器と計測システムを用いて、人の歩行や姿勢の制御メカニズムに関する研究指導を行う。</p>	
	生体機能解析制御科学特別研究	<p>修士論文を作成するために必要な当該分野の最新の知識を習得する。また、研究に必要な技術・手法及び論文作成の手法を習得する。</p>	
	運動器機能医科学特別研究	<p>運動器に関わる筋骨格系及び神経系組織の形態と機能について、研究論文作成に向けた研究の実践と指導を行う。</p> <p>(124 藤田 直人) 動物実験での、組織学的検討、生化学的評価、行動をはじめとする機能評価、統計解析、論文指導など実施する。</p> <p>(37 浦川 将) 動物実験と被験者実験について、具体的な実験指導、統計解析、論文指導など実施する。研究全体の統括指導を行う。</p>	
	生体環境適応科学特別研究	<p>分子細胞生物学、再生医療、ニューロリハビリテーション、脳機能評価に関して、研究の実践、論文作成に向けた具体的な研究手法の指導を行う。各自の研究テーマのみではなく、複数の分野の研究手法を体得することで、細胞レベルから個体レベルまでに精通した研究者の育成を目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目 保健学 領域	生理機能情報科学特別研究	人体生理機能情報に関する研究仮説や研究疑問を見つけ、それを検証するために、適切な研究計画を立案し実験的研究を実施しそれを完結させること。	
	作業行動探索科学特別研究	加齢や疾病によって生じる身体機能や認知機能の障害、心理社会的側面の変化などによる高齢者の生活障害に対する介入について、臨床研究を行う際の研究計画の立案から研究報告まで、全経過を通して必要とされる研究能力を習得することを目標とする。文献レビュー及び討論を通して、高齢者の生活障害に対する介入に関する研究主題を明らかにし、それに基づいて修士論文作成にかかわる研究計画を立案し、研究を実施するために必要な知識・技術を習得するための討論を行う。	
	作業機能制御科学特別研究	高齢者の生活障害に対する介入について、臨床研究を行う際の研究計画の立案から研究報告まで、全経過を通して必要とされる研究能力を習得することを目標とする。	
	上肢機能解析制御科学特別研究	上肢、特に手に関する専門基礎的知識を習得させるとともに、研究を立案、実践し、修士論文作成の指導を行う。 英語論文作成方法を学習し、実際に英語論文作成に務める。また、国内学会用の抄録の作成方法を学習し、実際に学会にエントリーする。学会発表のためのスライドあるいはポスター作成方法を学習し実践する。学会発表のためのプレゼンテーション法ならびに質疑応答法を学習し、実践する。	
	精神機能制御科学特別研究	精神(心理・社会的側面を含む)機能の障害に対するリハビリテーションに関する臨床研究を行う際に、研究計画の立案から研究報告までの全経過を通して必要とされる研究能力を習得することを目標とする。そのために、文献的研究、討論及び実践を通して、精神(心理・社会的側面を含む)機能の障害に対するリハビリテーション領域における研究主題を明らかにし、これに基づいて修士論文作成にかかわる研究計画を立案し、研究を実施するために必要な知識・技術を習得するための討論を繰り返し行う。	
	感覚運動神経科学特別研究	(概要) 感覚運動神経科学特別演習において国際学会にて発表した研究成果を論文にまとめ、科学雑誌(できれば英文国際誌)に受理されることを目標とする。指導教員との相談の元、投稿先論文を決定し、その投稿規定を理解する。次いで、投稿規定を遵守した体裁で、論文を日本語で作成する。その過程において、統計処理、文献管理、図表作成に必要なソフトの使用法を習得する。最終的には日本語で作成した論文を英文になおし、雑誌に投稿する。 (35 桐本 光) 英文論文の作成作業全体を統括し、その指導を行う。 (152 三木 恵美) 結果の統計処理、図表作成の指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	口腔健康科学特論	<p>オムニバス形式の講義であり、口腔の発達、口腔機能、齶蝕、歯周病、口腔インプラント治療、歯列矯正、再生医療の観点から口腔の健康や口腔の機能と全身の健康・疾患について考える。また、修士研究に必要な調査研究手法やトランスレーショナルリサーチの展開などについても合わせて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(18 二川 浩樹/2回) プロバイオティクスの口腔への応用について、講義をする。</p> <p>(48 谷本 幸太郎/2回) 歯の移動と歯の保存について、講義をする。</p> <p>(50 竹本 俊伸/2回) 歯科医療人教育とその効果について、講義をする。</p> <p>(19 里田 隆博/2回) 形態学からみた顎口腔系の機能について、講義をする。</p> <p>(51 村山 長/2回) 情報システムとITの歯科領域への応用について、講義をする。</p> <p>(277 西村 英紀/2回) 歯周病と全身疾患について、講義をする。</p> <p>(241 天野 秀昭/1回) ヒトの発達と口腔の変化について、講義をする。</p> <p>(278 内田 嘉壽子/1回) 口腔健康科学について、講義をする。</p> <p>(279 牧平 清超/1回) 歯科用インプラントと骨免疫について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	口腔インプラント工学特論	<p>自分の研究テーマに沿った英文論文を探し、それを理解できる。特に口腔インプラントに関連した歯科材料学、表面修飾、短波樹、ペプチドや顎口腔機能学や頭頸部における生理学、口腔機能評価のための歯科医療機器、3次元計測、コンピューターシミュレーション、インプラント周囲炎と関連した微生物、細菌学的手法、検討などが含まれる。</p>	
	機能修復工学特論	<p>歯・顎の欠損から生じる機能の再構築を行う機能修復の先端的応用、新材料、接着などに関する知識と研究ベースの習得を目的とする。</p> <p>口腔機能回復に応用される修復法、治療法についての基本概念を理解するとともに、近年の歯科医療で注目されているセラミック、ファイバー、CAD/CAMシステム、電鋳、レーザー溶接などを応用した修復法やその新材料、Minimal Interventionに必須な接着技法など最先端研究について講義を行う。</p>	
	口腔衛生管理学特論	<p>社会が期待する歯科衛生士の役割をもとに専門歯科衛生士を考え、就業歯科衛生士の現状と認定歯科衛生士について、学会との関係を交えながら現在の口腔保健分野について探索する。また、複雑なケースの問題を抱えた患者や家族に対してのコンサルテーションが行え、支援ができるよう現在行われている最新の口腔健康増進の方法と問題解決方法を知り、患者のQOLの向上を目指した口腔の衛生管理方法について最先端の研究を理解する力を習得するとともに、新しい口腔健康増進の方法を考える基盤を養うことを目的とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目 口腔健康科学領域	口腔衛生教育学特論	口腔衛生教育学に関する最新の知識と実践手法として、特に顎口腔系の機能、各ライフステージにおける疾患予防に必要な教育手法について講義を行う。また、唾液腺に関する臨床的研究における研究方法の構築や必要な分析処理の手法について学ぶ。さらに、顎口腔の生理的機能や各ライフステージに対応した、疾患予防法や機能障害などに関連したリハビリテーションやリハビリテーションにおけるエビデンスを検討するとともに臨床的研究の遂行に必要な統計学的、診断学的手法について講義を行う。	
	学校健康教育学特論	学校における保健室を中心とした健康の保持増進のための学校保健活動について、テキストや論文から学ぶ。また討論により、研究の動向を理解することを目標とする。近年の社会環境や生活様式の変化も一要因で、子どもの心身両面にわたる健康問題が非常に複雑化・深刻化している(こころの健康、不登校、いじめ、性の問題、アレルギー、食の問題、など)。その中で、養護教諭には、複雑化・深刻化した子どもの健康上の課題への「適切な対応」が出来る『資質』が求められている。幅広い視点からの思考力を習得し、理解を深める。	
	歯科衛生士教育学特論	歯科医療の高度化・複雑化に伴い、職務内容が急速に変化し、その教育内容の大幅な変更が日常的に行われている歯科衛生士、歯科技工士などコ・デンタルスタッフの教育に対応できる優れた教育者になる上で必要な教育内容・技法についての能力習得を目標とする科目である。ミニレクチャーを挟んだプロダクト型学習を中心とし、個別に目標を定めて、実際にカリキュラムプランニングを行っていくことで教育能力を習得する。	
	口腔工学特論	自分の研究系の原理を説明し、結果をロジカルに解釈できる。研究手法としてはバイオロジー、モレキュラーバイオロジー的な手法に加えて3次元計測、コンピューターシミュレーションなどを用いて、口腔インプラントに関連した歯科材料学、表面修飾、短波樹、ペプチドや顎口腔機能学や頭頸部における生理学、口腔機能評価のための歯科医療機器、インプラント周囲炎と関連した微生物、細菌学的な検討など行う。	
	口腔保健学研究特論	過去、現在、未来において口腔保健学が対象とするテーマについて概観し、各テーマに関する研究の詳細について学ぶ。また、口腔保健における問題点の抽出、関連資料の収集と解析及び研究手法について、国内外の成書、論文、及びインターネット情報を基に学ぶ。毎回、口腔保健に関するテーマについて学習する。 テーマとしては、(口腔癌を含めた)顎口腔疾患の予防・早期発見・遺伝子診断、顎口腔疾患と全身状態・全身疾患との関連、顎口腔状態と全身状態との関連に加えて、高齢者・障害者・顎口腔癌術後患者・口腔粘膜疾患患者等も含めた口腔保健の改善策などについて論文等の資料を基に講義を行う。	
	情報システム工学特論	近年の歯科医療では、歯科用CAD/CAM(Computer-aided Design/ Computer-aided Manufacturing)やインプラント手術支援システム、CT/MRIからの3Dモデル構築システム、3Dプリンタを用いた実物大臓器立体モデルの構築など、様々なコンピュータシステムが使われており、このようなコンピュータを用いた歯科医療はデジタルデンティストリと呼ばれている。本講義では、このデジタルデンティストリに関する最新論文を講読し、ディスカッションを通して、この分野の理解を深める。	
	探索口腔科学特論	我が国のアカデミアからは、優れた基礎医学及び歯学研究の成果が多数報告されている一方で、その成果を実際の医療まで展開できている例は必ずしも多くないと指摘されている。原因の一つとして、医歯薬及び保健学分野の基礎研究を実臨床で応用する上では、倫理や規制といった他分野にはないハードルが存在することが挙げられる。本講義では、自らの研究を将来的に医療・ヘルスケア領域へ展開させるために必要となるTranslational Thinkingを習得することを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目 口腔健康科学領域	生体構造学特論	近年の研究では、免疫染色, PCR法, 電気泳動, ELISA, 遺伝子組み換えなど, 様々な技術が使われる。論文を読んで正しく理解したり, 自分自身の研究を適切に計画し実行するには, 各種の実験方法を知っておくことが有用である。また, 測定データを正しく評価するには, 方法の原理, 長所や短所に関する知識が役立つ。これらを理解して, 自分の研究を進めたり, 文献を読む上で参考にできることを目標とする。	
	顎口腔発達・機能学特論	顎口腔系の形態や機能の発達について, 顎顔面歯列の形態的発達については従来の計測法やその標準値の推移について解説する。また, 各発達段階における各種疾患の特性とその予防についても言及する。口腔機能の発達においては摂食嚥下や, 口腔機能の発達など基礎的な発達過程における変化や機能的な診断法の現状について講義を行う。さらに, 発達機能学の最新知識を得るとともに, 口腔機能測定や口腔機能訓練機器などの最新機器などについて講義を行う。	
	顎口腔発達・機能学演習A	顎口腔系の機能, 各ライフステージにおける疾患予防に関する臨床研究において必要な実験系の構築や統計処理の手法を理解する。特に唾液腺に関する研究テーマと関連の深い臨床的論文などの抄読を通じて, 臨床的研究における実験系の構築や必要な分析処理の手法について発表及び討論を行うことによって実践的に学ぶ。また, 顎口腔の生理的機能や各ライフステージに対応した, 疾患予防法や機能障害などに関連したハビリテーションやリハビリテーションにおけるエビデンスを検討するとともに各学生に与えた臨床的研究の遂行に必要な統計学的, 診断学的手法について実践的に学ぶ。	
	歯科衛生士教育学演習A	現在の歯科医療・医療情勢上を考慮して, 歯科衛生士教育者は最先端の臨床能力が必要とされる。本演習では, 歯科衛生士臨床における高度かつ最先端の知識・技術習得の教育が行えることを目的として, 最新の臨床科目の教育成果と歯科衛生士の研究の動向を理解する。また, 学生指導や教育に伴うカウンセリングに関する専門的能力を身に着ける。さらに, 技術教育を実践するための教授法や安全な授業の展開を考え歯科衛生士教員の役割について実践的に学ぶ。	
	口腔保健学研究演習A	現在, ほぼ全ての歯科医学的研究において, 最終的には統計的手法を用いて, 結果の有意性の検討が行われている。そのためには, まず, 研究分野の基礎知識を習得し, 最新の研究動向を理解することが不可欠である。次に, 実験を行ってから, 統計的検討を行う初学者も多いが, ある種の統計的な検討を行うことを前提として, 実験計画を組むことが重要である。そのためには, 計算式や関数を使用し, 基本的な統計手法がどのような数学の上になり立っているかを理解させたい。最終的目標は, 既製の統計ソフトを自由に使用し, 自身のデータを分析することとする。	
	生体構造・機能修復学演習A	歯・顎の欠損から生じる機能の再構築を行う機能修復の先端的应用及び新規材料, 審美歯科材料の接着, 三次元デジタルデータによる新しい治療とその技術を応用した研究テーマと関連の深い論文の抄読と討論を通じて, 様々な実験系の手法や実験データの取り扱い方, 実験データに対応した統計解析の方法などを習得し, 理解を深めることで各自に必要な実験デザインの構築, プレゼンテーションの能力, 修士論文の執筆方法などを実践的に学ぶ。	
医療システム工学演習A	医療システム工学分野の研究(デジタルデンティストリや硬組織疾患診断, トランスレーショナルリサーチなど)を行う上で必要な各種機器, システム, ソフトウェア, 材料などの取り扱い方法, 及び, 実験方法, シミュレーション方法などを習得し, また, 研究分野と関連する論文の抄読を通じて臨床研究における実験系・システムの構築方法や必要な統計処理の手法について習得し, 発表及び討論を行うことによって実践的に学ぶことを目標とする。		

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目 口腔健康科学領域	口腔工学演習A	学生各自に与えた研究テーマについて、演習AもしくはBを通じ明確にした命題に対して、特論及び演習で学んだ研究理論、バイオロジー、モレキュラーバイオロジーあるいは細胞学、微生物学、工学敵手法を用いて実際的な実験系を構築し、解明することを学ぶ。	
	顎口腔発達・機能学演習B	顎口腔系の形態や機能の発達に関する研究テーマと関連の深い英語論文などの抄読を通じて、基本的研究における実験系の構築や必要な分析処理の手法について発表及び討論を行うことにより実践的に学ぶ。また、顎口腔の生理的機能や口腔機能の発達、各発達期に対応した、疾患予防法や機能障害などに関連した基礎的論文などの抄読により、ハビリテーションやリハビリテーションにおけるエビデンスを検討するとともに各学生に与えた基礎的研究の遂行に必要な統計学的、診断学的手法を実践的に学ぶ。	
	歯科衛生士教育学演習B	歯科衛生士教員、歯科技工士教員を始め、臨床の歯科衛生士など、教育を行う能力が必要な職種は数多くある。歯科衛生士の分野においても教育の発展は著しく、そのための研究も進んでいる。そこで、本演習では、すぐれた研究者になるために、各自で「歯科衛生士教育」「歯科衛生士の専門分野」などにおけるテーマを設定し、研究計画立案、研究の実行、発表、論文作成などの演習による指導を行うものである。	
	口腔保健学研究演習B	口腔保健学が対象とするテーマにおける問題点の整理と抽出、資料の収集と解析及び種々の研究手法について、実践的に学ぶ。過去、現在、未来において口腔保健学が対象とするテーマにおける問題点とその対策について、成書の輪読と論文の抄読により、その詳細を学ぶ。(過去の事例については、対策を講じた後の結果についても学ぶ。)また、問題点の整理と抽出、資料の収集と解析及び種々の研究手法については、与えられ例題ごとに、実践的に学ぶ。	
	生体構造・機能修復学演習B	口腔領域の構造や摂食嚥下に関する神経回路網の研究のため、免疫組織化学、神経トレーサーや蛍光トレーサーを使った手法及び最新の機能修復法、材料、接着システムや研究テーマと関連の深い論文の抄読を通じて基礎的研究における実験系の構築や必要な生体学的・機能学的手法について発表及び討論を行うことにより実践的に学ぶことを目標とする。	共同
	医療システム工学演習B	医療システム工学分野の研究(デジタルデンティストリや硬組織疾患診断、トランスレーショナルリサーチなど)を行う上で必要な各種機器、システム、ソフトウェア、材料などの取り扱い方法、及び、実験方法、シミュレーション方法などを習得し、また、研究分野と関連する論文の抄読を通じて基礎的研究における実験系・システムの構築方法や必要な理論について、発表及び討論を行うことにより実践的に学ぶことを目標とする。	
	口腔工学演習B	学生各自に与えた研究テーマについて、演習AもしくはBを通じ明確にした命題に対して、特論及び演習で学んだ研究理論、バイオロジー、モレキュラーバイオロジーあるいは細胞学、微生物学、工学敵手法を用いて実際的な実験系を構築し、解明することを学ぶ。	
	医用機器工学演習B	医療用ロボットやサイボーグ技術、医療用機器などのように、医療において計測工学やメカトロニクスなどの最先端ロボティクス技術が応用されている。本演習では、センシングやマニピュレーション技術などロボティクスの基本技術とその先端技術、及び研究・実験方法を演習を通して学ぶことを目標とする。 ロボティクスに関する英語文献の抄読などを行い、定期的にセミナーや研究会で発表し討議することを通して、先端技術と研究・実験方法を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目 口腔健康科学 領域	医療情報・画像処理工学演習B	X線撮影やMRIなど医療では多様な医用画像及びそれから構築された3Dモデルが診断や手術計画に活用されている。本演習は、この医用画像や3Dモデルを扱う上で基礎となる画像処理とコンピュータグラフィックスの先端技術と研究・実験方法を学ぶことを目標とする。 画像処理とコンピュータグラフィックスに関する英語文献の抄読などを行い、定期的にセミナーや研究会で発表し討議することを通して、先端技術と研究・実験方法を習得する。	
	顎口腔発達・機能学特別研究	顎口腔機能の発達及び健康増進に関する臨床的研究において、研究の実践・指導を行う。また、実験を通して、実験手法、データ解析、科学論文の作成手技を習得し、各自のテーマについて論文指導を行う。さらに、口腔機能に関する臨床的研究において、口腔機能測定手法を用いて研究指導を行う。	
	歯科衛生士教育学特別研究	歯科衛生士教員、歯科技工士教員を始め、臨床の歯科衛生士など、教育を行う能力が必要な職種は数多くある。歯科衛生士の分野においても教育の発展は著しく、そのための研究も進んでいる。この科目では、すぐれた研究者になるために、各自で「歯科衛生士教育」「歯科衛生士の専門分野」などにおけるテーマを設定し、研究計画立案、研究の実行、発表、論文作成など、実際に研究を行うことで、その能力を習得する。	
	口腔保健学特別研究	口腔保健を対象とする研究テーマと研究計画の立案、研究の進め方、論文の作成法や研究成果の発表法について実践的に学ぶ。学生が、自ら研究テーマと研究計画を立案した後に、担当教員とディスカッションすることにより、最終的なテーマを決定する。その後、立案した計画について綿密に検討した上で学生が主体となって研究を行い、最終的には論文を作成する。その過程で、担当教員とディスカッションすることにより、研究の進め方、論文の作成法や研究成果の発表法について実践的に学ぶ。	
	生体構造・機能修復学特別研究	(概要) 学生各自に与えた研究テーマについて、生体構造・機能修復学演習AもしくはBを通じ明確にした命題に対して、各自考案した研究理論、手法を用いて実際的な実験系を構築し、解明することを学ぶことを目標とする。 (19 里田 隆博) 口腔領域の構造や摂食嚥下に関する神経回路網の研究のため、免疫組織化学、神経トレーサーや蛍光トレーサーを使った手法を使い、摂食嚥下運動および頭頸部の痛みの伝達機構に関するテーマ、または解剖学教育法の開発に関して、各自が設定したテーマに関して研究指導を行う。 (102 下江 幸司) 歯および顎骨の欠損から生じる機能の再構築を行うため、機能修復の先端的技術および新規材料（ジルコニア）と審美歯科材料の接着、三次元デジタルデータの解析法などを学び、各自で実験系を構築し、各自が設定したテーマに関して研究指導を行う。	
	医療システム工学特別研究	学生各自に与えた医療システム工学分野の研究テーマについて、文献講読や討論などを通して、研究目的・研究課題を明確にする。また、医療システム工学演習Aもしくは医療システム工学演習B、及び専門選択科目で学んだ研究理論、手法を用いて、研究計画の立案を行い、実際的な実験系あるいはシステムを構築し、研究を実行する。また、得られた研究成果の学会発表などを通して、プレゼンテーション技術と論文執筆技術を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	口腔健康 領域 科学	口腔工学特別研究 学生各自に与えた研究テーマについて、演習AもしくはBを通じ明確にした命題に対して、特論及び演習で学んだ研究理論、バイオロジー、モレキュラーバイオロジーあるいは細胞学、微生物学、工学敵手法を用いて適切な実験系あるいは研究系を構築し、メカニズムや減少の解明を行いロジカルに結果を考察することを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	Hiroshimaから世界平和を 考える	<p>(概要) 被爆地広島に立脚する広島大学は、理念の第一に平和を希求する精神を掲げる。本講義の目的は次の二点である。ヒロシマの基盤ともいべき原爆・被爆被害の概要を理解する。さらに、ヒロシマを基軸としながらも普遍的で恒久的な平和のあり方を模索する。そこでは、今日的に緊急性の高いテーマである。例えば、貧困・飢餓・難民・環境問題そして世界各地の地域紛争等をテーマに、理想と現実との間にあるギャップをも理解し、理想的な平和のあり方を検討する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(169 川野 徳幸／2回) 被爆地「Hiroshima」における原爆・被爆被害の概要</p> <p>(206 小宮山 道夫／2回) 原爆と広島大学の関わり、広島歴史、広島に課された役割</p> <p>(167 河合 幸一郎／1回) 途上国における貧困と飢餓、食糧生産の現状と課題</p> <p>(168 中坪 孝之／1回) 地球温暖化、環境破壊、天然資源の枯渇等の現状と解決のための方策</p> <p>(205 山根 達郎／2回) 現代における地域紛争の特徴、紛争後の平和構築の在り方</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 持続 可能 な 発展 科目	Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	<p>(英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University “Pursuit of Peace” and the long-term vision “Splendor Plan 2017”. The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these.</p> <p>When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of social development from the above aspects.</p> <p>lesson1 Guidance of the course lesson2 JICA chugoku center lesson3 Yuichiro Yoshida “Japanese policy experience: Success and Failures” lesson4 Katsufumi Fukuda “Industrial Policy and Economic growth” lesson5 Junyi Zhang “History of environmental policies in Japan”1 lesson6 Junyi Zhang “History of environmental policies in Japan”2 lesson7 Osamu Yoshida “Japanese ODA and its Asia Policy” lesson8 Mari Katayanagi “Reconstruction of Hiroshima from Peacebuilding Perspective”</p> <p>(和訳) 本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョンSplendor Plan 2017をベースとして、SDGsについて議論する。SDGsは、世界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGsは包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。</p> <p>これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初のOECD加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では社会の発展における日本の経験に関して学ぶものである。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続 可能な 発展科目	(オムニバス方式／全8回) (174 金子 慎治／1回) 本講義のガイダンス, 概要説明 (312 三角 幸子／1回) JICAの活動, 役割 (170 吉田 雄一郎／1回) 日本の政策経験 (175 市橋 勝／1回) 産業政策と経済成長 (171 張 峻屹／2回) 日本の環境政策の歴史 (172 吉田 修／1回) 日本のODAとアジア政策 (173 片柳 真理／1回) 平和構築から見た広島復興	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目 持続可能な発展科目	Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	<p>(英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University “Pursuit of Peace” and the long-term vision “Splendor Plan 2017”. The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these.</p> <p>When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of human development from the above aspects.</p> <p>lesson1 Guidance of the course lesson2 Maharajan Keshav Lall “Japanese experience of development in Agriculture and Remote area” lesson3 Koki Seki “Socio-cultural Aspect of Modernization of Japan: Focusing on the Transformation of Norm, Mentality, and Way of Living” lesson4 Kinya Shimizu “A History of Education in Japan” lesson5 Kinya Shimizu “Lesson Study in Japan: As a tool of PDSI in Japanese Education” lesson6 Junko Tanaka “International cooperation and research collaboration in the field of public health” lesson7 Michiko Moriyama "Healthcare system in Japan: its characteristics and history" lesson8 Discussion</p> <p>(和訳) 本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョンSplendor Plan 2017をベースとして、SDGsについて議論する。SDGsは、世界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGsは包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初のOECD加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では人類の発展における日本の経験に関して学ぶものである。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続 可能な 発展 科目	(オムニバス方式／全8回) (178 馬場 卓也/1回) 本講義のガイダンス, 概要説明 (177 MAHARJAN, KESHAVLALL/1回) 農業開発における日本の経験 (207 関 恒樹/1回) 日本の現代化における社会文化的側面 (176 清水 欽也/2回) 日本における教育開発 (12 田中 純子/1回) 公衆衛生学分野の国際協力と共同研究 (22 森山 美知子/1回) 日本のヘルスケアシステム (178 馬場 卓也/1回) まとめ	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	持続可能な発展科目	<p>SDGsへの学問的アプローチA</p> <p>(概要)SDGsは持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかしこの課題は単独での問題解決に止まらず、分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに、その解決には、援助国、被援助国のみならず、地方自治体、民間企業、市民社会が協働して取り組む新しい社会の在り方が求められている。本SDGsへの学問的アプローチAでは、人権を中心に取り組む。Bと合わせて受講することが推奨される。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (括弧内SDGs目標番号)</p> <p>(178 馬場 卓也／1回)</p> <p>1. コースの概要, SDGsと貧困問題 (1, 17):SDGsの設置経緯について説明し, 17の目標の中で, 貧困は様々な問題の根底に位置することについて説明, 議論する。</p> <p>(180 実岡 寛文／1回)</p> <p>2. 持続可能な消費と飢餓 (2, 12):地球規模で食料の持続可能性を考える時, 先進国と途上国のインバランスが問題となる。持続可能な生産消費形態, 栄養改善などについて議論する。</p> <p>(12 田中 純子／1回)</p> <p>3. 公衆衛生と社会医学 (3, 6):安全な水の供給と確保は人が健康に生きていくための不可欠の開発課題であることから, 疾病対策を含む健康維持のための社会医学的, 公衆衛生的側面からの持続可能な管理と問題について講義する。</p> <p>(22 森山 美知子,97 RAHMAN MD MOSHIUR／1回) (共同)</p> <p>4. 健康と福祉 (3):プライマリ・ヘルスケア, リプロダクティブ・ヘルス, 非感染性疾患と高齢化などグローバルな健康問題について講義する。</p> <p>(181 永田 良太／1回)</p> <p>5. 教育と社会 (4):情報化による急激な変化が進む中で, 先進国と途上国の境目がなくなりつつある。今後の教育に求められる役割と課題について議論する。</p> <p>(179 石田 洋子／1回)</p> <p>6. ジェンダー問題と平等な社会 (5, 10)/ジェンダーの平等と女性のエンパワーメントに向けた課題, 国家間及び各国内の不平等削減に係る課題, そしてこれら2つの課題解決が他のSDGsゴール達成に深く関わることについて議論する。</p> <p>(313 隈元 美穂子／1回)</p> <p>7. 国際機関の取り組み(17): SDGsを推進している立場から, その取り組みの課題と進捗状況について議論する。</p> <p>(178 馬場 卓也／1回)</p> <p>8. 総括討議</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続可能な 発展科目	<p>SDGsへの学問的アプローチB</p> <p>(概要) SDGsは持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかしこの課題は単独での問題解決に止まらず、分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに、その解決には、援助国、被援助国のみならず、地方自治体、民間企業、市民社会が協働して取り組む新しい社会の在り方が求められている。本SDGsへの学問的アプローチBでは、環境、社会、ガバナンスを中心に取り組む。Aと合わせて受講することが推奨される。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (括弧内SDGs目標番号)</p> <p>(173 片柳 真理/1回)</p> <p>1. コース概要, 平和な社会 (16) : SDGsの設立経緯について説明し, それら目標の最終ゴールとして, 平和な社会の実現について議論をする。</p> <p>(208 長谷川 祐治/1回)</p> <p>2. 気候変動と防災 (13) : 気候変動の兆候がますます顕著になりつつあり, その影響を軽減するための防災, 緊急対策について議論する。</p> <p>(209 日比野 忠史/1回)</p> <p>3. エネルギーと持続可能な都市 (7, 11) : 安価かつ信頼できる持続可能なエネルギーへのアクセスを確保し, 包摂的, 強靱(レジリエント) で持続可能な環境の実現について議論する。</p> <p>(224 佐野 浩一郎/1回)</p> <p>4. 経済成長と雇用 (8) : すべての人々の雇用と働きがいのある労働環境の実現と, 持続可能な経済成長の可能性と課題とについて議論する。</p> <p>(183 河合 研至/1回)</p> <p>5. インフラと産業 (9) : 包摂的で強靱(レジリエント) なインフラ構築, 持続可能な産業化及びイノベーションの可能性と課題について議論する。</p> <p>(182 小池 一彦/1回)</p> <p>6. 陸上資源 生物資源学(14, 15) : 農業・畜産・水産業における生物資源の利用と生態系保全とのジレンマについて講義する。</p> <p>(314 川本 亮之/1回)</p> <p>7. 地域社会の取り組み (地方自治体) (17, 11) : 広島県内の地方自治体での種々の取り組みを, SDGsの観点から議論する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続可能な 発展科目	<p>ダイバーシティの理解</p> <p>(概要)SDGsの達成を目指す社会において、ダイバーシティ&インクルージョンの価値を理解し、それを実現するスキルを習得することは、いかなる専門性を有する人材にとっても重要である。この授業では、ダイバーシティのリスクとメリットを理論的・実践的に理解し、インクルージョン実現のためのシステム構築について考える力を習得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(184 坂田 桐子・210 ヘイズ櫻井 里穂/2回)(共同)</p> <p>1. ダイバーシティに関する理論:特に組織におけるダイバーシティのリスクとメリットについて、理論的背景及び組織における現状について理解することを目的とする。</p> <p>(226 北梶 陽子/5回)</p> <p>2. ゲーム演習:多様な人々で構成される集団や社会において、異なる他者の視点を取得し、問題を解決するプロセスを体験できるシミュレーションゲームを行う。</p> <p>(185 大池 真知子・226 北梶 陽子/1回)(共同)</p> <p>3. ディスカッション:理論とゲーム演習の体験に基づき、ダイバーシティ&インクルージョンの価値と実現方法について議論する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	キャリア開発・データリテラシー科目	<p>データリテラシー</p> <p>(概要)ICTの普及とともに様々な分野で膨大なデータが蓄積され、これを活用した新しいビジネスも展開されるようになり、データ解析の技能や統計学の知識をもった人材が社会から必要とされている。本講義では、社会的背景、データを取り扱う手法として機械学習、統計学といったデータ科学の考え方について紹介し、いくつかの具体例を通してデータの取り扱い等に関して注意すべき点を解説する。また、セキュリティ、個人情報の保護といった問題についても触れる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(211 宮尾 淳一/4回)</p> <p>ビッグデータと呼ばれる膨大なデータの活用に関する現状を理解することを目的とする。具体的には、ビッグデータの機械学習への利用例と最新の成果を示し、その可能性を理解すると共に、AIへの応用なども解説する。また、ディープラーニングによる実行例なども提示する。さらに、ビッグデータの取り扱いに関する問題点や注意点についても触れる。</p> <p>(186 柳原 宏和/4回)</p> <p>本格的な統計解析手法を学ぶ前の取り掛かりとして、記述統計を学ぶことを目的とする。具体的には統計ソフトRを用いて、データの取り込み、抽出、結合、ヒストグラムやボックスプロット、散布図などによるデータの視覚化、平均や分散などの基本統計量の計算を行う。さらに、単回帰分析を用いた変数間の関連を明らかにする手法も紹介する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	キャリア開発・データリテラシー科目	<p>医療情報リテラシー</p> <p>(概要) がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するためには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本講義では、医療情報を処理するために必要な知識、解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに、その慎重な取り扱いに求められる情報セキュリティ、倫理、法律などについても触れる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(233 小笹 晃太郎/1回) 原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究</p> <p>(1 工藤 美樹/1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則、功罪や有用性</p> <p>(85 森野 豊之/1回) 医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法</p> <p>(72 粟井 和夫・3 有廣 光司/1回) (共同) 医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題、情報の有用性と社会における活用</p> <p>(315 田中 剛/1回) 広島県独自のHMnet (ひろしま医療情報ネットワーク Hiroshima Medical Network) を利用した医療情報共有の仕組みと活用</p> <p>(12 田中 純子/1回) NDB (National data base) などの大規模医療データベースの種類、概要、倫理、疫学研究への活用</p> <p>(14 安井 弥/1回) がんゲノム情報の概要、理的課題、応用と活用</p> <p>(16 服部 登/1回) 臨床試験の大規模化に伴う課題、功罪、応用と活用と演習</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目 キャリア開発・データリテラシー科目	人文社会系キャリアマネジメント	この講義の目標は次の2点である。1. キャリア理論を学習することで、大学院での自分の研究とキャリア(生き方)を、どう関連付けるかを考える契機とする。2. 大学院から社会へのトランジションについて意識し、課題発見解決力やコミュニケーション力等、充実して生きていくために必要な力を養成することを目指す。これらの目的を達成するため、授業では次の3点に取り組む、1. 自己理解。2. 社会の現状を知る。3. グループワークや自主活動を行う。じっくり考える事と行動の両立によって、社会で通用する力を身につける。	
	理工系キャリアマネジメント	コミュニケーション力は、社会で活躍するうえで必要不可欠な能力である。本講義では主として対話・発話によるコミュニケーションについて解説する。対話・発話によるコミュニケーションにおいて非言語情報(表情、視線、態度など)は重要な意味を持つため、本講義では非言語情報と言語情報の両面からコミュニケーションについて理解を深め、演習を通してスキルを向上させる。具体的な内容は、1)対話によるコミュニケーションの基礎、2)プレゼンテーション、3)高度なコミュニケーションスキルである傾聴、4)ファシリテーション、である。 本講義の目標は次のとおりである。1. 対話コミュニケーションにとっては、言語情報だけでなく非言語的要素(視線、あいづち、うなずき等)が重要であることを理解する。2. 目的に応じた研究概要書の作成方法、研究内容のプレゼンテーション方法を修得する。3. 傾聴スキルの基本について理解する。4. ファシリテーションスキルについて理解し、グループでのディスカッション方法を習得する。	
	ストレスマネジメント	現代は、社会・経済環境の変化や家族関係の変化によってストレスが増大している。ストレスの多くは心理・社会的な要因によるものであり、対処が適切でないと、心身の健康や対人関係に影響を及ぼし、個人や組織の生産性を低下させることになる。したがって、社会で活躍し充実した人生を過ごすためには、ストレスを上手にコントロールすることが必要不可欠となる。 そこで、本講義では実践的なストレスマネジメントについて解説し、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を習得するための演習を実施する。 講義の目標は、次のとおりである。1.心理・社会的ストレスと、その特徴について知り、ストレスマネジメントの本質的な考え方について理解する。2.心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を修得する。3.ネガティブな感情や思考に巻き込まれずに、「今、ここ」の自分を客観的に観察する方法について理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	生命・医療倫理学A	<p>(概要) 医学・歯学・薬学・保健学の医療・健康福祉領域で行われる教育・研究・臨床は、生命に対する尊厳、医療における倫理感、責任感に裏付けられたものでなければならない。本講義では、バイオエシックス/バイオメディカルエシックスの歴史的背景から最近のゲノムを含めた医療情報に関する問題等を学習し、研究・臨床における生命・医療倫理について考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 工藤 美樹/1回) 医学・医療に求められる倫理について、講義をする。 (236 高橋 規郎/1回) ヒトゲノム遺伝子解析研究倫理指針に関する教育及び研修について、講義をする。 (117 岡田 賢/1回) 新生児医療における生命・医療倫理について、講義をする。 (2 森川 則文/1回) 医薬品の使用における倫理について、講義をする (3 有廣 光司/1回) 病理分野における倫理について、講義をする。 (5 松浦 伸也/1回) 遺伝子診療における倫理について、講義をする。 (4 杉山 一彦/1回) 臨床試験と医療倫理について、講義をする。 (86 吉田 光由/1回) 歯科倫理と食べることに関わる倫理について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	研究方法論A	<p>(概要) 「研究方法」をキーワードとして、広く実験技術とその背景にある医学・生物学的知識を学ぶ。単に技術論に留まらず、研究の心構え(特に研究方法総論)や、講義担当者の研究の世界まで、幅広い領域をカバーし大学院課程で学ぶ内容を豊富なものとする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 吉栖 正生, 8 小澤 孝一郎/1回) (共同) ガイダンス及びR I技術について、講義をする。 (9 檜山 英三/1回) 遺伝子発現プロファイリングと次世代シーケエンギングについて、講義をする。 (7 橋本 浩一/1回) パッチクランプ法の原理と応用について、講義をする。 (188 宿南 知佐/1回) 培養細胞実験とiPS細胞のトピックスについて、講義をする。 (10 田代 聡/1回) 細胞画像解析について、講義をする。 (87 佐藤 健一/1回) 要因探索のための統計解析について、講義をする。 (88 金子 雅幸/1回) PCR法の原理と応用について、講義をする。 (89 木下 英司/1回) 生物物理科学的研究手法について、講義をする。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	スタートアップ生命科学 コースワーク	医学系・生物学系研究に必要な最も基本的な実験の知識並びに手技を少人数で学ぶ。予め回答が用意されていない実験研究を遂行するために必要な基本的な知識、技術、考え方の習得を目指す。培養細胞を用いて、薬剤添加による特異的遺伝子発現量への影響を、mRNAレベル、タンパクレベルで解析を行う。一連の活動を通して、実験の3原則を守り、科学的に正しく実験を行い、客観的に結果を評価し、論理的に考察するとはどういうことかを体験する。	
	生体医工学イノベーションA	<p>(概要) 臨床に用いる医療機器やシステム等の技術開発を具体化するために必要な、研究マインドおよび開発プロセス、産学官連携活動や情報学・医学・工学領域間の連携に関する知識、態度を習得する。</p> <p>本講義では、マツダを事例にして、技術・理論を商品・サービスに応用して結びつけるために必要な要素でカリキュラムを構成しています。本講義の受講により、受講生は、大学で習得した技術・理論を実社会、ビジネスに活かすことのできる基本的考え方、プロセスを身に付けることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 大段 秀樹/2回) ガイダンス及び技術開発の必要性について、講義をする。 (238 坂本 和夫/1回) 医療機器、システムの商品開発のプロセスについて、講義をする。 (212 笹岡 貴史/1回) 感性脳科学の応用について、講義をする。 (227 金山 範明/1回) 感性計測について、講義をする。 (237 農澤 隆秀/1回) これからの技術者に求められることについて、講義をする。 (239 高見 明秀/1回) モノづくりに必要な技術について、講義をする。 (294 西川 一男/1回) 人間工学・感性工学とその応用について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	多職種連携A	<p>(概要) 現代の医療では、各分野の専門スタッフが連携・協働して、治療に当たるチーム医療が広がっており、高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人の養成のため、多職種との関係を深化させていく。医学、歯学、薬学等の医療技術、治療法等を講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(76 志馬 伸朗/1回) ガイドダンス及び多職種連携の必要性について、講義をする。 (33 折山 早苗/1回) 医療ケアに関する看護師の役割分担について、講義をする。 (35 桐本 光/1回) 急性期リハビリテーションチームについて、講義をする。 (37 浦川 将/1回) 医師・看護師・リハビリ関連職種との連携について、講義をする。 (77 木村 浩彰/1回) 医師からみた多職種連携の必要性について、講義をする。 (78 柿本 直也/1回) チーム医療における歯科医師が行う連携について、講義をする。 (75 松尾 裕彰/1回) 多色区連携における薬剤師の役割・課題・取組について、講義をする。 (54 内藤 真理子/1回) 周術期における歯科衛生士の役割について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	医学統計パッケージ演習	臨床研究・疫学研究で頻用されている統計解析手法について講義及び統計解析ソフトによる実習を行い、医学データ解析の基礎力・実践力を身につけることを目的とする。統計ソフトはJMP, SPSSなど、またグラフソフトはデルタグラフ, GraphPad Prismなどを予定している。	
専攻 共通科目	生命医療科学論	<p>(概要) 医学系について一般的総論及び情報科学系、工学系に関連した医学の各論的講義を行い、情報・工学系の学士課程学生に医学の基礎的・専門的知識を提供する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 大段 秀樹, 13 池上 浩司/1回) (共同) 人体構造学(解剖学・発生学)について、講義する。 (6 吉栖 正生/1回) 細胞機能学(生理学)について、講義する。 (12 田中 純子/1回) 社会医学と医療倫理・研究倫理について、講義する。 (14 安井 弥/1回) 病因・病態学(病理学)について、講義する。 (15 浅野 知一郎/1回) 細胞機能学(生化学・分子生物学)について、講義する。 (16 服部 登/1回) 臨床医学概論(分子内科学)及び臨床医学各論(呼吸器系)について、講義する。 (17 永田 靖/1回) 臨床医学各論(放射線診断・治療学)について、講義する。 (91 久保 忠彦/1回) 臨床医学各論(整形外科)について、講義する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目	栄養学	<p>(概要) 超高齢社会になり、高齢者の栄養摂取の重要性が注目されている。特にオーラルフレイルと言われる口腔内環境の悪化や、歯の喪失、義歯の不適合などによって食の摂取量の減少がサルコペニアを引き起こし、筋力低下による転倒骨折から寝たきりになるという悪循環、砂割フレイルティサイクルに陥ることを防ぐことが重要である。このような高齢社会における問題に対して、栄養学として、口腔の機能と栄養摂取の重要性についてオムニバス形式での講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(19 里田 隆博/1回) 消化管の一般構造及び発生過程、摂食嚥下の仕組み及び頭頸部の発生(体節と鰓弓に関して)について、講義を行う。</p> <p>(20 津賀 一弘/1回) 咀嚼機能についてについて、講義を行う。</p> <p>(92 吉川 峰加/1回) 高齢者の嚥下について、講義を行う。</p> <p>(240 加藤 秀夫/1回) 栄養代謝と臓器相関及び時間栄養学と健康について、講義を行う。</p> <p>(86 吉田 光由/1回) サルコペニアと口腔について、講義を行う。</p> <p>(241 天野 秀昭/1回) 小児の口腔機能の発達と栄養摂取及び学童期の口腔機能と食育教育について、講義を行う。</p> <p>(295 妻木 陽子/1回) 食物アレルギーの発症メカニズム及び食物アレルギーの食事管理について、講義を行う。</p> <p>(18 二川 浩樹/1回) 口腔機能と唾液の検査法について、講義を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目	健康生活科学	<p>(概要) 高齢化社会における健康生活分野の課題 (高齢化社会, 健康生活, 感染症, 現代食, 痛風, 食生活, 生活習慣病, 化学, 加齢, 男性ホルモン, 眼疾患, 白内障, 緑内障, 加齢加齢黄斑変性, 放射線, 広島, 長崎, 被曝, セミパラチンスク, チェルノブイリ, マーシャル諸島, 福島, 甲状腺癌, 甲状腺ホルモン, がん検診等) について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 大段 秀樹, 243 渡邊 一雄/1回) (共同) ガイドダンス及びこれからの感染症問題について, 講義を行う。 (244 瀬山 一正/1回) 現代食の問題点 食を通じた痛風の予防法について, 講義を行う。 (242 渡邊 敦光/1回) 本人の食生活の変化 食生活の改善による生活習慣病やがんの予防について, 講義を行う。 (245 田中 春彦/1回) 生活の中の化学について, 講義を行う。 (246 碓井 亜/1回) 加齢に伴う男性ホルモンの変化について, 講義を行う。 (247 三嶋 弘/1回) 眼の老化 (高齢者時代に伴い増加する眼疾患, 白内障, 緑内障, 加齢黄斑変性等) について講義行う。 (248 星 正治/1回) 放射線の人体への影響とリスク評価の意義について, 講義を行う。 (249 武市 宣雄/1回) 甲状腺癌の発生及び予防と医療 (甲状腺ホルモンの働きを含めて) について, 講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	予防医学・健康指導特論 A	<p>(概要) 本講義は, 予防医学に基づく健康管理を専門とする優れた医療従事者を養成し, 予防医療の向上を図り, 国民の福祉に貢献することを目指す。そのために, 基礎・社会医学から臨床医学, 歯学, 薬学, 法令等, にわたる幅広い最新知見を含む講義を設定し, これを履修することによって, 医歯薬学, 保健学領域における基礎理論及び実践方法論を身に付けることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(12 田中 純子/2回) 予防医学総論及び健康の有効性, 有用性の評価の方法について, 講義する。 (13 池上 浩司/1回) 解剖学及び組織学について, 講義する。 (118 米田 真康/1回) 臨床医学特論: 肥満とメタボリックシンドローム及び糖尿病の成因・病態と治療について, 講義する。 (94 山本 秀也/1回) 心血管疾患について, 講義する。 (16 服部 登/1回) 喫煙による身体疾患, 心血管疾患, 脳血管疾患について, 講義する。 (93 細見 直永/1回) 脳血管疾患について, 講義する。 (144 杉山 文/1回) 予防医学について, 講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目	予防医学・健康指導特論 B	<p>(概要) 本講義は、予防医学に基づく健康管理を専門とする優れた医療従事者を養成し、予防医療の向上を図り、国民の福祉に貢献することを目指す。そのために、基礎・社会医学から臨床医学、歯学、薬学、法令等、にわたる幅広い最新知見を含む講義を設定し、これを履修することによって、医歯薬学、保健学領域における基礎理論及び実践方法論を身に付けることができる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(12 田中 純子／2回) 医学研究のデザイン及び疾病予防、医学研究総論について、講義を行う。 (96 日山 亨／1回) 消化器疾患について、講義を行う。 (23 濱田 泰伸／1回) 生活習慣と疾病・予防について、講義を行う。 (22 森山 美知子／1回) 行動変容モデルについて、講義を行う。 (21 岡村 仁／1回) ストレスマネジメントについて、講義を行う。 (95 横崎 典哉／1回) 面接技法と指導技法について、講義を行う。 (144 杉山 文／1回) 肝疾患について、講義する。</p>	オムニバス方式
	Health Communication and Health Promotion	<p>(英文) This course is planned for master's course students to brief about health communication strategies and the importance of health promotion to achieve health equity.</p> <p>The overall objectives of the course for participants are to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Describe many ways of health communication to improve population health outcomes and health care quality. 2. Outline health promotion strategies and understand the impact of health promotion to reform the primary health care services. 3. Identify the importance of health communication to reduce disease burden and health crisis management. 4. Discuss the concept of health education, communication, development and health equity. 5. Continue the practice of English communication. <p>Specific course objectives: After successful completion of the course participants will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Define the principles of health communication to enhance the public health problems. 2. Develop the strategies of behavior change communication to raise knowledge and attitude towards the contagious diseases. 3. Explain the strategies and methods of health promotion for primary health care maintenance. 4. Recognize the social & behavioral determinants of health, school health programs and necessity of adolescent health promotion. 5. Formulate the communication strategies for safe motherhood, mental health and rehabilitation. 	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目		<p>(和訳) 本科目は修士課程の学生に対して、健康格差の解決に向けたヘルスコミュニケーション戦略とヘルスプロモーションの重要性について議論する。</p> <p>達成目標: 本コース終了時点で学生は以下ができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集団に対する健康アウトカムとヘルスケアの質を向上させるヘルスコミュニケーションの複数の手法について述べるができる。 2. ヘルスプロモーション戦略の概略を述べるとともに、ヘルスプロモーションがプライマリ・ヘルスケア・サービス改革に与える影響について理解できる。 3. 疾病負担を低減させ、健康危機管理につながるヘルスコミュニケーションの重要性が理解できる。 4. 健康教育、コミュニケーション、格差のない健康に関する概念について議論できる。 5. 英語でのコミュニケーションに挑戦し続けることができる。 <p>具体的な目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生上の問題を改善するためのヘルスコミュニケーションの原則を述べるができる。 2. 感染性疾患に対する住民の知識と態度の向上、住民の行動変容に向けたコミュニケーション戦略を考えることができる。 3. プライマリ・ヘルスケアを推進するためのヘルスプロモーション戦略と方法論を説明できる。 4. 健康、学校保健、青少年のヘルスプロモーションを推進するための社会的・行動学的決定要因を理解することができる。 5. 母子保健、精神衛生及びリハビリテーションを推進するためのコミュニケーション戦略を考えることができる。 	
	Research Methodology in Health Science	<p>(英文) This course is intended for graduate course students. It is to inform the application or practice of research in health science to address the public health issues.</p> <p>The overall objectives of the course for students are to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Accurately describe the fundamental concepts and approaches in qualitative and quantitative research methodology 2. Identify how moral, ethical, cultural, social, political and environmental issues and responsibilities impact on research. 3. Critically review and critique the literature using valid resources, and thereby provide informed opinion. 4. Demonstrate skills in critical thinking by accurately synthesizing new research results in science/health. 5. Apply introductory descriptive and inferential statistical concepts and techniques in the analysis of data. <p>Specific course objectives:</p> <p>After successful completion of the course, students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Define the principles of research in health science to enhance the public health problems. 2. Illustrate the association with the exposure and risk factors in health science. 3. Describe the different types of research methodology involved in health science. 4. Evaluate the implications of research methodologies on evidence based practice and their impact on clinical practice and policy. 5. Demonstrate skills consistent with lifelong learning. 	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目		<p>(和訳)</p> <p>本科目は、大学院生を対象としている。公衆衛生に関する研究課題に対して、どのように研究に取り組むのか、その方法について教授する。</p> <p>本コースの到達目標を以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 量的・質的研究方法について、その基本的な概念を正しく描写できる。 2. 道徳的、倫理的、文化的、社会的、政策的、環境的な課題と責任が研究に与える影響について理解できる。 3. 有効なリソースを使用して文献を批評的にレビュー、批評し、情報に基づく意見を提供することができる。 4. 新たに明らかになった結果を健康科学の中に正しく統合することで、批判的な思考のスキルを示すことができる。 5. データ分析について基本的な説明的・推論的統計概念を適用することができる。 <p>具体的な目標:本コース終了時点で学生は以下ができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生問題を改善するための健康科学における研究の原則を定義することができる。 2. 健康科学における危険因子への暴露との関係について説明できる。 3. 健康科学領域で用いられるさまざまな研究の方法論について説明できる。 4. エビデンスに基づく実践と臨床実践、政策への影響に関する研究方法論について評価することができる。 5. 生涯にわたって学び続けることのできる能力を示すことができる。 	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	薬科学特論	<p>(概要) 創薬を行う上で必要不可欠な理論について最新の知見を中心に講義を行い、薬科学の全体像を概観する。さらに、製薬企業における第一線研究者を非常勤講師に委嘱し、実践的創薬研究に関する講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(62 紙谷 浩之/1回) DNA複製エラーの分子機構について、講義をする。 (64 古武 弥一郎/1回) 衛生薬学について、講義をする。 (65 高野 幹久/1回) 薬物動態について、講義をする。 (67 黒田 照夫/1回) 微生物薬品学について、講義をする。 (191 杉山 政則/1回) 先進乳酸菌科学 (281 飯田 理文/1回) ファーマコメトリクスと医薬品開発について、講義をする。 (282 吉澤 健一/1回) 臨床試験と観察研究について、講義をする。 (283 小松 康雄, 303 唯保 祐介, 304 井戸 克俊/1回) (共同) 創薬について、講義をする。 (284 加登住 眞/1回) バイオベンチャーでの創薬について、講義をする。 (285 諫田 泰成/1回) レギュラトリーサイエンスについて、講義をする。 (286 植原 秀人/1回) 医薬品研究について、講義をする。 (287 近藤 裕郷/1回) 創薬科学について、講義をする。 (300 河野 陽一/1回) 医薬品開発審査の最近動向について、講義をする。 (301 小坂 展慶/1回) マイクロRNAについて、講義をする。 (302 岡崎 紀子/1回) 製薬業界の世界情勢について、講義をする。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	生薬学特論	<p>本講義は、生薬学・天然物化学分野における探索研究に必要な知識、考え方を身に付けることを目標としている。世界にはいまだ化学的、薬学的に未解析な植物資源が多数存在する。特に、熱帯・亜熱帯植物は多様性に富み、含有される化学成分は医薬品リード化合物の探索研究にとって重要である。本講義では、医薬品探索に関する重要な論文を各自の専門性に応じた幅広い観点から選択し、精読および議論することで、背景にある知識を深く理解し、その分野の将来性や現在の課題について考察する。</p>	隔年
	薬物治療学特論	<p>薬物治療を行う上で、臨床で使用される各種医薬品のヒトにおける薬物動態を知る必要がある。本講義では、根拠に基づく薬物治療を専門とする優れた医療従事者を養成し、薬物治療の質の向上を図り、国民の福祉に貢献できる研究者を育成することを目指す。そのために、感染症及び抗感染症薬の薬物動態を中心に、基礎・社会薬学から臨床医学、臨床薬学、法令等に渡る幅広い最新の知見を含む講義を設定する。受講生は、これを習得することによって、臨床薬学領域における基礎理論及び実践方法論を身に付けることができる。</p>	隔年

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	創薬合成化学特論	医薬品を創製する上で、生理活性物質の効率的合成、医薬品標的生体分子、活性物質の医薬品への変換などに関する広範な知識の習得が必要である。本講義では、有機合成化学・有機反応化学における炭素-炭素結合形成反応、反応速度論、酸化・還元などの基本的な事項と知識を習得し、不斉反応の開発、有機金属試薬や遷移金属触媒を用いた反応、および複雑な骨格を有する生物活性天然物の全合成研究や創薬化学研究など応用的な内容や最先端の研究内容について理解を深める。	隔年
	核酸分析化学特論	遺伝情報の保存・発現に関わっている重要な生体分子である核酸とその関連化合物(ヌクレオチド・ヌクレオシド)の基礎的事項から、医薬品としての核酸とその関連化合物に関する最先端の知識までを網羅的に取り上げ、近い将来に研究者として活躍することが期待される大学院生にとって必要不可欠な知識や考え方を習得することを目的としている。主に、核酸とその関連化合物に関する基礎知識、DNA複製の際のエラーの機構とその抑制機構、核酸系抗癌剤、核酸医薬と遺伝子治療について取り上げる。	隔年・共同
	医薬分子機能科学特論	医療現場で使用されている既存の医薬品や生理活性分子の機能(cやそれら生理機能の制御システムなど)を化学的に議論・考察するために必要な知識と知恵を身につけるための講義である。	隔年
	生体機能分子動態学特論	ヒトの健康を考える上で、健康に影響をおよぼす外的要因である環境について学ぶ必要がある。本講義では、環境中に存在する化学物質の毒性、毒性評価系、疾患発症における遺伝的素因と環境因子、化学物質の毒性修飾要因としての薬物代謝など、健康と環境に関するさまざまな話題を取り上げ、生体機能分子動態学に関する研究分野の基礎知識を習得し、最新の研究動向を理解する。	隔年
	細胞再生機構特論	細胞再生機構に関する研究分野の基礎知識を習得し、最新の研究動向を理解する。細胞周期、細胞老化、細胞のがん化、DNA損傷、加齢に伴う生体内の変化因子、マイクロRNAなどのエピジェネティックな変化因子による制御機構など多様な観点で議論する。	隔年
	細胞内情報伝達学特論	GTP結合タンパク質系、チロシンキナーゼ系、イオンチャンネル系等の細胞内情報伝達系を把握し、下流の細胞内情報伝達分子と転写因子の働きを理解する。さらにそれらの系のクロストークを知り、ヒトが生体の恒常性を維持する仕組みと意味を知る。本講義では主として免疫系の細胞における情報伝達及びその恒常性の破綻に基づく病態を扱う。こうした知識に基づいて最新の論文を読み取り、論文の問題点を指摘できるようにする。また新たな視点から論文の発展形を提起して、議論する。	隔年
	微生物医薬品開発学特論	微生物感染症に対する医薬品開発に資する様々な研究分野の基礎知識を習得する。特に、病原微生物の生体や抗菌薬に対する耐性機構、様々な環境ストレスに対する適応機構に関しての知見について、担当教員の経験や最新の文献情報を踏まえながら講義を行う。また抗菌薬のシーズ探索や新たな標的探索につながる研究の進め方やその過程で重要となる点、配慮が必要な点を学ぶことにより、将来の創薬研究者に必要な、新規医薬品開発についての知識を得る。	隔年

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	薬効解析科学特論	慢性疼痛, 精神疾患 (うつ病, 不安障害など), 神経変性疾患 (アルツハイマー病, パーキンソン病など) 並びに薬物依存といった中枢神経系疾患を中心に最新の研究動向を理解するとともに, それらに関連する原著論文を用いて, 研究の背景, 実験技術, データの解析及び結果の解釈について, 様々な視点から深く考察する能力を習得することを目的とする。また原著論文より得られた内容について各自発表を行うことで, プレゼンテーション能力の向上も合わせて行う。	隔年
	薬物動態解析・制御科学特論	薬物の体内動態を支配する4つの過程, すなわち吸収, 分布, 代謝, 排泄, 並びに薬物速度論 (Pharmacokinetics) に関する総説や海外の大学で用いられている教科書等を用いて本学問領域の理解を深めるとともに, 演習等を通じてプレゼンテーション能力及びこの領域に関連する英語力を身につける。またこれら領域に関する原著論文を用いて, 研究の背景, 実験技術, データの解析及び結果の解釈について, 様々な視点から深く考察する能力を習得することを目的とする。	隔年
	治療薬効学特論	問題点を, 病態生理の分子メカニズム, 治療薬の分子薬理メカニズム, 分子メカニズムに基づいた薬物間相互作用, 遺伝情報や生体メカニズムに基づいた薬物療法の最適化など, 様々な視点から講義する。	隔年
	応用薬物治療学特論	臨床において適正かつ安全な薬物治療を提供するために必要不可欠な知識について講義を行う。薬物の服用によるアレルギー発症のメカニズム, I型アレルギー発症に影響を与える薬物, 血中薬物濃度に影響を及ぼす生体因子や薬物間相互作用, 高分子タンパク質の吸収に影響を及ぼす薬物, 薬物漏出による皮膚傷害予防など, 薬物の安全使用に必要な情報を様々な視点から理解する。	隔年
	漢方診療学特論	エビデンスの集積が進んでいる大建中湯, 抑肝散, 六君子湯の基礎研究, 臨床治験の論文情報を集積しその理解を深め, 多成分系である漢方薬の作用を総合的・全人的に捉えることで, 新たな研究材料を発掘する能力, 漢方診療学を客観的に実践できるような診断システム開発を実践できる能力を養う。	隔年
	未病・予防医学特論	創薬及び未病・予防医学の観点から, マイクロバイオーム解析やメタボローム解析に関する最新の知識と研究動向情報を得るとともに, 腸内細菌叢に影響を及ぼすプロバイオティクスや, それが産生する機能性分子の作用機序などの最新知識を習得する。近年, 人々の健康意識の高まりとともに, 食品の保健機能性に注目が集まっている。本特論を通じて, わが国の特定保健用食品や最近制定された機能性表示食品制度について学ぶとともに, 食品のヒト臨床試験を立案できる人材の育成に寄与する。	隔年・共同
	English Communication	(英文) To develop individual researcher's communication skills (discourse analysis) applicable to both research based discussions as well as daily academic interaction. As the course plays out we will develop both class tasks (aimed at group academic needs) and individual tasks (aimed at each researcher's needs). (和訳) 研究ベースのディスカッションだけでなく, 日々の学術交流でも役立つことができる各研究者のコミュニケーションスキル (談話分析) を習得させる。講義を進めていくことで, クラスの課題 (グループの学術ニーズ) と個別の課題 (各研究者のニーズ) を習得させる。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	生薬学特論演習	世界中の伝統医学で使用されている生薬やハーブに加え、薬学的、化学的な解析が不十分な熱帯、亜熱帯天然資源について、現地調査、文献調査を行う。また、採集したサンプルについて、HPLC等による分析、核磁気共鳴分光法(NMR)や質量分析装置(MS)などによるスペクトル解析、化学的誘導体化を組み合わせて含有成分についてその化学構造を含めて明らかにする。これらの過程で必要とされる天然物化学の専門的知識の習得を目的とする。	
	薬物治療学特論演習	薬物治療を行う上で、臨床で使用される各種医薬品のヒトにおける薬物動態を知る必要がある。本演習では、根拠に基づく薬物治療を専門とする優れた医療従事者を養成し、薬物治療の質の向上を図り、国民の福祉に貢献できる研究者を育成することを目指す。そのために、感染症及び抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬の薬物動態を中心に、細菌学的・臨床的効果の薬力学も踏まえた薬物濃度解析・投与設計の実践を通じて、薬物治療の実際を体験する。受講生は、これを習得することによって、臨床薬学領域における基礎理論及び実践方法論を身に付けることができる。	
	創薬合成化学特論演習	創薬合成化学研究に関する最新の原著論文の文献紹介及びレビューを行い、該当分野の最新の研究情報を収集・学習する。創薬ターゲットへの目的のリガンド想定される結合様式とリガンドの基本構造の設計、構造活性相関研究に向けた、より効率的に大量かつより多様な候補化合物を合成するための合成戦略とその手法などについて学ぶ。	
	核酸分析化学特論演習	遺伝情報の保存・発現に関わっている重要な生体分子である核酸とその関連化合物(ヌクレオチド・ヌクレオシド)に関する大学院レベルの基礎知識を習得し、最新の研究動向を理解するために、英語で執筆された研究論文を課題として与える。受講生は、その背景、研究戦略、実験方法、研究結果、及び考察を詳細に読み、さらにその論文中の引用文献を合わせて読むことにより、近い将来に研究者として活躍することが期待される大学院生にとって必要不可欠な知識や考え方を習得する。	
	医薬分子機能科学特論演習	分子間相互作用に起因した医薬分子の生理機能の発現機構やそれら生理機能の制御システムなどに関連した最新の研究論文の内容について、受講生がセミナー形式で紹介し、その研究内容の意義や問題点について質疑応答形式で討論することにより、研究の内容の理解をより深く理解する。	
	生体機能分子動態学特論演習	ヒトの健康を考える上で、健康に影響をおよぼす外的要因である環境について学ぶ必要がある。本講義では、環境中に存在する化学物質の毒性、毒性評価系、疾患発症における遺伝的素因と環境因子、化学物質の毒性修飾要因としての薬物代謝など、健康と環境に関するさまざまな論文を取り上げ、それを読解し、批判的に議論することにより、生体分子動態学の基礎および研究方法論について習得する。	共同
	生物物理化学特論演習	核酸や蛋白質を研究対象とするために必要な生物物理科学的(電気泳動分析を中心とした)な知識を習得する。医薬分野の研究、特にポストゲノム時代に対応できるプロテオーム解析に必須の最新の情報技術と生物物理科学的研究手法に関する論文を取り上げ、それらを通して最先端の知識を理解するとともに院生主体のセミナー形式の討論会も行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	分子神経毒性学特論演習	演習を通して、環境中に存在する化学物質の神経毒性、疾患発症の環境因子による神経毒性の分子メカニズムを学ぶ。それらに関連したさまざまな論文を読み解き、議論することにより、研究内容の理解を深める。	
	細胞再生機構特論演習	再生医療に関する知識は、細胞の性質や特性のみならず、細胞内の遺伝子シグナルなど限らず、多様である。本特論では、細胞を用いた最新の治療方法や細胞に対する最新の治療方法に関する知識の習得をめざす。最新の再生医療治療や遺伝子治療などの論文をセミナー形式で発表を行うことで、幅広い知識の習得をめざす。	
	細胞内情報伝達学特論演習	イノシトールリン脂質の生理的役割に関する1報の英文原著論文を毎回精読し、発表者である学生は論文のキーワード・背景・実験方法・実験データについて詳細に紹介する。論文の意義と問題点について議論することにより、イノシトールリン脂質の代謝と生理的役割についての基礎知識を習得し、この分野の最新の研究動向を把握する。	
	微生物医薬品開発学特論演習	微生物感染症に対する医薬品開発に資する様々な研究分野の基礎知識を習得し、最新の研究動向を理解する。特に、病原微生物の生態や抗菌薬に対する耐性機構、様々な環境ストレスに対する適応機構に関する最新の文献を読み、いくつかの参考文献も織り交ぜながら論文紹介を行うことによって、理解を深める。また抗菌薬のシーズ探索や新たな標的探索につながる論文についても紹介を行うことによって、新規医薬品開発の最新の情報を理解する。	
	抗生物質生合成学特論演習	抗生物質生合成に関する論文の抄読を通じて、学生自身に資料の作成・プレゼンテーションを実施させ、ディスカッションを行うことにより、抗生物質生合成研究の方法論を学ぶとともに、当該研究分野の最新動向を把握する。	
	構造生物学特論演習	高分子（特にタンパク質）の機能と、その三次元構造が密接に関連していることを理解させ、さらに、高分子の三次元構造情報を、どのように医薬分野で活用するのかについての知識を習得させる。実際に、最新の論文を題材にして、タンパク質の機能がその三次元構造によって、いかに制御されているかを学ぶ。さらに、目的とするタンパク質を大量に取得し、X線結晶構造解析によりその三次元構造を決定する技術を、論文紹介を通して習得させる。	
	薬効解析科学特論演習	慢性疼痛、精神疾患（うつ病や不安障害）並びに神経変性疾患（アルツハイマー病やパーキンソン病）といった中枢神経系疾患に関連する最新の原著論文を用いて、それぞれの疾患の発症にかかわる病態メカニズムの基礎知識、解析技術を習得するとともに最新の創薬ターゲットに関する研究動向を理解する。また各自で論文内容の発表を担当し、論文の疑問点や問題点、改善点などを討論することで、研究に対する洞察力及び論述力を養うことも合わせて目的とする。	
	薬物動態解析・制御科学特論演習	薬物の体内動態を支配する4つの過程、すなわち吸収、分布、代謝、排泄、並びに薬物速度論（Pharmacokinetics）に関する原著論文を読んで内容を発表し、論文の疑問点や問題点、改善点などを討論することで、研究に対する洞察力及び論理性を養う。原著論文は、自分の研究に関連する論文（Basic Research Seminar）及びより臨床に近い論文（Clinical Research Seminar）を選び発表する。	共同
	治療薬効学特論演習	問題点を、病態生理の分子メカニズム、治療薬の分子薬理メカニズム、分子メカニズムに基づいた薬物間相互作用、遺伝情報や生体メカニズムに基づいた薬物療法の最適化など、様々な視点から討議する。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	細胞がん化機構特論演習	本演習ではさまざまながん種を対象としてその発生から薬剤耐性・転移といった悪性化に至るまでの分子メカニズムを概説する。また、創薬研究に関する国内外の最新の知見も併せて紹介する。これらの知見に関して受講生は質疑応答形式で討論を行い、がん研究における技術開発や創薬研究を取り巻く現状に関して理解を深めてもらうとともに、研究者として必要な論理構築やプレゼンテーション能力も習得させる。	
	医薬品創剤科学特論演習	薬物のもつ効果を最大限に引きだし、また安全性を高めるために必要となる製剤設計学及びドラッグデリバリーシステム (DDS) に関する原著論文を読んで内容を発表し、論文の疑問点や問題点、改善点などを討論することで、研究に対する洞察力及び論理性を養う。原著論文は、自分の研究に関連する論文 (Basic Research Seminar) 及びより臨床に近い論文 (Clinical Research Seminar) を選び発表する。	共同
	分子治療薬効学特論演習	分子治療薬効学に関する研究分野の基礎知識を習得し、最新の研究動向を理解する。現在臨床で使われている薬物や新規化合物の新しい薬効・薬理作用について、最新の分子生物学的、生化学的さらには薬理学的手法を用いて分子レベルで解明する方法を学び、習得することを目指す。さらに分子治療薬効学関連の論文を調査・学習し、理解を深めることで本研究に対する洞察力を養う。	
	応用薬物治療学特論演習	臨床において適正かつ安全な薬物治療を提供するために必要な安全性及び有効性に関するエビデンスの創出方法を理解し、最新の医薬品の安全性や有効性に関する研究動向を把握する能力を養うことを目的とする。薬物療法に関する基礎研究や臨床研究の最新の論文を紹介し、研究手法、結果、及び臨床への波及効果について学生間で討議する。	共同
	薬物治療情報学特論演習	現在臨床で行われている様々な疾患領域における薬物治療の標準的実例および最新の知見に関して学生間で発表・討議を行い、科学的根拠となるエビデンスに基づいて薬物治療処方の解析・評価・計画を臨床薬理的に行うことができるための能力を養成することを目的とする。薬物治療に関する医薬品情報をより実践応用的に入手・批判的吟味・活用・発信するための技術や態度を習得させることを目指す。	
	生薬・漢方医療学特論演習	世界中の伝統医学で使用されている生薬やハーブに加え、薬学的、化学的な解析が不十分な熱帯、亜熱帯天然資源について、現地調査、文献調査を行う。また、採集したサンプルについて、HPLC等による分析、核磁気共鳴分光法 (NMR) や質量分析装置 (MS) などによるスペクトル解析、化学的誘導体化を組み合わせる含有成分についてその化学構造を含めて明らかにする。これらの過程で必要とされる天然物化学の専門的知識の習得を目的とする。	
	分子薬理学特論演習	慢性疼痛、精神疾患 (うつ病や不安障害) 並びに神経変性疾患 (アルツハイマー病やパーキンソン病) といった中枢神経系疾患に関連する最新の原著論文を用いて、それぞれの疾患に関わる分子標的と病態に対する作用メカニズムを理解するとともに、最新の創薬研究の動向を理解する。また各自で論文内容の発表を担当し、論文の疑問点や問題点、改善点などを討論することで、研究に対する洞察力及び論述力を養うことも合わせて目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	漢方診療学特論演習	WHOのICDに掲載されている漢方用語の理解を深めることにより、国際標準レベルの漢方治療学の基本をマスターする。伝統的な診察方法すなわち、四診(望診・聞診・問診・切診)の実習、随証治療理論の理解、漢方薬の薬理作用とその構成生薬の薬理作用の相互理解などをディスカッション、発表を通して極める。	
	未病・予防医学特論演習	プロバイオティクスやプレバイオティクスの摂取が腸内細菌叢に影響を与える結果、生活習慣病を始めとする各種疾患の予防改善に有効であることが明らかとなってきた。これらの研究を踏まえ、プロバイオティクスの代表である乳酸菌の腸管内における挙動のほか、乳酸菌の産生する機能性分子の作用と生合成経路の知識を習得する。本演習では、腸内細菌叢と疾病に関する最新の論文をできる限り多く読むとともに、主に腸内細菌を研究対象とした微生物培養法、データ解析法、並びに科学論文作成法などを習得する。	
	生薬学特別研究	世界中の伝統医学で使用されている生薬やハーブに加え、薬学的、化学的な解析が不十分な熱帯、亜熱帯天然資源について、現地調査、文献調査を行う。また、採集したサンプルについて、HPLC等による分析、核磁気共鳴分光法(NMR)や質量分析装置(MS)などによるスペクトル解析、化学的誘導体化を組み合わせて含有成分についてその化学構造を含めて明らかにする。これらの過程で必要とされる天然物化学の専門的知技術の習得を目的とする。	
	薬物治療学特別研究	感染症及び抗菌薬の薬物動態に関して、研究の実践、指導を行い、抗菌薬の薬物動態解析に基づいた薬物治療の質の向上を目指した論文指導を行う。 高性能薬物濃度測定機器(HPLC等)及び薬物動態解析(モデリング&シミュレーション等)の手法を用いて、ヒトにおける抗菌剤の薬物動態の解明という課題の研究指導を行う。	
	創薬合成化学特別研究	有機合成実験における代表的な基本操作の習得、さらには標的とする目的化合物の合成法の立案、。試薬の特性や毒性の理解と実際の使用法、反応の仕込み、反応経過の追跡、後処理・精製、機器分析・構造決定といった有機合成化学の研究における一連の実験操作を習得する。研究により得られた研究成果を研究室セミナーあるいは関連学会で発表することにより、プレゼンテーションの能力を高めるとともに研究データについて分析し、討論する能力を向上させる。	
	核酸分析化学特別研究	遺伝情報の保存・発現に関わっている重要な生体分子である核酸に関する研究課題を選択し、最先端研究を行う。課題としては、活性酸素等の変異原により生ずるDNA損傷の複製エラーの誘発機構とその抑制機構、核酸を導入することによりピンポイントに変異配列から正常配列に回復させる遺伝子修復法(ゲノム編集法)の開発、外来遺伝子を持続的かつ適切に発現させて遺伝子治療を行うための外来DNAの開発の中から1つを選択する。さらに、研究成果を国内外の学会で発表するとともに、論文を作成し、研究者としての能力を向上させる。	
	医薬分子機能科学特別研究	癌や心疾患などの病態に関連した生体内機能性分子(リン酸化タンパク質や含硫黄分子など)の機能発現のメカニズムやそれら生理機能の制御システムに関連した化学的な研究、研究内容の論文化、及び公開方法の指導を行う。研究分野の基礎知識を習得し、最新の研究動向を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	生体機能分子動態学特別研究	<p>(概要) 毒性学, 薬物代謝学, 神経化学実験を通して, 実験, データ解析, 科学論文作成手技を習得する。</p> <p>(64 古武 弥一郎) 毒性学, 神経化学, 細胞生化学の手法を用いて, 化学物質の神経毒性, 神経変性疾患の環境因子解明に関する研究指導を行う。</p> <p>(164 佐能 正剛) 薬物代謝学, 薬物動態学, 分析化学の手法を用いて, 医薬品を含めた化学物質の代謝と毒性およびそのヒト予測に関する研究指導を行う。</p>	
	細胞再生機構特別研究	細胞再生機構に関する研究分野の基礎知識を習得し, 最新の研究動向を理解する。	
	細胞内情報伝達学特別研究	イノシトールリン脂質の生理的役割についての実験課題を通して, 生物化学・細胞生物学の実験技術を身につけ, 研究結果の解析方法や発表方法(学会, 論文)について学ぶ。	
	微生物医薬品開発学特別研究	微生物感染症に対する医薬品開発に資する研究を行い, 創薬研究者としての基礎知識及び技術を身につける。特に, 病原微生物や抗生物質生産菌の取り扱いや, 細菌からのDNA, RNA, タンパク質の抽出などの分子生物学的な解析に必須な技術, さらには遺伝子情報を含むデータベースの適切な取り扱い等を学ぶ。同時に, 研究上のバイオセーフティーや, 組換えDNA実験に関する知識・技術を習得することにより, 微生物研究のノウハウについて学ぶ。	
	薬効解析科学特別研究	初代培養中枢神経系, グリア系細胞の作製法及びげっ歯類を用いた動物モデル(慢性疼痛, 精神疾患及び神経変性疾患)の作製法, 取り扱い並びに行動解析方法を習得する。その後, これらを用いた薬理的, 神経化学的, 生化学的並びに分子生物学的手法を習得するとともに, 研究計画の立案, 研究の進め方, データの解析とその考察及び論文作成手法を学ぶ。さらに得られた研究成果の効果的なプレゼンテーション技法を習得する。	
	薬物動態解析・制御科学特別研究	<p>(概要) 薬物体内動態の詳細や薬物誘発性臓器毒性の分子機構を解析するために必要な各種実験手法(細胞培養, 動物実験, 分子生物学的手法など)を習得する。これらの手法を用いて, 薬物体内動態支配因子である生体膜輸送システムや薬物誘発性細胞毒性の分子機構及び毒性防御法に関する研究を実施することで, 研究計画の立案, 研究の進め方, データの解析とその考察及び論文作成手法を学ぶ。さらに得られた研究成果の学会等での発表機会を通じて, プレゼンテーション能力を養う。</p> <p>(65 高野 幹久) 生体膜輸送, トランスポーター等に関する研究指導及び修士論文作成指導を行う。</p> <p>(112 湯元 良子) 生物薬剤学, 薬物動態解析学等に関する研究指導を行う。</p> <p>(165 川見 昌史) 肺胞上皮細胞, 葉酸トランスポーター等に関する研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	治療薬効学特別研究	肥満を中心とする各種病態とその発症機構における分子レベルでのメカニズムについて、当該分野の最新の研究動向を把握しながら研究を立案・計画し解明を試み、さらにその治療薬の探索を行う。 肥満、中枢神経系疾患についての病態生理メカニズムの解明、治療薬の探索を行う。	
	応用薬物治療学特別研究	(概要) 有効かつ安全な薬物治療を提供するために必要なエビデンス創出のための研究に関して、実験及び論文指導を行う。 (75 松尾 裕彰) 新しいアレルギーの診断・治療法の開発、及び、薬物による有害事象の発症と予防法に関する研究について指導を行う。 (114 横大路 智治) 食物アレルギーの発症メカニズムと予防法に関する研究について指導を行う。 (166 埴越 崇範) 薬物の適正使用に関する研究、特に血中薬物濃度測定法及びTherapeutic drug monitoringの有用性に関する研究について指導を行う。	
	漢方診療学特別研究	漢方診療学は従来、医師の五感に基づいて行われてきたことを熟知するとともに、その診療における不安定性を解決するための方策を議論し、現在まで集積されたエビデンスを基に新たな技術開発、漢方薬効果判定の客観的評価法の開発、構成生薬の薬理作用とその配合によって決定される漢方薬の薬理学的作用等に関わる研究を通して、専門的知識・技術の習得を行う。	
	未病・予防医学特別研究	植物起源の乳酸菌(植物乳酸菌)の探索分離法を習得するとともに、分離した乳酸菌の分類学的同定法を学ぶ。また、機能性分子を産生する乳酸菌株のスクリーニング及び保健機能性解明に関する研究を通じ、細菌学の最新研究を遂行する技術の習得を図る。さらに、植物乳酸菌の全ゲノム解析及びメタボローム解析などの結果を考察する力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	Hiroshimaから世界平和を 考える	<p>(概要) 被爆地広島に立脚する広島大学は、理念の第一に平和を希求する精神を掲げる。本講義の目的は次の二点である。ヒロシマの基盤ともいべき原爆・被爆被害の概要を理解する。さらに、ヒロシマを基軸としながらも普遍的で恒久的な平和のあり方を模索する。そこでは、今日的に緊急性の高いテーマである。例えば、貧困・飢餓・難民・環境問題そして世界各地の地域紛争等をテーマに、理想と現実との間にあるギャップをも理解し、理想的な平和のあり方を検討する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(169 川野 徳幸／2回) 被爆地「Hiroshima」における原爆・被爆被害の概要</p> <p>(206 小宮山 道夫／2回) 原爆と広島大学の関わり、広島歴史、広島に課された役割</p> <p>(167 河合 幸一郎／1回) 途上国における貧困と飢餓、食糧生産の現状と課題</p> <p>(168 中坪 孝之／1回) 地球温暖化、環境破壊、天然資源の枯渇等の現状と解決のための方策</p> <p>(205 山根 達郎／2回) 現代における地域紛争の特徴、紛争後の平和構築の在り方</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 持続 可能 な 発 展 科 目	Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	<p>(英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University “Pursuit of Peace” and the long-term vision “Splendor Plan 2017”. The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these.</p> <p>When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of social development from the above aspects.</p> <p>lesson1 Guidance of the course lesson2 JICA chugoku center lesson3 Yuichiro Yoshida “Japanese policy experience: Success and Failures” lesson4 Katsufumi Fukuda “Industrial Policy and Economic growth” lesson5 Junyi Zhang “History of environmental policies in Japan”1 lesson6 Junyi Zhang “History of environmental policies in Japan”2 lesson7 Osamu Yoshida “Japanese ODA and its Asia Policy” lesson8 Mari Katayanagi “Reconstruction of Hiroshima from Peacebuilding Perspective”</p> <p>(和訳) 本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョンSplendor Plan 2017をベースとして、SDGsについて議論する。SDGsは、世界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGsは包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。</p> <p>これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初のOECD加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では社会の発展における日本の経験に関して学ぶものである。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続 可能な 発展科目	(オムニバス方式／全8回) (206 小宮山 道夫／1回) 本講義のガイダンス, 概要説明 (312 三角 幸子／1回) JICAの活動, 役割 (170 吉田 雄一郎／1回) 日本の政策経験 (175 市橋 勝／1回) 産業政策と経済成長 (171 張 峻屹／2回) 日本の環境政策の歴史 (172 吉田 修／1回) 日本のODAとアジア政策 (173 片柳 真理／1回) 平和構築から見た広島復興	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	持続可能な発展科目	<p>Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health</p> <p>(英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University “Pursuit of Peace” and the long-term vision “Splendor Plan 2017”. The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these. When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of human development from the above aspects.</p> <p>lesson1 Guidance of the course lesson2 Maharajan Keshav Lall “Japanese experience of development in Agriculture and Remote area” lesson3 Koki Seki “Socio-cultural Aspect of Modernization of Japan: Focusing on the Transformation of Norm, Mentality, and Way of Living” lesson4 Kinya Shimizu “A History of Education in Japan” lesson5 Kinya Shimizu “Lesson Study in Japan: As a tool of PDSI in Japanese Education” lesson6 Junko Tanaka “International cooperation and research collaboration in the field of public health” lesson7 Michiko Moriyama "Healthcare system in Japan: its characteristics and history" lesson8 Discussion</p> <p>(和訳) 本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョンSplendor Plan 2017をベースとして、SDGsについて議論する。SDGsは、世界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGsは包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初のOECD加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では人類の発展における日本の経験に関して学ぶものである。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続 可能な 発展 科目	(オムニバス方式／全8回) (178 馬場 卓也/1回) 本講義のガイダンス, 概要説明 (177 MAHARJAN, KESHAVLALL/1回) 農業開発における日本の経験 (207 関 恒樹/1回) 日本の現代化における社会文化的側面 (176 清水 欽也/2回) 日本における教育開発 (12 田中 純子/1回) 公衆衛生学分野の国際協力と共同研究 (22 森山 美知子/1回) 日本のヘルスケアシステム (178 馬場 卓也/1回) まとめ	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	持続可能な発展科目	<p>SDGsへの学問的アプローチA</p> <p>(概要)SDGsは持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかしこの課題は単独での問題解決に止まらず、分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに、その解決には、援助国、被援助国のみならず、地方自治体、民間企業、市民社会が協働して取り組む新しい社会の在り方が求められている。本SDGsへの学問的アプローチAでは、人権を中心に取り組む。Bと合わせて受講することが推奨される。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (括弧内SDGs目標番号)</p> <p>(178 馬場 卓也／1回)</p> <p>1. コースの概要, SDGsと貧困問題 (1, 17):SDGsの設置経緯について説明し, 17の目標の中で, 貧困は様々な問題の根底に位置することについて説明, 議論する。</p> <p>(180 実岡 寛文／1回)</p> <p>2. 持続可能な消費と飢餓 (2, 12):地球規模で食料の持続可能性を考える時, 先進国と途上国のインバランスが問題となる。持続可能な生産消費形態, 栄養改善などについて議論する。</p> <p>(12 田中 純子／1回)</p> <p>3. 公衆衛生と社会医学 (3, 6):安全な水の供給と確保は人が健康に生きていくための不可欠の開発課題であることから, 疾病対策を含む健康維持のための社会医学的, 公衆衛生的側面からの持続可能な管理と問題について講義する。</p> <p>(22 森山 美知子,97 RAHMAN MD MOSHIUR／1回) (共同)</p> <p>4. 健康と福祉 (3):プライマリ・ヘルスケア, リプロダクティブ・ヘルス, 非感染性疾患と高齢化などグローバルな健康問題について講義する。</p> <p>(181 永田 良太／1回)</p> <p>5. 教育と社会 (4):情報化による急激な変化が進む中で, 先進国と途上国の境目がなくなりつつある。今後の教育に求められる役割と課題について議論する。</p> <p>(179 石田 洋子／1回)</p> <p>6. ジェンダー問題と平等な社会 (5, 10)/ジェンダーの平等と女性のエンパワーメントに向けた課題, 国家間及び各国内の不平等削減に係る課題, そしてこれら2つの課題解決が他のSDGsゴール達成に深く関わることについて議論する。</p> <p>(313 隈元 美穂子／1回)</p> <p>7. 国際機関の取り組み(17): SDGsを推進している立場から, その取り組みの課題と進捗状況について議論する。</p> <p>(178 馬場 卓也／1回)</p> <p>8. 総括討議</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続可能な 発展科目	<p>SDGsへの学問的アプローチB</p> <p>(概要) SDGsは持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかしこの課題は単独での問題解決に止まらず、分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに、その解決には、援助国、被援助国のみならず、地方自治体、民間企業、市民社会が協働して取り組む新しい社会の在り方が求められている。本SDGsへの学問的アプローチBでは、環境、社会、ガバナンスを中心に取り組む。Aと合わせて受講することが推奨される。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (括弧内SDGs目標番号)</p> <p>(173 片柳 真理/1回)</p> <p>1. コース概要, 平和な社会 (16) : SDGsの設立経緯について説明し, それら目標の最終ゴールとして, 平和な社会の実現について議論をする。</p> <p>(208 長谷川 祐治/1回)</p> <p>2. 気候変動と防災 (13) : 気候変動の兆候がますます顕著になりつつあり, その影響を軽減するための防災, 緊急対策について議論する。</p> <p>(209 日比野 忠史/1回)</p> <p>3. エネルギーと持続可能な都市 (7, 11) : 安価かつ信頼できる持続可能なエネルギーへのアクセスを確保し, 包摂的, 強靱(レジリエント) で持続可能な環境の実現について議論する。</p> <p>(224 佐野 浩一郎/1回)</p> <p>4. 経済成長と雇用 (8) : すべての人々の雇用と働きがいのある労働環境の実現と, 持続可能な経済成長の可能性と課題とについて議論する。</p> <p>(183 河合 研至/1回)</p> <p>5. インフラと産業 (9) : 包摂的で強靱(レジリエント) なインフラ構築, 持続可能な産業化及びイノベーションの可能性と課題について議論する。</p> <p>(182 小池 一彦/1回)</p> <p>6. 陸上資源 生物資源学(14, 15) : 農業・畜産・水産業における生物資源の利用と生態系保全とのジレンマについて講義する。</p> <p>(314 川本 亮之/1回)</p> <p>7. 地域社会の取り組み (地方自治体) (17, 11) : 広島県内の地方自治体での種々の取り組みを, SDGsの観点から議論する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続 可能な 発展科 目	<p>ダイバーシティの理解</p> <p>(概要)SDGsの達成を目指す社会において、ダイバーシティ&インクルージョンの価値を理解し、それを実現するスキルを習得することは、いかなる専門性を有する人材にとっても重要である。この授業では、ダイバーシティのリスクとメリットを理論的・実践的に理解し、インクルージョン実現のためのシステム構築について考える力を習得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(184 坂田 桐子・210 ヘイズ櫻井 里穂/2回)(共同)</p> <p>1. ダイバーシティに関する理論:特に組織におけるダイバーシティのリスクとメリットについて、理論的背景及び組織における現状について理解することを目的とする。</p> <p>(226 北梶 陽子/5回)</p> <p>2. ゲーム演習:多様な人々で構成される集団や社会において、異なる他者の視点を取得し、問題を解決するプロセスを体験できるシミュレーションゲームを行う。</p> <p>(185 大池 真知子・226 北梶 陽子/1回)(共同)</p> <p>3. ディスカッション:理論とゲーム演習の体験に基づき、ダイバーシティ&インクルージョンの価値と実現方法について議論する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	キャリア 開発・ データ リテラ シー科 目	<p>データリテラシー</p> <p>(概要)ICTの普及とともに様々な分野で膨大なデータが蓄積され、これを活用した新しいビジネスも展開されるようになり、データ解析の技能や統計学の知識をもった人材が社会から必要とされている。本講義では、社会的背景、データを取り扱う手法として機械学習、統計学といったデータ科学の考え方について紹介し、いくつかの具体例を通してデータの取り扱い等に関して注意すべき点を解説する。また、セキュリティ、個人情報の保護といった問題についても触れる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(211 宮尾 淳一/4回)</p> <p>ビッグデータと呼ばれる膨大なデータの活用に関する現状を理解することを目的とする。具体的には、ビッグデータの機械学習への利用例と最新の成果を示し、その可能性を理解すると共に、AIへの応用なども解説する。また、ディープラーニングによる実行例なども提示する。さらに、ビッグデータの取り扱いに関する問題点や注意点についても触れる。</p> <p>(186 柳原 宏和/4回)</p> <p>本格的な統計解析手法を学ぶ前の取り掛かりとして、記述統計を学ぶことを目的とする。具体的には統計ソフトRを用いて、データの取り込み、抽出、結合、ヒストグラムやボックスプロット、散布図などによるデータの視覚化、平均や分散などの基本統計量の計算を行う。さらに、単回帰分析を用いた変数間の関連を明らかにする手法も紹介する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目 キャリア開発・データリテラシー科目	医療情報リテラシー	<p>(概要) がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するためには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本講義では、医療情報を処理するために必要な知識、解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに、その慎重な取り扱いに求められる情報セキュリティ、倫理、法律などについても触れる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(233 小笹 晃太郎/1回) 原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究</p> <p>(1 工藤 美樹/1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則、功罪や有用性</p> <p>(85 森野 豊之/1回) 医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法</p> <p>(72 粟井 和夫・3 有廣 光司/1回) (共同) 医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題、情報の有用性と社会における活用</p> <p>(234 田中 剛/1回) 広島県独自のHMnet (ひろしま医療情報ネットワーク Hiroshima Medical Network) を利用した医療情報共有の仕組みと活用</p> <p>(12 田中 純子/1回) NDB (National data base) などの大規模医療データベースの種類、概要、倫理、疫学研究への活用</p> <p>(14 安井 弥/1回) がんゲノム情報の概要、理的課題、応用と活用</p> <p>(16 服部 登/1回) 臨床治験の大規模化に伴う課題、功罪、応用と活用と演習</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・ データ リテラ シー 科目	人文社会系キャリアマネジメント	この講義の目標は次の2点である。1. キャリア理論を学習することで、大学院での自分の研究とキャリア(生き方)を、どう関連付けるかを考える契機とする。2. 大学院から社会へのトランジションについて意識し、課題発見解決力やコミュニケーション力等、充実して生きていくために必要な力を養成することを目指す。これらの目的を達成するため、授業では次の3点に取り組む、1. 自己理解。2. 社会の現状を知る。3. グループワークや自主活動を行う。じっくり考える事と行動の両立によって、社会で通用する力を身につける。	
	理工系キャリアマネジメント	コミュニケーション力は、社会で活躍するうえで必要不可欠な能力である。本講義では主として対話・発話によるコミュニケーションについて解説する。対話・発話によるコミュニケーションにおいて非言語情報(表情、視線、態度など)は重要な意味を持つため、本講義では非言語情報と言語情報の両面からコミュニケーションについて理解を深め、演習を通してスキルを向上させる。具体的な内容は、1)対話によるコミュニケーションの基礎、2)プレゼンテーション、3)高度なコミュニケーションスキルである傾聴、4)ファシリテーション、である。 本講義の目標は次のとおりである。1. 対話コミュニケーションにとっては、言語情報だけでなく非言語的要素(視線、あいづち、うなずき等)が重要であることを理解する。2. 目的に応じた研究概要書の作成方法、研究内容のプレゼンテーション方法を修得する。3. 傾聴スキルの基本について理解する。4. ファシリテーションスキルについて理解し、グループでのディスカッション方法を習得する。	
	ストレスマネジメント	現代は、社会・経済環境の変化や家族関係の変化によってストレスが増大している。ストレスの多くは心理・社会的な要因によるものであり、対処が適切でないと、心身の健康や対人関係に影響を及ぼし、個人や組織の生産性を低下させることになる。したがって、社会で活躍し充実した人生を過ごすためには、ストレスを上手にコントロールすることが必要不可欠となる。 そこで、本講義では実践的なストレスマネジメントについて解説し、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を習得するための演習を実施する。 講義の目標は、次のとおりである。1.心理・社会的ストレスと、その特徴について知り、ストレスマネジメントの本質的な考え方について理解する。2.心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を修得する。3.ネガティブな感情や思考に巻き込まれずに、「今、ここ」の自分を客観的に観察する方法について理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	生命・医療倫理学A	<p>(概要) 医学・歯学・薬学・保健学の医療・健康福祉領域で行われる教育・研究・臨床は、生命に対する尊厳、医療における倫理感、責任感に裏付けられたものでなければならない。本講義では、バイオエシックス/バイオメディカルエシックスの歴史的背景から最近のゲノムを含めた医療情報に関する問題等を学習し、研究・臨床における生命・医療倫理について考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 工藤 美樹/1回) 医学・医療に求められる倫理について、講義をする。 (236 高橋 規郎/1回) ヒトゲノム遺伝子解析研究倫理指針に関する教育及び研修について、講義をする。 (117 岡田 賢/1回) 新生児医療における生命・医療倫理について、講義をする。</p> <p>(2 森川 則文/1回) 医薬品の使用における倫理について、講義をする (3 有廣 光司/1回) 病理分野における倫理について、講義をする。 (5 松浦 伸也/1回) 遺伝子診療における倫理について、講義をする。 (4 杉山 一彦/1回) 臨床試験と医療倫理について、講義をする。 (86 吉田 光由/1回) 歯科倫理と食べることに関わる倫理について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	研究方法論A	<p>(概要) 「研究方法」をキーワードとして、広く実験技術とその背景にある医学・生物学的知識を学ぶ。単に技術論に留まらず、研究の心構え(特に研究方法総論)や、講義担当者の研究の世界まで、幅広い領域をカバーし大学院課程で学ぶ内容を豊富なものとする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 吉栖 正生, 8 小澤 孝一郎/1回) (共同) ガイダンス及びR I 技術について、講義をする。 (9 檜山 英三/1回) 遺伝子発現プロファイリングと次世代シーケエンギングについて、講義をする。 (7 橋本 浩一/1回) パッチクランプ法の原理と応用について、講義をする。 (188 宿南 知佐/1回) 培養細胞実験とiPS細胞のトピックスについて、講義をする。 (10 田代 聡/1回) 細胞画像解析について、講義をする。 (87 佐藤 健一/1回) 要因探索のための統計解析について、講義をする。 (88 金子 雅幸/1回) P C R法の原理と応用について、講義をする。 (89 木下 英司/1回) 生物物理科学的研究手法について、講義をする。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スタートアップ生命科学 コースワーク	医学系・生物学系研究に必要な最も基本的な実験の知識並びに 手技を少人数で学ぶ。予め回答が用意されていない実験研究を 遂行するために必要な基本的な知識、技術、考え方の習得を目 指す。培養細胞を用いて、薬剤添加による特異的遺伝子発現量 への影響を、mRNAレベル、タンパクレベルで解析を行う。一連の 活動を通して、実験の3原則を守り、科学的に正しく実験を行い、 客観的に結果を評価し、論理的に考察するとはどういうことかを体 験する。	
研究科共 通科目	生体医工学イノベーションA	<p>(概要) 臨床に用いる医療機器やシステム等の技術開発を 具体化するために必要な、研究マインドおよび開発プロセス、 産学官連携活動や情報学・医学・工学領域間の連携に 関する知識、態度を習得する。 本講義では、マツダを事例にして、技術・理論を商品・ サービスに応用して結びつけるために必要な要素でカリ キュラムを構成しています。本講義の受講により、受講生 は、大学で習得した技術・理論を実社会、ビジネスに活か すことのできる基本的考え方、プロセスを身に付けること ができる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 大段 秀樹/2回) ガイダンス及び技術開発の必要性について、講義をする。 (238 坂本 和夫/1回) 医療機器、システムの商品開発のプロセスについて、講義 をする。 (212 笹岡 貴史/1回) 感性脳科学の応用について、講義をする。 (227 金山 範明/1回) 感性計測について、講義をする。 (237 農澤 隆秀/1回) これからの技術者に求められることについて、講義をす る。 (239 高見 明秀/1回) モノづくりに必要な技術について、講義をする。 (294 西川 一男/1回) 人間工学・感性工学とその応用について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	多職種連携A	<p>(概要) 現代の医療では、各分野の専門スタッフが連携・協働して、治療に当たるチーム医療が広がっており、高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人の養成のため、多職種との関係を深化させていく。医学、歯学、薬学等の医療技術、治療法等を講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(76 志馬 伸朗/1回) ガイダンス及び多職種連携の必要性について、講義をする。 (33 折山 早苗/1回) 医療ケアに関する看護師の役割分担について、講義をする。 (35 桐本 光/1回) 急性期リハビリテーションチームについて、講義をする。 (37 浦川 将/1回) 医師・看護師・リハビリ関連職種との連携について、講義をする。 (77 木村 浩彰/1回) 医師からみた多職種連携の必要性について、講義をする。 (78 柿本 直也/1回) チーム医療における歯科医師が行う連携について、講義をする。 (75 松尾 裕彰/1回) 多色区連携における薬剤師の役割・課題・取組について、講義をする。 (54 内藤 真理子/1回) 周術期における歯科衛生士の役割について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	医学統計パッケージ演習	<p>臨床研究・疫学研究で頻用されている統計解析手法について講義及び統計解析ソフトによる実習を行い、医学データ解析の基礎力・実践力を身につけることを目的とする。統計ソフトはJMP, SPSSなど、またグラフソフトはデルタグラフ, GraphPad Prismなどを予定している。</p>	
専攻 共通科目	生命医療科学論	<p>(概要) 医学系について一般的総論及び情報科学系、工学系に関連した医学の各論的講義を行い、情報・工学系の学士課程学生に医学の基礎的・専門的知識を提供する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 大段 秀樹, 13 池上 浩司/1回) (共同) 人体構造学(解剖学・発生学)について、講義する。 (6 吉栖 正生/1回) 細胞機能学(生理学)について、講義する。 (12 田中 純子/1回) 社会医学と医療倫理・研究倫理について、講義する。 (14 安井 弥/1回) 病因・病態学(病理学)について、講義する。 (15 浅野 知一郎/1回) 細胞機能学(生化学・分子生物学)について、講義する。 (16 服部 登/1回) 臨床医学概論(分子内科学)及び臨床医学各論(呼吸器系)について、講義する。 (17 永田 靖/1回) 臨床医学各論(放射線診断・治療学)について、講義する。 (91 久保 忠彦/1回) 臨床医学各論(整形外科)について、講義する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目	栄養学	<p>(概要) 超高齢社会になり、高齢者の栄養摂取の重要性が注目されている。特にオーラルフレイルと言われる口腔内環境の悪化や、歯の喪失、義歯の不適合などによって食の摂取量の減少がサルコペニアを引き起こし、筋力低下による転倒骨折から寝たきりになるという悪循環、砂割フレイルティサイクルに陥ることを防ぐことが重要である。このような高齢社会における問題に対して、栄養学として、口腔の機能と栄養摂取の重要性についてオムニバス形式での講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(19 里田 隆博/1回) 消化管の一般構造及び発生過程、摂食嚥下の仕組み及び頭頸部の発生(体節と鰓弓に関して)について、講義を行う。</p> <p>(20 津賀 一弘/1回) 咀嚼機能についてについて、講義を行う。</p> <p>(92 吉川 峰加/1回) 高齢者の嚥下について、講義を行う。</p> <p>(240 加藤 秀夫/1回) 栄養代謝と臓器相関及び時間栄養学と健康について、講義を行う。</p> <p>(86 吉田 光由/1回) サルコペニアと口腔について、講義を行う。</p> <p>(241 天野 秀昭/1回) 小児の口腔機能の発達と栄養摂取及び学童期の口腔機能と食育教育について、講義を行う。</p> <p>(295 妻木 陽子/1回) 食物アレルギーの発症メカニズム及び食物アレルギーの食事管理について、講義を行う。</p> <p>(18 二川 浩樹/1回) 口腔機能と唾液の検査法について、講義を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目	健康生活科学	<p>(概要) 高齢化社会における健康生活分野の課題 (高齢化社会, 健康生活, 感染症, 現代食, 痛風, 食生活, 生活習慣病, 化学, 加齢, 男性ホルモン, 眼疾患, 白内障, 緑内障, 加齢加齢黄斑変性, 放射線, 広島, 長崎, 被曝, セミパラチンスク, チェルノブイリ, マーシャル諸島, 福島, 甲状腺癌, 甲状腺ホルモン, がん検診等) について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 大段 秀樹, 243 渡邊 一雄/1回) (共同) ガイドダンス及びこれからの感染症問題について, 講義を行う。 (244 瀬山 一正/1回) 現代食の問題点 食を通じた痛風の予防法について, 講義を行う。 (242 渡邊 敦光/1回) 本人の食生活の変化 食生活の改善による生活習慣病やがんの予防について, 講義を行う。 (245 田中 春彦/1回) 生活の中の化学について, 講義を行う。 (246 碓井 亜/1回) 加齢に伴う男性ホルモンの変化について, 講義を行う。 (247 三嶋 弘/1回) 眼の老化 (高齢者時代に伴い増加する眼疾患, 白内障, 緑内障, 加齢黄斑変性等) について講義行う。 (248 星 正治/1回) 放射線の人体への影響とリスク評価の意義について, 講義を行う。 (249 武市 宣雄/1回) 甲状腺癌の発生及び予防と医療 (甲状腺ホルモンの働きを含めて) について, 講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	予防医学・健康指導特論 A	<p>(概要) 本講義は, 予防医学に基づく健康管理を専門とする優れた医療従事者を養成し, 予防医療の向上を図り, 国民の福祉に貢献することを目指す。そのために, 基礎・社会医学から臨床医学, 歯学, 薬学, 法令等, にわたる幅広い最新知見を含む講義を設定し, これを履修することによって, 医歯薬学, 保健学領域における基礎理論及び実践方法論を身に付けることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(12 田中 純子/2回) 予防医学総論及び健康の有効性, 有用性の評価の方法について, 講義する。 (13 池上 浩司/1回) 解剖学及び組織学について, 講義する。 (118 米田 真康/1回) 臨床医学特論: 肥満とメタボリックシンドローム及び糖尿病の成因・病態と治療について, 講義する。 (94 山本 秀也/1回) 心血管疾患について, 講義する。 (16 服部 登/1回) 喫煙による身体疾患, 心血管疾患, 脳血管疾患について, 講義する。 (93 細見 直永/1回) 脳血管疾患について, 講義する。 (144 杉山 文/1回) 予防医学について, 講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目	予防医学・健康指導特論 B	<p>(概要) 本講義は、予防医学に基づく健康管理を専門とする優れた医療従事者を養成し、予防医療の向上を図り、国民の福祉に貢献することを目指す。そのために、基礎・社会医学から臨床医学、歯学、薬学、法令等、にわたる幅広い最新知見を含む講義を設定し、これを履修することによって、医歯薬学、保健学領域における基礎理論及び実践方法論を身に付けることができる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(12 田中 純子／2回) 医学研究のデザイン及び疾病予防、医学研究総論について、講義を行う。 (96 日山 亨／1回) 消化器疾患について、講義を行う。 (23 濱田 泰伸／1回) 生活習慣と疾病・予防について、講義を行う。 (22 森山 美知子／1回) 行動変容モデルについて、講義を行う。 (21 岡村 仁／1回) ストレスマネジメントについて、講義を行う。 (95 横崎 典哉／1回) 面接技法と指導技法について、講義を行う。 (144 杉山 文／1回) 肝疾患について、講義する。</p>	オムニバス方式
	Health Communication and Health Promotion	<p>(英文) This course is planned for master's course students to brief about health communication strategies and the importance of health promotion to achieve health equity.</p> <p>The overall objectives of the course for participants are to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Describe many ways of health communication to improve population health outcomes and health care quality. 2. Outline health promotion strategies and understand the impact of health promotion to reform the primary health care services. 3. Identify the importance of health communication to reduce disease burden and health crisis management. 4. Discuss the concept of health education, communication, development and health equity. 5. Continue the practice of English communication. <p>Specific course objectives: After successful completion of the course participants will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Define the principles of health communication to enhance the public health problems. 2. Develop the strategies of behavior change communication to raise knowledge and attitude towards the contagious diseases. 3. Explain the strategies and methods of health promotion for primary health care maintenance. 4. Recognize the social & behavioral determinants of health, school health programs and necessity of adolescent health promotion. 5. Formulate the communication strategies for safe motherhood, mental health and rehabilitation. 	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目		<p>(和訳) 本科目は修士課程の学生に対して、健康格差の解決に向けたヘルスコミュニケーション戦略とヘルスプロモーションの重要性について議論する。</p> <p>達成目標: 本コース終了時点で学生は以下ができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集団に対する健康アウトカムとヘルスケアの質を向上させるヘルスコミュニケーションの複数の手法について述べるができる。 2. ヘルスプロモーション戦略の概略を述べるとともに、ヘルスプロモーションがプライマリ・ヘルスケア・サービス改革に与える影響について理解できる。 3. 疾病負担を低減させ、健康危機管理につながるヘルスコミュニケーションの重要性が理解できる。 4. 健康教育、コミュニケーション、格差のない健康に関する概念について議論できる。 5. 英語でのコミュニケーションに挑戦し続けることができる。 <p>具体的な目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生上の問題を改善するためのヘルスコミュニケーションの原則を述べるができる。 2. 感染性疾患に対する住民の知識と態度の向上、住民の行動変容に向けたコミュニケーション戦略を考えることができる。 3. プライマリ・ヘルスケアを推進するためのヘルスプロモーション戦略と方法論を説明できる。 4. 健康、学校保健、青少年のヘルスプロモーションを推進するための社会的・行動学的決定要因を理解することができる。 5. 母子保健、精神衛生及びリハビリテーションを推進するためのコミュニケーション戦略を考えることができる。 	
	Research Methodology in Health Science	<p>(英文) This course is intended for graduate course students. It is to inform the application or practice of research in health science to address the public health issues.</p> <p>The overall objectives of the course for students are to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Accurately describe the fundamental concepts and approaches in qualitative and quantitative research methodology 2. Identify how moral, ethical, cultural, social, political and environmental issues and responsibilities impact on research. 3. Critically review and critique the literature using valid resources, and thereby provide informed opinion. 4. Demonstrate skills in critical thinking by accurately synthesizing new research results in science/health. 5. Apply introductory descriptive and inferential statistical concepts and techniques in the analysis of data. <p>Specific course objectives:</p> <p>After successful completion of the course, students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Define the principles of research in health science to enhance the public health problems. 2. Illustrate the association with the exposure and risk factors in health science. 3. Describe the different types of research methodology involved in health science. 4. Evaluate the implications of research methodologies on evidence based practice and their impact on clinical practice and policy. 5. Demonstrate skills consistent with lifelong learning. 	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目		<p>(和訳)</p> <p>本科目は、大学院生を対象としている。公衆衛生に関する研究課題に対して、どのように研究に取り組むのか、その方法について教授する。</p> <p>本コースの到達目標を以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 量的・質的研究方法について、その基本的な概念を正しく描写できる。 2. 道徳的、倫理的、文化的、社会的、政策的、環境的な課題と責任が研究に与える影響について理解できる。 3. 有効なリソースを使用して文献を批評的にレビュー、批評し、情報に基づく意見を提供することができる。 4. 新たに明らかになった結果を健康科学の中に正しく統合することで、批判的な思考のスキルを示すことができる。 5. データ分析について基本的な説明的・推論的統計概念を適用することができる。 <p>具体的な目標:本コース終了時点で学生は以下ができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生問題を改善するための健康科学における研究の原則を定義することができる。 2. 健康科学における危険因子への暴露との関係について説明できる。 3. 健康科学領域で用いられるさまざまな研究の方法論について説明できる。 4. エビデンスに基づく実践と臨床実践、政策への影響に関する研究方法論について評価することができる。 5. 生涯にわたって学び続けることのできる能力を示すことができる。 	
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	疫学基礎論	<p>(概要)</p> <p>レギュラトリーサイエンス、保健統計、健康水準、医学研究デザイン、疫学指標 及び疫学方法論を理解・習得し、実際の課題に応用できる疫学の基礎能力を身に付けることを目標とする。内容は健康と疾病、疫学基礎論(疫学指標、標準化、研究デザイン、スクリーニング)、EBMと医学研究(文献検索、メタアナリシス)、理論疫学(費用効果分析)、Excelによるデータ解析、外部客員教員による特別講義(研究方法、国際保健、医療行政)である。</p> <p>(オムニバス講義/全15回)</p> <p>(12 田中 純子/3回) 保健統計と疫学基礎理論および行政施策への応用について講義する。</p> <p>(143 秋田 智之/5回, 144 杉山 文/2回, 142 大久 真幸/3回) 疫学方法論(基礎)について講義する。 (265 ERIC J GRANT/1回) 疫学方法論(応用)について講義する。 (298 高崎 洋介/1回) 国際保健、医療行政について講義する</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	臨床研究方法論	<p>臨床研究, 疫学研究, 臨床試験の基礎を理解し, 研究計画を立案することを目標とする。内容は, 医学研究方法概論(リサーチクエスト, PICO, 研究デザイン), 医学統計とPC実習(記述統計, 有意差検定, 2群比較, クロス集計, オッズ比, ロジスティック回帰分析, 生存時間解析, 発展的事項), 臨床試験(臨床試験デザイン, 無作為化比較試験, 割付方法, 主要評価項目, 目標症例数, 欠損値, 中間解析), 臨床試験実施計画書の作成である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(12 田中 純子/2回) 医学研究方法論(臨床研究と疫学研究), 疫学基礎論と実践について講義する。 (143 秋田 智之/7回 142 大久 真幸/4回) 生物統計学の基礎と応用, パソコンソフトの使用について, 講義する。臨床研究, 臨床試験の概要について, 講義する。 (266 西川 正子/2回) 臨床試験概論について, 講義する。</p>	オムニバス方式
	生物統計学・臨床統計学基礎論	<p>臨床研究・疫学研究に必要な医学・生物統計学的な解析方法及び解釈・注釈について実際の研究例を通じて解説し, 受講生自らがエビデンスに基づいた医療や行政施策を実施できる基礎的な能力を身に付けることを目標とする。内容は, 臨床研究と生物統計学, 正規分布と統計的推測, データ分析法(群間比較, 生存分析), 実践演習(データベースと記述統計, 統計解析計画), 生物統計学・臨床統計学のトピック, 臨床研究の倫理と実際である。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(12 田中 純子/2回) 臨床研究と生物統計学について, 講義する。 (44 梅本 誠治/2回) 生物統計学・臨床統計学のトピック, 臨床研究の倫理と実際について, 講義する。 (143 秋田 智之/2回) データ分析法について, 講義する。 (142 大久 真幸/1回) 医学統計学について, 講義する。 (229 伊森 晋平/1回) 正規分布と統計的推測について, 講義する。</p>	オムニバス方式
	臨床法医学概論	<p>医療人における基礎的教養として損傷の成傷機転等の基礎的な考察法をはじめとする法医学の最新の知識を習得することを目標とする。内容は, 死因論, 損傷論, 窒息論, 法中毒学, 大規模災害, 医療事故, 児童虐待である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(42 長尾 正崇/12回) 死因論, 損傷論, 窒息論, 大規模災害, 医療事故, 児童虐待について, 講義する。 (99 奈女良 昭/3回) 法中毒学について, 講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	総合医療実践学特論	<p>プライマリケアにおける実践的医療を理解するために、総合診療・医療情報の基本を習得するとともに、その実践的な臨床フィールドにおける疫学研究・臨床代謝栄養研究・薬物介入研究のあり方をガイドラインや診療指針を交えて実技を中心に学ぶことを目標とする。内容は総合診療とEBM, 社会医学における地域格差, プライマリケアと総合診療, 総合診療と地域医療の関係, 救急医療の基本と実践, 学術論文の基礎知識とその活用, 薬物介入研究の基本と実践, 医療情報の基本と実践 (1), 医療情報の基本と実践 (2), 診療ガイドラインの作成と活用, 医療情報の基本と実践 (3), 人を対象とする医学系研究の基礎と臨床, 社会疫学と行動経済学, プライマリケアと感染症診療である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(43 田妻 進/2回) プライマリケアと総合診療について, 講義する。 (316 横林 賢一/2回) 社会疫学と行動経済学について, 講義する。 (299 岩崎 泰昌/2回) 救急医療の基本と実践について, 講義する。 (148 大谷 裕一郎/2回) 総合診療と地域医療の関係について, 講義する。 (149 宮森 大輔/2回) 診療ガイドラインの作成と活用, プライマリケアと感染症診療について, 講義する。 (189 松本 正俊/1回) 社会医学における地域格差について, 講義する。 (100 菅野 啓司/1回) 学術論文の基礎知識とその活用について, 講義する。 (150 木村 一紀/1回) 総合診療とEBMについて, 講義する。 (127 岸川 暢介/1回) 薬物介入研究の基本と実践について, 講義する。 (44 梅本 誠治/1回) 医療情報の基本と実践について, 講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	環境保健学概論	<p>生態系のバランスの中において個々を社会環境の一つとして捉え、健康長寿社会の実現と人々のQOLの向上のために必要なエコロジカル・アプローチ等について理解を深める。我々の生活環境を取り巻く環境中（地球環境、物理的、生物的、化学的環境）にひそむ環境有害要因は何かを探索し、それらがヒトの健康へ及ぼす影響について理解する。環境リスクの評価とそのコミュニケーションについて理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(12 田中 純子/1回) 環境保健概論について、講義する。 (242 渡邊 敦光/1回) 食環境と疫病予防について、講義する。 (269 林田 賢史/1回) 地域・職域における医療情報の共有と利活用について、講義する。 (270 大瀧 慈/1回) 原爆被爆による後遺症（リスクアセスメントと管理）について、講義する。 (317 木村 友昭/1回) 生活環境と健康について、講義する。 (271 頼藤 貴志/1回) 大気汚染の環境疫学について、講義する。 (25 梯 正之/1回) 感染症の流行予測について、講義する。 (151 鹿嶋 小緒里/1回) 環境保健のパラダイムシフトについて、講義する。</p>	オムニバス方式
	医療政策・国際保健概論	<p>医学・医療の目指す一義的目標（狭義）とされる「健康と長寿」の基本理念である”正義（Justice/健康等の格差の是正と基本的人権の思想と実証のための方法論”を軸として、公衆衛生（Public Health/共同体としての組織的努力による「社会の健康の処方等」を描くこと）を学ぶ。このため、社会・地域の健康を制度・政策及び地域医療・介護問題並びに国際保健等の視点で捉えつつ、総体としての健康を担う社会医学の手法・実際などの講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(12 田中 純子/1回) 社会と医療（社会医歯学総論）について、講義する。 (27 小林 敏生/1回) 国際社会と保健・医療協力について、講義する。 (272 桑原 正雄/1回) 世界を脅かす新興・再興感染症について、講義する。 (273 山崎 健次/1回) 社会と歯科医療について、講義する。 (274 柏樹 悦郎/1回) 国際防疫対策について、講義する。 (275 土居 弘幸/1回) 国際社会と保健・医療協力について、講義する。 (189 松本 正俊/1回) 地域医療について、講義する。 (151 鹿嶋 小緒里/1回) 社会と医療（生活習慣病対策）について、講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	国際感染症概論	国際的に問題となる感染症の予防・診断・治療について理解することを目標とする。内容は公衆衛生上問題となる海外の感染症の国内発生、公表内容に関するワークショップ、新型インフルエンザ等対策特別措置法、特措法の実践に関するワークショップ、輸入感染症における感染対策（講義）、感染対策の啓蒙をどう進めるか（講義）、総括である。	
	公衆衛生学特別研究 (疫学)	(概要) 主指導教員の指導、副指導教員の助言のもと疫学に関する研究を行い、修士論文を作成する。 (12 田中 純子) 疫学研究方法論の妥当性・解析結果に対する臨床的・疫学的評価、統計学的助言を行い、学会発表、論文作成に関する指導と助言を行う。 (144 杉山 文) 研究計画、データ解析、研究結果についての助言、学会発表、論文作成に関する指導と助言を行う。	
	公衆衛生学特別研究 (生物統計学)	(概要) 主指導教員の指導、副指導教員の助言のもと生物統計学に関する研究を行い、修士論文を作成する。 (12 田中 純子) 臨床研究や疫学研究で用いられる生物統計学の方法論と結果の解釈や限界について指導する。 (143 秋田 智之) 生物統計学の基礎理論、統計解析の方法やソフトウェアの使用法について指導する。	
	公衆衛生学特別研究 (社会科学・行動科学)	主指導教員の指導、副指導教員の助言のもと社会科学・行動科学に関する研究を行い、修士論文を作成する。	
	公衆衛生学特別研究 (保健行政・医療管理学)	主指導教員の指導、副指導教員の助言のもと保健行政・医療管理学に関する研究を行い、修士論文を作成する。	
	公衆衛生学特別研究 (国際保健・環境保健学)	主指導教員の指導、副指導教員の助言のもと国際保健・環境保健学に関する研究を行い、修士論文を作成する。	
	疫学調査分析演習	フィールドにおける疫学調査、疫学研究に用いられるデータがどのように得られるか解析されるかを習得することを目標とする。国内外の現場に出て自ら実施する。内容は、疫学調査概論、海外疫学研究、疫学調査の実施計画（サンプリング、サンプルサイズ、研究倫理）、研究計画書の作成、フィールド調査の準備（事前打ち合わせ）、フィールド調査の実施、疫学調査データの解析、フィールド調査のまとめと報告会である。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	臨床医歯学総論	<p>(概要) 医系学術研究を推進する上で必要となる臨床医学及び歯学の領域を中心に主題を選択して基盤情報と最新的话题をオムニバス形式で講義を行い、自身の専門領域外においても見識を培う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 大段 秀樹/2回) 臨床医学序論—臓器移植の現状と展望—について、講義する。</p> <p>(46 一戸 辰夫/2回) 造血器腫瘍に対する細胞免疫療法の展望について、講義する。</p> <p>(16 服部 登/2回) 肺癌の診断と治療について、講義する。</p> <p>(47 丸山 博文/1回) 神経疾患・老年疾患について、講義する。</p> <p>(49 杉山 英二/1回) 関節リウマチの病態とその治療について、講義する。</p> <p>(20 津賀 一弘/1回) 包括ケア時代の新口腔機能訓練法について、講義する。</p> <p>(101 上田 宏/1回) 睡眠時無呼吸患者の口腔内装置治療について、講義する。</p> <p>(128 川口 浩史/1回) 小児がんの診断と治療について、講義する。</p> <p>(129 相方 浩/1回) 肝がんの治療について、講義する。</p> <p>(130 山下 英尚/1回) 不眠症の診断と治療について、講義する。</p> <p>(154 芹川 正浩/1回) 睪がんの早期診断と治療について、講義する。</p> <p>(155 占部 智/1回) 周産期医療の現状—早産の病態—について、講義する。</p>	オムニバス方式
	人体の構造	<p>(概要) 人体を、その微細構造から肉眼解剖学まで、また個体発生を通して総合的に学習し、分子・細胞・組織の有機的成り立ちとしての人体を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(13 池上 浩司/3回) 解剖学総論、人体発生学総論、運動器系、免疫系について、講義する。</p> <p>(52 相澤 秀紀/3回) 中枢神経系について、講義する。</p> <p>(19 里田 隆博/3回) 消化器系、呼吸器系・循環器系について、講義する。</p> <p>(53 吉子 裕二/2回) 上皮組織と結合組織、消化器系について、講義する。</p> <p>(156 松井 浩二/2回) 末梢神経系、感覚器系について、講義する。</p> <p>(230 齊木 愛希子/2回) 神経系の概略について、講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	人体の機能	<p>(概要) 人体の機能に関連して、生理学と生化学の「さわり」を講義する。</p> <p>極めて広い生理学と生化学の領域の中で、幾つかのトピックスに焦点を当てる。細胞レベルでは、核高次構造と核機能・遺伝子の転写制御に始まり、小胞体やトランスポーターの機能を学ぶ。個体のレベルでは、循環器系・神経系・感覚器等の機能について多岐にわたる講義を受講する。更には、そのような臓器系を作り出す発生学や、臓器機能の破綻である疾患とその治療について最新の知識を得る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 吉栖 正生/2回) 循環生理機能の概論について、講義する。 (55 今泉 和則/2回) 神経細胞のアポトーシスについて、講義する。 (15 浅野 知一郎/2回) トランスポーターの機能と疾患について、講義する。 (7 橋本 浩一/2回) 神経回路網の生後発達について、講義する。 (56 杉田 誠/1回) 口腔機能の感覚システムについて、講義する。 (10 田代 聡/1回) 核高次構造と核機能について、講義する。 (103 鎌田 英明/1回) 炎症のシグナル伝達について、講義する。 (134 竹本 裕美/1回) 自律神経系の中枢性調節について、講義する。 (104 石田 万里/1回) 血管疾患とその治療について、講義する。 (136 小久保 博樹/1回) 循環器疾患の発症機序と心血管発生機構の解明について、講義する。 (157 北川 道憲/1回) 唾液腺の構造と機能について、講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	病因病態学	<p>(概要) 疾患の概念・発生機序・診断と治療に関する理解を深めるために、病理形態学的な病変の把握から遺伝子・分子レベルの異常の認識までの基礎的知識と技能を習得する。講義内容は霞キャンパス内で病理学の研究に携わっている教員を中心に、循環器、呼吸器、消化器、口腔、乳腺、中枢神経などの臓器の病理学的研究のトピックス内容についてオムニバス方式で講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(57 武島 幸男/3回) 病因病態学の目指すもの、感染症の病理学について、講義する。</p> <p>(14 安井 弥/1回) 消化器がんの発生と進展機構について、講義する。</p> <p>(3 有廣 光司/1回) 乳癌の分子病理学について、講義する。</p> <p>(58 東 幸仁/1回) 血管障害のメカニズムについて、講義する。</p> <p>(105 宮内 睦美/1回) 歯周病が全身の健康状態に及ぼす影響について、講義する。</p> <p>(106 大上 直秀/2回) 循環器病理学、分子病理学的解析法について、講義する。</p> <p>(137 AMATYA VISHWA JEET/4回) 脳腫瘍の分子病理学、中皮腫の分子病理学及びバーチャルスライドによる病理標本の観察について、講義する。</p> <p>(138 仙谷 和弘/1回) 消化器がんの種類と病理像について、講義する。</p> <p>(158 櫛谷 桂/1回) 肺癌の分子病理学について、講義する。</p>	オムニバス方式
	生体防御学	<p>(概要) 細菌・ウイルスなどの病原微生物の生物学と感染症及びそれに対する防御反応について学習します。また免疫系の生物学的意義も学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(59 坂口 剛正/2回) ウイルス感染症とその防御及び最近のトピックス等について、講義する。</p> <p>(60 高橋 一郎/2回) 粘膜における自然免疫と獲得免疫及び粘膜免疫寛容・粘膜ワクチンについて、講義する。</p> <p>(107 入江 崇/2回) ウイルスの増殖と病原性発現のしくみについて、講義する。</p> <p>(159 久恒 順三/1回) 細菌の病原性について、講義する。</p> <p>(160 鹿山 鎮男/1回) 腸内細菌科と化学療法について、講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	総合薬理学	<p>(概要) 薬理学の基本的素養を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(40 酒井 規雄/3回) 薬物受容体と細胞内情報伝達, 生理活性物質と薬理学及び精神・神経疾患に関わる薬理学について, 講義する。</p> <p>(61 兼松 隆/3回) 臨床薬理学及び炎症に関わる薬理学について, 講義する。</p> <p>(280 森田 克也/2回) 疼痛に関わる薬理学について, 講義する。</p>	オムニバス方式
	分子生物学と放射線防護	<p>原爆被爆者等に観られる放射線の生体影響, DNAの構造と機能, ゲノムの損傷と修復, 細胞の機能と死, 造血機能障害, 白血病幹細胞, 分子標的療法, 再生医療, 現在の放射線防護体系等について概説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(63 保田 浩志/2回) 放射線の生体影響及び放射線被ばくに対する防護について, 講義する。</p> <p>(66 川上 秀史/2回) 疾患遺伝子について, 講義する。</p> <p>(68 稲葉 俊哉/1回) 細胞の死について, 講義する。</p> <p>(108 仲 一仁/1回) 白血病幹細胞について, 講義する。</p> <p>(87 佐藤 健一/1回) 統計解析による放射線影響の要因探索について, 講義する。</p> <p>(109 河合 秀彦/1回) 細胞周期とがんについて, 講義する。</p> <p>(139 宮本 達雄/1回) 細胞の分裂について, 講義する。</p> <p>(140 孫 継英/1回) エピジェネティクスとゲノム修復について, 講義する。</p> <p>(141 三原 圭一郎/1回) 分子標的療法について, 講義する。</p> <p>(161 久保田 明子/1回) 原爆被ばくに関する医学データの再評価について, 講義する。</p> <p>(162 大野 芳典/1回) 造血機能障害について, 講義する。</p> <p>(163 谷本 圭司/1回) DNA損傷と修復について, 講義する。</p> <p>(288 安永 晋一郎/1回) 幹細胞と再生医療について, 講義する。</p>	オムニバス方式
	人体解剖学実習	<p>人体構造を観察することにより, 各構造物の立体構造及びそれらの3次元的な配置, さらにその系統的関連を把握する。人体構造の系統的理解を深めるとともに, 形態学の素養を身に付ける。</p>	共同
	組織学実習	<p>正常なヒトや動物の体を構成している細胞, 組織及び諸器官について, 光線顕微鏡標本あるいは電子顕微鏡標本(写真を含む)を, 実際に観察してスケッチを行う。また, 一部の組織については, 光線顕微鏡標本の作成を行う。この実習を通して, 顕微鏡の正しい使い方を習得し, 必修科目である「人体の構造」で学んだ, 細胞から組織レベルまでの人体の構築について理解を深める。また, 組織学研究方法の基礎についても学ぶ。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	Hiroshimaから世界平和を 考える	<p>(概要) 被爆地広島に立脚する広島大学は、理念の第一に平和を希求する精神を掲げる。本講義の目的は次の二点である。ヒロシマの基盤ともいべき原爆・被爆被害の概要を理解する。さらに、ヒロシマを基軸としながらも普遍的で恒久的な平和のあり方を模索する。そこでは、今日的に緊急性の高いテーマである。例えば、貧困・飢餓・難民・環境問題そして世界各地の地域紛争等をテーマに、理想と現実との間にあるギャップをも理解し、理想的な平和のあり方を検討する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(169 川野 徳幸／2回) 被爆地「Hiroshima」における原爆・被爆被害の概要</p> <p>(206 小宮山 道夫／2回) 原爆と広島大学の関わり、広島歴史、広島に課された役割</p> <p>(167 河合 幸一郎／1回) 途上国における貧困と飢餓、食糧生産の現状と課題</p> <p>(168 中坪 孝之／1回) 地球温暖化、環境破壊、天然資源の枯渇等の現状と解決のための方策</p> <p>(205 山根 達郎／2回) 現代における地域紛争の特徴、紛争後の平和構築の在り方</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 持続 可能 な 発展 科目	Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	<p>(英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University “Pursuit of Peace” and the long-term vision “Splendor Plan 2017”. The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these.</p> <p>When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of social development from the above aspects.</p> <p>lesson1 Guidance of the course lesson2 JICA chugoku center lesson3 Yuichiro Yoshida “Japanese policy experience: Success and Failures” lesson4 Katsufumi Fukuda “Industrial Policy and Economic growth” lesson5 Junyi Zhang “History of environmental policies in Japan”1 lesson6 Junyi Zhang “History of environmental policies in Japan”2 lesson7 Osamu Yoshida “Japanese ODA and its Asia Policy” lesson8 Mari Katayanagi “Reconstruction of Hiroshima from Peacebuilding Perspective”</p> <p>(和訳) 本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョンSplendor Plan 2017をベースとして、SDGsについて議論する。SDGsは、世界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGsは包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。</p> <p>これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初のOECD加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では社会の発展における日本の経験に関して学ぶものである。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続 可能な 発展科目	(オムニバス方式／全8回) (206 小宮山 道夫／1回) 本講義のガイダンス, 概要説明 (312 三角 幸子／1回) JICAの活動, 役割 (170 吉田 雄一郎／1回) 日本の政策経験 (175 市橋 勝／1回) 産業政策と経済成長 (171 張 峻屹／2回) 日本の環境政策の歴史 (172 吉田 修／1回) 日本のODAとアジア政策 (173 片柳 真理／1回) 平和構築から見た広島復興	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	持続可能な発展科目	<p>Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health</p> <p>(英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University “Pursuit of Peace” and the long-term vision “Splendor Plan 2017”. The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these. When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of human development from the above aspects.</p> <p>lesson1 Guidance of the course lesson2 Maharajan Keshav Lall “Japanese experience of development in Agriculture and Remote area” lesson3 Koki Seki “Socio-cultural Aspect of Modernization of Japan: Focusing on the Transformation of Norm, Mentality, and Way of Living” lesson4 Kinya Shimizu “A History of Education in Japan” lesson5 Kinya Shimizu “Lesson Study in Japan: As a tool of PDSI in Japanese Education” lesson6 Junko Tanaka “International cooperation and research collaboration in the field of public health” lesson7 Michiko Moriyama "Healthcare system in Japan: its characteristics and history" lesson8 Discussion</p> <p>(和訳) 本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョンSplendor Plan 2017をベースとして、SDGsについて議論する。SDGsは、世界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGsは包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初のOECD加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では人類の発展における日本の経験に関して学ぶものである。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続 可能な 発展 科目	(オムニバス方式／全8回) (178 馬場 卓也/1回) 本講義のガイダンス, 概要説明 (177 MAHARJAN, KESHAVLALL/1回) 農業開発における日本の経験 (207 関 恒樹/1回) 日本の現代化における社会文化的側面 (176 清水 欽也/2回) 日本における教育開発 (12 田中 純子/1回) 公衆衛生学分野の国際協力と共同研究 (22 森山 美知子/1回) 日本のヘルスケアシステム (178 馬場 卓也/1回) まとめ	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	持続可能な発展科目	<p>SDGsへの学問的アプローチA</p> <p>(概要)SDGsは持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかしこの課題は単独での問題解決に止まらず、分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに、その解決には、援助国、被援助国のみならず、地方自治体、民間企業、市民社会が協働して取り組む新しい社会の在り方が求められている。本SDGsへの学問的アプローチAでは、人権を中心に取り組む。Bと合わせて受講することが推奨される。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (括弧内SDGs目標番号)</p> <p>(178 馬場 卓也／1回)</p> <p>1. コースの概要, SDGsと貧困問題 (1, 17):SDGsの設置経緯について説明し, 17の目標の中で, 貧困は様々な問題の根底に位置することについて説明, 議論する。</p> <p>(180 実岡 寛文／1回)</p> <p>2. 持続可能な消費と飢餓 (2, 12):地球規模で食料の持続可能性を考える時, 先進国と途上国のインバランスが問題となる。持続可能な生産消費形態, 栄養改善などについて議論する。</p> <p>(12 田中 純子／1回)</p> <p>3. 公衆衛生と社会医学 (3, 6):安全な水の供給と確保は人が健康に生きていくための不可欠の開発課題であることから, 疾病対策を含む健康維持のための社会医学的, 公衆衛生的側面からの持続可能な管理と問題について講義する。</p> <p>(22 森山 美知子,97 RAHMAN MD MOSHIUR／1回) (共同)</p> <p>4. 健康と福祉 (3):プライマリ・ヘルスケア, リプロダクティブ・ヘルス, 非感染性疾患と高齢化などグローバルな健康問題について講義する。</p> <p>(181 永田 良太／1回)</p> <p>5. 教育と社会 (4):情報化による急激な変化が進む中で, 先進国と途上国の境目がなくなりつつある。今後の教育に求められる役割と課題について議論する。</p> <p>(179 石田 洋子／1回)</p> <p>6. ジェンダー問題と平等な社会 (5, 10) /ジェンダーの平等と女性のエンパワーメントに向けた課題, 国家間及び各国内の不平等削減に係る課題, そしてこれら2つの課題解決が他のSDGsゴール達成に深く関わることについて議論する。</p> <p>(313 隈元 美穂子／1回)</p> <p>7. 国際機関の取り組み(17): SDGsを推進している立場から, その取り組みの課題と進捗状況について議論する。</p> <p>(178 馬場 卓也／1回)</p> <p>8. 総括討議</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続可能な 発展科目	<p>SDGsへの学問的アプローチB</p> <p>(概要) SDGsは持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかしこの課題は単独での問題解決に止まらず、分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに、その解決には、援助国、被援助国のみならず、地方自治体、民間企業、市民社会が協働して取り組む新しい社会の在り方が求められている。本SDGsへの学問的アプローチBでは、環境、社会、ガバナンスを中心に取り組む。Aと合わせて受講することが推奨される。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (括弧内SDGs目標番号)</p> <p>(173 片柳 真理/1回)</p> <p>1. コース概要, 平和な社会 (16) : SDGsの設立経緯について説明し, それら目標の最終ゴールとして, 平和な社会の実現について議論をする。</p> <p>(208 長谷川 祐治/1回)</p> <p>2. 気候変動と防災 (13) : 気候変動の兆候がますます顕著になりつつあり, その影響を軽減するための防災, 緊急対策について議論する。</p> <p>(209 日比野 忠史/1回)</p> <p>3. エネルギーと持続可能な都市 (7, 11) : 安価かつ信頼できる持続可能なエネルギーへのアクセスを確保し, 包摂的, 強靱(レジリエント) で持続可能な環境の実現について議論する。</p> <p>(224 佐野 浩一郎/1回)</p> <p>4. 経済成長と雇用 (8) : すべての人々の雇用と働きがいのある労働環境の実現と, 持続可能な経済成長の可能性と課題とについて議論する。</p> <p>(183 河合 研至/1回)</p> <p>5. インフラと産業 (9) : 包摂的で強靱(レジリエント) なインフラ構築, 持続可能な産業化及びイノベーションの可能性と課題について議論する。</p> <p>(182 小池 一彦/1回)</p> <p>6. 陸上資源 生物資源学(14, 15) : 農業・畜産・水産業における生物資源の利用と生態系保全とのジレンマについて講義する。</p> <p>(314 川本 亮之/1回)</p> <p>7. 地域社会の取り組み (地方自治体) (17, 11) : 広島県内の地方自治体での種々の取り組みを, SDGsの観点から議論する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続可能な 発展科目	<p>ダイバーシティの理解</p> <p>(概要)SDGsの達成を目指す社会において、ダイバーシティ&インクルージョンの価値を理解し、それを実現するスキルを習得することは、いかなる専門性を有する人材にとっても重要である。この授業では、ダイバーシティのリスクとメリットを理論的・実践的に理解し、インクルージョン実現のためのシステム構築について考える力を習得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(184 坂田 桐子・210 ヘイズ櫻井 里穂／2回)(共同)</p> <p>1. ダイバーシティに関する理論:特に組織におけるダイバーシティのリスクとメリットについて、理論的背景及び組織における現状について理解することを目的とする。</p> <p>(226 北梶 陽子／5回)</p> <p>2. ゲーム演習:多様な人々で構成される集団や社会において、異なる他者の視点を取得し、問題を解決するプロセスを体験できるシミュレーションゲームを行う。</p> <p>(185 大池 真知子・226 北梶 陽子／1回)(共同)</p> <p>3. ディスカッション:理論とゲーム演習の体験に基づき、ダイバーシティ&インクルージョンの価値と実現方法について議論する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	キャリア開発・データリテラシー科目	<p>データリテラシー</p> <p>(概要)ICTの普及とともに様々な分野で膨大なデータが蓄積され、これを活用した新しいビジネスも展開されるようになり、データ解析の技能や統計学の知識をもった人材が社会から必要とされている。本講義では、社会的背景、データを取り扱う手法として機械学習、統計学といったデータ科学の考え方について紹介し、いくつかの具体例を通してデータの取り扱い等に関して注意すべき点を解説する。また、セキュリティ、個人情報の保護といった問題についても触れる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(211 宮尾 淳一／4回)</p> <p>ビッグデータと呼ばれる膨大なデータの活用に関する現状を理解することを目的とする。具体的には、ビッグデータの機械学習への利用例と最新の成果を示し、その可能性を理解すると共に、AIへの応用なども解説する。また、ディープラーニングによる実行例なども提示する。さらに、ビッグデータの取り扱いに関する問題点や注意点についても触れる。</p> <p>(186 柳原 宏和／4回)</p> <p>本格的な統計解析手法を学ぶ前の取り掛かりとして、記述統計を学ぶことを目的とする。具体的には統計ソフトRを用いて、データの取り込み、抽出、結合、ヒストグラムやボックスプロット、散布図などによるデータの視覚化、平均や分散などの基本統計量の計算を行う。さらに、単回帰分析を用いた変数間の関連を明らかにする手法も紹介する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目 キャリア開発・データリテラシー科目	医療情報リテラシー	<p>(概要) がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するためには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本講義では、医療情報を処理するために必要な知識、解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに、その慎重な取り扱いに求められる情報セキュリティ、倫理、法律などについても触れる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(233 小笹 晃太郎/1回) 原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究</p> <p>(1 工藤 美樹/1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則、功罪や有用性</p> <p>(85 森野 豊之/1回) 医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法</p> <p>(72 粟井 和夫・3 有廣 光司/1回) (共同) 医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題、情報の有用性と社会における活用</p> <p>(234 田中 剛/1回) 広島県独自のHMnet (ひろしま医療情報ネットワーク Hiroshima Medical Network) を利用した医療情報共有の仕組みと活用</p> <p>(12 田中 純子/1回) NDB (National data base) などの大規模医療データベースの種類、概要、倫理、疫学研究への活用</p> <p>(14 安井 弥/1回) がんゲノム情報の概要、理的課題、応用と活用</p> <p>(16 服部 登/1回) 臨床治験の大規模化に伴う課題、功罪、応用と活用と演習</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	キャリア開発・データリテラシー科目	人文社会系キャリアマネジメント	この講義の目標は次の2点である。1. キャリア理論を学習することで、大学院での自分の研究とキャリア(生き方)を、どう関連付けるかを考える契機とする。2. 大学院から社会へのトランジションについて意識し、課題発見解決力やコミュニケーション力等、充実して生きていくために必要な力を養成することを目指す。これらの目的を達成するため、授業では次の3点に取り組む、1. 自己理解。2. 社会の現状を知る。3. グループワークや自主活動を行う。じっくり考える事と行動の両立によって、社会で通用する力を身につける。
	理工系キャリアマネジメント	コミュニケーション力は、社会で活躍するうえで必要不可欠な能力である。本講義では主として対話・発話によるコミュニケーションについて解説する。対話・発話によるコミュニケーションにおいて非言語情報(表情、視線、態度など)は重要な意味を持つため、本講義では非言語情報と言語情報の両面からコミュニケーションについて理解を深め、演習を通してスキルを向上させる。具体的な内容は、1)対話によるコミュニケーションの基礎、2)プレゼンテーション、3)高度なコミュニケーションスキルである傾聴、4)ファシリテーション、である。 本講義の目標は次のとおりである。1. 対話コミュニケーションにとっては、言語情報だけでなく非言語的要素(視線、あいづち、うなずき等)が重要であることを理解する。2. 目的に応じた研究概要書の作成方法、研究内容のプレゼンテーション方法を修得する。3. 傾聴スキルの基本について理解する。4. ファシリテーションスキルについて理解し、グループでのディスカッション方法を習得する。	
	ストレスマネジメント	現代は、社会・経済環境の変化や家族関係の変化によってストレスが増大している。ストレスの多くは心理・社会的な要因によるものであり、対処が適切でないと、心身の健康や対人関係に影響を及ぼし、個人や組織の生産性を低下させることになる。したがって、社会で活躍し充実した人生を過ごすためには、ストレスを上手にコントロールすることが必要不可欠となる。 そこで、本講義では実践的なストレスマネジメントについて解説し、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を習得するための演習を実施する。 講義の目標は、次のとおりである。1.心理・社会的ストレスと、その特徴について知り、ストレスマネジメントの本質的な考え方について理解する。2.心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を修得する。3.ネガティブな感情や思考に巻き込まれずに、「今、ここ」の自分を客観的に観察する方法について理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	生命・医療倫理学A	<p>(概要) 医学・歯学・薬学・保健学の医療・健康福祉領域で行われる教育・研究・臨床は、生命に対する尊厳、医療における倫理感、責任感に裏付けられたものでなければならない。本講義では、バイオエシックス/バイオメディカルエシックスの歴史的背景から最近のゲノムを含めた医療情報に関する問題等を学習し、研究・臨床における生命・医療倫理について考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 工藤 美樹/1回) 医学・医療に求められる倫理について、講義をする。 (236 高橋 規郎/1回) ヒトゲノム遺伝子解析研究倫理指針に関する教育及び研修について、講義をする。 (117 岡田 賢/1回) 新生児医療における生命・医療倫理について、講義をする。</p> <p>(2 森川 則文/1回) 医薬品の使用における倫理について、講義をする (3 有廣 光司/1回) 病理分野における倫理について、講義をする。 (5 松浦 伸也/1回) 遺伝子診療における倫理について、講義をする。 (4 杉山 一彦/1回) 臨床試験と医療倫理について、講義をする。 (86 吉田 光由/1回) 歯科倫理と食べることに関わる倫理について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	研究方法論A	<p>(概要) 「研究方法」をキーワードとして、広く実験技術とその背景にある医学・生物学的知識を学ぶ。単に技術論に留まらず、研究の心構え(特に研究方法総論)や、講義担当者の研究の世界まで、幅広い領域をカバーし大学院課程で学ぶ内容を豊富なものとする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 吉栖 正生, 8 小澤 孝一郎/1回) (共同) ガイダンス及びR I技術について、講義をする。 (9 檜山 英三/1回) 遺伝子発現プロファイリングと次世代シーケエンギングについて、講義をする。 (7 橋本 浩一/1回) パッチクランプ法の原理と応用について、講義をする。 (188 宿南 知佐/1回) 培養細胞実験とiPS細胞のトピックスについて、講義をする。 (10 田代 聡/1回) 細胞画像解析について、講義をする。 (87 佐藤 健一/1回) 要因探索のための統計解析について、講義をする。 (88 金子 雅幸/1回) PCR法の原理と応用について、講義をする。 (89 木下 英司/1回) 生物物理科学的研究手法について、講義をする。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	スタートアップ生命科学 コースワーク	医学系・生物学系研究に必要な最も基本的な実験の知識並びに手技を少人数で学ぶ。予め回答が用意されていない実験研究を遂行するために必要な基本的な知識、技術、考え方の習得を目指す。培養細胞を用いて、薬剤添加による特異的遺伝子発現量への影響を、mRNAレベル、タンパクレベルで解析を行う。一連の活動を通して、実験の3原則を守り、科学的に正しく実験を行い、客観的に結果を評価し、論理的に考察するとはどういうことかを体験する。	
	生体医工学イノベーションA	<p>(概要) 臨床に用いる医療機器やシステム等の技術開発を具体化するために必要な、研究マインドおよび開発プロセス、産学官連携活動や情報学・医学・工学領域間の連携に関する知識、態度を習得する。</p> <p>本講義では、マツダを事例にして、技術・理論を商品・サービスに応用して結びつけるために必要な要素でカリキュラムを構成しています。本講義の受講により、受講生は、大学で習得した技術・理論を実社会、ビジネスに活かすことのできる基本的考え方、プロセスを身に付けることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 大段 秀樹/2回) ガイダンス及び技術開発の必要性について、講義をする。 (238 坂本 和夫/1回) 医療機器、システムの商品開発のプロセスについて、講義をする。 (212 笹岡 貴史/1回) 感性脳科学の応用について、講義をする。 (227 金山 範明/1回) 感性計測について、講義をする。 (237 農澤 隆秀/1回) これからの技術者に求められることについて、講義をする。 (239 高見 明秀/1回) モノづくりに必要な技術について、講義をする。 (294 西川 一男/1回) 人間工学・感性工学とその応用について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	多職種連携A	<p>(概要) 現代の医療では、各分野の専門スタッフが連携・協働して、治療に当たるチーム医療が広がっており、高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人の養成のため、多職種との関係を深化させていく。医学、歯学、薬学等の医療技術、治療法等を講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(76 志馬 伸朗/1回) ガイダンス及び多職種連携の必要性について、講義をする。 (33 折山 早苗/1回) 医療ケアに関する看護師の役割分担について、講義をする。 (35 桐本 光/1回) 急性期リハビリテーションチームについて、講義をする。 (37 浦川 将/1回) 医師・看護師・リハビリ関連職種との連携について、講義をする。 (77 木村 浩彰/1回) 医師からみた多職種連携の必要性について、講義をする。 (78 柿本 直也/1回) チーム医療における歯科医師が行う連携について、講義をする。 (75 松尾 裕彰/1回) 多色区連携における薬剤師の役割・課題・取組について、講義をする。 (54 内藤 真理子/1回) 周術期における歯科衛生士の役割について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	医学統計パッケージ演習	<p>臨床研究・疫学研究で頻用されている統計解析手法について講義及び統計解析ソフトによる実習を行い、医学データ解析の基礎力・実践力を身につけることを目的とする。統計ソフトはJMP, SPSSなど、またグラフソフトはデルタグラフ, GraphPad Prismなどを予定している。</p>	
専攻 共通科目	生命医療科学論	<p>(概要) 医学系について一般的総論及び情報科学系、工学系に関連した医学の各論的講義を行い、情報・工学系の学士課程学生に医学の基礎的・専門的知識を提供する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 大段 秀樹, 13 池上 浩司/1回) (共同) 人体構造学(解剖学・発生学)について、講義する。 (6 吉栖 正生/1回) 細胞機能学(生理学)について、講義する。 (12 田中 純子/1回) 社会医学と医療倫理・研究倫理について、講義する。 (14 安井 弥/1回) 病因・病態学(病理学)について、講義する。 (15 浅野 知一郎/1回) 細胞機能学(生化学・分子生物学)について、講義する。 (16 服部 登/1回) 臨床医学概論(分子内科学)及び臨床医学各論(呼吸器系)について、講義する。 (17 永田 靖/1回) 臨床医学各論(放射線診断・治療学)について、講義する。 (91 久保 忠彦/1回) 臨床医学各論(整形外科)について、講義する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目	栄養学	<p>(概要) 超高齢社会になり，高齢者の栄養摂取の重要性が注目されている。特にオーラルフレイルと言われる口腔内環境の悪化や，歯の喪失，義歯の不適合などによって食の摂取量の減少がサルコペニアを引き起こし，筋力低下による転倒骨折から寝たきりになるという悪循環，砂割フレイルティサイクルに陥ることを防ぐことが重要である。このような高齢社会における問題に対して，栄養学として，口腔の機能と栄養摂取の重要性についてオムニバス形式での講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(19 里田 隆博/1回) 消化管の一般構造及び発生過程，摂食嚥下の仕組み及び頭頸部の発生（体節と鰓弓に関して）について，講義を行う。</p> <p>(20 津賀 一弘/1回) 咀嚼機能についてについて，講義を行う。</p> <p>(92 吉川 峰加/1回) 高齢者の嚥下について，講義を行う。</p> <p>(240 加藤 秀夫/1回) 栄養代謝と臓器相関及び時間栄養学と健康について，講義を行う。</p> <p>(86 吉田 光由/1回) サルコペニアと口腔について，講義を行う。</p> <p>(241 天野 秀昭/1回) 小児の口腔機能の発達と栄養摂取及び学童期の口腔機能と食育教育について，講義を行う。</p> <p>(295 妻木 陽子/1回) 食物アレルギーの発症メカニズム及び食物アレルギーの食事管理について，講義を行う。</p> <p>(18 二川 浩樹/1回) 口腔機能と唾液の検査法について，講義を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目	健康生活科学	<p>(概要) 高齢化社会における健康生活分野の課題 (高齢化社会, 健康生活, 感染症, 現代食, 痛風, 食生活, 生活習慣病, 化学, 加齢, 男性ホルモン, 眼疾患, 白内障, 緑内障, 加齢加齢黄斑変性, 放射線, 広島, 長崎, 被曝, セミパラチンスク, チェルノブイリ, マーシャル諸島, 福島, 甲状腺癌, 甲状腺ホルモン, がん検診等) について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 大段 秀樹, 243 渡邊 一雄/1回) (共同) ガイダンス及びこれからの感染症問題について, 講義を行う。 (244 瀬山 一正/1回) 現代食の問題点 食を通じた痛風の予防法について, 講義を行う。 (242 渡邊 敦光/1回) 本人の食生活の変化 食生活の改善による生活習慣病やがんの予防について, 講義を行う。 (245 田中 春彦/1回) 生活の中の化学について, 講義を行う。 (246 碓井 亞/1回) 加齢に伴う男性ホルモンの変化について, 講義を行う。 (247 三嶋 弘/1回) 眼の老化 (高齢者時代に伴い増加する眼疾患, 白内障, 緑内障, 加齢黄斑変性等) について講義行う。 (248 星 正治/1回) 放射線の人体への影響とリスク評価の意義について, 講義を行う。 (249 武市 宣雄/1回) 甲状腺癌の発生及び予防と医療 (甲状腺ホルモンの働きを含めて) について, 講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	予防医学・健康指導特論A	<p>(概要) 本講義は, 予防医学に基づく健康管理を専門とする優れた医療従事者を養成し, 予防医療の向上を図り, 国民の福祉に貢献することを目指す。そのために, 基礎・社会医学から臨床医学, 歯学, 薬学, 法令等, にわたる幅広い最新知見を含む講義を設定し, これを履修することによって, 医歯薬学, 保健学領域における基礎理論及び実践方法論を身に付けることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(12 田中 純子/2回) 予防医学総論及び健康の有効性, 有用性の評価の方法について, 講義する。 (13 池上 浩司/1回) 解剖学及び組織学について, 講義する。 (118 米田 真康/1回) 臨床医学特論: 肥満とメタボリックシンドローム及び糖尿病の成因・病態と治療について, 講義する。 (94 山本 秀也/1回) 心血管疾患について, 講義する。 (16 服部 登/1回) 喫煙による身体疾患, 心血管疾患, 脳血管疾患について, 講義する。 (93 細見 直永/1回) 脳血管疾患について, 講義する。 (144 杉山 文/1回) 予防医学について, 講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目	予防医学・健康指導特論 B	<p>(概要) 本講義は、予防医学に基づく健康管理を専門とする優れた医療従事者を養成し、予防医療の向上を図り、国民の福祉に貢献することを目指す。そのために、基礎・社会医学から臨床医学、歯学、薬学、法令等、にわたる幅広い最新知見を含む講義を設定し、これを履修することによって、医歯薬学、保健学領域における基礎理論及び実践方法論を身に付けることができる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(12 田中 純子／2回) 医学研究のデザイン及び疾病予防、医学研究総論について、講義を行う。 (96 日山 亨／1回) 消化器疾患について、講義を行う。 (23 濱田 泰伸／1回) 生活習慣と疾病・予防について、講義を行う。 (22 森山 美知子／1回) 行動変容モデルについて、講義を行う。 (21 岡村 仁／1回) ストレスマネジメントについて、講義を行う。 (95 横崎 典哉／1回) 面接技法と指導技法について、講義を行う。 (144 杉山 文／1回) 肝疾患について、講義する。</p>	オムニバス方式
	Health Communication and Health Promotion	<p>(英文) This course is planned for master's course students to brief about health communication strategies and the importance of health promotion to achieve health equity.</p> <p>The overall objectives of the course for participants are to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Describe many ways of health communication to improve population health outcomes and health care quality. 2. Outline health promotion strategies and understand the impact of health promotion to reform the primary health care services. 3. Identify the importance of health communication to reduce disease burden and health crisis management. 4. Discuss the concept of health education, communication, development and health equity. 5. Continue the practice of English communication. <p>Specific course objectives: After successful completion of the course participants will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Define the principles of health communication to enhance the public health problems. 2. Develop the strategies of behavior change communication to raise knowledge and attitude towards the contagious diseases. 3. Explain the strategies and methods of health promotion for primary health care maintenance. 4. Recognize the social & behavioral determinants of health, school health programs and necessity of adolescent health promotion. 5. Formulate the communication strategies for safe motherhood, mental health and rehabilitation. 	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目		<p>(和訳) 本科目は修士課程の学生に対して、健康格差の解決に向けたヘルスコミュニケーション戦略とヘルスプロモーションの重要性について議論する。</p> <p>達成目標: 本コース終了時点で学生は以下ができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集団に対する健康アウトカムとヘルスケアの質を向上させるヘルスコミュニケーションの複数の手法について述べるができる。 2. ヘルスプロモーション戦略の概略を述べるとともに、ヘルスプロモーションがプライマリ・ヘルスケア・サービス改革に与える影響について理解できる。 3. 疾病負担を低減させ、健康危機管理につながるヘルスコミュニケーションの重要性が理解できる。 4. 健康教育、コミュニケーション、格差のない健康に関する概念について議論できる。 5. 英語でのコミュニケーションに挑戦し続けることができる。 <p>具体的な目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生上の問題を改善するためのヘルスコミュニケーションの原則を述べるができる。 2. 感染性疾患に対する住民の知識と態度の向上、住民の行動変容に向けたコミュニケーション戦略を考えることができる。 3. プライマリ・ヘルスケアを推進するためのヘルスプロモーション戦略と方法論を説明できる。 4. 健康、学校保健、青少年のヘルスプロモーションを推進するための社会的・行動学的決定要因を理解することができる。 5. 母子保健、精神衛生及びリハビリテーションを推進するためのコミュニケーション戦略を考えることができる。 	
	Research Methodology in Health Science	<p>(英文) This course is intended for graduate course students. It is to inform the application or practice of research in health science to address the public health issues.</p> <p>The overall objectives of the course for students are to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Accurately describe the fundamental concepts and approaches in qualitative and quantitative research methodology 2. Identify how moral, ethical, cultural, social, political and environmental issues and responsibilities impact on research. 3. Critically review and critique the literature using valid resources, and thereby provide informed opinion. 4. Demonstrate skills in critical thinking by accurately synthesizing new research results in science/health. 5. Apply introductory descriptive and inferential statistical concepts and techniques in the analysis of data. <p>Specific course objectives:</p> <p>After successful completion of the course, students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Define the principles of research in health science to enhance the public health problems. 2. Illustrate the association with the exposure and risk factors in health science. 3. Describe the different types of research methodology involved in health science. 4. Evaluate the implications of research methodologies on evidence based practice and their impact on clinical practice and policy. 5. Demonstrate skills consistent with lifelong learning. 	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目		<p>(和訳)</p> <p>本科目は、大学院生を対象としている。公衆衛生に関する研究課題に対して、どのように研究に取り組むのか、その方法について教授する。</p> <p>本コースの到達目標を以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 量的・質的研究方法について、その基本的な概念を正しく描写できる。 2. 道徳的、倫理的、文化的、社会的、政策的、環境的な課題と責任が研究に与える影響について理解できる。 3. 有効なリソースを使用して文献を批評的にレビュー、批評し、情報に基づく意見を提供することができる。 4. 新たに明らかになった結果を健康科学の中に正しく統合することで、批判的な思考のスキルを示すことができる。 5. データ分析について基本的な説明的・推論的統計概念を適用することができる。 <p>具体的な目標:本コース終了時点で学生は以下ができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生問題を改善するための健康科学における研究の原則を定義することができる。 2. 健康科学における危険因子への暴露との関係について説明できる。 3. 健康科学領域で用いられるさまざまな研究の方法論について説明できる。 4. エビデンスに基づく実践と臨床実践、政策への影響に関する研究方法論について評価することができる。 5. 生涯にわたって学び続けることのできる能力を示すことができる。 	
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	放射線診断物理学	この講義は放射線診療に必要な物理体系・線量計測学・機器工学について概要を学ぶ。この講義を通じて、放射線診断物理学の基本概念を理解し、それを説明できること、臨床で使用される放射線診断装置の諸特性について物理学的な側面から説明できること、講義資料ならびに参考書等を読み解き、自らの考えを述べることを目標とする。教科書として、医学物理学会監修、放射線診断物理学(国際文献社)を用いる。	
	放射線治療物理学	本科目では、Faiz M Khan著 “The Physics of Radiation Therapy” Fourth Editionに沿った内容の講義を行う。教科書以外の参考資料としてAmerican Associate of Physicists in Medicine (AAPM) の各種TGレポートを使用し、放射線治療医学物理学の包括的な基礎を学ぶ。この講義を通じて、放射線治療医学物理士に必要な不可欠である基礎知識を身につけることを目標とする。	
	核医学物理学	核医学診療で使用される放射性同位元素の物理特性、線種の違いによる検査装置の放射線計測原理の違いを理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	放射線診断学・核医学	この講義は放射線診療に必要な画像診断学および核医学について概要を学ぶ。この講義を通じて、画像診断学の基本概念を理解し、それを説明できること、臨床で使用される画像診断の有用性について臨床的な側面から説明できること、講義資料ならびに参考書等を読み解き、自らの考えを述べることを目標とする。また、核医学検査における基礎理論、各種核医学検査法、基礎的読影法を学ぶことで、医学物理士に必要な基礎知識を身につけることを目標とする。	
	放射線腫瘍学	この講義は、放射線診療に必要な放射線腫瘍学について概要を説明します。この講義を通じて、放射線腫瘍学の基本概念を理解し、それを説明できること、臨床で使用される種々の放射線治療の有用性について臨床的な側面から説明できること、講義資料ならびに参考書等を読み解き、自らの考えを述べることを目標とする。	
	放射線治療物理学演習	本演習では、放射線治療医学物理士に必要な不可欠である標準測定と治療計画を治療現場で実践できるようになるための基礎を身に付けることを目標とする。	
	放射線計測学演習	本演習では、放射線治療のみならず、放射線取扱主任者として必要になる放射線計測の基礎知識を学び、測定スキルを身に付けることを目標とする。	
	画像診断物理学演習	本演習では、放射線診療に必要な物理体系・線量計測学・機器工学について概要を説明し、実験、計算等を行う。	
	核医学物理学演習	「核医学物理学」で修得した知識、技術をもとに、核医学検査の定量性向上を目的としたデータ収集法、画像再構成などを学習し、模擬計算による演習を行う。	
	放射線安全演習	放射線の安全な取扱いについて、放射線安全管理の実際第2版（出版：社団法人日本アイソトープ協会）を教科書として採用し、この内容に沿って講義を行う。	
	医歯科学特別研究（放射線腫瘍学）	医学物理士に必要な教育を実施し、医学物理学分野の高度専門職業人として活躍できる人材育成を目的とし、医学物理士認定機構が定める医学物理教育カリキュラムにガイドラインに準じて編成したカリキュラムにより、放射線治療に限らず、放射線診断、核医学を含めた包括的な医学物理学に関する講義を行う。また研究においては、定位放射線治療やIMRTを始めとする高精度放射線治療における医学物理学研究を行い、修士論文作成を指導する。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	人体の構造	<p>(概要) 人体を、その微細構造から肉眼解剖学まで、また個体発生を通して総合的に学習し、分子・細胞・組織の有機的成り立ちとしての人体を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(13 池上 浩司/3回) 解剖学総論, 人体発生学総論, 運動器系, 免疫系について, 講義する。</p> <p>(52 相澤 秀紀/3回) 中枢神経系について, 講義する。</p> <p>(19 里田 隆博/3回) 消化器系, 呼吸器系・循環器系について, 講義する。</p> <p>(53 吉子 裕二/2回) 上皮組織と結合組織, 消化器系について, 講義する。</p> <p>(156 松井 浩二/2回) 末梢神経系, 感覚器系について, 講義する。</p> <p>(230 齊木 愛希子/2回) 神経系の概略について, 講義する。</p>	オムニバス方式
	人体の機能	<p>(概要) 人体の機能に関連して、生理学と生化学の「さわり」を講義する。</p> <p>極めて広い生理学と生化学の領域の中で、幾つかのトピックスに焦点を当てる。細胞レベルでは、核高次構造と核機能・遺伝子の転写制御に始まり、小胞体やトランスポーターの機能を学ぶ。個体のレベルでは、循環器系・神経系・感覚器等の機能について多岐にわたる講義を受講する。更には、そのような臓器系を作り出す発生学や、臓器機能の破綻である疾患とその治療について最新の知識を得る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 吉栖 正生/2回) 循環生理機能の概論について, 講義する。</p> <p>(55 今泉 和則/2回) 神経細胞のアポトーシスについて, 講義する。</p> <p>(15 浅野 知一郎/2回) トランスポーターの機能と疾患について, 講義する。</p> <p>(7 橋本 浩一/2回) 神経回路網の生後発達について, 講義する。</p> <p>(56 杉田 誠/1回) 口腔機能の感覚システムについて, 講義する。</p> <p>(10 田代 聡/1回) 核高次構造と核機能について, 講義する。</p> <p>(103 鎌田 英明/1回) 炎症のシグナル伝達について, 講義する。</p> <p>(134 竹本 裕美/1回) 自律神経系の中樞性調節について, 講義する。</p> <p>(104 石田 万里/1回) 血管疾患とその治療について, 講義する。</p> <p>(136 小久保 博樹/1回) 循環器疾患の発症機序と心血管発生機構の解明について, 講義する。</p> <p>(157 北川 道憲/1回) 唾液腺の構造と機能について, 講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	病因病態学	<p>(概要) 疾患の概念・発生機序・診断と治療に関する理解を深めるために、病理形態学的な病変の把握から遺伝子・分子レベルの異常の認識までの基礎的知識と技能を習得する。講義内容は霞キャンパス内で病理学の研究に携わっている教員を中心に、循環器、呼吸器、消化器、口腔、乳腺、中枢神経などの臓器の病理学的研究のトピックス内容についてオムニバス方式で講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(57 武島 幸男/3回) 病因病態学の目指すもの、感染症の病理学について、講義する。</p> <p>(14 安井 弥/1回) 消化器がんの発生と進展機構について、講義する。</p> <p>(3 有廣 光司/1回) 乳癌の分子病理学について、講義する。</p> <p>(58 東 幸仁/1回) 血管障害のメカニズムについて、講義する。</p> <p>(105 宮内 睦美/1回) 歯周病が全身の健康状態に及ぼす影響について、講義する。</p> <p>(106 大上 直秀/2回) 循環器病理学、分子病理学的解析法について、講義する。</p> <p>(137 AMATYA VISHWA JEET/4回) 脳腫瘍の分子病理学、中皮腫の分子病理学及びバーチャルスライドによる病理標本の観察について、講義する。</p> <p>(138 仙谷 和弘/1回) 消化器がんの種類と病理像について、講義する。</p> <p>(158 櫛谷 桂/1回) 肺癌の分子病理学について、講義する。</p>	オムニバス方式
	生体防御学	<p>(概要) 細菌・ウイルスなどの病原微生物の生物学と感染症及びそれに対する防御反応について学習します。また免疫系の生物学的意義も学びます。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(59 坂口 剛正/2回) ウイルス感染症とその防御及び最近のトピックス等について、講義する。</p> <p>(60 高橋 一郎/2回) 粘膜における自然免疫と獲得免疫及び粘膜免疫寛容・粘膜ワクチンについて、講義する。</p> <p>(107 入江 崇/2回) ウイルスの増殖と病原性発現のしくみについて、講義する。</p> <p>(159 久恒 順三/1回) 細菌の病原性について、講義する。</p> <p>(160 鹿山 鎮男/1回) 腸内細菌科と化学療法について、講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	総合薬理学	<p>(概要) 薬理学の基本的素養を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(40 酒井 規雄/3回) 薬物受容体と細胞内情報伝達, 生理活性物質と薬理学及び精神・神経疾患に関わる薬理学について, 講義する。</p> <p>(61 兼松 隆/3回) 臨床薬理学及び炎症に関わる薬理学について, 講義する。</p> <p>(280 森田 克也/2回) 疼痛に関わる薬理学について, 講義する。</p>	オムニバス方式
	医療政策・国際保健概論	<p>医学・医療の目指す一義的目標(狭義)とされる「健康と長寿」の基本理念である”正義(Justice/健康等の格差の是正と基本的人権の思想と実証のための方法論)”を軸として, 公衆衛生(Public Health/共同体としての組織的努力による「社会の健康の処方等」を描くこと)を学ぶ。このため, 社会・地域の健康を制度・政策及び地域医療・介護問題並びに国際保健等の視点で捉えつつ, 総体としての健康を担う社会医学の手法・実際などの講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(12 田中 純子/1回) 社会と医療(社会医歯学総論)について, 講義する。</p> <p>(27 小林 敏生/1回) 国際社会と保健・医療協力について, 講義する。</p> <p>(272 桑原 正雄/1回) 世界を脅かす新興・再興感染症について, 講義する。</p> <p>(273 山崎 健次/1回) 社会と歯科医療について, 講義する。</p> <p>(274 柏樹 悦郎/1回) 国際防疫対策について, 講義する。</p> <p>(275 土居 弘幸/1回) 国際社会と保健・医療協力について, 講義する。</p> <p>(189 松本 正俊/1回) 地域医療について, 講義する。</p> <p>(151 鹿嶋 小緒里/1回) 社会と医療(生活習慣病対策)について, 講義する。</p>	オムニバス方式
	臨床医歯学総論	<p>(概要)</p> <p>医系学術研究を推進する上で必要となる臨床医学及び歯学の領域を中心に主題を選択して基盤情報と最新の話題をオムニバス形式で講義を行い, 自身の専門領域外においても見識を培う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 大段 秀樹/2回) 臨床医学序論—臓器移植の現状と展望—について, 講義する。</p> <p>(46 一戸 辰夫/2回) 造血器腫瘍に対する細胞免疫療法の展望について, 講義する。</p> <p>(16 服部 登/2回) 肺癌の診断と治療について, 講義する。</p> <p>(47 丸山 博文/1回)</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目		神経疾患・老年疾患について、講義する。 (49 杉山 英二/1回) 関節リウマチの病態とその治療について、講義する。 (20 津賀 一弘/1回) 包括ケア時代の新口腔機能訓練法について、講義する。 (101 上田 宏/1回) 睡眠時無呼吸患者の口腔内装置治療について、講義する。 (128 川口 浩史/1回) 小児がんの診断と治療について、講義する。 (129 相方 浩/1回) 肝がんの治療について、講義する。 (130 山下 英尚/1回) 不眠症の診断と治療について、講義する。 (154 芹川 正浩/1回) 膵がんの早期診断と治療について、講義する。 (155 占部 智/1回) 周産期医療の現状－早産の病態－について、講義する。	
	分子生物学と放射線防護	原爆被爆者等に観られる放射線の生体影響、DNAの構造と機能、ゲノムの損傷と修復、細胞の機能と死、造血機能障害、白血病幹細胞、分子標的療法、再生医療、現在の放射線防護体系等について概説する。 (オムニバス方式/全15回) (63 保田 浩志/2回) 放射線の生体影響及び放射線被ばくに対する防護について、講義する。 (66 川上 秀史/2回) 疾患遺伝子について、講義する。 (68 稲葉 俊哉/1回) 細胞の死について、講義する。 (108 仲 一仁/1回) 白血病幹細胞について、講義する。 (87 佐藤 健一/1回) 統計解析による放射線影響の要因探索について、講義する。 (109 河合 秀彦/1回) 細胞周期とがんについて、講義する。 (139 宮本 達雄/1回) 細胞の分裂について、講義する。 (140 孫 継英/1回) エピジェネティクスとゲノム修復について、講義する。 (141 三原 圭一郎/1回) 分子標的療法について、講義する。 (161 久保田 明子/1回) 原爆被ばくに関する医学データの再評価について、講義する。 (162 大野 芳典/1回) 造血機能障害について、講義する。 (163 谷本 圭司/1回) DNA損傷と修復について、講義する。 (288 安永 晋一郎/1回) 幹細胞と再生医療について、講義する。	オムニバス方式
	人体解剖学実習	人体構造を観察することにより、各構造物の立体構造及びそれらの3次元的な配置、さらにその系統的関連を把握する。人体構造の系統的理解を深めるとともに、形態学の素養を身に付ける。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	組織学実習	正常なヒトや動物の体を構成している細胞、組織及び諸器官について、光線顕微鏡標本あるいは電子顕微鏡標本（写真を含む）を、実際に観察してスケッチを行う。また、一部の組織については、光線顕微鏡標本の作成を行う。この実習を通して、顕微鏡の正しい使い方を習得し、必修科目である「人体の構造」で学んだ、細胞から組織レベルまでの人体の構築について理解を深める。また、組織学研究方法の基礎についても学ぶ。	共同
	科学英語	この授業では、医学物理学の研究を進めていく上で必要な英語論文を効率よく読解するためのスキルを身に付けることを目標としている。	
	医療統計学	疫学研究・臨床研究におけるデータ収集やデータの整理、そのための理論、技法、解析方法を学び、がん臨床試験、医薬品の安全対策などで統計学がどのように役立っているのかを学習する。	共同
	保健物理学	放射線の安全性に関して学習する。放射線の有害な影響から人体を防護するための放射線安全管理について習得するのが目標である。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	Hiroshimaから世界平和を 考える	<p>(概要) 被爆地広島に立脚する広島大学は、理念の第一に平和を希求する精神を掲げる。本講義の目的は次の二点である。ヒロシマの基盤ともいべき原爆・被爆被害の概要を理解する。さらに、ヒロシマを基軸としながらも普遍的で恒久的な平和のあり方を模索する。そこでは、今日的に緊急性の高いテーマである。例えば、貧困・飢餓・難民・環境問題そして世界各地の地域紛争等をテーマに、理想と現実との間にあるギャップをも理解し、理想的な平和のあり方を検討する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(169 川野 徳幸／2回) 被爆地「Hiroshima」における原爆・被爆被害の概要</p> <p>(206 小宮山 道夫／2回) 原爆と広島大学の関わり、広島歴史、広島に課された役割</p> <p>(167 河合 幸一郎／1回) 途上国における貧困と飢餓、食糧生産の現状と課題</p> <p>(168 中坪 孝之／1回) 地球温暖化、環境破壊、天然資源の枯渇等の現状と解決のための方策</p> <p>(205 山根 達郎／2回) 現代における地域紛争の特徴、紛争後の平和構築の在り方</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 持続 可能 な 発 展 科 目	Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	<p>(英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University “Pursuit of Peace” and the long-term vision “Splendor Plan 2017”. The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these.</p> <p>When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of social development from the above aspects.</p> <p>lesson1 Guidance of the course lesson2 JICA chugoku center lesson3 Yuichiro Yoshida “Japanese policy experience: Success and Failures” lesson4 Katsufumi Fukuda “Industrial Policy and Economic growth” lesson5 Junyi Zhang “History of environmental policies in Japan”1 lesson6 Junyi Zhang “History of environmental policies in Japan”2 lesson7 Osamu Yoshida “Japanese ODA and its Asia Policy” lesson8 Mari Katayanagi “Reconstruction of Hiroshima from Peacebuilding Perspective”</p> <p>(和訳) 本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョンSplendor Plan 2017をベースとして、SDGsについて議論する。SDGsは、世界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGsは包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。</p> <p>これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初のOECD加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では社会の発展における日本の経験に関して学ぶものである。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続 可能な 発展 科目	(オムニバス方式／全8回) (206 小宮山 道夫／1回) 本講義のガイダンス, 概要説明 (312 三角 幸子／1回) JICAの活動, 役割 (170 吉田 雄一郎／1回) 日本の政策経験 (175 市橋 勝／1回) 産業政策と経済成長 (171 張 峻屹／2回) 日本の環境政策の歴史 (172 吉田 修／1回) 日本のODAとアジア政策 (173 片柳 真理／1回) 平和構築から見た広島復興	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	持続可能な発展科目	<p>Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health</p> <p>(英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University “Pursuit of Peace” and the long-term vision “Splendor Plan 2017”. The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these. When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of human development from the above aspects.</p> <p>lesson1 Guidance of the course lesson2 Maharajan Keshav Lall “Japanese experience of development in Agriculture and Remote area” lesson3 Koki Seki “Socio-cultural Aspect of Modernization of Japan: Focusing on the Transformation of Norm, Mentality, and Way of Living” lesson4 Kinya Shimizu “A History of Education in Japan” lesson5 Kinya Shimizu “Lesson Study in Japan: As a tool of PDSI in Japanese Education” lesson6 Junko Tanaka “International cooperation and research collaboration in the field of public health” lesson7 Michiko Moriyama "Healthcare system in Japan: its characteristics and history" lesson8 Discussion</p> <p>(和訳) 本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョンSplendor Plan 2017をベースとして、SDGsについて議論する。SDGsは、世界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGsは包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初のOECD加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では人類の発展における日本の経験に関して学ぶものである。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続 可能な 発展 科目	(オムニバス方式／全8回) (178 馬場 卓也/1回) 本講義のガイダンス, 概要説明 (177 MAHARJAN, KESHAVLALL/1回) 農業開発における日本の経験 (207 関 恒樹/1回) 日本の現代化における社会文化的側面 (176 清水 欽也/2回) 日本における教育開発 (12 田中 純子/1回) 公衆衛生学分野の国際協力と共同研究 (22 森山 美知子/1回) 日本のヘルスケアシステム (178 馬場 卓也/1回) まとめ	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	持続可能な発展科目	<p>SDGsへの学問的アプローチA</p> <p>(概要)SDGsは持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかしこの課題は単独での問題解決に止まらず、分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに、その解決には、援助国、被援助国のみならず、地方自治体、民間企業、市民社会が協働して取り組む新しい社会の在り方が求められている。本SDGsへの学問的アプローチAでは、人権を中心に取り組む。Bと合わせて受講することが推奨される。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (括弧内SDGs目標番号)</p> <p>(178 馬場 卓也／1回)</p> <p>1. コースの概要, SDGsと貧困問題 (1, 17):SDGsの設置経緯について説明し, 17の目標の中で, 貧困は様々な問題の根底に位置することについて説明, 議論する。</p> <p>(180 実岡 寛文／1回)</p> <p>2. 持続可能な消費と飢餓 (2, 12):地球規模で食料の持続可能性を考える時, 先進国と途上国のインバランスが問題となる。持続可能な生産消費形態, 栄養改善などについて議論する。</p> <p>(12 田中 純子／1回)</p> <p>3. 公衆衛生と社会医学 (3, 6):安全な水の供給と確保は人が健康に生きていくための不可欠の開発課題であることから, 疾病対策を含む健康維持のための社会医学的, 公衆衛生的側面からの持続可能な管理と問題について講義する。</p> <p>(22 森山 美知子,97 RAHMAN MD MOSHIUR／1回) (共同)</p> <p>4. 健康と福祉 (3):プライマリ・ヘルスケア, リプロダクティブ・ヘルス, 非感染性疾患と高齢化などグローバルな健康問題について講義する。</p> <p>(181 永田 良太／1回)</p> <p>5. 教育と社会 (4):情報化による急激な変化が進む中で, 先進国と途上国の境目がなくなりつつある。今後の教育に求められる役割と課題について議論する。</p> <p>(179 石田 洋子／1回)</p> <p>6. ジェンダー問題と平等な社会 (5, 10) /ジェンダーの平等と女性のエンパワーメントに向けた課題, 国家間及び各国内の不平等削減に係る課題, そしてこれら2つの課題解決が他のSDGsゴール達成に深く関わることについて議論する。</p> <p>(313 隈元 美穂子／1回)</p> <p>7. 国際機関の取り組み(17): SDGsを推進している立場から, その取り組みの課題と進捗状況について議論する。</p> <p>(178 馬場 卓也／1回)</p> <p>8. 総括討議</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続可能な 発展科目	<p>SDGsへの学問的アプローチB</p> <p>(概要)SDGsは持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかしこの課題は単独での問題解決に止まらず、分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに、その解決には、援助国、被援助国のみならず、地方自治体、民間企業、市民社会が協働して取り組む新しい社会の在り方が求められている。本SDGsへの学問的アプローチBでは、環境、社会、ガバナンスを中心に取り組む。Aと合わせて受講することが推奨される。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (括弧内SDGs目標番号)</p> <p>(173 片柳 真理／1回) 1. コース概要, 平和な社会(16):SDGsの設立経緯について説明し、それら目標の最終ゴールとして、平和な社会の実現について議論をする。</p> <p>(208 長谷川 祐治／1回) 2. 気候変動と防災(13):気候変動の兆候がますます顕著になりつつあり、その影響を軽減するための防災、緊急対策について議論する。</p> <p>(209 日比野 忠史／1回) 3. エネルギーと持続可能な都市(7, 11):安価かつ信頼できる持続可能なエネルギーへのアクセスを確保し、包摂的、強靱(レジリエント)で持続可能な環境の実現について議論する。</p> <p>(224 佐野 浩一郎／1回) 4. 経済成長と雇用(8):すべての人々の雇用と働きがいのある労働環境の実現と、持続可能な経済成長の可能性と課題について議論する。</p> <p>(183 河合 研至／1回) 5. インフラと産業(9):包摂的で強靱(レジリエント)なインフラ構築, 持続可能な産業化及びイノベーションの可能性と課題について議論する。</p> <p>(182 小池 一彦／1回) 6. 陸上資源 生物資源学(14, 15): 農業・畜産・水産業における生物資源の利用と生態系保全とのジレンマについて講義する。</p> <p>(314 川本 亮之／1回) 7. 地域社会の取り組み(地方自治体)(17, 11):広島県内の地方自治体での種々の取り組みを, SDGsの観点から議論する。</p> <p>(173 片柳 真理／1回) 8. 総括討議</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続 可能 な 発 展 科 目	<p>ダイバーシティの理解</p> <p>(概要)SDGsの達成を目指す社会において、ダイバーシティ&インクルージョンの価値を理解し、それを実現するスキルを習得することは、いかなる専門性を有する人材にとっても重要である。この授業では、ダイバーシティのリスクとメリットを理論的・実践的に理解し、インクルージョン実現のためのシステム構築について考える力を習得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(184 坂田 桐子・210 ヘイズ櫻井 里穂／2回)(共同)</p> <p>1. ダイバーシティに関する理論:特に組織におけるダイバーシティのリスクとメリットについて、理論的背景及び組織における現状について理解することを目的とする。</p> <p>(226 北梶 陽子／5回)</p> <p>2. ゲーム演習:多様な人々で構成される集団や社会において、異なる他者の視点を取得し、問題を解決するプロセスを体験できるシミュレーションゲームを行う。</p> <p>(185 大池 真知子・226 北梶 陽子／1回)(共同)</p> <p>3. ディスカッション:理論とゲーム演習の体験に基づき、ダイバーシティ&インクルージョンの価値と実現方法について議論する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	キャリア 開 発 ・ デ ー タ リ テ ラ シ ー 科 目	<p>データリテラシー</p> <p>(概要)ICTの普及とともに様々な分野で膨大なデータが蓄積され、これを活用した新しいビジネスも展開されるようになり、データ解析の技能や統計学の知識をもった人材が社会から必要とされている。本講義では、社会的背景、データを取り扱う手法として機械学習、統計学といったデータ科学の考え方について紹介し、いくつかの具体例を通してデータの取り扱い等に関して注意すべき点を解説する。また、セキュリティ、個人情報の保護といった問題についても触れる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(211 宮尾 淳一／4回)</p> <p>ビッグデータと呼ばれる膨大なデータの活用に関する現状を理解することを目的とする。具体的には、ビッグデータの機械学習への利用例と最新の成果を示し、その可能性を理解すると共に、AIへの応用なども解説する。また、ディープラーニングによる実行例なども提示する。さらに、ビッグデータの取り扱いに関する問題点や注意点についても触れる。</p> <p>(186 柳原 宏和／4回)</p> <p>本格的な統計解析手法を学ぶ前の取り掛かりとして、記述統計を学ぶことを目的とする。具体的には統計ソフトRを用いて、データの取り込み、抽出、結合、ヒストグラムやボックスプロット、散布図などによるデータの視覚化、平均や分散などの基本統計量の計算を行う。さらに、単回帰分析を用いた変数間の関連を明らかにする手法も紹介する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	キャリア 開発・ データ リテラシー 科目	<p>医療情報リテラシー</p> <p>(概要)がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するためには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本講義では、医療情報を処理するために必要な知識、解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに、その慎重な取り扱いに求められる情報セキュリティ、倫理、法律などについても触れる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(233 小笹 晃太郎／1回) 原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究</p> <p>(1 工藤 美樹／1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則、功罪や有用性</p> <p>(85 森野 豊之／1回) 医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法</p> <p>(72 粟井 和夫・3 有廣 光司／1回) (共同) 医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題、情報の有用性と社会における活用</p> <p>(234 田中 剛／1回) 広島県独自のHMnet(ひろしま医療情報ネットワークHiroshima Medical Network)を利用した医療情報共有の仕組みと活用</p> <p>(12 田中 純子／1回) NDB (National data base)などの大規模医療データベースの種類、概要、倫理、疫学研究への活用</p> <p>(14 安井 弥／1回) がんゲノム情報の概要、理的課題、応用と活用</p> <p>(16 服部 登／1回) 臨床治験の大規模化に伴う課題、功罪、応用と活用と演習</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・ データ リテラ シー 科目	人文社会系キャリアマネジメント	この講義の目標は次の2点である。1. キャリア理論を学習することで、大学院での自分の研究とキャリア(生き方)を、どう関連付けるかを考える契機とする。2. 大学院から社会へのトランジションについて意識し、課題発見解決力やコミュニケーション力等、充実して生きていくために必要な力を養成することを目指す。これらの目的を達成するため、授業では次の3点に取り組む、1. 自己理解。2. 社会の現状を知る。3. グループワークや自主活動を行う。じっくり考える事と行動の両立によって、社会で通用する力を身につける。	
	理工系キャリアマネジメント	コミュニケーション力は、社会で活躍するうえで必要不可欠な能力である。本講義では主として対話・発話によるコミュニケーションについて解説する。対話・発話によるコミュニケーションにおいて非言語情報(表情、視線、態度など)は重要な意味を持つため、本講義では非言語情報と言語情報の両面からコミュニケーションについて理解を深め、演習を通してスキルを向上させる。具体的な内容は、1)対話によるコミュニケーションの基礎、2)プレゼンテーション、3)高度なコミュニケーションスキルである傾聴、4)ファシリテーション、である。 本講義の目標は次のとおりである。1. 対話コミュニケーションにとっては、言語情報だけでなく非言語的要素(視線、あいづち、うなずき等)が重要であることを理解する。2. 目的に応じた研究概要書の作成方法、研究内容のプレゼンテーション方法を修得する。3. 傾聴スキルの基本について理解する。4. ファシリテーションスキルについて理解し、グループでのディスカッション方法を習得する。	
	ストレスマネジメント	現代は、社会・経済環境の変化や家族関係の変化によってストレスが増大している。ストレスの多くは心理・社会的な要因によるものであり、対処が適切でないと、心身の健康や対人関係に影響を及ぼし、個人や組織の生産性を低下させることになる。したがって、社会で活躍し充実した人生を過ごすためには、ストレスを上手にコントロールすることが必要不可欠となる。 そこで、本講義では実践的なストレスマネジメントについて解説し、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を習得するための演習を実施する。 講義の目標は、次のとおりである。1.心理・社会的ストレスと、その特徴について知り、ストレスマネジメントの本質的な考え方について理解する。2.心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を修得する。3.ネガティブな感情や思考に巻き込まれずに、「今、ここ」の自分を客観的に観察する方法について理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	生命・医療倫理学A	<p>(概要) 医学・歯学・薬学・保健学の医療・健康福祉領域で行われる教育・研究・臨床は、生命に対する尊厳、医療における倫理感、責任感に裏付けられたものでなければならない。本講義では、バイオエシックス/バイオメディカルエシックスの歴史的背景から最近のゲノムを含めた医療情報に関する問題等を学習し、研究・臨床における生命・医療倫理について考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 工藤 美樹/1回) 医学・医療に求められる倫理について、講義をする。 (236 高橋 規郎/1回) ヒトゲノム遺伝子解析研究倫理指針に関する教育及び研修について、講義をする。 (117 岡田 賢/1回) 新生児医療における生命・医療倫理について、講義をする。 (2 森川 則文/1回) 医薬品の使用における倫理について、講義をする (3 有廣 光司/1回) 病理分野における倫理について、講義をする。 (5 松浦 伸也/1回) 遺伝子診療における倫理について、講義をする。 (4 杉山 一彦/1回) 臨床試験と医療倫理について、講義をする。 (86 吉田 光由/1回) 歯科倫理と食べることに関わる倫理について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	研究方法論A	<p>(概要) 「研究方法」をキーワードとして、広く実験技術とその背景にある医学・生物学的知識を学ぶ。単に技術論に留まらず、研究の心構え(特に研究方法総論)や、講義担当者の研究の世界まで、幅広い領域をカバーし大学院課程で学ぶ内容を豊富なものとする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 吉栖 正生, 8 小澤 孝一郎/1回) (共同) ガイダンス及びR I技術について、講義をする。 (9 檜山 英三/1回) 遺伝子発現プロファイリングと次世代シーケエンギングについて、講義をする。 (7 橋本 浩一/1回) パッチクランプ法の原理と応用について、講義をする。 (188 宿南 知佐/1回) 培養細胞実験とiPS細胞のトピックスについて、講義をする。 (10 田代 聡/1回) 細胞画像解析について、講義をする。 (87 佐藤 健一/1回) 要因探索のための統計解析について、講義をする。 (88 金子 雅幸/1回) PCR法の原理と応用について、講義をする。 (89 木下 英司/1回) 生物物理科学的研究手法について、講義をする。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	スタートアップ生命科学 コースワーク	医学系・生物学系研究に必要な最も基本的な実験の知識並びに手技を少人数で学ぶ。予め回答が用意されていない実験研究を遂行するために必要な基本的な知識、技術、考え方の習得を目指す。培養細胞を用いて、薬剤添加による特異的遺伝子発現量への影響を、mRNAレベル、タンパクレベルで解析を行う。一連の活動を通して、実験の3原則を守り、科学的に正しく実験を行い、客観的に結果を評価し、論理的に考察するとはどういうことかを体験する。	
	生体医工学イノベーションA	<p>(概要) 臨床に用いる医療機器やシステム等の技術開発を具体化するために必要な、研究マインドおよび開発プロセス、産学官連携活動や情報学・医学・工学領域間の連携に関する知識、態度を習得する。</p> <p>本講義では、マツダを事例にして、技術・理論を商品・サービスに応用して結びつけるために必要な要素でカリキュラムを構成しています。本講義の受講により、受講生は、大学で習得した技術・理論を実社会、ビジネスに活かすことのできる基本的考え方、プロセスを身に付けることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 大段 秀樹/2回) ガイダンス及び技術開発の必要性について、講義をする。 (238 坂本 和夫/1回) 医療機器、システムの商品開発のプロセスについて、講義をする。 (212 笹岡 貴史/1回) 感性脳科学の応用について、講義をする。 (227 金山 範明/1回) 感性計測について、講義をする。 (237 農澤 隆秀/1回) これからの技術者に求められることについて、講義をする。 (239 高見 明秀/1回) モノづくりに必要な技術について、講義をする。 (294 西川 一男/1回) 人間工学・感性工学とその応用について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 共 通 科 目	多職種連携A	<p>(概要) 現代の医療では、各分野の専門スタッフが連携・協働して、治療に当たるチーム医療が広がっており、高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人の養成のため、多職種との関係を深化させていく。医学、歯学、薬学等の医療技術、治療法等を講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(76 志馬 伸朗/1回) ガイダンス及び多職種連携の必要性について、講義をする。 (33 折山 早苗/1回) 医療ケアに関する看護師の役割分担について、講義をする。 (35 桐本 光/1回) 急性期リハビリテーションチームについて、講義をする。 (37 浦川 将/1回) 医師・看護師・リハビリ関連職種との連携について、講義をする。 (77 木村 浩彰/1回) 医師からみた多職種連携の必要性について、講義をする。 (78 柿本 直也/1回) チーム医療における歯科医師が行う連携について、講義をする。 (75 松尾 裕彰/1回) 多色区連携における薬剤師の役割・課題・取組について、講義をする。 (54 内藤 真理子/1回) 周術期における歯科衛生士の役割について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	医学統計パッケージ演習	臨床研究・疫学研究で頻用されている統計解析手法について講義及び統計解析ソフトによる実習を行い、医学データ解析の基礎力・実践力を身につけることを目的とする。統計ソフトはJMP, SPSSなど、またグラフソフトはデルタグラフ, GraphPad Prismなどを予定している。	
専 攻 共 通 科 目	生命医療科学論	<p>(概要) 医学系について一般的総論及び情報科学系、工学系に関連した医学の各論的講義を行い、情報・工学系の学士課程学生に医学の基礎的・専門的知識を提供する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 大段 秀樹, 13 池上 浩司/1回) (共同) 人体構造学(解剖学・発生学)について、講義する。 (6 吉栖 正生/1回) 細胞機能学(生理学)について、講義する。 (12 田中 純子/1回) 社会医学と医療倫理・研究倫理について、講義する。 (14 安井 弥/1回) 病因・病態学(病理学)について、講義する。 (15 浅野 知一郎/1回) 細胞機能学(生化学・分子生物学)について、講義する。 (16 服部 登/1回) 臨床医学概論(分子内科学)及び臨床医学各論(呼吸器系)について、講義する。 (17 永田 靖/1回) 臨床医学各論(放射線診断・治療学)について、講義する。 (91 久保 忠彦/1回) 臨床医学各論(整形外科)について、講義する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目	栄養学	<p>(概要) 超高齢社会になり，高齢者の栄養摂取の重要性が注目されている。特にオーラルフレイルと言われる口腔内環境の悪化や，歯の喪失，義歯の不適合などによって食の摂取量の減少がサルコペニアを引き起こし，筋力低下による転倒骨折から寝たきりになるという悪循環，砂割フレイルティサイクルに陥ることを防ぐことが重要である。このような高齢社会における問題に対して，栄養学として，口腔の機能と栄養摂取の重要性についてオムニバス形式での講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(19 里田 隆博/1回) 消化管の一般構造及び発生過程，摂食嚥下の仕組み及び頭頸部の発生（体節と鰓弓に関して）について，講義を行う。</p> <p>(20 津賀 一弘/1回) 咀嚼機能についてについて，講義を行う。</p> <p>(92 吉川 峰加/1回) 高齢者の嚥下について，講義を行う。</p> <p>(240 加藤 秀夫/1回) 栄養代謝と臓器相関及び時間栄養学と健康について，講義を行う。</p> <p>(86 吉田 光由/1回) サルコペニアと口腔について，講義を行う。</p> <p>(241 天野 秀昭/1回) 小児の口腔機能の発達と栄養摂取及び学童期の口腔機能と食育教育について，講義を行う。</p> <p>(295 妻木 陽子/1回) 食物アレルギーの発症メカニズム及び食物アレルギーの食事管理について，講義を行う。</p> <p>(18 二川 浩樹/1回) 口腔機能と唾液の検査法について，講義を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目	健康生活科学	<p>(概要) 高齢化社会における健康生活分野の課題 (高齢化社会, 健康生活, 感染症, 現代食, 痛風, 食生活, 生活習慣病, 化学, 加齢, 男性ホルモン, 眼疾患, 白内障, 緑内障, 加齢加齢黄斑変性, 放射線, 広島, 長崎, 被曝, セミパラチンスク, チェルノブイリ, マーシャル諸島, 福島, 甲状腺癌, 甲状腺ホルモン, がん検診等) について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(11 大段 秀樹, 243 渡邊 一雄/1回) (共同) ガイダンス及びこれからの感染症問題について, 講義を行う。 (244 瀬山 一正/1回) 現代食の問題点 食を通じた痛風の予防法について, 講義を行う。 (242 渡邊 敦光/1回) 本人の食生活の変化 食生活の改善による生活習慣病やがんの予防について, 講義を行う。 (245 田中 春彦/1回) 生活の中の化学について, 講義を行う。 (246 碓井 亜/1回) 加齢に伴う男性ホルモンの変化について, 講義を行う。 (247 三嶋 弘/1回) 眼の老化 (高齢者時代に伴い増加する眼疾患, 白内障, 緑内障, 加齢黄斑変性等) について講義行う。 (248 星 正治/1回) 放射線の人体への影響とリスク評価の意義について, 講義を行う。 (249 武市 宣雄/1回) 甲状腺癌の発生及び予防と医療 (甲状腺ホルモンの働きを含めて) について, 講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	予防医学・健康指導特論A	<p>(概要) 本講義は, 予防医学に基づく健康管理を専門とする優れた医療従事者を養成し, 予防医療の向上を図り, 国民の福祉に貢献することを目指す。そのために, 基礎・社会医学から臨床医学, 歯学, 薬学, 法令等, にわたる幅広い最新知見を含む講義を設定し, これを履修することによって, 医歯薬学, 保健学領域における基礎理論及び実践方法論を身に付けることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(12 田中 純子/2回) 予防医学総論及び健康の有効性, 有用性の評価の方法について, 講義する。 (13 池上 浩司/1回) 解剖学及び組織学について, 講義する。 (118 米田 真康/1回) 臨床医学特論: 肥満とメタボリックシンドローム及び糖尿病の成因・病態と治療について, 講義する。 (94 山本 秀也/1回) 心血管疾患について, 講義する。 (16 服部 登/1回) 喫煙による身体疾患, 心血管疾患, 脳血管疾患について, 講義する。 (93 細見 直永/1回) 脳血管疾患について, 講義する。 (144 杉山 文/1回) 予防医学について, 講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目	予防医学・健康指導特論 B	<p>(概要) 本講義は、予防医学に基づく健康管理を専門とする優れた医療従事者を養成し、予防医療の向上を図り、国民の福祉に貢献することを目指す。そのために、基礎・社会医学から臨床医学、歯学、薬学、法令等、にわたる幅広い最新知見を含む講義を設定し、これを履修することによって、医歯薬学、保健学領域における基礎理論及び実践方法論を身に付けることができる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(12 田中 純子／2回) 医学研究のデザイン及び疾病予防、医学研究総論について、講義を行う。 (96 日山 亨／1回) 消化器疾患について、講義を行う。 (23 濱田 泰伸／1回) 生活習慣と疾病・予防について、講義を行う。 (22 森山 美知子／1回) 行動変容モデルについて、講義を行う。 (21 岡村 仁／1回) ストレスマネジメントについて、講義を行う。 (95 横崎 典哉／1回) 面接技法と指導技法について、講義を行う。 (144 杉山 文／1回) 肝疾患について、講義する。</p>	オムニバス方式
	Health Communication and Health Promotion	<p>(英文) This course is planned for master's course students to brief about health communication strategies and the importance of health promotion to achieve health equity.</p> <p>The overall objectives of the course for participants are to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Describe many ways of health communication to improve population health outcomes and health care quality. 2. Outline health promotion strategies and understand the impact of health promotion to reform the primary health care services. 3. Identify the importance of health communication to reduce disease burden and health crisis management. 4. Discuss the concept of health education, communication, development and health equity. 5. Continue the practice of English communication. <p>Specific course objectives: After successful completion of the course participants will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Define the principles of health communication to enhance the public health problems. 2. Develop the strategies of behavior change communication to raise knowledge and attitude towards the contagious diseases. 3. Explain the strategies and methods of health promotion for primary health care maintenance. 4. Recognize the social & behavioral determinants of health, school health programs and necessity of adolescent health promotion. 5. Formulate the communication strategies for safe motherhood, mental health and rehabilitation. 	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目		<p>(和訳) 本科目は修士課程の学生に対して、健康格差の解決に向けたヘルスコミュニケーション戦略とヘルスプロモーションの重要性について議論する。</p> <p>達成目標: 本コース終了時点で学生は以下ができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集団に対する健康アウトカムとヘルスケアの質を向上させるヘルスコミュニケーションの複数の手法について述べるができる。 2. ヘルスプロモーション戦略の概略を述べるとともに、ヘルスプロモーションがプライマリ・ヘルスケア・サービス改革に与える影響について理解できる。 3. 疾病負担を低減させ、健康危機管理につながるヘルスコミュニケーションの重要性が理解できる。 4. 健康教育、コミュニケーション、格差のない健康に関する概念について議論できる。 5. 英語でのコミュニケーションに挑戦し続けることができる。 <p>具体的な目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生上の問題を改善するためのヘルスコミュニケーションの原則を述べるができる。 2. 感染性疾患に対する住民の知識と態度の向上、住民の行動変容に向けたコミュニケーション戦略を考えることができる。 3. プライマリ・ヘルスケアを推進するためのヘルスプロモーション戦略と方法論を説明できる。 4. 健康、学校保健、青少年のヘルスプロモーションを推進するための社会的・行動学的決定要因を理解することができる。 5. 母子保健、精神衛生及びリハビリテーションを推進するためのコミュニケーション戦略を考えることができる。 	
	Research Methodology in Health Science	<p>(英文) This course is intended for graduate course students. It is to inform the application or practice of research in health science to address the public health issues.</p> <p>The overall objectives of the course for students are to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Accurately describe the fundamental concepts and approaches in qualitative and quantitative research methodology 2. Identify how moral, ethical, cultural, social, political and environmental issues and responsibilities impact on research. 3. Critically review and critique the literature using valid resources, and thereby provide informed opinion. 4. Demonstrate skills in critical thinking by accurately synthesizing new research results in science/health. 5. Apply introductory descriptive and inferential statistical concepts and techniques in the analysis of data. <p>Specific course objectives:</p> <p>After successful completion of the course, students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Define the principles of research in health science to enhance the public health problems. 2. Illustrate the association with the exposure and risk factors in health science. 3. Describe the different types of research methodology involved in health science. 4. Evaluate the implications of research methodologies on evidence based practice and their impact on clinical practice and policy. 5. Demonstrate skills consistent with lifelong learning. 	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目		<p>(和訳)</p> <p>本科目は、大学院生を対象としている。公衆衛生に関する研究課題に対して、どのように研究に取り組むのか、その方法について教授する。</p> <p>本コースの到達目標を以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 量的・質的研究方法について、その基本的な概念を正しく描写できる。 2. 道徳的、倫理的、文化的、社会的、政策的、環境的な課題と責任が研究に与える影響について理解できる。 3. 有効なリソースを使用して文献を批判的にレビュー、批評し、情報に基づく意見を提供することができる。 4. 新たに明らかになった結果を健康科学の中に正しく統合することで、批判的な思考のスキルを示すことができる。 5. データ分析について基本的な説明的・推論的統計概念を適用することができる。 <p>具体的な目標:本コース終了時点で学生は以下ができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生問題を改善するための健康科学における研究の原則を定義することができる。 2. 健康科学における危険因子への暴露との関係について説明できる。 3. 健康科学領域で用いられるさまざまな研究の方法論について説明できる。 4. エビデンスに基づく実践と臨床実践、政策への影響に関する研究方法論について評価することができる。 5. 生涯にわたって学び続けることのできる能力を示すことができる。 	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	医療科学科目	<p>特別演習</p> <p>(概要) 臨床の先端研究の文献を精読し、文献・資料抄読方法や基本的研究手法を修得するとともに、事例について討論することにより、プレゼンテーション能力及びディスカッション能力を向上させる。</p> <p>(13 池上 浩司) 機能形態学・発生物学に関する演習を行う。</p> <p>(52 相澤 秀紀) 神経生物学に関する演習を行う。</p> <p>(6 吉栖 正生) 心臓血管生理医学に関する演習を行う。</p> <p>(7 橋本 浩一) 神経生理学に関する演習を行う。</p> <p>(55 今泉 和則) 分子細胞情報学に関する演習を行う。</p> <p>(15 浅野 知一郎) 医化学に関する演習を行う。</p> <p>(40 酒井 規雄) 神経薬理学に関する演習を行う。</p> <p>(14 安井 弥) 分子病理学に関する演習を行う。</p> <p>(57 武島 幸男) 病理学に関する演習を行う。</p> <p>(59 坂口 剛正) ウイルス学に関する演習を行う。</p> <p>(12 田中 純子) 疫学・疾病制御学に関する演習を行う。</p> <p>(42 長尾 正崇) 法医学に関する演習を行う。</p> <p>(9 檜山 英三) 生命科学に関する演習を行う。</p> <p>(80 外丸 祐介) 生命科学に関する演習を行う。</p> <p>(81 加藤 功一) 生体材料学に関する演習を行う。</p> <p>(188 宿南 知佐) 生体分子機能学に関する演習を行う。</p> <p>(82 寺山 隆司) 顎顔面解剖学に関する演習を行う。</p> <p>(56 杉田 誠) 口腔生理学に関する演習を行う。</p> <p>(61 兼松 隆) 細胞分子薬理学に関する演習を行う。</p> <p>(60 高橋 一郎) 粘膜免疫学に関する演習を行う。</p> <p>(53 吉子 裕二) 硬組織代謝生物学に関する演習を行う。</p> <p>(83 河口 浩之) 歯科医学教育に関する演習を行う。</p> <p>(10 田代 聡) 細胞修復制御学に関する演習を行う。</p> <p>(66 川上 秀史) 分子疫学に関する演習を行う。</p> <p>(63 保田 浩志) 線量測定・評価学に関する演習を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	医療科学科目	(5 松浦 伸也) 放射線ゲノム疾患学に関する演習を行う。 (58 東 幸仁) ゲノム障害病理学に関する演習を行う。 (68 稲葉 俊哉) がん分子病態学に関する演習を行う。 (84 廣橋 伸之) 放射線災害医学に関する演習を行う。 (293 内匠 透) システム医科学に関する演習を行う。	
		特別研究 (概要) 課題の設定, 課題解決のための仮設考察, 検証方法の決定について, 研究を行い, 修士論文を作成するために必要な基礎・手法を学び, 修士論文を作成する。 (13 池上 浩司) 機能形態学・発生物学に関する研究指導を行う。 (52 相澤 秀紀) 神経生物学に関する研究指導を行う。 (6 吉栖 正生) 心臓血管生理医学に関する研究指導を行う。 (7 橋本 浩一) 神経生理学に関する研究指導を行う。 (55 今泉 和則) 分子細胞情報学に関する研究指導を行う。 (15 浅野 知一郎) 医化学に関する研究指導を行う。 (40 酒井 規雄) 神経薬理学に関する研究指導を行う。 (14 安井 弥) 分子病理学に関する研究指導を行う。 (57 武島 幸男) 病理学に関する研究指導を行う。 (59 坂口 剛正) ウイルス学に関する研究指導を行う。 (12 田中 純子) 疫学・疾病制御学に関する研究指導を行う。 (42 長尾 正崇) 法医学に関する研究指導を行う。 (9 檜山 英三) 生命科学に関する研究指導を行う。 (80 外丸 祐介) 生命科学に関する研究指導を行う。 (81 加藤 功一) 生体材料学に関する研究指導を行う。 (188 宿南 知佐) 生体分子機能学に関する研究指導を行う。 (82 寺山 隆司) 顎顔面解剖学に関する研究指導を行う。 (56 杉田 誠) 口腔生理学に関する研究指導を行う。 (61 兼松 隆) 細胞分子薬理学に関する研究指導を行う。 (60 高橋 一郎) 粘膜免疫学に関する研究指導を行う。 (53 吉子 裕二) 硬組織代謝生物学に関する研究指導を行う。 (83 河口 浩之) 歯科医学教育学に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	医療科学 科目	(10 田代 聡) 細胞修復制御学に関する研究指導を行う。 (66 川上 秀史) 分子疫学に関する研究指導を行う。 (63 保田 浩志) 線量測定・評価学に関する研究指導を行う。 (5 松浦 伸也) 放射線ゲノム疾患学に関する研究指導を行う。 (58 東 幸仁) ゲノム障害病理学に関する研究指導を行う。 (68 稲葉 俊哉) がん分子病態学に関する研究指導を行う。 (84 廣橋 伸之) 放射線災害医学に関する研究指導を行う。 (293 内匠 透) システム医科学に関する研究指導を行う。	
	人体の構造	(概要) 人体を、その微細構造から肉眼解剖学まで、また 個体発生を通して総合的に学習し、分子・細胞・組織の有 機的成り立ちとしての人体を理解する。 (オムニバス方式／全15回) (13 池上 浩司／3回) 解剖学総論、人体発生学総論、運動器系、免疫系につい て、講義する。 (52 相澤 秀紀／3回) 中枢神経系について、講義する。 (19 里田 隆博／3回) 消化器系、呼吸器系・循環器系について、講義する。 (53 吉子 裕二／2回) 上皮組織と結合組織、消化器系について、講義する。 (156 松井 浩二／2回) 末梢神経系、感覚器系について、講義する。 (230 齊木 愛希子／2回) 神経系の概略について、講義する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	医療科学科目 人体の機能	<p>(概要) 人体の機能に関連して、生理学と生化学の「さわり」を講義する。 極めて広い生理学と生化学の領域の中で、幾つかのトピックスに焦点を当てる。細胞レベルでは、核高次構造と核機能・遺伝子の転写制御に始まり、小胞体やトランスポーターの機能を学ぶ。個体のレベルでは、循環器系・神経系・感覚器等の機能について多岐にわたる講義を受講する。更には、そのような臓器系を作り出す発生学や、臓器機能の破綻である疾患とその治療について最新の知識を得る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 吉栖 正生/2回) 循環生理機能の概論について、講義する。 (55 今泉 和則/2回) 神経細胞のアポトーシスについて、講義する。 (15 浅野 知一郎/2回) トランスポーターの機能と疾患について、講義する。 (7 橋本 浩一/2回) 神経回路網の生後発達について、講義する。 (56 杉田 誠/1回) 口腔機能の感覚システムについて、講義する。 (10 田代 聡/1回) 核高次構造と核機能について、講義する。 (103 鎌田 英明/1回) 炎症のシグナル伝達について、講義する。 (134 竹本 裕美/1回) 自律神経系の中枢性調節について、講義する。 (104 石田 万里/1回) 血管疾患とその治療について、講義する。 (136 小久保 博樹/1回) 循環器疾患の発症機序と心血管発生機構の解明について、講義する。 (157 北川 道憲/1回) 唾液腺の構造と機能について、講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目 医療科学科目	病因病態学	<p>(概要) 疾患の概念・発生機序・診断と治療に関する理解を深めるために、病理形態学的な病変の把握から遺伝子・分子レベルの異常の認識までの基礎的知識と技能を習得する。講義内容は霞キャンパス内で病理学の研究に携わっている教員を中心に、循環器、呼吸器、消化器、口腔、乳腺、中枢神経などの臓器の病理学的研究のトピックス内容についてオムニバス方式で講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(57 武島 幸男/3回) 病因病態学の目指すもの、感染症の病理学について、講義する。</p> <p>(14 安井 弥/1回) 消化器がんの発生と進展機構について、講義する。</p> <p>(3 有廣 光司/1回) 乳癌の分子病理学について、講義する。</p> <p>(58 東 幸仁/1回) 血管障害のメカニズムについて、講義する。</p> <p>(105 宮内 睦美/1回) 歯周病が全身の健康状態に及ぼす影響について、講義する。</p> <p>(106 大上 直秀/2回) 循環器病理学、分子病理学的解析法について、講義する。</p> <p>(137 AMATYA VISHWA JEET/4回) 脳腫瘍の分子病理学、中皮腫の分子病理学及びバーチャルスライドによる病理標本の観察について、講義する。</p> <p>(138 仙谷 和弘/1回) 消化器がんの種類と病理像について、講義する。</p> <p>(158 櫛谷 桂/1回) 肺癌の分子病理学について、講義する。</p>	オムニバス方式
	生体防御学	<p>(概要) 細菌・ウイルスなどの病原微生物の生物学と感染症及びそれに対する防御反応について学習します。また免疫系の生物学的意義も学びます。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(59 坂口 剛正/2回) ウイルス感染症とその防御及び最近のトピックス等について、講義する。</p> <p>(60 高橋 一郎/2回) 粘膜における自然免疫と獲得免疫及び粘膜免疫寛容・粘膜ワクチンについて、講義する。</p> <p>(107 入江 崇/2回) ウイルスの増殖と病原性発現のしくみについて、講義する。</p> <p>(159 久恒 順三/1回) 細菌の病原性について、講義する。</p> <p>(160 鹿山 鎮男/1回) 腸内細菌科と化学療法について、講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目 医療科学科目	総合薬理学	<p>(概要) 薬理学の基本的素養を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(40 酒井 規雄/3回) 薬物受容体と細胞内情報伝達, 生理活性物質と薬理学及び精神・神経疾患に関わる薬理学について, 講義する。</p> <p>(61 兼松 隆/3回) 臨床薬理学及び炎症に関わる薬理学について, 講義する。</p> <p>(280 森田 克也/2回) 疼痛に関わる薬理学について, 講義する。</p>	オムニバス方式
	医療政策・国際保健概論	<p>医学・医療の目指す一義的目標(狭義)とされる「健康と長寿」の基本理念である”正義(Justice/健康等の格差の是正と基本的人権の思想と実証のための方法論)”を軸として, 公衆衛生(Public Health/共同体としての組織的努力による「社会の健康の処方等」を描くこと)を学ぶ。このため, 社会・地域の健康を制度・政策及び地域医療・介護問題並びに国際保健等の視点で捉えつつ, 総体としての健康を担う社会医学の手法・実際などの講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(12 田中 純子/1回) 社会と医療(社会医歯学総論)について, 講義する。</p> <p>(27 小林 敏生/1回) 国際社会と保健・医療協力について, 講義する。</p> <p>(272 桑原 正雄/1回) 世界を脅かす新興・再興感染症について, 講義する。</p> <p>(273 山崎 健次/1回) 社会と歯科医療について, 講義する。</p> <p>(274 柏樹 悦郎/1回) 国際防疫対策について, 講義する。</p> <p>(275 土居 弘幸/1回) 国際社会と保健・医療協力について, 講義する。</p> <p>(189 松本 正俊/1回) 地域医療について, 講義する。</p> <p>(151 鹿嶋 小緒里/1回) 社会と医療(生活習慣病対策)について, 講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	医療科学科目	臨床医歯学総論 (概要) 医系学術研究を推進する上で必要となる臨床医学及び歯学の領域を中心に主題を選択して基盤情報と最新的话题をオムニバス形式で講義を行い、自身の専門領域外においても見識を培う。 (オムニバス方式/全15回) (11 大段 秀樹/2回) 臨床医学序論—臓器移植の現状と展望—について、講義する。 (46 一戸 辰夫/2回) 造血管腫瘍に対する細胞免疫療法の展望について、講義する。 (16 服部 登/2回) 肺癌の診断と治療について、講義する。 (47 丸山 博文/1回) 神経疾患・老年疾患について、講義する。 (49 杉山 英二/1回) 関節リウマチの病態とその治療について、講義する。 (20 津賀 一弘/1回) 包括ケア時代の新口腔機能訓練法について、講義する。 (101 上田 宏/1回) 睡眠時無呼吸患者の口腔内装置治療について、講義する。 (128 川口 浩史/1回) 小児がんの診断と治療について、講義する。 (129 相方 浩/1回) 肝がんの治療について、講義する。 (130 山下 英尚/1回) 不眠症の診断と治療について、講義する。 (154 芹川 正浩/1回) 睥がんの早期診断と治療について、講義する。 (155 占部 智/1回) 周産期医療の現状—早産の病態—について、講義する。	オムニバス方式
	生命科学科目	生物統計学・臨床統計学基礎論 臨床研究・疫学研究に必要な医学・生物統計学的な解析方法及び解釈・注釈について実際の研究例を通じて解説し、受講生自らがエビデンスに基づいた医療や行政施策を実施できる基礎的な能力を身に付けることを目標とする。内容は、臨床研究と生物統計学、正規分布と統計的推測、データ分析法(群間比較、生存分析)、実践演習(データベースと記述統計、統計解析計画)、生物統計学・臨床統計学のトピック、臨床研究の倫理と実際である。 (オムニバス方式/全8回) (12 田中 純子/2回) 臨床研究と生物統計学について、講義する。 (44 梅本 誠治/2回) 生物統計学・臨床統計学のトピック、臨床研究の倫理と実際について、講義する。 (143 秋田 智之/2回) データ分析法について、講義する。 (142 大久 真幸/1回) 医学統計学について、講義する。 (229 伊森 晋平/1回) 正規分布と統計的推測について、講義する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目 生命科学科目	分子生物学と放射線防護	<p>原爆被爆者等に観られる放射線の生体影響, DNAの構造と機能, ゲノムの損傷と修復, 細胞の機能と死, 造血機能障害, 白血病幹細胞, 分子標的療法, 再生医療, 現在の放射線防護体系等について概説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(63 保田 浩志/2回) 放射線の生体影響及び放射線被ばくに対する防護について, 講義する。</p> <p>(66 川上 秀史/2回) 疾患遺伝子について, 講義する。</p> <p>(68 稲葉 俊哉/1回) 細胞の死について, 講義する。</p> <p>(108 仲 一仁/1回) 白血病幹細胞について, 講義する。</p> <p>(87 佐藤 健一/1回) 統計解析による放射線影響の要因探索について, 講義する。</p> <p>(109 河合 秀彦/1回) 細胞周期とがんについて, 講義する。</p> <p>(139 宮本 達雄/1回) 細胞の分裂について, 講義する。</p> <p>(140 孫 継英/1回) エピジェネティクスとゲノム修復について, 講義する。</p> <p>(141 三原 圭一郎/1回) 分子標的療法について, 講義する。</p> <p>(161 久保田 明子/1回) 原爆被ばくに関する医学データの再評価について, 講義する。</p> <p>(162 大野 芳典/1回) 造血機能障害について, 講義する。</p> <p>(163 谷本 圭司/1回) DNA損傷と修復について, 講義する。</p> <p>(288 安永 晋一郎/1回) 幹細胞と再生医療について, 講義する。</p>	オムニバス方式
	人体解剖学実習	<p>人体構造を観察することにより, 各構造物の立体構造及びそれらの3次元的な配置, さらにその系統的関連を把握する。人体構造の系統的理解を深めるとともに, 形態学の素養を身に付ける。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	生命科学 科目	<p>セルダイナミクス・ゲノミクス学特論</p> <p>(概要) 私達ヒトを含めた動物を構成する細胞は、多細胞間での情報のやり取りを通じた分裂・分化・移動・集合により組織・器官を構築し、成体においては、組織・器官の劣化・損傷・癌化に対して、組織・臓器間相互作用による修復・再生を行う事で、成体の恒常性維持に寄与している。本講義では、胎児期から成体において観察される、このような細胞のダイナミズムを概説するとともに、セルダイナミズムの分子生物学的基盤を、ゲノムを中心としたオミックス解析(トランスクリプトーム・プロテオーム・メタボローム等)を通じて解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(215 鈴木 厚/4回) モルフォゲンシグナルによる幹細胞の維持・分化誘導過程におけるセルダイナミクスを解説する。</p> <p>(192 菊池 裕/5回) 細胞分化・器官形成から成体での恒常性維持・疾患における細胞のダイナミズムとエピゲノムに関して解説する。</p> <p>(231 高橋 治子/2回) マイクロフリュイディクスや臓器チップなどの先端ナノ・マイクロ技術を用いたセルダイナミクス及びゲノミクス解析について概説する。</p> <p>(193 荻野 肇/4回) 転写因子とゲノムDNAの相互作用ネットワークの形成機構と、その発生・再生・進化における働きに関して解説する。</p>	隔年 オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	先端的神経細胞科学	<p>(概要) 本講義では、複数の担当教員と外部講師によるオムニバス形式の講義と、学生主体のアクティブラーニングで実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(195 古川 康雄/2回) 電気生理学的方法論を脳神経系の解析に適用する際の考え方, 可能なアプローチ, そしてその結果得られた主要な成果などについての講義を行う。</p> <p>(194 斎藤 祐見子/2回) 細胞生物学的方法論を脳神経系の解析に適用する際の考え方, 可能なアプローチ, そしてその結果得られた主要な成果などについての講義を行う。</p> <p>(216 佐藤 明子/2回) 遺伝学的方法論を脳神経系の解析に適用する際の考え方, 可能なアプローチ, そしてその結果得られた主要な成果などについての講義を行う。</p> <p>(139 宮本 達雄/2回) 神経における極性輸送や情報伝達機構の特徴について、モデル動物を用いて学び、神経疾患との関連について講義を行う。</p> <p>(195 古川 康雄・194 斎藤 祐見子・216 佐藤 明子/7回) (共同) 神経科学分野(情報伝達, ネットワーク形成, 小胞輸送, 極性形成)のテーマについて学生主体のアクティブラーニングとして、英語論文/総説を学生自身が読み、発表とディスカッションを行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部) 講義 16時間 演習 14時間
	細胞機能科学A	<p>(概要) 生物の生命現象を支える基本的分子機構, その破綻による疾患等について概説する。生命を生命たらしめる大きな要因である, 細胞膜と老化について分子レベルで解説し, その機能破綻と疾患との関連性について議論する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(217 水沼 正樹/8回) 老化・寿命に関する分子メカニズムを中心に講義する。</p> <p>(196 秋 庸裕/7回) 生体膜に関する分子メカニズムを講義し, シグナル伝達における役割を概説する。</p>	隔年 オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専 門 科 目	生命科学科目		
	細胞機能科学B	<p>(概要) 細胞間認識における複合糖質・抗原抗体・生体膜・脂質メディエーターの役割を学び、これらを通して生体の恒常性維持と防御についての理解を深めることで洞察力と独創性を涵養する。糖質、脂質、タンパク質の生化学的基礎知識及び糖鎖生物学、免疫化学、脂質生化学の技術のバイオテクノロジー分野への応用を紹介する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(197 河本 正次/7回) 脂質合成、免疫機構に関する分子メカニズムを中心に講義する。</p> <p>(218 中ノ 三弥子/7回) 糖鎖を中心とする分子メカニズムを講義し、その利用法について概説する。</p> <p>(197 河本 正次・218 中ノ 三弥子/1回) (共同) 総合討論を行う。</p>	隔年 オムニバス方式・ 共同 (一部)
	数理生物学	数理生物学の基礎を学ぶ。生態や生命現象を記述する数学を理解し、数理モデルを用いて現象を理解する事を学ぶ。	
	遺伝子化学A	<p>(概要) 生物が生きていく上で不可欠な遺伝情報の維持および変化の基礎となる内容についての講義である。まず、生命の設計図としてのDNAおよび遺伝子の構造と機能を確認し、多様な損傷誘発因子と損傷誘発機構を詳細に学ぶ。さらに、これらに基づき複製・転写を介した損傷の生物影響について概観する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(198 井出 博/2回) 生命の設計図としてのDNAおよび遺伝子の構造と機能を講義する。</p> <p>(311 寺東 宏明/11回) 多様な損傷誘発因子と損傷誘発機構を詳細に講義する。</p> <p>(198 井出 博・232 津田 雅貴/2回) (共同) 複製・転写を介した損傷の生物影響について概観する。</p>	隔年・オムニバス 方式・共同 (一 部)
食品栄養機能学I	食品及び食品成分の生体調節機能について、基礎から最新の知見までを講義と学生の発表という双方向形式で授業を実施する。機能性成分の効果効能はもとより、成分がどのように吸収され、どこに運ばれ、どのようなメカニズムで作用を示し、そしてどのように代謝されて体外に排泄されるかを学ぶ。栄養学、生理学、免疫学を組み合わせた視点から機能性成分の役割を紹介するとともに、受講生は関連する英語の論文を読み解き、プレゼンテーションと討論を通してそれらの理解を深める。さらに、保健機能食品の特定保健用食品(トクホ)や栄養機能食品、2015年4月から施行された機能性表示食品など、機能性食品成分の関わる法規と制度についても学習する。		

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	生命科学科目	<p>食品衛生微生物学 I</p> <p>(概要) 食の安全確保に必要な微生物の基礎知識, 技術について講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(200 中野 宏幸/8回) 微生物性食中毒の種類と発現状況を理解させた上で, 食中毒細菌の生存・増殖特性や病原因子について解説し, 殺菌や静菌など微生物制御技術の基本と最新技術を紹介する。</p> <p>(201 島本 整/7回) 食中毒細菌における病原性発現機構を遺伝子面から理解するため, 細菌における細胞内及び細胞外の情報伝達機構や病原性関連遺伝子の発現調節機構について解説する。</p>	オムニバス方式
		<p>応用動物生命科学I</p> <p>(概要) 動物を用いた先端的技術 (バイオテクノロジー) の開発に必要な分子遺伝学, 生殖生物学及び細胞工学について, 基礎から最新の知見までを講義と学生の発表という双方向形式で授業を実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(203 島田 昌之/5回) 哺乳類の配偶子形成と受精について, 細胞レベルだけでなく個体レベルで理解できるように講義を展開し, 理解を深めるために, 学生が課題を発表する双方向授業を行う。</p> <p>(202 堀内 浩幸/5回) 多能性幹細胞と抗体の基礎と応用に関して, 授業計画に記載された内容にそって学生と討論形式で授業を展開し, その内容を板書・ノートにまとめていく。</p> <p>(221 西堀 正英/5回) 動物遺伝・動物進化学および分子遺伝学的解析手法について, シラバスに沿った事前学習項目・課題を提示し, 課題に対するプレゼン, 発表, 議論を中心とした主体的, 対話的で深い学習形式で授業を展開する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	生命科学 科目	<p>応用分子細胞生物学I</p> <p>(概要) 細胞生物学の対象となっているすべての生物界について、それぞれの学術的概要を学習した後に、農学の視点で応用展開するための基礎技術、及びその応用例について知見を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(204 三本木 至宏／4回) 原核微生物に関する知識と応用展開するための技術、及びこれまでの事例と現状について知見を深めるために講義を展開する。</p> <p>(222 船戸 耕一／4回) 真核微生物に関する知識と応用展開するための技術、及びこれまでの事例と現状について知見を深めるために講義を展開する。</p> <p>(223 国吉 久人／3回) 動物に関する知識と応用展開するための技術、及びこれまでの事例と現状について知見を深めるために講義を展開する。</p> <p>(225 藤川 愉吉／4回) 植物に関する知識と応用展開するための技術、及びこれまでの事例と現状について知見を深めるために講義を展開する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目 持続可能な発展科目	スペシャリスト型SDGs アイデアマイニング 学生セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し、学生同士のブレインストーミングによって、SDGを達成するためのアイデアを発掘する。ファシリテーターの教員が示すUNDPの「重要な事実」を踏まえ、ひとつのSDGに対して異なる専門分野から意見を出し合い、ペアのディスカッション、グループ内でのディスカッションを通じて、ひとつのプロポーザルを導く。最終的にはその成果を全員の前でプレゼンテーションし、全体として17つのSDGsをカバーする包括的なアプローチを提案する。	
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し、広島県及び県内市町村の1つを取り上げ、SDGsの観点から課題を議論し、解決策を探索するセミナーである。ファシリテーターの教員が示すUNDPの「重要な事実」及び当該県市町村のプレゼンを踏まえ、その課題に関して異なる専門分野から意見を出し合い、最終的には課題の分析と解決策をひとつのプロポーザルにまとめ、市民も含めた全員にプレゼンテーションする。	
	普遍的平和を目指して	<p>(概要) 本講義では、今日の国際社会において、緊急性の高い諸問題をテーマに、それぞれの専門領域の視点からその解決策を導き出す能力を身につけることを目指す。取り扱うテーマは、例えば、貧困・飢餓・難民・平和構築・ジェンダー・環境問題、世界各地の紛争などである。それぞれのテーマに関して具体例とともにその現状を学び、同時にその解決策を具体的かつ理論的に提示できる能力を身につける。理想社会と現実との間には、大きなギャップも存在する。本講義で得た知見によって、そのギャップを説明し、かつ乗り越えることを目指したい。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(52 河合 幸一郎／2回) 途上国における貧困と飢餓について現状と解決策</p> <p>(99 掛江 朋子／2回) 世界各地の難民問題の現状と課題</p> <p>(98 山根 達郎／2回) 現代に蔓延する越境的な地域紛争の構造と紛争後における平和構築に向けた国際社会の取組み</p> <p>(53 中坪 孝之／2回) 水資源問題、地球温暖化を始めとした環境問題と平和の関わり</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・ データ リテラ シー 科目	データサイエンス	データサイエンスは、データそのものを対象とする科学である。データの蓄積や利用法に留まらず、データの抽出、解析、検証、問題解決にいたる一連の手順について講義を行い、必要に応じて実際に統計ソフトウェアを用いた計算を行う。具体的には、使用したいデータの取り出しと結合・欠損データの取り外しなどのデータクリーニング、ヒストグラム・ボックスプロットなどの単数データの視覚化、平均・分散などの基本統計量の計算等の初歩的な内容だけでなく、散布図・バイプロットなどの複数データの同時視覚化、重回帰分析やロジスティック回帰分析、さらにはクラスター分析などのより実践に即した内容も取り扱う。	
	パターン認識と機械学習	人工知能は、人間の脳の機能を人工的に模倣しようとする試みである。デジタルカメラでの顔検出や自動運転などの応用では、パターン認識や機械学習が重要な役割を担っている。最近では、ディープラーニングを用いた手法が画像認識などのパターン認識課題で高い性能を出したことで脚光を浴びている。また、膨大なデータの中から有用な情報を見つけ出すためのデータマイニングでは、基礎技術として機械学習が利用されている。本講義では、機械学習とパターン認識の基礎とその人工知能への応用について解説する。また、訓練データから予測や識別のためのモデルを構築するプログラムを作成することで、機械学習やパターン認識手法をより深く理解する。	
	データサイエンティスト養成	近年、ビッグデータや人工知能(AI)などの活用に関心が集まっている。企業においては製造・生産ラインの改善、素材等の探索、顧客データに基づく新商品開発など、膨大なデータを構造化することで企画立案などの意思決定をサポートすることができる人材ーデータサイエンティストーに対するニーズも高まってきている。一方、理工系分野に限らず、人文社会系を含めた幅広い研究分野においても、データサイエンスの知見や技術の応用が新たな学問的発見や価値創造に貢献することが期待されている。本講義では、これらデータサイエンティストとして必要になる統計分析能力やIT関連スキルのみならず、実際のビジネスや研究開発現場への応用を見据えた課題解決型テーマに取り組むことで実践力を養う。演習の際には、産業界やデータ関連分野の専門家などからの指導・助言を受けられるように配慮する。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・ データ リテラ シー科 目	医療情報リテラシー活用	<p>(概要) がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本講義では、医療情報を処理するために必要な知識、解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに、演習を行い、医療情報の解析法について履修する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(128 小笹 晃太郎／1回) 原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究。演習</p> <p>(58 工藤 美樹／1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則、功罪や有用性。演習</p> <p>(100 森野 豊之／1回) 医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法と演習</p> <p>(62 粟井 和夫・60 有廣 光司／1回) (共同) 医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題、情報の有用性と社会における活用と演習</p> <p>(129 田中 剛／1回) 広島県独自のHMnet (ひろしま医療情報ネットワーク Hiroshima Medical Network) を利用した医療情報共有の仕組みと活用と演習</p> <p>(57 田中 純子／1回) NDB (National data base) などの大規模医療データベースの種類、概要、倫理、疫学研究への活用と演習</p> <p>(101 大上 直秀／1回) がんゲノム情報の概要、倫理的課題、応用と活用と演習</p> <p>(63 服部 登／1回) 臨床治験の大規模化に伴う課題、功罪、応用と活用と演習</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	リーダーシップ手法	<p>組織でメンバーをリードして仕事を進めるのみならず、自身のキャリア開発と自己実現を図る上でもリーダーシップ力は不可欠である。本講義では、まず将来のキャリアパスの選択肢と社会の多様な場で活躍するために必要な能力等について概観し、自己実現にむけた自身の強みと弱みを理解する。内省と自己理解を踏まえた上で、国内外のリーダーの実像も交えながら、リーダーに求められる特性について概説する。また、リーダーシップを発揮するために必要な要素について実例と演習を通じて理解を深めるとともに、大学院における研究活動の中で自らのリーダーシップ力や他者への影響力を向上させるために何ができるかを考える。授業の全編を通じて、クラス参加者での積極的なグループ討議とディスカッションを行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・ データ リテラ シー科 目	高度イノベーション人財のためのキャリアマネジメント	グローバル化と科学技術の進展に伴い、社会における人材ニーズも時代とともに変化している。本講義では、多様な業界の関係者や職業に従事されている方々からの講義、ディスカッション、さらには自己理解を深めるためのワークを通じて、研究経験を有する専門性の高い人財が活躍できるキャリアの選択肢と必要な能力・資質等について理解する。多様なキャリアの意義や魅力を理解することで自分自身の研究経験の活かし方を考え、将来に亘って自身のキャリアをマネジメントしていくために必要となる姿勢、行動、特質についても考察を深める。なお、人文社会系から理工農系までの幅広い学生が自らのキャリアを考えることができるように配慮する。	
	イノベーション演習	新たな社会的・経済的価値を生み出すためには、科学的発見や技術的発明を効果的に融合し発展させることが必要である。近年では異業種や異分野間で知識、技術、サービス、ノウハウなどを組み合わせることで新たな価値を生み出すオープン・イノベーションが進んでいる。本演習では、新たな社会的・経済的付加価値を生み出す(=イノベーション)ために必要となる姿勢やアプローチについて理解するとともに、企業等が抱える実際の課題に触れ、その解決プロセスを通じて、異なる「知」「技術」「分野」を融合する力と他者と協働する力を習得する。企業等が提案する課題毎に数名のグループを形成し、異なる分野の学生のみならず、企業・団体等の関係者と協働することで、多様な視点や考え方を理解し、新たな価値やネットワークを生み出すプロセスを疑似体験する。なお、人文社会系から理工農系までの幅広い学生が授業で討論しやすいように配慮する。	
	長期インターンシップ	国内外の民間企業、公的機関、非営利団体などへの長期インターンシップを通じて、企業や社会の課題解決に貢献するとともに、実践的な能力の養成とキャリアオプションの拡大を図る。実習期間は原則、1～2ヵ月間以上のものを対象とする。受講希望者は応募申請書及び所属する専攻の指導教員からの推薦書をあらかじめ提出し、受講認定、事前カウンセリングなどの指導を受けて実施する。また、派遣前・派遣後プレゼンテーションも実施する。自己資金、学内資金、外部資金を問わない。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 共 通 科 目	生命・医療倫理学B	<p>(概要) 医学・歯学・薬学・保健学の医療・健康福祉領域で行われる教育・研究・臨床は、生命に対する尊厳、医療における倫理感、責任感に裏付けられたものでなければならない。本講義では、それぞれの領域の基礎的並びに最新の医療情報に関する問題等を学習し、研究・臨床における生命・医療倫理について考察することで学生自身の研究・博士論文作成に資することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(58 工藤 美樹/1回) 医学・医療に求められる倫理について、講義をする。 (130 高橋 規郎/1回) ヒトゲノム遺伝子解析研究倫理指針に関する教育及び研修について、講義をする。 (114 岡田 賢/1回) 新生児医療における生命・医療倫理について、講義をする。 (59 森川 則文/1回) 医薬品の使用における倫理について、講義をする (60 有廣 光司/1回) 病理分野における倫理について、講義をする。 (1 松浦 伸也/1回) 遺伝子診療における倫理について、講義をする。 (61 杉山 一彦/1回) 臨床試験と医療倫理について、講義をする。 (100 吉田 光由/1回) 歯科倫理と食べることに関わる倫理について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	研究方法論B	<p>(概要) 「研究方法」をキーワードとして、広く実験技術とその背景にある医学・生物学的知識を学ぶ。単に技術論に留まらず、学生自身の研究・博士論文作成に資する研究の心構えや、講義担当者の研究の方法論を学び、学生自身が種々の方法論を駆使して研究を展開できる能力を涵養することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(2 吉栖 正生・69 小澤 孝一郎/1回) (共同) ガイダンス及びR I技術について、講義をする。 (3 檜山 英三/1回) 遺伝子発現プロファイリングと次世代シーケエンギングについて、講義をする。 (67 橋本 浩一/1回) パッチクランプ法の原理と応用について、講義をする。 (68 宿南 知佐/1回) 培養細胞実験とiPS細胞のトピックスについて、講義をする。 (4 田代 聡/1回) 細胞画像解析について、講義をする。 (103 佐藤 健一/1回) 要因探索のための統計解析について、講義をする。 (104 金子 雅幸/1回) PCR法の原理と応用について、講義をする。 (105 木下 英司/1回) 生物物理科学的研究手法について、講義をする。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	アドバンスド生命科学 コースワーク	<p>スタートアップ生命科学コースワークを修得し、実験研究を遂行するために必要な基礎知識、技術、考え方を身につけた学生を対象に、やや専門的な実験の知識、並びに手技を少人数で学ぶ。</p> <p>演習テーマは下記のとおり：</p> <p>A. デジタルPCRによるウイルスDNAの絶対定量 B. FACS解析 C. 免疫組織化学 D. 培養細胞を用いた染色体の観察 E. 培養細胞への遺伝子導入法 F. 質量分析によるプロテオーム解析 G. 次世代シーケンサーによる発現解析</p>	
	バイオメディカルサイ エンスの創生展開	<p>(概要) 医学・歯学・薬学・保健学の各領域において、共通の理解が必要となる分野及び他の領域にとって参考になる分野を中心に主題を選択し、それぞれの領域の基礎的並びに最新の話題を提供し、学生間相互で知識と理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(72 田原 栄俊/1回) 老化および癌におけるマイクロRNA及びエクソソームの役割について、講義をする。 (6 松浪 勝義/1回) 医薬品発見のための天然物化学について、講義をする。 (5 相澤 秀紀/1回) 神経及び精神障害におけるニューロン及びグリア機能障害の役割について、講義をする。 (71 加藤 功一/1回) 再生医療用生体材料及びバイオデバイスについて、講義をする。 (58 工藤 美樹/1回) 正常妊娠及び異常妊娠における胎盤酵素の役割に関する研究について、講義をする。 (70 浅野 知一郎/1回) 代謝調節におけるプロリルイソメラーゼの役割について、講義をする。 (68 宿南 知佐/1回) 軟骨と腱・靭帯との間の接合調節機構について、講義をする。 (73 大段 秀樹・115 AMATYA VISHWA JEET/1回) (共同) 肝細胞癌の肝移植、中皮腫及び肺癌について、講義をする。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	生体医工学イノベーションB	<p>(概要) 臨床に用いる医療機器やシステム等の技術開発を具体化するために必要な、研究マインド及び開発プロセス、産学官連携活動や情報学・医学・工学領域間の連携に関する知識、態度を習得する。</p> <p>本講義では、マツダを事例にして、実際のビジネスや研究開発現場への応用を見据えたテーマに取り組み、グループディスカッションすることで実践力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(73 大段 秀樹/2回) ガイダンス及び技術開発の必要性について、講義をする。 (132 坂本 和夫/1回) 医療機器、システムの商品開発のプロセスについて、講義をする。 (107 笹岡 貴史/1回) 感性脳科学の応用について、講義をする。 (121 金山 範明/1回) 感性計測について、講義をする。 (131 農澤 隆秀/1回) これからの技術者に求められることについて、講義をする。 (133 高見 明秀/1回) モノづくりに必要な技術について、講義をする。 (143 西川 一男/1回) 人間工学・感性工学とその応用について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	多職種連携B	<p>(概要) 現代の医療では、各分野の専門スタッフが連携・協働して、治療に当たるチーム医療が重要視されている。本講義では、高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人の養成のため、医学、歯学、薬学、看護学、保健学それぞれの立場からチーム医療を円滑に実践するための知識を身に付けることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(64 志馬 伸朗/1回) ガイダンス及び多職種連携の必要性について、講義をする。 (9 折山 早苗/1回) 医療ケアに関する看護師の役割分担について、講義をする。 (13 桐本 光/1回) 急性期リハビリテーションチームについて、講義をする。 (12 浦川 将/1回) 医師・看護師・リハビリ関連職種との連携について、講義をする。 (65 木村 浩彰/1回) 医師からみた多職種連携の必要性について、講義をする。 (66 柿本 直也/1回) チーム医療における歯科医師が行う連携について、講義をする。 (76 松尾 裕彰/1回) 多色区連携における薬剤師の役割・課題・取組について、講義をする。 (31 内藤 真理子/1回) 周術期における歯科衛生士の役割について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目	臨床腫瘍学	<p>(概要) 臨床腫瘍学に関連する分野として、放射線腫瘍学、内科腫瘍学、外科腫瘍学、精神腫瘍学、病理腫瘍学、薬物腫瘍学がある。これらの各専門領域の最先端の研究や臨床について、各専門分野の教授に担当していただき、学生にわかりやすい入門教育を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(74 永田 靖/1回) 放射線腫瘍学の最前線について、講義をする。 (75 岡田 守人/1回) 腫瘍外科の最前線について、講義をする。 (60 有廣 光司/1回) 臨床病理学について、講義をする。 (61 杉山 一彦/1回) がん化学療法と副作用対策について、講義をする。 (76 松尾 裕彰/1回) がん薬物療法について、講義をする。 (123 三上 幸夫/1回、) がんのリハビリテーションについて、講義をする。 (122 小早川 誠・77 岡本 泰昌/1回) (共同) サイコオンコロジーについて、講義をする。 (57 田中 純子/1回) 肝がんの疫学と医学統計学について、講義をする。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	放射線統合医科学	<p>(概要) 放射線災害・医科学研究分野は、基礎生物学、臨床医学、疫学や社会医学など広範におよぶことから、分野横断型の研究推進が必要である。本講義では、放射線災害・医科学研究分野の主要テーマである、低線量放射線被ばくによる人体への影響の解明や、高線量放射線被ばくによるヒト疾患の発症機構、緊急被ばく医療のための再生医学、福島第一原発事故の発生により明らかとなった様々な課題への研究などに関する知識を習得し、最新の研究動向を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 松浦 伸也/1回) 放射線高感受性遺伝病について、講義をする。 (78 保田 浩志/1回) 放射線防護：放射線被ばく健康影響とその障害の防止について、講義をする。 (108 河合 秀彦/1回) 細胞に及ぼす放射線障害の概略について、講義をする。 (79 東 幸仁/1回) 急性障害：血管障害と再生について、講義をする。 (80 稲葉 俊哉/1回) 放射線発がんの基礎について、講義をする。 (116 宮本 達雄/1回) 放射線誘導性小頭症の発生機序について、講義をする。 (117 三原 圭一郎/1回) 原発事故の生体影響について、講義をする。 (74 永田 靖/1回) 放射線障害のない放射線治療について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目	薬物治療学	<p>(概要) 最近の医療関係のトピックスを交えながら、様々な疾患を取り上げ、その最新の薬物療法のあり方と問題点を、病態生理の分子メカニズム、治療薬の分子薬理メカニズム、分子メカニズムに基づいた薬物間相互作用、遺伝情報や生体メカニズムに基づいた薬物療法の最適化など、様々な視点から講義をする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(69 小澤 孝一郎/2回) 薬物治療学の最近の動向についてのオーバービュー及びサリドマイド等の既存の医薬品に期待される難治性治療薬としての可能性について講義をする。</p> <p>(109 細井 徹/2回) 小胞体ストレスと病態との関連及び創薬への展開について講義をする。</p> <p>(124 柳瀬 雄輝/2回) 細胞を解析するセンシング技術とその臨床応用及び血液凝固反応と免疫系の関わりについて講義をする。</p> <p>(125 吉井 美智子/2回) 脂肪細胞のバイオロジーと肥満治療への試み、アルツハイマー病治療と治療薬開発の現状及びカルシウムチャネルの働きと疾病との関わりについて講義をする。</p>	オムニバス方式
	がん診療各論	<p>(概要) 各臓器別がんの最新情報を各領域の専門家にオムニバス方式で講義してもらう。具体的には、肺癌、乳癌、頭頸部癌、脳腫瘍、血液腫瘍、胃癌、大腸癌、膵臓癌、婦人科癌、泌尿器癌、皮膚がん、転移性腫瘍、食道がん、小児がん、である。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(74 永田 靖/1回) 転移性腫瘍について、講義をする。</p> <p>(111 田邊 和照/1回) 胃癌について、講義をする。</p> <p>(119 相方 浩/1回) 肝臓がんについて、講義をする。</p> <p>(120 角舎 学行/1回) 乳がんについて、講義をする。</p> <p>(81 一戸 辰夫/1回) 造血器腫瘍について、講義をする。</p> <p>(126 平田 英司/1回) 婦人科がんについて、講義をする。</p> <p>(110 亭島 淳/1回) 泌尿器がんについて、講義をする。</p> <p>(118 河合 幹雄/1回) 皮膚がんについて、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目	Environment and Health	<p>(英文) This course is designed for graduate students to share the necessary theoretical knowledge and attitude to develop the partnership for health protection from climate risks. The main topics are selected in this course to share the traditional scenario related to climate change and health effects.</p> <p>The overall objectives of the course for students are to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Describe the hazards and health effects due to climate changing and outline the necessary preventive measures. 2. Formulate the preventive and control methods of common viral and other infectious diseases. 3. Explain the importance of demography, population health and ageing population care. 4. Develop the concept of global issues to protect the environments and promote environmental health services. 5. Continue and increase health related English communication skill. <p>Specific course objectives: After the successful completion of the course, students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Recognize the global environmental changing effects and estimate the public health interventions to prevent infectious diseases. 2. Identify the social and environmental impact on reproductive health and preventive and control measure of sexually transmitted diseases. 3. Define emerging, re-emerging, chronic and non-communicable diseases pattern and state the control procedures. 4. Understand the domestic violence and compare the circumstances of gender-based violence. 5. Explain the climate changing consequences and human health effects, including present and future risks. 	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目		<p>(和訳)</p> <p>本科目では、大学院生が、気候変動のリスクから健康を守るためのパートナーシップをどのように構築するのか、そのために必要な理論的知識と態度を学ぶことを目的とする。授業を通して、気候変動や健康への影響に関する既存のシナリオを話し合うことができるよう、以下のトピックスを選定している。</p> <p>達成目標：本コース終了時点で学生は以下が達成できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気候変動による災害と健康への影響を理解し、必要な予防措置について説明することができる。 2. 一般的なウイルス感染または他の感染症の予防や制御戦略を作成することができる。 3. 人口統計に基づき、集団の健康及び高齢者ケアの重要性を説明することができる。 4. 環境保護、環境保健に関する対策の推進について、地球規模の視野に立って考えることができる。 5. 健康関連の英語によるコミュニケーションスキルを継続して向上させる。 <p>具体的な目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球規模の環境変化の影響を認識し、感染症予防のための公衆衛生上の戦略を考えることができる。 2. 社会や環境がリプロダクティブ・ヘルスに与える影響、そして性感染症予防及びその制御方略を説明することができる。 3. 新興・再興する、慢性疾患／非感染性疾患のパターンと制御手順について述べることができる。 4. 家庭内暴力を理解し、またジェンダーに基づく暴力の状況と比較することができる。 5. 現在及び将来のリスクを含む、気候変動が与えるさまざまな影響及び人々の健康への影響を説明することができる。 	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目	Research Methodology and Health System Management	<p>(英文) This course is designed for graduate students to share the necessary theoretical knowledge and attitude to develop the partnership for health protection from climate risks. The main topics are selected in this course to share the traditional scenario related to climate change and health effects.</p> <p>The overall objectives of the course for students are to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Describe the hazards and health effects due to climate changing and outline the necessary preventive measures. 2. Formulate the preventive and control methods of common viral and other infectious diseases. 3. Explain the importance of demography, population health and ageing population care. 4. Develop the concept of global issues to protect the environments and promote environmental health services. 5. Continue and increase health related English communication skill. <p>Specific course objectives: After the successful completion of the course, students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Recognize the global environmental changing effects and estimate the public health interventions to prevent infectious diseases. 2. Identify the social and environmental impact on reproductive health and preventive and control measure of sexually transmitted diseases. 3. Define emerging, re-emerging, chronic and non-communicable diseases pattern and state the control procedures. 4. Understand the domestic violence and compare the circumstances of gender-based violence. 5. Explain the climate changing consequences and human health effects, including present and future risks. 	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通科目		<p>(和訳)</p> <p>本科目では、大学院生が、気候変動のリスクから健康を守るためのパートナーシップをどのように構築するのか、そのために必要な理論的知識と態度を学ぶことを目的とする。授業を通して、気候変動や健康への影響に関する既存のシナリオを話し合うことができるよう、以下のトピックスを選定している。</p> <p>達成目標：本コース終了時点で学生は以下が達成できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気候変動による災害と健康への影響を理解し、必要な予防措置について説明することができる。 2. 一般的なウイルス感染または他の感染症の予防や制御戦略を作成することができる。 3. 人口統計に基づき、集団の健康及び高齢者ケアの重要性を説明することができる。 4. 環境保護、環境保健に関する対策の推進について、地球規模の視野に立って考えることができる。 5. 健康関連の英語によるコミュニケーションスキルを継続して向上させる。 <p>具体的な目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球規模の環境変化の影響を認識し、感染症予防のための公衆衛生上の戦略を考えることができる。 2. 社会や環境がリプロダクティブ・ヘルスに与える影響、そして性感染症予防及びその制御方略を説明することができる。 3. 新興・再興する、慢性疾患／非感染性疾患のパターンと制御手順について述べることができる。 4. 家庭内暴力を理解し、またジェンダーに基づく暴力の状況と比較することができる。 5. 現在及び将来のリスクを含む、気候変動が与えるさまざまな影響及び人々の健康への影響を説明することができる。 	
プログラム 専門科目	共通	<p>ヘルスプロモーション 研究法論</p> <p>各専門領域におけるヘルスプロモーションの現状と今後の課題について討論することで、ヘルスプロモーション研究の意義を理解し、健康維持・増進、地域包括ケアなどのテーマも含め、医療保健福祉分野における各自の実践能力の習得につなげる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 砂川 融/3回) オリエンテーション、保健科学領域におけるヘルスプロモーション</p> <p>(9 折山 早苗/2回) 看護技術開発とヘルスプロモーション</p> <p>(10 祖父江 育子/2回) 小児看護とヘルスプロモーション</p> <p>(7 森山 美知子/2回) 成人看護とヘルスプロモーション</p> <p>(11 浦邊 幸夫/2回) リハビリテーションとヘルスプロモーション</p> <p>(12 浦川 将/2回) 運動器機能とヘルスプロモーション</p> <p>(13 桐本 光/2回) 感覚運動神経科学とヘルスプロモーション</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	専門 共通	<p>Advanced Research Methodology in Health Science</p> <p>(英文) This course is intended for graduate course students. It is to inform the application or practice of research in health science to address the public health issues.</p> <p>The overall objectives of the course for students are to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Accurately describe the fundamental concepts and approaches in qualitative and quantitative research methodology 2. Identify how moral, ethical, cultural, social, political and environmental issues and responsibilities impact on research. 3. Critically review and critique the literature using valid resources, and thereby provide informed opinion. 4. Demonstrate skills in critical thinking by accurately synthesizing new research results in science/health. 5. Apply introductory descriptive and inferential statistical concepts and techniques in the analysis of data. <p>Specific course objectives: After successful completion of the course, students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Define the principles of research in health science to enhance the public health problems. 2. Illustrate the association with the exposure and risk factors in health science. 3. Describe the different types of research methodology involved in health science. 4. Evaluate the implications of research methodologies on evidence based practice and their impact on clinical practice and policy. 5. Demonstrate skills consistent with lifelong learning. 	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目 専門共通		<p>(和訳)</p> <p>本科目は大学院生を対象に、公衆衛生上の問題に取り組むための、健康科学における研究の応用または実施に関して教授する。</p> <p>本コースの到達目標を以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定量的・定性的研究方法について、その基本的な概念を正しく説明できる。 2. 道徳的、倫理的、文化的、社会的、政策的、環境的な課題と責任が研究に与える影響について説明できる。 3. 有効なリソースを使用して文献を批評的にレビュー、批評し、意見を述べることができる。 4. 新たに明らかになった結果を健康科学の中に正しく統合することで、批判的な思考の能力を示すことができる。 5. データ分析について基本的な説明的・推論的統計概念を適用することができる。 <p>具体的な目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生問題を改善するための健康科学における研究の原則を説明することができる。 2. 健康科学における危険因子への暴露との関係について説明できる。 3. 健康科学で用いられるさまざまな研究の方法論について説明できる。 4. エビデンスに基づく実践と臨床実践、政策への影響に関する研究方法論について評価することができる。 5. 生涯にわたって学び続けることのできる能力を示すことができる。 	
	Advanced Statistics in Health Science	<p>(英文)</p> <p>'Advanced Statistics in Health Science' provides an opportunity to learn advanced statistical methods commonly used in researches in health sciences. Methods referred in the lecture cover structural equation modelling (SEM) or covariance structure analysis. It also covers the knowledge on hypothesis testing with the idea on the determination of sample size. This lecture is presented mainly in English for the convenience of oversea students.</p> <p>(和訳)</p> <p>「Advanced Statistics in Health Science (健康科学領域の上級統計学)」では、健康科学の研究でよく使用される高度な統計的方法を学ぶ機会を提供しています。講義で紹介される手法には、構造方程式モデリング (SEM) または共分散構造分析が含まれています。また、標本サイズの決定に関する考え方を学び、仮説検定に関する理解を深めます。この講義は、留学生の便宜を考慮し、主に英語で行われます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	専門共通	<p>Global Health Challenges and Solutions II</p> <p>(英文) This class is open to graduate students in Health Sciences, who intend to work on issues in local, country level, and/or worldwide. We will discuss WHO SDGs (Sustainable Development Goals) and solutions introduced from WHO; also we will discuss using our real strategic approaches implemented in Japan and other countries. Special guest speakers for lecture and discussion will be invited.</p> <p>At the first session, students will select their theme working through the semester, based on your own specialty and interest. Also, we discuss themes below from wide viewpoints.</p> <p>Specific course objectives: After successful completion of the course, students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Explain the global health strategies and estimate the Japan public health services and future needs. 2. Describe the development of international health and priority programs of sustainable development goals (SDGs). 3. Detect the impact of globalization and compute the challenges of urban health care management. 4. Identify the emerging & reemerging health threats and suitable approaches to overcome the situations. 5. Acknowledge the achievement of public health development and develop communication skills to reduce global health related burden. <p>(和訳) 本科目は、地方、国レベル及び世界の問題に取り組む意欲のある保健科学の大学院生に開講する。WHO SDGs (持続可能な発展目標) と解決策について議論する。学外講師による日本や他の国々で実施されている実際の戦略的アプローチを事例に用いて議論する。</p> <p>初回講義で、学生は自身の専門性や関心に基づきセメスターと通して取り組む課題を選定する。また、以下の課題についても幅広い視点から議論する。</p> <p>具体的な目標：本コース終了時点で学生は以下ができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバルな健康戦略を理解し、日本の公衆衛生サービスと将来のニーズについて議論できる。 2. 持続可能な発展目標 (SDGs) に関する国際保健および優先プログラムの開発について議論できる。 3. グローバリゼーションの影響を検討し、都市の保健医療マネジメントの課題を導き出すことができる。 4. 新興する/再発する健康上の脅威とその状況を克服するための適切なアプローチを明らかにすることができる。 5. 公衆衛生が達成してきたことを理解し、世界の健康に関連する負担を軽減するためのコミュニケーション能力を発展させることができる。 	共同
	看護学領域	健康推進科学特講	<p>疾病予防及び健康保持・増進 (ヘルスプロモーション) の概念の理解を深める。具体的には国内外において、環境と健康及び食生活と健康との関連について、最新の文献や論文を講読し、批判的に分析討議を行うことで、博士論文の作成並びに将来の研究能力を習得する。</p>

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目 看護学 領域	健康情報学特講	疾病のリスクファクターや健康増進につながる知識など、健康に関わる情報を「健康情報」とよぶ。健康情報を実際に生み出すだけでなく、健康情報を生み出す方法や健康情報の質の評価、流通の状況や問題点などを研究するのが「健康情報学」である。健康情報学特論では、従来からの疫学や保健統計学を基礎に、著しく発達した情報通信技術を活用することを考慮しながら、健康情報学の基本的な事項について、事例を交えながら認識を深めることを目指す。	共同
	基礎看護技術開発学特講	看護実践及びその背景に関する新たな知の構築を目的とし、研究デザイン、研究方法を検討し、研究課題を明らかにするための研究手法を習得する。	
	助産・母性看護方法開発学特講	助産・母性看護学に関する新奇性及び独創性のある研究課題を精練するために、既存の研究及び最新の知見を系統かつ批判的に吟味する能力を養うとともに、概念分析、理論構築に必要な基礎的能力を養う。授業は担当教員が共同し、第1回から6回は講義とプレゼンテーションにより概念分析及び理論構築の方法に関する基礎を学ぶ。第7回～15回は各自が探求する概念を選択し、概念分析を行う。	共同
	小児看護方法開発学特講	Cochrane Library等のデータベースを活用し、Evidenceとなる論文の質と研究法を学習し、看護実践におけるEvidence based Medicine (Nursing)の重要性を理解する。また、系統レビューによって、既存のパラダイムを突破し、新たなパラダイムを創出する契機を学習する。看護学や健康科学等関連領域の理論やパラダイムを検討し、小児看護における理論構築の基礎能力を養う。	
	成人看護方法開発学特講	医療をシステムとしてとらえたときに、治療や看護ケア、リハビリテーション、ナーシングケースマネジメントなどのサービスの構造と過程をどのように組み合わせればより費用対効果とアウトカムが高まり、ベストプラクティスが提供できるのかについて、わが国及び諸外国の保健医療制度の基本構造と仕組みを比較検討しながら学ぶ。さらに、わが国又はある地域における新しい医療提供システムについて検討する。 また、患者アウトカムを高めるための急性期ケア、慢性疾患管理、がん看護（緩和ケアを含む）、ナーシングケースマネジメントの理論と方法論について学ぶ。 さらに、患者・家族のQOL向上のための理論やアセスメント・介入ツールの開発について学ぶ。 上記の基盤となる、看護、健康科学及び関連領域の理論及び活用される概念及びその哲学的基礎について検討し、看護における理論/モデル構築の基礎能力を養う。	
	成人健康学特講	生活習慣病、特に悪性腫瘍の予防医学や疫学の面から、受講者が現代社会の生活習慣の変動や環境問題などについて幅広い基本的知識が得られるよう講義する。さらには急性期医療の現況を理解し、再審情報の入手や数多くの文献検索を行う。	
	老年・がん看護方法開発学特講	老年看護学およびがん看護学領域における主要な理論や概念、これまでに得られている知見、援助法に関する知識を得ることを目的とし、系統的、網羅的に文献レビューを行い、高齢者およびその家族、がんサバイバーが有する健康課題と援助法に関する知識基盤を構築する。また、発表とディスカッションを通じ、知見をまとめ、論文をクリティークする能力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目 看護学領域	精神保健看護方法開発学特講	精神保健看護学領域の研究に関して、オリジナリティの高い研究課題とするために、既存の研究と最新の知見を取り上げ、研究による知見、研究デザイン、サンプルやデータ収集分析倫理等様々な側面から検討し、保健看護学領域の研究として深める能力を養う。	
	地域・在宅看護方法開発学特講	地域看護学領域で取り扱う健康上の概念を定め、概念により構成される看護理論の理論化へのプロセスとその発展について理解し、概念分析による理論構築から研究モデルを立案し、介入研究による実証研究によるプロセスまでが理解できる。	
	地域・学校看護方法開発学特講	健康の保持増進に関する研究分野の知識を習得するために、既存研究の現状を学び、最新の研究動向を理解する。特に、行政の責任で行う健康の保持増進事業、教育行政の責任として行う学校保健活動について具体的な事例、および研究としてあり方を探求する。探求する中で、既存文献を活用しながら研究と実践を連動させる方策について考察し、保健師、養護教諭が実践する保健事業計画における研究の役割について考える能力を育成する。	
	健康推進科学特講演習	疾病予防及び健康保持・増進（ヘルスプロモーション）の概念の理解を深める。具体的には国内外において、環境と健康及び食生活と健康との関連について、最新の文献や論文を講読し、批判的に分析討議を行うことで、博士論文の作成並びに将来の研究能力を習得する。	
	健康情報学特講演習	本演習では、健康情報学特講で身に付けた健康情報学の発展的事項をもとに、健康情報学の個別の研究に題材をとりつつ、健康情報学のさまざまな具体的技法を学びながら、知識を広げ、スキルを磨くことを目指す。取り扱う技法としては、単に知識として知っているだけでなく、その長所や短所について熟知した上で実際に使いこなすことができるレベルを目指す。	共同
	基礎看護技術開発学特講演習	看護の質向上の視点から基礎看護技術に関する知識の体系化と方法論について学際的に探究し、今日の研究課題について理解する。さらに、看護実践の基礎である科学的根拠に基づく看護技術の改善・改革・開発を目指す。具体的には、人々の療養生活および健康生活の質を向上できる看護技術開発のために多様な研究手法を理解し、研究計画書を立案する。	
	助産・母性看護方法開発学特講演習	各自の研究課題に関する看護実践及び研究について、文献や先行研究の系統的及び批判的吟味により研究課題を精練し、新奇性及び独創性のある研究計画を立案し、研究を遂行する能力を養う。また、研究課題に適した研究手法及び研究デザインに関する理解を深める。授業は担当教員が共同で行い、第1回から第7回は質的・量的研究デザイン、実験研究、介入研究、尺度開発に関する理解を深める講義を含む。第8回～15回は研究手法や研究デザインを各自の研究課題に適用し、学生がプレゼンテーションした研究計画及び倫理審査にかかる課題について議論する。	共同
	小児看護方法開発学特講演習	質的研究、量的研究の研究デザインをその分析法とともに系統的に学習する。質的研究は、the hybrid model for concept developmentを用いて理論構築法を学習する。量的研究では、尺度作成法、double blind RCT (Randomized Controlled Trial)、cross over trialの演習課題を設定し、それぞれの研究方法と解析法の理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目 看護学 領域	成人看護方法開発学特 講演習	特講で選択したそれぞれのテーマと、その中で明らかにしたい内容にもっとも適する研究方法論を選択するための知識と方法を身に付ける。 それぞれの研究方法論について理解を深める。また、展開できる。 さまざまな研究方法論について、その哲学的基礎とともに学ぶ。 学術論文のcritiqueの方法について学ぶ。また、実際に行える。	
	成人健康学特講演習	生活習慣病、特に各種悪性腫瘍における解決すべき問題点、さらには急性期医療、特に周術期における種々の問題点に関して、その研究方法を習得する。すなわち、1. 研究的デザインとして研究目的に即した研究方法の決定について個別に指導し、その解析方法についても指導する。 2. 臨床研究・調査研究などでは、まずは研究計画を基に倫理申請書を作成するための指導を行う。3. 国内外の価値ある多くの文献についてともに学習し知識を深める。 4. 最後に博士論文作成に向けた指導をする。5. 英語論文作成についても積極的に指導する。	
	老年・がん看護方法開 発学特講演習	高齢者およびその家族、がんサバイバーへの看護に関する知識を体系化することにより理論化し、その理論を実践へ適応する方法を修得することにより、新たな看護実践を開発するための研究手法を身につける。さらに、研究方法について文献を通じ批判的に検討し、理解を深め、課題を解決するために最適な研究方法を理解、開発する能力を身につける。	
	精神保健看護方法開発 学特講演習	精神保健看護学領域に関する研究について、研究背景となる基礎的知識、知見を構築し、さらに患者・家族の生活の質や看護の質向上を目的とした研究テーマを明らかにし、研究計画を立案し研究として実施するための討論演習を行う。	
	地域・在宅看護方法開 発学特講演習	看護理論における概念開発の位置づけ及び看護理論の開発における意義とは何かを理解する。 また看護理論の開発における主要な研究手法を学び、理論開発のプロセスを理解する。	共同
	地域・学校看護方法開 発学特講演習	児童生徒の自主的健康管理能力を育成するために学校、家庭、地域、行政が連携した包括的地域ケアの実践方法について、その基礎理論と方法論を実践の場において展開する方法を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	看護開発科学特別研究	<p>(概要)</p> <p>本特別研究では、健康情報学特講・健康情報学特講演習で身につけた健康情報学の発展的知識・研究スキルをもとに、健康情報学において受講者の選択した研究課題に取り組み、教員の指導のもとで国際水準の学術論文の作成を行う。</p> <p>(15 小林 敏生) 健康推進科学に関する研究指導を行う。 (14 梯 正之) 健康情報学に関する研究指導を行う。 (9 折山 早苗) 基礎看護開発学に関する研究指導を行う。 (16 大平 光子) 助産・母性看護開発学に関する研究指導を行う。 (10 祖父江 育子) 小児看護開発学に関する研究指導を行う。 (7 森山 美知子) 成人看護開発学に関する研究指導を行う。 (17 宮下 美香) 老年・がん看護開発学に関する研究指導を行う。 (18 國生 拓子) 精神保健看護開発学に関する研究指導を行う。 (19 中谷 久恵) 地域・在宅看護開発学に関する研究指導を行う。 (20 川崎 裕美) 地域・学校看護開発学に関する研究指導を行う。</p>	
	生体構造学特講	<p>人体の構造と生命現象を理解するうえで、細胞、組織や器官について知ることがかかせない。細胞や組織に関して基本的事項から最新の知見までを系統的に理解するとともに、それに関連して、それらの実験結果がどのような方法で得られたのか、研究に用いられている形態学的研究法の基礎から応用まで理解することを目標とする。</p>	
	スポーツリハビリテーション学特講	<p>特にスポーツ外傷の発生機序について詳細な分析を加える。</p> <p>疫学的視点から、スポーツ外傷の発生率の算出方法を考え、発生機序の分析から予防法を考案する。</p> <p>さらに、予防策を実際実践する介入研究をいかにして行うか、プレゼンテーションと総合的な討論で考察していく。</p>	共同
	生体運動・動作解析学特講	<p>博士論文作成のもととなる幅広い知識、学問的な裏付けを、生体運動・動作解析学の観点から学ぶ。</p> <p>また、最終回までに学んだことを基に博士論文の最終的な具体的研究テーマを決定し、予備実験が完了可能な状態へと導く。</p>	
保健学領域	生体機能解析制御科学特講	<p>内部障害患者及び高齢者に対する運動療法の諸理論を教授することによって、保健学領域における研究法の確立と理学療法学の学問的理論構築ができる能力を養うことを目的とする。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目 保健学 領域	運動器機能医科学特講	研究テーマに関する最新の研究動向を理解し、抄読会/学会発表/研究進捗状況報告会の参加を通じて以下のアカデミックなディスカッション能力を身に付ける。 1. 自身の研究遂行に必要な基礎的知識の整理、知識のアップデート 2. 抄読会/学会発表練習/研究進捗状況報告会への参加とディスカッション能力向上 3. 相互ディスカッションを通じた、アカデミックな議論方法の習得	共同
	生体環境適応科学特講	生体が様々な環境に適応していくうえで、細胞レベル・組織レベルでの生体反応から、ヒト個体レベルでの適応反応まで、体系的に学習する。具体的には、分子細胞生物学、再生医療、ニューロリハビリテーション、脳機能評価に関して、専門的な知識・研究手法を習得する。最新の研究を紹介し、研究デザイン、研究結果の解釈、論文の組み立て等に関して相互ディスカッションすることで、基本的知識の習得、論理的思考の構築を目標とする。	
	生理機能情報科学特講	看護ケア並びにリハビリテーションケアと深く関係する人体生理機能に関する専門的知識や科学的なものの見方や洞察力を身に付ける。	
	作業行動探索科学特講	身体機能や認知機能の障害がひとに与える影響、環境や社会心理的要因とひとの行動との関連など作業行動探索科学について研究分野の基礎知識を習得し、最新の研究動向を理解する。	
	作業機能制御科学特講	高齢者の生活障害に対する作業療法介入について、最新の知識を学び、これから研究を行うための基本的な知識を習得することを目標とする。	
	上肢機能解析制御科学特講	手と脳の相互関連について運動学的、脳科学的に学習し、自身の研究の方向性について決定、実践する。また、上肢に関する疾患を対象に運動学的、脳科学的介入方法の知識を習得し、最新の研究動向を理解する。海外での学会発表のために英語での抄録の書き方、プレゼンテーションの方法、スライド作成、発表、質疑応答法について理解、実践する。 英語論文の作成方法を理解し、作成し、投稿する。 Reviseでの論文作成法を学習し実践、論文acceptを勝ち取る。	
	精神機能制御科学特講	精神（心理・社会的側面を含む）機能の障害をリハビリテーションの立場から捉え、こうしたリハビリテーションに関する最新の知識を学び、研究を行っていく際の基本的知識を習得することを目標とする。	
	感覚運動神経科学特講	博士前期課程で行った研究を発展させ、自ら研究テーマを選定し、これをデザインする力を養う。感覚運動系機能の回復を目指した従来のリハビリテーションと比較して介入効果が上がるであろう新たな非侵襲的脳刺激ツールを用いた介入方法を考案し、これを実施するための研究計画を立案する。考案する介入方法はこれまでどのような研究の積み重ねの上に立脚し、どのような生理学的機序により介入効果が期待されるのかを論理的に説明することができるように指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目 保健学領域	生体構造学特講演習	人体の構造と生命現象を理解するうえで、細胞、組織や器官について知ることがかせない。細胞や組織に関して基本的事項から最新の知見までを系統的に理解するとともに、それに関連して、それらの実験結果がどのような方法で得られたのか、研究に用いられている形態学的研究法の基礎から応用まで理解することを目標とする。	
	スポーツリハビリテーション学特講演習	スポーツ外傷の予防のために、考案した様々な介入方法を、実践に結びつけるための手段について学修する。特に、スポーツ現場の実地研修を通じて、その経験から各人の介入方法の是非を判断していく。また、実際に現場に予防策を普及させる際に生じる問題点について、検討を加える。	共同
	生体運動・動作解析学特講演習	演習によって人の正常な運動・動作の成り立ち及びこれらに出現する障害を解析する手法を学ぶ。 1. ハイレベルな生体運動・動作解析をとおり、人の運動と動作を洞察する能力を体得する。 2. 理論および根拠に基づく仮説のもとに、先駆的な研究のための適切な解析法を体得する。 3. 実験で得たデータの分析を行い、抽出された問題点解決し、結果を考察できる能力を養う。 4. 演習で得られた知識・技術を活かし、博士論文作成へと結び付けられる実践能力を体得する。	共同
	生体機能解析制御科学特講演習	内部障害患者及び高齢者に対する運動療法の研究を通して、保健学領域、特に理学療法学の理論構築ができる能力を養い、博士論文作成のために必要な高度な研究能力を習得することを目的とする。	共同
	運動器機能医科学特講演習	運動器に関わる筋・骨格系/神経系の解剖学的知識整理と演習を通した3次元構造理解から、生体機能の考察を行い、解剖学的研究能力を身に付ける。 1) 骨格標本、脳標本等を用いて3次元構造の理解を深める。 2) 全身の系統解剖から、ひとのからだの成り立ちを考察するとともに、個々の違いを見出す能力を身につける。 3) 相互ディスカッションを通して解剖学における科学的探究方法の向上を図り、解剖学的見地からの臨床適応を考察する。	共同
	生体環境適応科学特講演習	細胞レベルから個体レベルまでの専門的な知識の取得・整理、具体的な研究手法の習得を目的とする。抄読会を通して、最新の専門的知識を習得するとともに、研究に必要な基本的技能の習得を目指す。個々の研究内容に関しては、適宜ディスカッションを行い、研究遂行に関して、具体的な指導・実践を行う。	
	生理機能情報科学特講演習	生理機能学に関するオリジナルな研究計画の立案ならびに倫理申請書の作成、研究計画に従った実験そしてデータの取得、記録データの科学的な取り扱い方および英語論文の書き方を学ぶ。これらの過程は、研究論文のIntroductionからDiscussionに至る過程に相当する。立案した研究を自らの力で成し遂げ、その研究成果を英文にまとめ専門分野の国際雑誌に投稿することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 保健学 領域 専門科目	作業行動探索科学特講 演習	博士課程前期で行った作業療法研究を発展させ、最新の研究動向を踏まえて研究を行っていく基本的知識技能を習得することを目標とする。 そのために、論文抄読と研究計画書の作成（倫理的教育を含む）、研究計画書プレゼンテーション、学会・研究会発表を通じた研究者との交流を行う。 主に、臨床研究における探索的研究手法と実証的研究手法を融合させた研究方法について学べるように指導を行う。	
	作業機能制御科学特講 演習	高齢者の生活障害に対する作業療法介入に対する研究について、その研究の背景を十分に理解した上で、主体的に推進する能力を習得することを目標とする。具体的には、高齢者のQOL（生活の質）向上を目的とした作業療法介入に関する研究主題を明らかにし、科学的な論文作成に関する研究計画を立案する。その上で、必要となる知識・技能を習得するための討論・演習を行う。	
	上肢機能解析制御科学特講 演習	上肢の疾患を対象に運動学的、脳科学的に介入し、データを習得することでその有効性について検討する。結果をまとめて博士論文を作成する。	
	精神機能制御科学特講 演習	精神（心理・社会的側面を含む）機能の障害に対するリハビリテーションの体系化に関する研究推進能力を習得することを目標とする。	
	感覚運動神経科学特講 演習	感覚運動神経科学特講で立案した研究を自らの力で遂行し、博士課程前期課程で投稿した科学雑誌よりインパクトの高いレベルの雑誌に受理されることを目標とする。指導教員を含め、教室メンバーが用いたことのない実験手法や、データの解析方法に挑み、必要であれば外部の施設の研究者との共同研究を行うことを下位目標とする。研究の実施、実験環境の構築、データの解析、考察における論理展開などの各要素過程において、必要最小限の援助量にて遂行する。	
	心身機能生活制御科学特別研究	（概要） 実際の研究を通じて、実験技術を習得し、得られた結果を客観的に評価したり、論理的に考察できる能力を身につける。また、指導の下に、研究のとりまとめや新たな実験を計画する能力を育成することを目標とする。 (11 浦邊 幸夫) スポーツリハビリテーション学に関する研究指導を行う。 (21 濱田 泰伸) 生体機能解析制御科学に関する研究指導を行う。 (12 浦川 将) 運動器機能医科学に関する研究指導を行う。 (22 弓削 類) 生体環境適応科学に関する研究指導を行う。 (23 宮口 英樹) 作業行動探索科学に関する研究指導を行う。 (24 花岡 秀明) 作業機能制御科学に関する研究指導を行う。 (8 砂川 融) 上肢機能解析制御科学に関する研究指導を行う。 (25 岡村 仁) 精神機能制御科学に関する研究指導を行う。 (13 桐本 光) 感覚運動神経科学に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目 口腔健康科学領域	口腔健康科学特講Ⅰ	<p>(概要) 口腔を含めた生体における感染症について細菌学、ウイルス学、真菌学の分野だけでなく、臨床術式なども含めて検査・診断・治療方法に関する知識や技能について、また、デジタルデンティストリーの応用による感染対策などについてオムニバス方式の講義によって、感染症の基礎的及び臨床的研究に関する知識を習得することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(26 二川 浩樹/5回) メディカルデバイス感染症等について、講義をする。 (27 坂口 剛正/5回) ウイルスとウイルス感染症等について、講義をする。 (82 大毛 宏喜/5回) 病原細菌・真菌・原虫と臨床感染症、病原細菌・真菌・原虫と臨床感染症、毒素性感染症、院内感染とその制御等について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	口腔健康科学特講Ⅱ	<p>(概要) 口腔を含めた再生医療に関する生理学、病理学、歯周病学、口腔外科学、歯科補綴学などの分野における検査・診断・治療方法に関する細胞培養の技術並びに知識、更には倫理的な知識についてオムニバス方式の講義によって、再生医療・再生後の再感染防止の研究に関する知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(26 二川 浩樹/8回) デンタル・フィラキシスとして微生物間の相互作用やメディカルデバイス感染症について、講義をする。 (112 武知 正晃/7回) デンタル・ディアグノーシスとして口腔外科領域の疾患・感染症について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	応用口腔生物学特別演習	<p>顎口腔系における生物学的な研究を遂行するために必要な生物学的・生化学的・微生物学的及び分子生物学的な研究手法に関する知識や技能、すなわちPCR、リアルタイムPCRのプライマー設計やマイクロバイオーム解析などの分子レベルでの解析に加えて、電気泳動、2次元電気泳動あるいはウェスタンブロッティングなどタンパクレベルにおける解析に関連した技術の原理や技能を習得することを目標とする。</p>	
	口腔リハビリテーション工学特別演習	<p>高齢者や無歯顎者の顎口腔系に関連する研究を遂行するために必要な修復の機能解析及びQOLとの関連性についての研究に関する知識を習得することを目標とする。すなわち、食品などについての咀嚼能率試験や食物性解析などの基礎的な研究方法に加えて、ヒト試験やこれに関わる研究デザイン、倫理審査など必要な知識と技能について教授する。</p>	
	生体構造・機能修復学特別演習	<p>全身の解剖学的構造や口腔領域の構造、神経研究法、及び解剖学的教育法、発生学、機能解剖学にもとづいて教材開発や、歯科技工に関して、機能修復法、審美歯科材料、レジン及びジルコニアに関する接着の分野における研究命題の立案と研究デザインの構築及び遂行について習得することを目標とする。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目 口腔健康 科学領域	医療システム工学特別演習	医療システム工学分野の研究（デジタルデンティストリや硬組織疾患診断，トランスレーショナルリサーチなど）を行う上で必要な各種機器，システム，ソフトウェア，材料などの取り扱い方法，及び，実験方法，シミュレーション方法などを習得し，また，研究分野と関連する英語論文の抄読を通じて研究における実験系・システムの構築方法や必要な理論について，発表及び討論を行うことにより実践的に学ぶことを目標とする。	
	口腔保健・衛生学特別演習	口腔保健・衛生学に関する研究を遂行するために必要な社会歯科学的知識と研究手法を，研究分野に関連した論文の輪読を行い，また，論文要旨の発表及び討論を行うことにより実践的に学ぶ。 さらに，論理的に研究系を構築するために，研究分野に関連した研究論文の抄読を行い，研究命題の顕在化を行う。	
	口腔保健発達機能学特別演習	顎口腔系の形態や機能の発達に関する研究テーマとの関連の深い論文などの抄読から研究における実験系の構築や必要な分析処理の手法について検討し，発表及び討論を行うことにより実践的に学ぶ。また，顎口腔の生理的機能や口腔機能の発達，各発達期に対応した疾患予防法や機能障害などに関連した基礎的論文などの抄読により，ハビリテーションやリハビリテーションにおけるエビデンスを検討するとともに，各学生が自ら顕在化したテーマについて，研究の遂行に必要な統計学的，診断学的手法について学び，手法の選択について検討する。	
	口腔保健管理学特別演習	口腔保健領域や歯科衛生士教育分野に関する分野は，まだ変革的な研究が進んでおらず，学問系統も確立されていない。そこで，この分野での研究を進展させるために，口腔保健領域や歯科衛生士教育分野における臨床的研究または基礎的研究において，研究のニーズを掘り起こし，研究命題を立案・研究仮説の検証のための研究を遂行し，最終的には国際誌への論文投稿を行うための基本的な演習を行う。	
	口腔健康増進学特別演習	口腔健康増進に関わる資料の収集とアンケート解析及び種々の統計学的手法を習得する。生活習慣病やストレス関連疾患による口腔の疾患予防やQOLの向上などについて健康増進のための予防関連の論文の精読及びそれに関する発表と討論を通して，研究テーマの顕在化を行う。さらに，この分野における研究系・システムの構築方法や必要な統計処理及び分析手法について実践的に学ぶ。	
	応用口腔生物・リハビリテーション工学特別研究	口腔生物学及び高齢者の口腔に関連した分野における研究命題の立案と研究系の構築・遂行について習得することを目標とする。具体的には，実際の研究系を通じて顎口腔系における生物学的な研究を遂行するために必要な生物学的・生化学的・微生物学的及び分子生物学的な研究手法に関する知識や技能，すなわちPCR，リアルタイムPCRのプライマー設計やマイクロバイーム解析などの分子レベルでの解析に加えて，電気泳動，2次元電気泳動あるいはウエスタンブロッティングなどタンパクレベルにおける解析に関連した技術の原理や技能を習得することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目 口腔健康科学 領域	生体構造・機能修復学 特別研究	<p>(概要) 全身の解剖学的構造や口腔領域の構造, 神経研究法, 免疫組織化学, 組織学的手法及び解剖学的教育法, 発生学, 機能解剖学に関する文献をもとに, 各自の研究テーマを設定し, 教材開発及び解剖学的研究を行う。また歯科技工に関して, 機能修復法, 審美歯科材料, レジン及びジルコニアに関する接着の分野における研究命題の立案と研究デザインの構築をしたのちにおいて, その研究デザインにのっとり研究を行う。</p> <p>(28 里田 隆博) 口腔領域の構造や摂食嚥下に関する神経回路網の研究のため, 免疫組織化学, 神経トレーサーや蛍光トレーサーを使った手法を使い, 摂食嚥下運動および頭頸部の痛みの伝達機構に関するテーマ, または解剖学教育法の開発に関して, 各自が設定したテーマに関して研究指導を行う。</p> <p>(43 下江 宰司) 歯および顎骨の欠損から生じる機能の再構築を行うため, 機能修復の先端的技術および新規材料(ジルコニア)と審美歯科材料の接着, 三次元デジタルデータの解析法などを学び, 各自で実験系を構築し, 各自が設定したテーマに関して研究指導を行う。</p>	
	医療システム工学特別 研究	<p>学生は文献講読や討論, 学会などへの参加を通して, 医療システム工学分野での問題点・課題などを明らかにし, 各自の研究テーマを自分で設定し, その研究目的を明確にする。また, 医療システム工学特別演習, 及び専門科目で学んだ研究理論, 手法を用いて, 研究計画の立案を行い, 実際的な実験系あるいはシステムを構築し, 研究を実行する。また, 得られた研究成果の学会発表やジャーナル論文の執筆などを通して, プレゼンテーション技術と論文執筆技術を習得する。</p>	
	口腔保健・衛生学特別 研究	<p>学生各自の研究テーマに基づき, 演習を通じ明確にした研究命題に対して, 演習で学んだ研究理論, 手法を用いて実際的な実験系を構築し, 解明することを学ぶ。特に, 口腔保健・衛生学及び口腔健康増進に関連した臨床的研究又は基礎的研究の遂行並びに臨床的研究では臨床エビデンスに, 基礎的研究ではロジカルな研究展開につなげることに 関する指導を受け, 各自は論文をまとめる。</p>	
	口腔保健発達・健康増 進学特別研究	<p>顎口腔の形態や機能の発達及び健康増進に関する臨床的研究または, 基礎的研究において, 研究の実践・指導を行い, 各自のテーマについて論文指導を行う。</p> <p>顎口腔の発達, 特に顎骨・歯列や歯肉形態の診断及び口腔機能の診断に関する臨床的研究において, 口腔機能測定手法を用いて研究指導を行う。</p>	
	口腔保健管理学特別研 究	<p>口腔保健領域や歯科衛生士教育分野に関する分野は, まだ変革的な研究が進んでおらず, 学問系統も確立されていない。そこで, 臨床的研究または基礎的研究において, 口腔保健領域や歯科衛生士教育分野における研究のニーズを掘り起こし, 研究命題を立案する。研究仮説の検証のための研究を遂行し, 最終的には国際誌への論文投稿を行うことで, 研究系の構築・遂行について習得することを目標とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 薬科学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目 持続可能な発展科目	スペシャリスト型SDGs アイデアマイニング 学生セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し、学生同士のブレインストーミングによって、SDGを達成するためのアイデアを発掘する。ファシリテーターの教員が示すUNDPの「重要な事実」を踏まえ、ひとつのSDGに対して異なる専門分野から意見を出し合い、ペアのディスカッション、グループ内でのディスカッションを通じて、ひとつのプロポーザルを導く。最終的にはその成果を全員の前でプレゼンテーションし、全体として17つのSDGsをカバーする包括的なアプローチを提案する。	
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し、広島県及び県内市町村の1つを取り上げ、SDGsの観点から課題を議論し、解決策を探索するセミナーである。ファシリテーターの教員が示すUNDPの「重要な事実」及び当該県市町村のプレゼンを踏まえ、その課題に関して異なる専門分野から意見を出し合い、最終的には課題の分析と解決策をひとつのプロポーザルにまとめ、市民も含めた全員にプレゼンテーションする。	
	普遍的平和を目指して	<p>(概要) 本講義では、今日の国際社会において、緊急性の高い諸問題をテーマに、それぞれの専門領域の視点からその解決策を導き出す能力を身につけることを目指す。取り扱うテーマは、例えば、貧困・飢餓・難民・平和構築・ジェンダー・環境問題、世界各地の紛争などである。それぞれのテーマに関して具体例とともにその現状を学び、同時にその解決策を具体的かつ理論的に提示できる能力を身につける。理想社会と現実との間には、大きなギャップも存在する。本講義で得た知見によって、そのギャップを説明し、かつ乗り越えることを目指したい。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(52 河合 幸一郎／2回) 途上国における貧困と飢餓について現状と解決策</p> <p>(99 掛江 朋子／2回) 世界各地の難民問題の現状と課題</p> <p>(98 山根 達郎／2回) 現代に蔓延する越境的な地域紛争の構造と紛争後における平和構築に向けた国際社会の取組み</p> <p>(53 中坪 孝之／2回) 水資源問題、地球温暖化を始めとした環境問題と平和の関わり</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・ データ リテラ シー 科目	データサイエンス	データサイエンスは、データそのものを対象とする科学である。データの蓄積や利用法に留まらず、データの抽出、解析、検証、問題解決にいたる一連の手順について講義を行い、必要に応じて実際に統計ソフトウェアを用いた計算を行う。具体的には、使用したいデータの取り出しと結合・欠損データの取り外しなどのデータクリーニング、ヒストグラム・ボックスプロットなどの単数データの視覚化、平均・分散などの基本統計量の計算等の初歩的な内容だけでなく、散布図・バイプロットなどの複数データの同時視覚化、重回帰分析やロジスティック回帰分析、さらにはクラスター分析などのより実践に即した内容も取り扱う。	
	パターン認識と機械学習	人工知能は、人間の脳の機能を人工的に模倣しようとする試みである。デジタルカメラでの顔検出や自動運転などの応用では、パターン認識や機械学習が重要な役割を担っている。最近では、ディープラーニングを用いた手法が画像認識などのパターン認識課題で高い性能を出したことで脚光を浴びている。また、膨大なデータの中から有用な情報を見つけ出すためのデータマイニングでは、基礎技術として機械学習が利用されている。本講義では、機械学習とパターン認識の基礎とその人工知能への応用について解説する。また、訓練データから予測や識別のためのモデルを構築するプログラムを作成することで、機械学習やパターン認識手法をより深く理解する。	
	データサイエンティスト養成	近年、ビッグデータや人工知能(AI)などの活用に関心が集まっている。企業においては製造・生産ラインの改善、素材等の探索、顧客データに基づく新商品開発など、膨大なデータを構造化することで企画立案などの意思決定をサポートすることができる人材ーデータサイエンティストーに対するニーズも高まってきている。一方、理工系分野に限らず、人文社会系を含めた幅広い研究分野においても、データサイエンスの知見や技術の応用が新たな学問的発見や価値創造に貢献することが期待されている。本講義では、これらデータサイエンティストとして必要になる統計分析能力やIT関連スキルのみならず、実際のビジネスや研究開発現場への応用を見据えた課題解決型テーマに取り組むことで実践力を養う。演習の際には、産業界やデータ関連分野の専門家などからの指導・助言を受けられるように配慮する。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・ データ リテラ シー科 目	医療情報リテラシー活用	<p>(概要) がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本講義では、医療情報を処理するために必要な知識、解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに、演習を行い、医療情報の解析法について履修する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(128 小笹 晃太郎／1回) 原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究。演習</p> <p>(58 工藤 美樹／1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則、功罪や有用性。演習</p> <p>(100 森野 豊之／1回) 医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法と演習</p> <p>(62 粟井 和夫・60 有廣 光司／1回) (共同) 医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題、情報の有用性と社会における活用と演習</p> <p>(129 田中 剛／1回) 広島県独自のHMnet (ひろしま医療情報ネットワーク Hiroshima Medical Network) を利用した医療情報共有の仕組みと活用と演習</p> <p>(57 田中 純子／1回) NDB (National data base) などの大規模医療データベースの種類、概要、倫理、疫学研究への活用と演習</p> <p>(101 大上 直秀／1回) がんゲノム情報の概要、倫理的課題、応用と活用と演習</p> <p>(63 服部 登／1回) 臨床治験の大規模化に伴う課題、功罪、応用と活用と演習</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	リーダーシップ手法	<p>組織でメンバーをリードして仕事を進めるのみならず、自身のキャリア開発と自己実現を図る上でもリーダーシップ力は不可欠である。本講義では、まず将来のキャリアパスの選択肢と社会の多様な場で活躍するために必要な能力等について概観し、自己実現にむけた自身の強みと弱みを理解する。内省と自己理解を踏まえた上で、国内外のリーダーの実像も交えながら、リーダーに求められる特性について概説する。また、リーダーシップを発揮するために必要な要素について実例と演習を通じて理解を深めるとともに、大学院における研究活動の中で自らのリーダーシップ力や他者への影響力を向上させるために何ができるかを考える。授業の全編を通じて、クラス参加者での積極的なグループ討議とディスカッションを行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・ データ リテラ シー科 目	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	グローバル化と科学技術の進展に伴い、社会における人材ニーズも時代とともに変化している。本講義では、多様な業界の関係者や職業に従事されている方々からの講義、ディスカッション、さらには自己理解を深めるためのワークを通じて、研究経験を有する専門性の高い人材が活躍できるキャリアの選択肢と必要な能力・資質等について理解する。多様なキャリアの意義や魅力を理解することで自身自身の研究経験の活かし方を考え、将来に亘って自身のキャリアをマネジメントしていくために必要となる姿勢、行動、特質についても考察を深める。なお、人文社会系から理工農系までの幅広い学生が自らのキャリアを考えることができるように配慮する。	
	イノベーション演習	新たな社会的・経済的価値を生み出すためには、科学的発見や技術的発明を効果的に融合し発展させることが必要である。近年では異業種や異分野間で知識、技術、サービス、ノウハウなどを組み合わせることで新たな価値を生み出すオープン・イノベーションが進んでいる。本演習では、新たな社会的・経済的付加価値を生み出す(=イノベーション)ために必要となる姿勢やアプローチについて理解するとともに、企業等が抱える実際の課題に触れ、その解決プロセスを通じて、異なる「知」「技術」「分野」を融合する力と他者と協働する力を習得する。企業等が提案する課題毎に数名のグループを形成し、異なる分野の学生のみならず、企業・団体等の関係者と協働することで、多様な視点や考え方を理解し、新たな価値やネットワークを生み出すプロセスを疑似体験する。なお、人文社会系から理工農系までの幅広い学生が授業で討論しやすいように配慮する。	
	長期インターンシップ	国内外の民間企業、公的機関、非営利団体などへの長期インターンシップを通じて、企業や社会の課題解決に貢献するとともに、実践的な能力の養成とキャリアオプションの拡大を図る。実習期間は原則、1～2ヵ月間以上のものを対象とする。受講希望者は応募申請書及び所属する専攻の指導教員からの推薦書をあらかじめ提出し、受講認定、事前カウンセリングなどの指導を受けて実施する。また、派遣前・派遣後プレゼンテーションも実施する。自己資金、学内資金、外部資金を問わない。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	生命・医療倫理学B	<p>(概要) 医学・歯学・薬学・保健学の医療・健康福祉領域で行われる教育・研究・臨床は、生命に対する尊厳、医療における倫理感、責任感に裏付けられたものでなければならない。本講義では、それぞれの領域の基礎的並びに最新の医療情報に関する問題等を学習し、研究・臨床における生命・医療倫理について考察することで学生自身の研究・博士論文作成に資することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(58 工藤 美樹/1回) 医学・医療に求められる倫理について、講義をする。 (130 高橋 規郎/1回) ヒトゲノム遺伝子解析研究倫理指針に関する教育及び研修について、講義をする。 (114 岡田 賢/1回) 新生児医療における生命・医療倫理について、講義をする。 (59 森川 則文/1回) 医薬品の使用における倫理について、講義をする (60 有廣 光司/1回) 病理分野における倫理について、講義をする。 (1 松浦 伸也/1回) 遺伝子診療における倫理について、講義をする。 (61 杉山 一彦/1回) 臨床試験と医療倫理について、講義をする。 (100 吉田 光由/1回) 歯科倫理と食べることに関わる倫理について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	研究方法論B	<p>(概要) 「研究方法」をキーワードとして、広く実験技術とその背景にある医学・生物学的知識を学ぶ。単に技術論に留まらず、学生自身の研究・博士論文作成に資する研究の心構えや、講義担当者の研究の方法論を学び、学生自身が種々の方法論を駆使して研究を展開できる能力を涵養することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(2 吉栖 正生・69 小澤 孝一郎/1回) (共同) ガイダンス及びR I技術について、講義をする。 (3 檜山 英三/1回) 遺伝子発現プロファイリングと次世代シーケエンギングについて、講義をする。 (67 橋本 浩一/1回) パッチクランプ法の原理と応用について、講義をする。 (68 宿南 知佐/1回) 培養細胞実験とiPS細胞のトピックスについて、講義をする。 (4 田代 聡/1回) 細胞画像解析について、講義をする。 (103 佐藤 健一/1回) 要因探索のための統計解析について、講義をする。 (104 金子 雅幸/1回) PCR法の原理と応用について、講義をする。 (105 木下 英司/1回) 生物物理科学的研究手法について、講義をする。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	アドバンスド生命科学 コースワーク	<p>スタートアップ生命科学コースワークを修得し、実験研究を遂行するために必要な基礎知識、技術、考え方を身につけた学生を対象に、やや専門的な実験の知識、並びに手技を少人数で学ぶ。</p> <p>演習テーマは下記のとおり：</p> <p>A. デジタルPCRによるウイルスDNAの絶対定量 B. FACS解析 C. 免疫組織化学 D. 培養細胞を用いた染色体の観察 E. 培養細胞への遺伝子導入法 F. 質量分析によるプロテオーム解析 G. 次世代シーケンサーによる発現解析</p>	
	バイオメディカルサイ エンスの創生展開	<p>(概要) 医学・歯学・薬学・保健学の各領域において、共通の理解が必要となる分野及び他の領域にとって参考になる分野を中心に主題を選択し、それぞれの領域の基礎的並びに最新の話題を提供し、学生間相互で知識と理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(72 田原 栄俊/1回) 老化および癌におけるマイクロRNA及びエキソソームの役割について、講義をする。 (6 松浪 勝義/1回) 医薬品発見のための天然物化学について、講義をする。 (5 相澤 秀紀/1回) 神経及び精神障害におけるニューロン及びグリア機能障害の役割について、講義をする。 (71 加藤 功一/1回) 再生医療用生体材料及びバイオデバイスについて、講義をする。 (58 工藤 美樹/1回) 正常妊娠及び異常妊娠における胎盤酵素の役割に関する研究について、講義をする。 (70 浅野 知一郎/1回) 代謝調節におけるプロリルイソメラーゼの役割について、講義をする。 (68 宿南 知佐/1回) 軟骨と腱・靭帯との間の接合調節機構について、講義をする。 (73 大段 秀樹・115 AMATYA VISHWA JEET/1回) (共同) 肝細胞癌の肝移植、中皮腫及び肺癌について、講義をする。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	生体医工学イノベーションB	<p>(概要) 臨床に用いる医療機器やシステム等の技術開発を具体化するために必要な、研究マインド及び開発プロセス、産学官連携活動や情報学・医学・工学領域間の連携に関する知識、態度を習得する。</p> <p>本講義では、マツダを事例にして、実際のビジネスや研究開発現場への応用を見据えたテーマに取り組み、グループディスカッションすることで実践力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(73 大段 秀樹/2回) ガイダンス及び技術開発の必要性について、講義をする。 (132 坂本 和夫/1回) 医療機器、システムの商品開発のプロセスについて、講義をする。 (107 笹岡 貴史/1回) 感性脳科学の応用について、講義をする。 (121 金山 範明/1回) 感性計測について、講義をする。 (131 農澤 隆秀/1回) これからの技術者に求められることについて、講義をする。 (133 高見 明秀/1回) モノづくりに必要な技術について、講義をする。 (143 西川 一男/1回) 人間工学・感性工学とその応用について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	多職種連携B	<p>(概要) 現代の医療では、各分野の専門スタッフが連携・協働して、治療に当たるチーム医療が重要視されている。本講義では、高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人の養成のため、医学、歯学、薬学、看護学、保健学それぞれの立場からチーム医療を円滑に実践するための知識を身に付けることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(64 志馬 伸朗/1回) ガイダンス及び多職種連携の必要性について、講義をする。 (9 折山 早苗/1回) 医療ケアに関する看護師の役割分担について、講義をする。 (13 桐本 光/1回) 急性期リハビリテーションチームについて、講義をする。 (12 浦川 将/1回) 医師・看護師・リハビリ関連職種との連携について、講義をする。 (65 木村 浩彰/1回) 医師からみた多職種連携の必要性について、講義をする。 (66 柿本 直也/1回) チーム医療における歯科医師が行う連携について、講義をする。 (76 松尾 裕彰/1回) 多色区連携における薬剤師の役割・課題・取組について、講義をする。 (31 内藤 真理子/1回) 周術期における歯科衛生士の役割について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目	臨床腫瘍学	<p>(概要) 臨床腫瘍学に関連する分野として、放射線腫瘍学、内科腫瘍学、外科腫瘍学、精神腫瘍学、病理腫瘍学、薬物腫瘍学がある。これらの各専門領域の最先端の研究や臨床について、各専門分野の教授に担当していただき、学生にわかりやすい入門教育を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(74 永田 靖/1回) 放射線腫瘍学の最前線について、講義をする。 (75 岡田 守人/1回) 腫瘍外科の最前線について、講義をする。 (60 有廣 光司/1回) 臨床病理学について、講義をする。 (61 杉山 一彦/1回) がん化学療法と副作用対策について、講義をする。 (76 松尾 裕彰/1回) がん薬物療法について、講義をする。 (123 三上 幸夫/1回) がんのリハビリテーションについて、講義をする。 (122 小早川 誠・77 岡本 泰昌/1回) (共同) サイコオンコロジーについて、講義をする。 (57 田中 純子/1回) 肝がんの疫学と医学統計学について、講義をする。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	放射線統合医科学	<p>(概要) 放射線災害・医科学研究分野は、基礎生物学、臨床医学、疫学や社会医学など広範におよぶことから、分野横断型の研究推進が必要である。本講義では、放射線災害・医科学研究分野の主要テーマである、低線量放射線被ばくによる人体への影響の解明や、高線量放射線被ばくによるヒト疾患の発症機構、緊急被ばく医療のための再生医学、福島第一原発事故の発生により明らかとなった様々な課題への研究などに関する知識を習得し、最新の研究動向を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 松浦 伸也/1回) 放射線高感受性遺伝病について、講義をする。 (78 保田 浩志/1回) 放射線防護：放射線被ばくの健康影響とその障害の防止について、講義をする。 (108 河合 秀彦/1回) 細胞に及ぼす放射線障害の概略について、講義をする。 (79 東 幸仁/1回) 急性障害：血管障害と再生について、講義をする。 (80 稲葉 俊哉/1回) 放射線発がんの基礎について、講義をする。 (116 宮本 達雄/1回) 放射線誘導性小頭症の発生機序について、講義をする。 (117 三原 圭一郎/1回) 原発事故の生体影響について、講義をする。 (74 永田 靖/1回) 放射線障害のない放射線治療について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目	薬物治療学	<p>(概要) 最近の医療関係のトピックスを交えながら、様々な疾患を取り上げ、その最新の薬物療法のあり方と問題点を、病態生理の分子メカニズム、治療薬の分子薬理メカニズム、分子メカニズムに基づいた薬物間相互作用、遺伝情報や生体メカニズムに基づいた薬物療法の最適化など、様々な視点から講義をする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(69 小澤 孝一郎/2回) 薬物治療学の最近の動向についてのオーバービュー及びサリドマイド等の既存の医薬品に期待される難治性治療薬としての可能性について講義をする。</p> <p>(109 細井 徹/2回) 小胞体ストレスと病態との関連及び創薬への展開について講義をする。</p> <p>(124 柳瀬 雄輝/2回) 細胞を解析するセンシング技術とその臨床応用及び血液凝固反応と免疫系の関わりについて講義をする。</p> <p>(125 吉井 美智子/2回) 脂肪細胞のバイオロジーと肥満治療への試み、アルツハイマー病治療と治療薬開発の現状及びカルシウムチャネルの働きと疾病との関わりについて講義をする。</p>	オムニバス方式
	がん診療各論	<p>(概要) 各臓器別がんの最新情報を各領域の専門家にオムニバス方式で講義してもらう。具体的には、肺癌、乳癌、頭頸部癌、脳腫瘍、血液腫瘍、胃癌、大腸癌、膵臓癌、婦人科癌、泌尿器癌、皮膚がん、転移性腫瘍、食道がん、小児がん、である。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(74 永田 靖/1回) 転移性腫瘍について、講義をする。</p> <p>(111 田邊 和照/1回) 胃癌について、講義をする。</p> <p>(119 相方 浩/1回) 肝臓がんについて、講義をする。</p> <p>(120 角舎 学行/1回) 乳がんについて、講義をする。</p> <p>(81 一戸 辰夫/1回) 造血器腫瘍について、講義をする。</p> <p>(126 平田 英司/1回) 婦人科がんについて、講義をする。</p> <p>(110 亭島 淳/1回) 泌尿器がんについて、講義をする。</p> <p>(118 河合 幹雄/1回) 皮膚がんについて、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目	Environment and Health	<p>(英文) This course is designed for graduate students to share the necessary theoretical knowledge and attitude to develop the partnership for health protection from climate risks. The main topics are selected in this course to share the traditional scenario related to climate change and health effects.</p> <p>The overall objectives of the course for students are to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Describe the hazards and health effects due to climate changing and outline the necessary preventive measures. 2. Formulate the preventive and control methods of common viral and other infectious diseases. 3. Explain the importance of demography, population health and ageing population care. 4. Develop the concept of global issues to protect the environments and promote environmental health services. 5. Continue and increase health related English communication skill. <p>Specific course objectives: After the successful completion of the course, students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Recognize the global environmental changing effects and estimate the public health interventions to prevent infectious diseases. 2. Identify the social and environmental impact on reproductive health and preventive and control measure of sexually transmitted diseases. 3. Define emerging, re-emerging, chronic and non-communicable diseases pattern and state the control procedures. 4. Understand the domestic violence and compare the circumstances of gender-based violence. 5. Explain the climate changing consequences and human health effects, including present and future risks. 	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目		<p>(和訳)</p> <p>本科目では、大学院生が、気候変動のリスクから健康を守るためのパートナーシップをどのように構築するのか、そのために必要な理論的知識と態度を学ぶことを目的とする。授業を通して、気候変動や健康への影響に関する既存のシナリオを話し合うことができるよう、以下のトピックスを選定している。</p> <p>達成目標：本コース終了時点で学生は以下が達成できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気候変動による災害と健康への影響を理解し、必要な予防措置について説明することができる。 2. 一般的なウイルス感染または他の感染症の予防や制御戦略を作成することができる。 3. 人口統計に基づき、集団の健康及び高齢者ケアの重要性を説明することができる。 4. 環境保護、環境保健に関する対策の推進について、地球規模の視野に立って考えることができる。 5. 健康関連の英語によるコミュニケーションスキルを継続して向上させる。 <p>具体的な目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球規模の環境変化の影響を認識し、感染症予防のための公衆衛生上の戦略を考えることができる。 2. 社会や環境がリプロダクティブ・ヘルスに与える影響、そして性感染症予防及びその制御方略を説明することができる。 3. 新興・再興する、慢性疾患／非感染性疾患のパターンと制御手順について述べることができる。 4. 家庭内暴力を理解し、またジェンダーに基づく暴力の状況と比較することができる。 5. 現在及び将来のリスクを含む、気候変動が与えるさまざまな影響及び人々の健康への影響を説明することができる。 	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目	Research Methodology and Health System Management	<p>(英文) This course is designed for graduate students to share the necessary theoretical knowledge and attitude to develop the partnership for health protection from climate risks. The main topics are selected in this course to share the traditional scenario related to climate change and health effects.</p> <p>The overall objectives of the course for students are to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Describe the hazards and health effects due to climate changing and outline the necessary preventive measures. 2. Formulate the preventive and control methods of common viral and other infectious diseases. 3. Explain the importance of demography, population health and ageing population care. 4. Develop the concept of global issues to protect the environments and promote environmental health services. 5. Continue and increase health related English communication skill. <p>Specific course objectives: After the successful completion of the course, students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Recognize the global environmental changing effects and estimate the public health interventions to prevent infectious diseases. 2. Identify the social and environmental impact on reproductive health and preventive and control measure of sexually transmitted diseases. 3. Define emerging, re-emerging, chronic and non-communicable diseases pattern and state the control procedures. 4. Understand the domestic violence and compare the circumstances of gender-based violence. 5. Explain the climate changing consequences and human health effects, including present and future risks. 	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目		<p>(和訳)</p> <p>本科目では、大学院生が、気候変動のリスクから健康を守るためのパートナーシップをどのように構築するのか、そのために必要な理論的知識と態度を学ぶことを目的とする。授業を通して、気候変動や健康への影響に関する既存のシナリオを話し合うことができるよう、以下のトピックを選定している。</p> <p>達成目標：本コース終了時点で学生は以下が達成できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気候変動による災害と健康への影響を理解し、必要な予防措置について説明することができる。 2. 一般的なウイルス感染または他の感染症の予防や制御戦略を作成することができる。 3. 人口統計に基づき、集団の健康及び高齢者ケアの重要性を説明することができる。 4. 環境保護、環境保健に関する対策の推進について、地球規模の視野に立って考えることができる。 5. 健康関連の英語によるコミュニケーションスキルを継続して向上させる。 <p>具体的な目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球規模の環境変化の影響を認識し、感染症予防のための公衆衛生上の戦略を考えることができる。 2. 社会や環境がリプロダクティブ・ヘルスに与える影響、そして性感染症予防及びその制御方略を説明することができる。 3. 新興・再興する、慢性疾患／非感染性疾患のパターンと制御手順について述べることができる。 4. 家庭内暴力を理解し、またジェンダーに基づく暴力の状況と比較することができる。 5. 現在及び将来のリスクを含む、気候変動が与えるさまざまな影響及び人々の健康への影響を説明することができる。 	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	薬科学特講	<p>(概要) 創薬を行う上で必要不可欠な理論について最新の知見を中心に講義を行い、薬科学の全体像を概観する。さらに、製薬企業における第一線研究者を非常勤講師に委嘱し、実践的創薬研究に関する講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(83 紙谷 浩之/1回) DNA複製エラーの分子機構について、講義をする。 (84 古武 弥一郎/1回) 衛生薬学について、講義をする。 (32 高野 幹久/1回) 薬物動態について、講義をする。 (33 黒田 照夫/1回) 微生物薬品学について、講義をする。 (85 杉山 政則/1回) 先進乳酸菌科学 (135 飯田 理文/1回) ファーマコメトリクスと医薬品開発について、講義をする。 (136 吉澤 健一/1回) 臨床試験と観察研究について、講義をする。 (137 小松 康雄, 148 唯保 祐介, 149 井戸 克俊/1回) (共同) 創薬について、講義をする。 (138 加登住 眞/1回) バイオベンチャーでの創薬について、講義をする。 (139 諫田 泰成/1回) レギュラトリーサイエンスについて、講義をする。 (140 植原 秀人/1回) 医薬品研究について、講義をする。 (141 近藤 裕郷/1回) 創薬科学について、講義をする。 (145 河野 陽一/1回) 医薬品開発審査の最近動向について、講義をする。 (146 小坂 展慶/1回) マイクロRNAについて、講義をする。 (147 岡崎 紀子/1回) 製薬業界の世界情勢について、講義をする。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	生薬学特別演習	<p>世界中の伝統医学で使用されている生薬やハーブに加え、薬学的、化学的な解析が不十分な熱帯、亜熱帯天然資源について、現地調査、文献調査を行う。また、採集したサンプルについて、HPLC等による分析、核磁気共鳴分光法(NMR)や質量分析装置(MS)などによるスペクトル解析、化学的誘導体化を組み合わせる含有成分についてその化学構造を含めて明らかにする。これらの過程で必要とされる天然物化学のアドバンストな専門的知識の習得を目的とする。</p>	
	創薬合成化学特別演習	<p>学部・博士課程前期までに培った実践的な創薬合成化学研究の遂行能力をベースに、自ら立案した創薬合成化学の研究テーマを題材とし、関連する原著論文の文献紹介及びレビューを行うと同時に関連学会に参加することにより、該当分野の最新の研究情報を収集し、自分自身の研究テーマの位置づけを行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 薬科学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専 門 科 目	医薬分子機能科学特別演習	分子間相互作用に起因した医薬分子の生理機能の発現機構やそれら生理機能の制御システムなどに関連した最新の研究論文の内容について、受講生がセミナー形式で紹介し、その研究内容の意義や問題点について質疑応答形式で討論することにより、研究の内容の理解をより深く理解する。	
	微生物医薬品開発学特別演習	微生物感染症に対する医薬品開発に資する様々な研究分野の基礎及び応用的かつ広範な知識を習得し、最新の研究動向を理解する。特に、病原微生物の生態や抗菌薬に対する耐性機構、様々な環境ストレスに対する適応機構に関する最新の文献を読み、いくつかの参考文献も織り交ぜながら論文紹介を行うことによって、理解を深める。また抗菌薬のシーズ探索や新たな標的探索につながる論文についても紹介を行うことによって、新規医薬品開発の最新の情報を理解する。	
	薬効解析科学特別演習	慢性疼痛、精神疾患（うつ病や不安障害）ならびに神経変性疾患（アルツハイマー病やパーキンソン病）といった中枢神経系疾患に関連する最新の原著論文を用いて、それぞれの疾患の発症にかかわる病態メカニズムの基礎知識、疾患に関わる分子標的、病態に対する作用メカニズムを理解することで最新の創薬ターゲットに関する研究動向を修得する。さらにそれらの研究に関する最新の実験技術を理解、修得する。また各自で論文内容の発表を担当し、論文の疑問点や問題点、改善点などを討論することで、研究に対する洞察力および論述力を養うことも合わせて目的とする。	
	薬物動態解析・制御科学特別演習	薬物の体内動態を支配する4つの過程、すなわち吸収、分布、代謝、排泄、並びに薬物速度論 (Pharmacokinetics) に関する原著論文を読んで世界的な研究動向を把握するとともに、その内容を発表し、論文の疑問点や問題点、改善点などを討論することで、将来、創薬研究者あるいは医療薬科学研究・教育者として活躍するための能力を身に付ける。なお、原著論文は、自分の研究に関連する論文 (Basic Research Seminar) 及びより臨床に近い論文 (Clinical Research Seminar) で過去2～3年以内の論文を選び発表する。	共同
	未病・予防医学特別演習	醗酵食品には腸内細菌叢へ影響を及ぼすものが多く、プロバイオティクスやプレバイオティクスを含む食品はその代表である。近年、腸内細菌叢と幾つかの疾患との間の関連性が注目されており、どのような腸内細菌がいかなる疾患の罹患リスクを高めるのかといった最新の情報を収集する。換言すれば、特定の細菌の存在と疾患の因果関係を扱った最新の学術研究論文を詳細に調査することで、幅広い知識を習得する。同時に、メタゲノム解析やメタボローム解析などの最新の分析法に関する知識・技術を習得し、研究課題の進展を図る。	
	生薬学特別研究	世界中の伝統医学で使用されている生薬やハーブに加え、薬学的、化学的な解析が不十分な熱帯、亜熱帯天然資源について、現地調査、文献調査を行う。また、採集したサンプルについて、HPLC等による分析、核磁気共鳴分光法 (NMR) や質量分析装置 (MS) などによるスペクトル解析、化学的誘導体化を組み合わせて含有成分についてその化学構造を含めて明らかにする。これらの過程で必要とされる天然物化学の専門的知識の習得を目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	創薬合成化学特別研究	学部・修士課程までに培った実践的な創薬合成化学研究の遂行能力をベースに、現代精密有機合成化学における代表的な基礎的技術である不斉合成反応、超低温無水無酸素反応、有機金属反応、微量合成反応などに関する実験手技を習得し、さらには博士論文研究に適用、新規反応の開拓や生物活性天然由来化合物及びその類縁体の合成研究に適用する。	
	医薬分子機能科学特別研究	癌や心疾患などの病態に関連した生体内機能性分子（リン酸化タンパク質や含硫黄分子など）の機能発現のメカニズムやそれら生理機能の制御システムに関連した化学的な研究、研究内容の論文化、及び公開方法の指導を行う。研究テーマは、「タンパク質の翻訳後修飾による生体内機能制御機構の解明を目的としたオリジナルな分析技術の開発」及び「生理活性分子の機能制御物質のスクリーニング法の開発」などである。	
	微生物医薬品開発学特別研究	微生物感染症に対する医薬品開発に資する研究を行い、創薬研究者としての応用的な知識及び最新の技術を身に付ける。特に、病原微生物や抗生物質生産菌の取り扱いや、細菌からのDNA、RNA、タンパク質の抽出などの分子生物学的な解析に必須な技術、さらには遺伝子情報を含むデータベースの高度な取り扱い等を学ぶ。同時に、研究上のバイオセーフティーや、組換えDNA実験に関する知識・技術を習得することにより、微生物研究のノウハウについて学ぶ。これらの研究を通じて、応用力・洞察力を含めた研究者の基本的資質を身に付ける。	
	薬効解析科学特別研究	初代培養中枢神経系、グリア系細胞の作製法並びにげっ歯類を用いた動物モデルを用いて、薬理的、神経化学的、生化学的並びに分子生物学的手法を駆使することで、慢性疼痛、精神疾患及び神経変性疾患に対する病態メカニズム、それらに対する治療標的及び創薬に関する世界に先駆けた知見を取得することを目的とする。そのための研究計画の立案能力、データの解析能力及び考察能力を世界水準に向上させるとともに、一流雑誌への投稿・掲載を目指した論文作成を行う。さらに研究費獲得のための効果的な申請書作成法についても習得する。	
	薬物動態解析・制御科学特別研究	薬物体内動態支配因子である生体膜輸送システムや薬物誘発性細胞毒性の分子機構及び毒性防御法に関する研究を自ら立案し、実施する。また研究の進捗状況を英語でプレゼンテーションし、教室員と共に問題点、改善点、今後の方向性等について議論を深め研究の深化を図る。さらに、得られた成果を国際的なジャーナルに投稿するとともに、国内のみならず海外の学会でも発表することで、世界的な視野に立った研究を展開できる能力を身に付ける。	
	未病・予防医学特別研究	植物起源の乳酸菌（植物乳酸菌）の細胞構造体や乳酸菌により産生される物質には優れた保健機能性のあることがわかってきた。本特別研究では、植物乳酸菌による脂肪肝の改善及び体内脂肪蓄積抑制の分子機構解明、神経変性疾患の予防改善に向けた植物乳酸菌の応用、プロバイオティクスを利用した次世代感染症治療薬の開発、腸内細菌叢のメタゲノム解析と消化器疾患治療への応用などに関する研究課題を実施し、原著論文を作成するとともに、研究課題解決のための実験の立案や結果の考察といった、研究者として身につけなければならない能力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 薬科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	English Presentation	授業は参加型とし、実際の学会会場での発表を想定して1日1人もしくは2人の発表者による発表と参加者による質問を行う。また、外国人講師によるフィードバックを行い、より質の高い発表・ディスカッションを目指す。	
	英語論文修辞学	英語による論文を書くために、論文の構成で一般的な「背景・目的・方法・結果・結論」の書き方、過去・現在・現在完了の論文で主に使われる時制の使い方、表現の幅が大きく広がる英語共起表現検索システムの活用等について講義するとともに、各自の論文について、論文の構造の解析を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 生命医療科学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目 持続可能な発展科目	スペシャリスト型SDGs アイデアマイニング 学生セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し、学生同士のブレインストーミングによって、SDGを達成するためのアイデアを発掘する。ファシリテーターの教員が示すUNDPの「重要な事実」を踏まえ、ひとつのSDGに対して異なる専門分野から意見を出し合い、ペアのディスカッション、グループ内でのディスカッションを通じて、ひとつのプロポーザルを導く。最終的にはその成果を全員の前でプレゼンテーションし、全体として17つのSDGsをカバーする包括的なアプローチを提案する。	
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し、広島県及び県内市町村の1つを取り上げ、SDGsの観点から課題を議論し、解決策を探索するセミナーである。ファシリテーターの教員が示すUNDPの「重要な事実」及び当該県市町村のプレゼンを踏まえ、その課題に関して異なる専門分野から意見を出し合い、最終的には課題の分析と解決策をひとつのプロポーザルにまとめ、市民も含めた全員にプレゼンテーションする。	
	普遍的平和を目指して	<p>(概要) 本講義では、今日の国際社会において、緊急性の高い諸問題をテーマに、それぞれの専門領域の視点からその解決策を導き出す能力を身につけることを目指す。取り扱うテーマは、例えば、貧困・飢餓・難民・平和構築・ジェンダー・環境問題、世界各地の紛争などである。それぞれのテーマに関して具体例とともにその現状を学び、同時にその解決策を具体的かつ理論的に提示できる能力を身につける。理想社会と現実との間には、大きなギャップも存在する。本講義で得た知見によって、そのギャップを説明し、かつ乗り越えることを目指したい。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(52 河合 幸一郎／2回) 途上国における貧困と飢餓について現状と解決策</p> <p>(99 掛江 朋子／2回) 世界各地の難民問題の現状と課題</p> <p>(98 山根 達郎／2回) 現代に蔓延する越境的な地域紛争の構造と紛争後における平和構築に向けた国際社会の取組み</p> <p>(53 中坪 孝之／2回) 水資源問題、地球温暖化を始めとした環境問題と平和の関わり</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・ データ リテラ シー 科目	データサイエンス	データサイエンスは、データそのものを対象とする科学である。データの蓄積や利用法に留まらず、データの抽出、解析、検証、問題解決にいたる一連の手順について講義を行い、必要に応じて実際に統計ソフトウェアを用いた計算を行う。具体的には、使用したいデータの取り出しと結合・欠損データの取り外しなどのデータクリーニング、ヒストグラム・ボックスプロットなどの単数データの視覚化、平均・分散などの基本統計量の計算等の初歩的な内容だけでなく、散布図・バイプロットなどの複数データの同時視覚化、重回帰分析やロジスティック回帰分析、さらにはクラスター分析などのより実践に即した内容も取り扱う。	
	パターン認識と機械学習	人工知能は、人間の脳の機能を人工的に模倣しようとする試みである。デジタルカメラでの顔検出や自動運転などの応用では、パターン認識や機械学習が重要な役割を担っている。最近では、ディープラーニングを用いた手法が画像認識などのパターン認識課題で高い性能を出したことで脚光を浴びている。また、膨大なデータの中から有用な情報を見つけ出すためのデータマイニングでは、基礎技術として機械学習が利用されている。本講義では、機械学習とパターン認識の基礎とその人工知能への応用について解説する。また、訓練データから予測や識別のためのモデルを構築するプログラムを作成することで、機械学習やパターン認識手法をより深く理解する。	
	データサイエンティスト養成	近年、ビッグデータや人工知能(AI)などの活用に関心が集まっている。企業においては製造・生産ラインの改善、素材等の探索、顧客データに基づく新商品開発など、膨大なデータを構造化することで企画立案などの意思決定をサポートすることができる人材ーデータサイエンティストーに対するニーズも高まってきている。一方、理工系分野に限らず、人文社会系を含めた幅広い研究分野においても、データサイエンスの知見や技術の応用が新たな学問的発見や価値創造に貢献することが期待されている。本講義では、これらデータサイエンティストとして必要になる統計分析能力やIT関連スキルのみならず、実際のビジネスや研究開発現場への応用を見据えた課題解決型テーマに取り組むことで実践力を養う。演習の際には、産業界やデータ関連分野の専門家などからの指導・助言を受けられるように配慮する。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・ データ リテラ シー科 目	医療情報リテラシー活用	<p>(概要) がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本講義では、医療情報を処理するために必要な知識、解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに、演習を行い、医療情報の解析法について履修する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(128 小笹 晃太郎／1回) 原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究。演習</p> <p>(58 工藤 美樹／1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則、功罪や有用性。演習</p> <p>(100 森野 豊之／1回) 医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法と演習</p> <p>(62 粟井 和夫・60 有廣 光司／1回) (共同) 医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題、情報の有用性と社会における活用と演習</p> <p>(129 田中 剛／1回) 広島県独自のHMnet (ひろしま医療情報ネットワーク Hiroshima Medical Network) を利用した医療情報共有の仕組みと活用と演習</p> <p>(57 田中 純子／1回) NDB (National data base) などの大規模医療データベースの種類、概要、倫理、疫学研究への活用と演習</p> <p>(101 大上 直秀／1回) がんゲノム情報の概要、倫理的課題、応用と活用と演習</p> <p>(63 服部 登／1回) 臨床治験の大規模化に伴う課題、功罪、応用と活用と演習</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	リーダーシップ手法	<p>組織でメンバーをリードして仕事を進めるのみならず、自身のキャリア開発と自己実現を図る上でもリーダーシップ力は不可欠である。本講義では、まず将来のキャリアパスの選択肢と社会の多様な場で活躍するために必要な能力等について概観し、自己実現にむけた自身の強みと弱みを理解する。内省と自己理解を踏まえた上で、国内外のリーダーの実像も交えながら、リーダーに求められる特性について概説する。また、リーダーシップを発揮するために必要な要素について実例と演習を通じて理解を深めるとともに、大学院における研究活動の中で自らのリーダーシップ力や他者への影響力を向上させるために何ができるかを考える。授業の全編を通じて、クラス参加者での積極的なグループ討議とディスカッションを行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・ データ リテラ シー科 目	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	グローバル化と科学技術の進展に伴い、社会における人材ニーズも時代とともに変化している。本講義では、多様な業界の関係者や職業に従事されている方々からの講義、ディスカッション、さらには自己理解を深めるためのワークを通じて、研究経験を有する専門性の高い人材が活躍できるキャリアの選択肢と必要な能力・資質等について理解する。多様なキャリアの意義や魅力を理解することで自分自身の研究経験の活かし方を考え、将来に亘って自身のキャリアをマネジメントしていくために必要となる姿勢、行動、特質についても考察を深める。なお、人文社会系から理工農系までの幅広い学生が自らのキャリアを考えることができるように配慮する。	
	イノベーション演習	新たな社会的・経済的価値を生み出すためには、科学的発見や技術的発明を効果的に融合し発展させることが必要である。近年では異業種や異分野間で知識、技術、サービス、ノウハウなどを組み合わせることで新たな価値を生み出すオープン・イノベーションが進んでいる。本演習では、新たな社会的・経済的付加価値を生み出す(=イノベーション)ために必要となる姿勢やアプローチについて理解するとともに、企業等が抱える実際の課題に触れ、その解決プロセスを通じて、異なる「知」「技術」「分野」を融合する力と他者と協働する力を習得する。企業等が提案する課題毎に数名のグループを形成し、異なる分野の学生のみならず、企業・団体等の関係者と協働することで、多様な視点や考え方を理解し、新たな価値やネットワークを生み出すプロセスを疑似体験する。なお、人文社会系から理工農系までの幅広い学生が授業で討論しやすいように配慮する。	
	長期インターンシップ	国内外の民間企業、公的機関、非営利団体などへの長期インターンシップを通じて、企業や社会の課題解決に貢献するとともに、実践的な能力の養成とキャリアオプションの拡大を図る。実習期間は原則、1～2ヵ月間以上のものを対象とする。受講希望者は応募申請書及び所属する専攻の指導教員からの推薦書をあらかじめ提出し、受講認定、事前カウンセリングなどの指導を受けて実施する。また、派遣前・派遣後プレゼンテーションも実施する。自己資金、学内資金、外部資金を問わない。	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 共 通 科 目	生命・医療倫理学B	<p>(概要) 医学・歯学・薬学・保健学の医療・健康福祉領域で行われる教育・研究・臨床は、生命に対する尊厳、医療における倫理感、責任感に裏付けられたものでなければならない。本講義では、それぞれの領域の基礎的並びに最新の医療情報に関する問題等を学習し、研究・臨床における生命・医療倫理について考察することで学生自身の研究・博士論文作成に資することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(58 工藤 美樹/1回) 医学・医療に求められる倫理について、講義をする。 (130 高橋 規郎/1回) ヒトゲノム遺伝子解析研究倫理指針に関する教育及び研修について、講義をする。 (114 岡田 賢/1回) 新生児医療における生命・医療倫理について、講義をする。 (59 森川 則文/1回) 医薬品の使用における倫理について、講義をする (60 有廣 光司/1回) 病理分野における倫理について、講義をする。 (1 松浦 伸也/1回) 遺伝子診療における倫理について、講義をする。 (61 杉山 一彦/1回) 臨床試験と医療倫理について、講義をする。 (100 吉田 光由/1回) 歯科倫理と食べることに関わる倫理について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	研究方法論B	<p>(概要) 「研究方法」をキーワードとして、広く実験技術とその背景にある医学・生物学的知識を学ぶ。単に技術論に留まらず、学生自身の研究・博士論文作成に資する研究の心構えや、講義担当者の研究の方法論を学び、学生自身が種々の方法論を駆使して研究を展開できる能力を涵養することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(2 吉栖 正生・69 小澤 孝一郎/1回) (共同) ガイダンス及びR I技術について、講義をする。 (3 檜山 英三/1回) 遺伝子発現プロファイリングと次世代シーケエンギングについて、講義をする。 (67 橋本 浩一/1回) パッチクランプ法の原理と応用について、講義をする。 (68 宿南 知佐/1回) 培養細胞実験とiPS細胞のトピックスについて、講義をする。 (4 田代 聡/1回) 細胞画像解析について、講義をする。 (103 佐藤 健一/1回) 要因探索のための統計解析について、講義をする。 (104 金子 雅幸/1回) PCR法の原理と応用について、講義をする。 (105 木下 英司/1回) 生物物理科学的研究手法について、講義をする。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	アドバンスド生命科学 コースワーク	<p>スタートアップ生命科学コースワークを修得し、実験研究を遂行するために必要な基礎知識、技術、考え方を身につけた学生を対象に、やや専門的な実験の知識、並びに手技を少人数で学ぶ。</p> <p>演習テーマは下記のとおり：</p> <p>A. デジタルPCRによるウイルスDNAの絶対定量 B. FACS解析 C. 免疫組織化学 D. 培養細胞を用いた染色体の観察 E. 培養細胞への遺伝子導入法 F. 質量分析によるプロテオーム解析 G. 次世代シーケンサーによる発現解析</p>	
	バイオメディカルサイ エンスの創生展開	<p>(概要) 医学・歯学・薬学・保健学の各領域において、共通の理解が必要となる分野及び他の領域にとって参考になる分野を中心に主題を選択し、それぞれの領域の基礎的並びに最新の話題を提供し、学生間相互で知識と理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(72 田原 栄俊/1回) 老化および癌におけるマイクロRNA及びエキソソームの役割について、講義をする。 (6 松浪 勝義/1回) 医薬品発見のための天然物化学について、講義をする。 (5 相澤 秀紀/1回) 神経及び精神障害におけるニューロン及びグリア機能障害の役割について、講義をする。 (71 加藤 功一/1回) 再生医療用生体材料及びバイオデバイスについて、講義をする。 (58 工藤 美樹/1回) 正常妊娠及び異常妊娠における胎盤酵素の役割に関する研究について、講義をする。 (70 浅野 知一郎/1回) 代謝調節におけるプロリルイソメラーゼの役割について、講義をする。 (68 宿南 知佐/1回) 軟骨と腱・靭帯との間の接合調節機構について、講義をする。 (73 大段 秀樹・115 AMATYA VISHWA JEET/1回) (共同) 肝細胞癌の肝移植、中皮腫及び肺癌について、講義をする。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	生体医工学イノベーションB	<p>(概要) 臨床に用いる医療機器やシステム等の技術開発を具体化するために必要な、研究マインド及び開発プロセス、産学官連携活動や情報学・医学・工学領域間の連携に関する知識、態度を習得する。</p> <p>本講義では、マツダを事例にして、実際のビジネスや研究開発現場への応用を見据えたテーマに取り組み、グループディスカッションすることで実践力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(73 大段 秀樹/2回) ガイダンス及び技術開発の必要性について、講義をする。 (132 坂本 和夫/1回) 医療機器、システムの商品開発のプロセスについて、講義をする。 (107 笹岡 貴史/1回) 感性脳科学の応用について、講義をする。 (121 金山 範明/1回) 感性計測について、講義をする。 (131 農澤 隆秀/1回) これからの技術者に求められることについて、講義をする。 (133 高見 明秀/1回) モノづくりに必要な技術について、講義をする。 (143 西川 一男/1回) 人間工学・感性工学とその応用について、講義をする。</p>	オムニバス方式
	多職種連携B	<p>(概要) 現代の医療では、各分野の専門スタッフが連携・協働して、治療に当たるチーム医療が重要視されている。本講義では、高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人の養成のため、医学、歯学、薬学、看護学、保健学それぞれの立場からチーム医療を円滑に実践するための知識を身に付けることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(64 志馬 伸朗/1回) ガイダンス及び多職種連携の必要性について、講義をする。 (9 折山 早苗/1回) 医療ケアに関する看護師の役割分担について、講義をする。 (13 桐本 光/1回) 急性期リハビリテーションチームについて、講義をする。 (12 浦川 将/1回) 医師・看護師・リハビリ関連職種との連携について、講義をする。 (65 木村 浩彰/1回) 医師からみた多職種連携の必要性について、講義をする。 (66 柿本 直也/1回) チーム医療における歯科医師が行う連携について、講義をする。 (76 松尾 裕彰/1回) 多色区連携における薬剤師の役割・課題・取組について、講義をする。 (31 内藤 真理子/1回) 周術期における歯科衛生士の役割について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目	臨床腫瘍学	<p>(概要) 臨床腫瘍学に関連する分野として、放射線腫瘍学、内科腫瘍学、外科腫瘍学、精神腫瘍学、病理腫瘍学、薬物腫瘍学がある。これらの各専門領域の最先端の研究や臨床について、各専門分野の教授に担当していただき、学生にわかりやすい入門教育を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(74 永田 靖/1回) 放射線腫瘍学の最前線について、講義をする。 (75 岡田 守人/1回) 腫瘍外科の最前線について、講義をする。 (60 有廣 光司/1回) 臨床病理学について、講義をする。 (61 杉山 一彦/1回) がん化学療法と副作用対策について、講義をする。 (76 松尾 裕彰/1回) がん薬物療法について、講義をする。 (123 三上 幸夫/1回、) がんのリハビリテーションについて、講義をする。 (122 小早川 誠・77 岡本 泰昌/1回) (共同) サイコオンコロジーについて、講義をする。 (57 田中 純子/1回) 肝がんの疫学と医学統計学について、講義をする。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	放射線統合医科学	<p>(概要) 放射線災害・医科学研究分野は、基礎生物学、臨床医学、疫学や社会医学など広範におよぶことから、分野横断型の研究推進が必要である。本講義では、放射線災害・医科学研究分野の主要テーマである、低線量放射線被ばくによる人体への影響の解明や、高線量放射線被ばくによるヒト疾患の発症機構、緊急被ばく医療のための再生医学、福島第一原発事故の発生により明らかとなった様々な課題への研究などに関する知識を習得し、最新の研究動向を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 松浦 伸也/1回) 放射線高感受性遺伝病について、講義をする。 (78 保田 浩志/1回) 放射線防護：放射線被ばくの健康影響とその障害の防止について、講義をする。 (108 河合 秀彦/1回) 細胞に及ぼす放射線障害の概略について、講義をする。 (79 東 幸仁/1回) 急性障害：血管障害と再生について、講義をする。 (80 稲葉 俊哉/1回) 放射線発がんの基礎について、講義をする。 (116 宮本 達雄/1回) 放射線誘導性小頭症の発生機序について、講義をする。 (117 三原 圭一郎/1回) 原発事故の生体影響について、講義をする。 (74 永田 靖/1回) 放射線障害のない放射線治療について、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目	薬物治療学	<p>(概要) 最近の医療関係のトピックスを交えながら、様々な疾患を取り上げ、その最新の薬物療法のあり方と問題点を、病態生理の分子メカニズム、治療薬の分子薬理メカニズム、分子メカニズムに基づいた薬物間相互作用、遺伝情報や生体メカニズムに基づいた薬物療法の最適化など、様々な視点から講義をする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(69 小澤 孝一郎/2回) 薬物治療学の最近の動向についてのオーバービュー及びサリドマイド等の既存の医薬品に期待される難治性治療薬としての可能性について講義をする。</p> <p>(109 細井 徹/2回) 小胞体ストレスと病態との関連及び創薬への展開について講義をする。</p> <p>(124 柳瀬 雄輝/2回) 細胞を解析するセンシング技術とその臨床応用及び血液凝固反応と免疫系の関わりについて講義をする。</p> <p>(125 吉井 美智子/2回) 脂肪細胞のバイオロジーと肥満治療への試み、アルツハイマー病治療と治療薬開発の現状及びカルシウムチャネルの働きと疾病との関わりについて講義をする。</p>	オムニバス方式
	がん診療各論	<p>(概要) 各臓器別がんの最新情報を各領域の専門家にオムニバス方式で講義してもらう。具体的には、肺癌、乳癌、頭頸部癌、脳腫瘍、血液腫瘍、胃癌、大腸癌、膵臓癌、婦人科癌、泌尿器癌、皮膚がん、転移性腫瘍、食道がん、小児がん、である。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(74 永田 靖/1回) 転移性腫瘍について、講義をする。</p> <p>(111 田邊 和照/1回) 胃癌について、講義をする。</p> <p>(119 相方 浩/1回) 肝臓がんについて、講義をする。</p> <p>(120 角舎 学行/1回) 乳がんについて、講義をする。</p> <p>(81 一戸 辰夫/1回) 造血器腫瘍について、講義をする。</p> <p>(126 平田 英司/1回) 婦人科がんについて、講義をする。</p> <p>(110 亭島 淳/1回) 泌尿器がんについて、講義をする。</p> <p>(118 河合 幹雄/1回) 皮膚がんについて、講義をする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目	Environment and Health	<p>(英文) This course is designed for graduate students to share the necessary theoretical knowledge and attitude to develop the partnership for health protection from climate risks. The main topics are selected in this course to share the traditional scenario related to climate change and health effects.</p> <p>The overall objectives of the course for students are to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Describe the hazards and health effects due to climate changing and outline the necessary preventive measures. 2. Formulate the preventive and control methods of common viral and other infectious diseases. 3. Explain the importance of demography, population health and ageing population care. 4. Develop the concept of global issues to protect the environments and promote environmental health services. 5. Continue and increase health related English communication skill. <p>Specific course objectives: After the successful completion of the course, students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Recognize the global environmental changing effects and estimate the public health interventions to prevent infectious diseases. 2. Identify the social and environmental impact on reproductive health and preventive and control measure of sexually transmitted diseases. 3. Define emerging, re-emerging, chronic and non-communicable diseases pattern and state the control procedures. 4. Understand the domestic violence and compare the circumstances of gender-based violence. 5. Explain the climate changing consequences and human health effects, including present and future risks. 	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目		<p>(和訳)</p> <p>本科目では、大学院生が、気候変動のリスクから健康を守るためのパートナーシップをどのように構築するのか、そのために必要な理論的知識と態度を学ぶことを目的とする。授業を通して、気候変動や健康への影響に関する既存のシナリオを話し合うことができるよう、以下のトピックスを選定している。</p> <p>達成目標：本コース終了時点で学生は以下が達成できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気候変動による災害と健康への影響を理解し、必要な予防措置について説明することができる。 2. 一般的なウイルス感染または他の感染症の予防や制御戦略を作成することができる。 3. 人口統計に基づき、集団の健康及び高齢者ケアの重要性を説明することができる。 4. 環境保護、環境保健に関する対策の推進について、地球規模の視野に立って考えることができる。 5. 健康関連の英語によるコミュニケーションスキルを継続して向上させる。 <p>具体的な目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球規模の環境変化の影響を認識し、感染症予防のための公衆衛生上の戦略を考えることができる。 2. 社会や環境がリプロダクティブ・ヘルスに与える影響、そして性感染症予防及びその制御方略を説明することができる。 3. 新興・再興する、慢性疾患／非感染性疾患のパターンと制御手順について述べることができる。 4. 家庭内暴力を理解し、またジェンダーに基づく暴力の状況と比較することができる。 5. 現在及び将来のリスクを含む、気候変動が与えるさまざまな影響及び人々の健康への影響を説明することができる。 	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目	Research Methodology and Health System Management	<p>(英文) This course is designed for graduate students to share the necessary theoretical knowledge and attitude to develop the partnership for health protection from climate risks. The main topics are selected in this course to share the traditional scenario related to climate change and health effects.</p> <p>The overall objectives of the course for students are to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Describe the hazards and health effects due to climate changing and outline the necessary preventive measures. 2. Formulate the preventive and control methods of common viral and other infectious diseases. 3. Explain the importance of demography, population health and ageing population care. 4. Develop the concept of global issues to protect the environments and promote environmental health services. 5. Continue and increase health related English communication skill. <p>Specific course objectives: After the successful completion of the course, students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Recognize the global environmental changing effects and estimate the public health interventions to prevent infectious diseases. 2. Identify the social and environmental impact on reproductive health and preventive and control measure of sexually transmitted diseases. 3. Define emerging, re-emerging, chronic and non-communicable diseases pattern and state the control procedures. 4. Understand the domestic violence and compare the circumstances of gender-based violence. 5. Explain the climate changing consequences and human health effects, including present and future risks. 	共同

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 科 目		<p>(和訳)</p> <p>本科目では、大学院生が、気候変動のリスクから健康を守るためのパートナーシップをどのように構築するのか、そのために必要な理論的知識と態度を学ぶことを目的とする。授業を通して、気候変動や健康への影響に関する既存のシナリオを話し合うことができるよう、以下のトピックスを選定している。</p> <p>達成目標：本コース終了時点で学生は以下が達成できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気候変動による災害と健康への影響を理解し、必要な予防措置について説明することができる。 2. 一般的なウイルス感染または他の感染症の予防や制御戦略を作成することができる。 3. 人口統計に基づき、集団の健康及び高齢者ケアの重要性を説明することができる。 4. 環境保護、環境保健に関する対策の推進について、地球規模の視野に立って考えることができる。 5. 健康関連の英語によるコミュニケーションスキルを継続して向上させる。 <p>具体的な目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球規模の環境変化の影響を認識し、感染症予防のための公衆衛生上の戦略を考えることができる。 2. 社会や環境がリプロダクティブ・ヘルスに与える影響、そして性感染症予防及びその制御方略を説明することができる。 3. 新興・再興する、慢性疾患／非感染性疾患のパターンと制御手順について述べることができる。 4. 家庭内暴力を理解し、またジェンダーに基づく暴力の状況と比較することができる。 5. 現在及び将来のリスクを含む、気候変動が与えるさまざまな影響及び人々の健康への影響を説明することができる。 	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	特別演習	<p>(概要) 自身の専門分野だけでなく、医学、歯学、薬学の分野の理解を深め、高度化・複合化に対応する分野横断的知識の修得を目指す。</p> <p>(87 池上 浩司) 機能形態学・発生生物学に関する演習を行う。</p> <p>(5 相澤 秀紀) 神経生物学に関する演習を行う。</p> <p>(2 吉栖 正生) 心臓血管生理医学に関する演習を行う。</p> <p>(67 橋本 浩一) 神経生理学に関する演習を行う。</p> <p>(37 今泉 和則) 分子細胞情報学に関する演習を行う。</p> <p>(70 浅野 知一郎) 医化学に関する演習を行う。</p> <p>(38 酒井 規雄) 神経薬理学に関する演習を行う。</p> <p>(39 武島 幸男) 病理学に関する演習を行う。</p> <p>(27 坂口 剛正) ウイルス学に関する演習を行う。</p> <p>(57 田中 純子) 疫学・疾病制御学に関する演習を行う。</p> <p>(88 長尾 正崇) 法医学に関する演習を行う。</p> <p>(3 檜山 英三) 生命科学に関する演習を行う。</p> <p>(89 外丸 祐介) 生命科学に関する演習を行う。</p> <p>(71 加藤 功一) 生体材料学に関する演習を行う。</p> <p>(68 宿南 知佐) 生体分子機能学に関する演習を行う。</p> <p>(90 寺山 隆司) 顎顔面解剖学に関する演習を行う。</p> <p>(91 杉田 誠) 口腔生理学に関する演習を行う。</p> <p>(92 兼松 隆) 細胞分子薬理学に関する演習を行う。</p> <p>(93 高橋 一郎) 粘膜免疫学に関する演習を行う。</p> <p>(40 吉子 裕二) 硬組織代謝生物学に関する演習を行う。</p> <p>(94 河口 浩之) 歯科医学教育学に関する演習を行う。</p> <p>(4 田代 聡) 細胞修復制御学に関する演習を行う。</p> <p>(95 川上 秀史) 分子疫学に関する演習を行う。</p> <p>(78 保田 浩志) 線量測定・評価学に関する演習を行う。</p> <p>(1 松浦 伸也) 放射線ゲノム疾患学に関する演習を行う。</p> <p>(79 東 幸仁) ゲノム障害病理学に関する演習を行う。</p> <p>(80 稲葉 俊哉) がん分子病態学に関する演習を行う。</p> <p>(96 廣橋 伸之) 放射線災害医学に関する演習を行う。</p> <p>(142 内匠 透) システム医科学に関する演習を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	特別研究	<p>(概要) 課題の設定, 課題解決のための仮設考察, 検証方法の決定について, 研究を行うために必要な基礎・手法を学ぶ。 (87 池上 浩司) 機能形態学・発生生物学に関する研究指導を行う。 (5 相澤 秀紀) 神経生物学に関する研究指導を行う。 (2 吉栖 正生) 心臓血管生理医学に関する研究指導を行う。 (67 橋本 浩一) 神経生理学に関する研究指導を行う。 (37 今泉 和則) 分子細胞情報学に関する研究指導を行う。 (70 浅野 知一郎) 医化学に関する研究指導を行う。 (38 酒井 規雄) 神経薬理学に関する研究指導を行う。 (39 武島 幸男) 病理学に関する研究指導を行う。 (27 坂口 剛正) ウイルス学に関する研究指導を行う。 (57 田中 純子) 疫学・疾病制御学に関する研究指導を行う。 (88 長尾 正崇) 法医学に関する研究指導を行う。 (3 檜山 英三) 生命科学に関する研究指導を行う。 (89 外丸 祐介) 生命科学に関する研究指導を行う。 (71 加藤 功一) 生体材料学に関する研究指導を行う。 (68 宿南 知佐) 生体分子機能学に関する研究指導を行う。 (90 寺山 隆司) 顎顔面解剖学に関する研究指導を行う。 (91 杉田 誠) 口腔生理学に関する研究指導を行う。 (92 兼松 隆) 細胞分子薬理学に関する研究指導を行う。 (93 高橋 一郎) 粘膜免疫学に関する研究指導を行う。 (40 吉子 裕二) 硬組織代謝生物学に関する研究指導を行う。 (94 河口 浩之) 歯科医学教育学に関する研究指導を行う。 (4 田代 聡) 細胞修復制御学に関する研究指導を行う。 (95 川上 秀史) 分子疫学に関する研究指導を行う。 (78 保田 浩志) 線量測定・評価学に関する研究指導を行う。 (1 松浦 伸也) 放射線ゲノム疾患学に関する研究指導を行う。 (79 東 幸仁) ゲノム障害病理学に関する研究指導を行う。 (80 稲葉 俊哉) がん分子病態学に関する研究指導を行う。 (96 廣橋 伸之) 放射線災害医学に関する研究指導を行う。 (142 内匠 透) システム医科学に関する研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(総合健康科学専攻 博士課程後期 生命医療科学プログラム)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	English Presentation	授業は参加型とし、実際の学会会場での発表を想定して1日1人もしくは2人の発表者による発表と参加者による質問を行う。また、外国人講師によるフィードバックを行い、より質の高い発表・ディスカッションを目指す。	
	英語論文修辞学	英語による論文を書くために、論文の構成で一般的な「背景・目的・方法・結果・結論」の書き方、過去・現在・現在完了の論文で主に使われる時制の使い方、表現の幅が大きく広がる英語共起表現検索システムの活用等について講義するとともに、各自の論文について、論文の構造の解析を行う。	

別記様式第3号 (その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教 員 の 氏 名 等												
(医系科学研究科 医歯薬学専攻 博士課程)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
1	専	教授	ドウリ ミキ 工藤 美樹 ＜平成31年4月＞		医学博士		医療情報リテラシー活用※ 生命・医療倫理学B※ バイオメディカルサイエンス の創生展開※ 産科婦人科学特別演習 婦人科がん治療演習 産科婦人科学特別研究	1・2・3③ 1① 1③ 1通 1後～2 1～3	0.1 0.3 0.1 4 6 12	1 1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平14.11)	5日
2	専	教授	モリガ ノリミ 森川 則文 ＜平成31年4月＞		博士(薬学)		生命・医療倫理学B※ 臨床薬物治療学特別演習 臨床薬物治療学特別研究	1① 1通 1～3	0.1 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平14.4)	5日
3	専	教授	アリヒ コウジ 有廣 光司 ＜平成31年4月＞		博士(医学)		医療情報リテラシー活用※ 生命・医療倫理学B※ 臨床腫瘍学※ 病理診断学特別演習 病理診断学特別研究 死因究明特別研究	1・2・3③ 1① 1① 1① 1通 1～3 1～3	0.1 0.1 0.1 4 12 12	1 1 1 1 1 1	広島大学病院 教授 (平14.4)	5日
4	専	教授	スキヤマ カズヒコ 杉山 一彦 ＜平成31年4月＞		博士(医学)		生命・医療倫理学B※ 臨床腫瘍学※ がん化学療法科学特別演習 がん化学療法演習 小児がん治療演習 がん化学療法科学特別研究	1① 1① 1通 1後～2 1後～2 1～3	0.1 0.1 4 6 2 12	1 1 1 1 1 1	広島大学病院 教授 (平4.4)	5日
5	専	教授	ハムト コウイチ 橋本 浩一 ＜平成31年4月＞		博士(医学)		研究方法論B※ 神経生理学特別演習 神経生理学特別研究	1① 1通 1～3	0.1 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平22.7)	5日
6	専	教授	オノリ コウイチ 小澤 孝一郎 ＜平成31年4月＞		薬学博士		研究方法論B※ 薬物治療学※ 生理化学特別演習 治療薬効学特別演習 生理化学特別研究 治療薬効学特別研究	1① 1③ 1通 1通 1～3 1～3	0.4 0.4 4 4 12 12	1 1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平4.7)	5日
7	専	教授	アサノ トモイロウ 浅野 知一郎 ＜平成31年4月＞		博士(医学)		バイオメディカルサイエンス の創生展開※ 医化学特別演習 医化学特別研究	1③ 1通 1～3	0.2 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平18.4)	5日
8	専	教授	カトリ コウイチ 加藤 功一 ＜平成31年4月＞		博士(工学)		バイオメディカルサイエンス の創生展開※ 生体材料学特別演習 生体材料学特別研究	1③ 1通 1～3	0.1 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平23.4)	5日
9	専	教授	タハラ ヒデアキ 田原 栄俊 ＜平成31年4月＞		博士(薬学)		バイオメディカルサイエンス の創生展開※ 細胞分子生物学特別演習 細胞分子生物学特別研究	1③ 1通 1～3	0.1 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平6.10)	5日
10	専	教授	オオグニ ヒデアキ 大段 秀樹 ＜平成31年4月＞		博士(医学)		バイオメディカルサイエンス の創生展開※ 生体工医学イノベーションB ※ 消化器・移植外科学特別演習 消化器・移植外科学特別研究	1③ 1① 1通 1～3	0.1 0.4 4 12	1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平15.4)	5日
11	専	教授	ナガタヤス 永田 靖 ＜平成31年4月＞		医学博士		臨床腫瘍学※ 放射線総合医科学※ がん診療各論※ 放射線腫瘍学特別演習 がん放射線療法演習 集学的がん治療の実際 放射線腫瘍学特別研究	1① 1① 1① 1通 1後～2 2前 1～3	0.2 0.1 0.3 4 6 2 12	1 1 1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平20.1)	5日
12	専	教授	タカシ ユンコ 田中 純子 ＜平成31年4月＞		医学博士		医療情報リテラシー活用※ 臨床腫瘍学※ 疫学・疾病制御学特別演習 公衆衛生学特別演習 臨床研究の基礎および実践 疫学・疾病制御学特別研究 公衆衛生学特別研究	1・2・3③ 1① 1通 1通 1後 1～3 1～3	0.1 0.1 4 4 2 12 12	1 1 1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平2.4)	5日
13	専	教授	オカガ モリヒト 岡田 守人 ＜平成31年4月＞		博士(医学)		臨床腫瘍学※ 乳がん治療演習 腫瘍外科治療演習 腫瘍外科学特別演習 腫瘍外科学特別研究	1① 1後～2 1後～2 1通 1～3	0.1 6 2 4 12	1 1 1 1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 教授 (平19.4)	5日
14	専	教授	マツオ ヒロアキ 松尾 裕彰 ＜平成31年4月＞		博士(医学)		多職種連携B※ 臨床腫瘍学※ 病院薬剤学特別演習 病院薬剤学特別研究	1① 1① 1通 1～3	0.1 0.1 4 12	1 1 1 1	広島大学病院 教授 (平18.3)	5日
15	専	教授	オカモト ヤスマサ 岡本 泰昌 ＜平成31年4月＞		博士(医学)		臨床腫瘍学※ 精神神経医科学特別演習 がん緩和医療演習 緩和ケアカンファレンス 精神神経医科学特別研究	1① 1通 1後～2 2前 1～3	0.1 4 6 2 12	1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平11.4)	5日

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 医歯薬学専攻 博士課程)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
16	専	教授	キヌガ ヒロシ 保田 浩志 <平成31年4月>		博士(工学)		放射線統合医科学※ 線量測定・評価学特別演習 線量測定・評価学特別研究	1① 1通 1~3	0.1 4 12	1 1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 教授 (平27.10)	5日
17	専	教授	ヒガシ ユキト 東 幸仁 <平成31年4月>		博士(医学)		放射線統合医科学※ ゲノム障害病理学特別演習 ゲノム障害病理学特別研究	1① 1通 1~3	0.1 4 12	1 1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 教授 (平14.7)	5日
18	専	教授	イハノ トシヤ 稲葉 俊哉 <平成31年4月>		博士(医学)		放射線統合医科学※ がん分子病態学特別演習 がん分子病態学特別研究	1① 1通 1~3	0.1 4 12	1 1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 教授 (平13.1)	5日
19	専	教授	イハノ タカオ 一戸 辰夫 <平成31年4月>		博士(医学)		がん診療各論※ 疾患モデル解析学特別演習 血液・腫瘍内科学特別演習 疾患モデル解析学特別研究 血液・腫瘍内科学特別研究	1① 1通 1通 1~3 1~3	0.1 4 4 12 12	1 1 1 1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 教授 (平25.1)	5日
20	専	教授	イハノ ミコシ 池上 浩司 <平成31年4月>		博士(理学)		解剖学及び発生生物学特別演習 解剖学及び発生生物学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平30.4)	5日
21	専	教授	カガノ マサトシ 長尾 正崇 <平成31年4月>		医学博士		死因究明学※ 法医学特別演習 法医学特別研究 死因究明特別研究 法歯学特別演習 法歯学特別研究	1① 1通 1~3 1~3 1通 1~3	0.7 4 12 12 4 12	1 1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平20.1)	5日
22	専	教授	ハトリ ノボル 服部 登 <平成31年4月>		博士(医学)		医療情報リテラシー活用※ 分子内科学特別演習 分子内科学特別研究	1・2・3③ 1通 1~3	0.1 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平17.4)	5日
23	専	教授	マルヤマ ヒロフミ 丸山 博文 <平成31年4月>		博士(医学)		脳神経内科学特別演習 脳神経内科学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平10.9)	5日
24	専	教授	アサチ(アサ) ノブオ 安達(有馬) 伸生 <平成31年4月>		博士(医学)		整形外科学特別演習 整形外科学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平15.4)	5日
25	専	教授	ヒゲ ミチヒロ 秀 道広 <平成31年4月>		医学博士		皮膚科学特別演習 皮膚科学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平8.4)	5日
26	専	教授	マツハラ アキオ 松原 昭郎 <平成31年4月>		博士(医学)		腎泌尿器科学特別演習 腎泌尿器科学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平10.11)	5日
27	専	教授	キナノ コウキ 木内 良明 <平成31年4月>		医学博士		視覚病態学特別演習 視覚病態学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平18.8)	5日
28	専	教授	タノ ケイコ 竹野 幸夫 <平成31年4月>		医学博士		耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学 特別演習 耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学 特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平9.4)	5日
29	専	教授	アライ カズオ 粟井 和夫 <平成31年4月>		医学博士		医療情報リテラシー活用※ 死因究明学※ 放射線診断学特別演習 放射線診断学特別研究 死因究明特別研究	1・2・3③ 1① 1通 1~3 1~3	0.1 0.2 4 12 12	1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平22.2)	5日
30	専	教授	シメ ノブアキ 志馬 伸朗 <平成31年4月>		博士(医学)		多職種連携D※ 救急集中治療医学特別演習 システム医療学特別演習 救急集中治療医学特別研究 システム医療学特別研究	1① 1通 1通 1~3 1~3	0.3 4 4 12 12	1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平27.9)	5日
31	専	教授	ヒロハシ ノブキ 廣橋 伸之 <平成31年4月>		博士(医学)		救急集中治療医学特別演習 救急集中治療医学特別研究 システム医療学特別研究 放射線医療開発学特別演習 放射線医療開発学特別研究	1通 1~3 1~3 1通 1~3	4 12 12 4 12	1 1 1 1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 教授 (平19.4)	5日
32	専	教授	タナ シンジ 田中 信治 <平成31年4月>		博士(医学)		内視鏡医学特別演習 内視鏡医学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学病院 教授 (平5.11)	5日
33	専	教授	オチカ ヒロキ 大毛 宏喜 <平成31年4月>		博士(医学)		感染症学特別演習 感染症学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学病院 教授 (平16.4)	5日
34	専	教授	キムラ ヒロキ 木村 浩彰 <平成31年4月>		博士(医学)		多職種連携D※ リハビリテーション学特別演習 リハビリテーション学特別研究	1① 1通 1~3	0.1 4 12	1 1 1	広島大学病院 教授 (平15.4)	5日

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 医歯薬学専攻 博士課程)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均
35	専	教授	マサキ タカオ 正木 崇生 <平成31年4月>		博士(医学)		腎臓内科学特別演習 腎臓内科学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学病院 教授 (平23.4)	5日
36	専	教授	ヨコガ ハスミ 横田 和典 <平成31年4月>		博士(医学)		形成外科学特別演習 形成外科学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学病院 教授 (平23.4)	5日
37	専	教授	ソトマル コウスケ 外丸 祐介 <平成31年4月>		博士(生物 環境調節 学)		生命科学特別演習 生命科学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学自然科学研究支援 開発センター 教授 (平17.2)	5日
38	専	教授	テラヤマ リュウジ 寺山 隆司 <平成31年4月>		博士(医学)		口腔細胞生物学特別演習 口腔細胞生物学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平30.3)	5日
39	専	教授	スキタ マコト 杉田 誠 <平成31年4月>		博士(歯学)		口腔生理学特別演習 口腔生理学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平3.4)	5日
40	専	教授	カネツ タカシ 兼松 隆 <平成31年4月>		博士(歯学)		細胞分子薬理学特別演習 歯科麻酔学特別演習 細胞分子薬理学特別研究 歯科麻酔学特別研究	1通 1通 1~3 1~3	4 4 12 12	1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平21.2)	5日
41	専	教授	タカハシ イチロウ 高橋 一郎 <平成31年4月>		歯学博士		粘膜免疫学特別演習 粘膜免疫学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平14.4)	5日
42	専	教授	キタモト ナヲ 柿本 直也 <平成31年4月>		博士(歯学)		多職種連携B※ 歯科放射線学特別演習 歯科放射線学特別研究	1① 1通 1~3	0.1 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平28.10)	5日
43	専	教授	シバ ヒデキ 柴 秀樹 <平成31年4月>		博士(歯学)		歯髄生物学特別演習 歯髄生物学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平5.11)	5日
44	専	教授	ツカサ ヒロ 津賀 一弘 <平成31年4月>		歯学博士		先端歯科補綴学特別演習 先端歯科補綴学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平5.4)	5日
45	専	教授	タニモト コウタロウ 谷本 幸太郎 <平成31年4月>		博士(歯学)		歯科矯正学特別演習 矯正歯科専門医取得支援コース 歯科矯正学特別研究	1通 1通 1~3	4 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平11.10)	5日
46	専	教授	マツキ マキコ 藤井(松木) 万紀子 <平成31年4月>		博士(歯学)		国際歯科医学・分子腫瘍学特別演習 国際歯科医学・分子腫瘍学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平27.9)	5日
47	専	教授	カワグチ ヒロキ 河口 浩之 <平成31年4月>		歯学博士		歯科医学教育学特別演習 歯科医学教育学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学病院 教授 (平29.7)	5日
48	専	教授	オガタ ヨシキ 岡田 芳幸 <平成31年4月>		博士(医学)		障害者歯科学特別演習 障害者歯科学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学病院 教授 (平30.3)	5日
49	専	教授	コウケ イチロウ 古武 弥一郎 <平成31年4月>		博士(薬学)		生体機能分子動態学特別演習 生体機能分子動態学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平13.4)	5日
50	専	教授	カニタ ヒロキ 紙谷 浩之 <平成31年4月>		薬学博士		核酸分析化学特別演習 核酸分析化学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平26.7)	5日
51	専	教授	イヅカ リオ 飯塚 徳男 <平成31年4月>		博士(医学)		漢方診療学特別演習 漢方診療学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平28.3)	5日
52	専	教授	カワミ ヒデシ 川上 秀史 <平成31年4月>		博士(医学)		分子疫学特別演習 分子疫学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 教授 (平5.4)	5日
53	専	准教授	ヨシダ ミツヨシ 吉田 光由 <平成31年4月>		博士(歯学)		生命・医療倫理学B※ 先端歯科補綴学特別演習 先端歯科補綴学特別研究	1① 1通 1~3	0.1 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平28.3)	5日
54	専	准教授	サトウ ケンイチ 佐藤 健一 <平成31年4月>		博士(理学)		研究方法論B※ 計量生物学特別演習 計量生物学特別研究	1① 1通 1~3	0.1 4 12	1 1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 准教授 (平8.4)	5日
55	専	准教授	カネコ マサキ 金子 雅幸 <平成31年4月>		博士(薬学)		研究方法論B※	1①	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平26.7)	5日

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 医歯薬学専攻 博士課程)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
56	専	准教授	キシタ エイジ 木下 英司 <平成31年4月>		博士(薬学)		研究方法論B※	1①	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平10.4)	5日
57	専	准教授	チャヤマ ヒロミ 茶山 弘美 <平成31年4月>		博士(医学)		アドバンスド生命科学 コースワーク	1③	1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平24.4)	5日
58	専	准教授	カワイ ヒデヒコ 河合 秀彦 <平成31年4月>		博士(医学)		放射線統合医科学※	1①	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平15.11)	5日
59	専	准教授	ホソトヨシ 細井 徹 <平成31年4月>		博士(薬学)		薬物治療学※ 治療薬効学特別演習 治療薬効学特別研究	1③ 1通 1~3	0.2 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平16.8)	5日
60	専	准教授	テイシマ ジュン 亭島 淳 <平成31年4月>		博士(医学)		がん診療各論※ 腎泌尿器科学特別演習 腎泌尿器科学特別研究	1① 1通 1~3	0.1 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平16.10)	5日
61	専	准教授	オノベ カズキ 田邊 和照 <平成31年4月>		博士(医学)		がん診療各論※ 消化器・移植外科学特別演習 消化器・移植外科学特別研究	1① 1通 1~3	0.1 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平16.8)	5日
62	専	准教授	イシガキ マリ 石田 万里 <平成31年4月>		博士(医学)		心臓血管生理医学特別演習 心臓血管生理医学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平14.10)	5日
63	専	准教授	オウエ ナオヒデ 大上 直秀 <平成31年4月>		博士(医学)		医療情報リテラシー活用※ 分子病理学特別演習 分子病理学特別研究	1・2・3③ 1通 1~3	0.1 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平14.4)	5日
64	専	准教授	イリエ カン 入江 崇 <平成31年4月>		博士(薬学)		ウイルス学特別演習 ウイルス学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平17.8)	5日
65	専	准教授	ナカノ アキラ 奈女良 昭 <平成31年4月>		博士(薬学)		死因究明学※ 分子中毒学特別演習 分子中毒学特別研究	1① 1通 1~3	0.1 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平8.1)	5日
66	専	准教授	イトウ マサリ 伊藤 公訓 <平成31年4月>		博士(医学)		消化器・代謝内科学特別演習 消化器・代謝内科学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平12.6)	5日
67	専	准教授	ホノミ ナオヒ 細見 直永 <平成31年4月>		博士(医学)		脳神経内科学特別演習 脳神経内科学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平21.9)	5日
68	専	准教授	ムラカミ ヨシキ 村上 義昭 <平成31年4月>		博士(医学)		外科学特別演習 外科学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平6.4)	5日
69	専	准教授	タナカ(タキヤマ) ヨシ 田中(杉山) 友加 <平成31年4月>		博士(医学)		消化器・移植外科学特別演習 消化器・移植外科学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平21.4)	5日
70	専	准教授	イシダ コウジ 飯田 幸治 <平成31年4月>		博士(医学)		脳神経外科学特別演習 脳神経外科学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平16.10)	5日
71	専	准教授	チカマ タイセイ 近間 泰一郎 <平成31年4月>		博士(医学)		視覚病態学特別演習 視覚病態学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平23.1)	5日
72	専	准教授	ウエタケ ツトム 上田 勉 <平成31年4月>		博士(医学)		耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学 特別演習 耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学 特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学病院 准教授 (平22.4)	5日
73	専	准教授	ハマダ ヒロシ 濱田 宏 <平成31年4月>		博士(医学)		麻酔蘇生学特別演習 麻酔蘇生学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平15.4)	5日
74	専	准教授	ナカノ ユキコ 中野 由紀子 <平成31年4月>		博士(医学)		循環器内科学特別演習 循環器内科学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平19.4)	5日
75	専	准教授	ヤマモト ヒデキ 山本 秀也 <平成31年4月>		博士(医学)		循環器内科学特別演習 循環器内科学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平13.4)	5日
76	専	准教授	サノ ケイジ 菅野 啓司 <平成31年4月>		博士(医学)		総合診療医学特別演習 総合診療医学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学病院 准教授 (平18.11)	5日

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 医歯薬学専攻 博士課程)

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
77	専	准教授	ミヤコ ヨシヒロ 宮田 義浩 <平成31年4月>		博士(医学)		乳がん治療演習 腫瘍外科治療演習 腫瘍外科学特別演習 腫瘍外科学特別研究	1後~2 1後~2 1通 1~3	6 2 4 12	1 1 1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 准教授 (平16.10)	5日
78	専	准教授	カガミ ヨシタケ 川上 由育 <平成31年4月>		博士(医学)		臨床研究の基礎および実践	1後	2	1	広島大学病院 准教授 (平17.4)	5日
79	専	准教授	ヘイズ クレア ネルソン HAYES CLAIR NELSON <平成31年4月>		博士(生物学)		English Presentation	2前	2	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平22.6)	5日
80	専	准教授	ミヤチ ムツミ 宮内 睦美 <平成31年4月>		博士(歯学)		口腔顎顔面病理病態学特別演習 口腔顎顔面病理病態学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (昭59.5)	5日
81	専	准教授	フジタ ツヨシ 藤田 剛 <平成31年4月>		博士(歯学)		歯周病態学特別演習 歯周病態学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平16.4)	5日
82	専	准教授	トビウメ ケイ 飛梅 圭 <平成31年4月>		博士(歯学)		粘膜免疫学特別演習 粘膜免疫学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平18.3)	5日
83	専	准教授	タケノ マサキ 武知 正晃 <平成31年4月>		博士(歯学)		口腔外科学特別演習 口腔外科学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平18.10)	5日
84	専	准教授	アベ ヤスヒコ 阿部 泰彦 <平成31年4月>		博士(歯学)		先端歯科補綴学特別演習 先端歯科補綴学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平5.4)	5日
85	専	准教授	ヨシカワ(ソノガ) ミチ 吉川(園田) 峰加 <平成31年4月>		博士(歯学)		先端歯科補綴学特別演習 先端歯科補綴学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平20.1)	5日
86	専	准教授	ウエガ ヒロシ 上田 宏 <平成31年4月>		博士(歯学)		歯科矯正学特別演習 矯正歯科専門医取得支援コース 歯科矯正学特別研究	1通 1通 1~3	4 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平10.4)	5日
87	専	准教授	ミツハタ チエコ 光畑 智恵子 <平成31年4月>		博士(歯学)		小児歯科学特別演習 小児歯科専門医取得支援コース 小児歯科学特別研究	1通 1通 1~3	4 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平13.4)	5日
88	専	准教授	イワノ カズヨシ 猪川 和朗 <平成31年4月>		博士(薬学)		臨床薬物治療学特別演習 臨床薬物治療学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平15.7)	5日
89	専	准教授	ヨコオチノ トモナル 横大路 智治 <平成31年4月>		博士(薬学)		病院薬剤学特別演習 病院薬剤学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平23.10)	5日
90	専	准教授	フジモト ナリアキ 藤本 成明 <平成31年4月>		博士(医学)		疾患モデル解析学特別演習 疾患モデル解析学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 准教授 (平4.4)	5日
91	専	准教授	モリノ ヒロユキ 森野 豊之 <平成31年4月>		博士(医学)		医療情報リテラシー活用※ 分子疫学特別演習 分子疫学特別研究	1・2・3※ 1通 1~3	0.1 4 12	1 1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 准教授 (平18.3)	5日
92	専	准教授	サカニ マグミ 笹谷 めぐみ <平成31年4月>		博士(医学)		分子発がん制御学特別演習 分子発がん制御学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 准教授 (平19.4)	5日
93	専	講師	カガタ サトシ 岡田 賢 <平成31年4月>		博士(医学)		生命・医療倫理学B※ 小児科学特別演習 小児科学特別研究	1① 1通 1~3	0.1 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平27.6)	5日
94	専	講師	アマティア ウィッシュ ジート AMATYA WISHWA JEET <平成31年4月>		博士(医学)		バイオメディカルサイエンス の創生展開※	1③	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平17.5)	5日
95	専	講師	ミハラ ケイロウ 三原 圭一郎 <平成31年4月>		博士(医学)		放射線統合医科学※	1①	0.1	1	広島大学病院 講師 (平15.1)	5日
96	専	講師	カワイ ミチオ 河合 幹雄 <平成31年4月>		学士(医学)		がん診療各論※	1①	0.1	1	広島大学病院 講師 (平28.4)	5日
97	専	講師	アベタ ヒロシ 相方 浩 <平成31年4月>		博士(医学)		がん診療各論※	1①	0.1	1	広島大学病院 講師 (平17.4)	5日

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 医歯薬学専攻 博士課程)

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
98	専	講師	カトヤ カネキ 角舎 学行 <平成31年4月>		博士(医学)		がん診療各論※	1①	0.1	1	広島大学原爆放射線医科学研究所 講師 (平23.4)	5日
99	専	講師	コホタ ヒロキ 小久保 博樹 <平成31年4月>		博士(理学)		心臓血管生理医学特別演習 心臓血管生理医学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 講師 (平24.2)	5日
100	専	講師	ナカノ ユウスケ 中津 祐介 <平成31年4月>		博士(医薬学)		医化学特別演習 医化学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 講師 (平19.4)	5日
101	専	講師	フジカ カズヲ 藤高 一慶 <平成31年4月>		博士(医学)		分子内科学特別演習 分子内科学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 講師 (平17.10)	5日
102	専	講師	ウエムラ ケンイチロウ 上村 健一郎 <平成31年4月>		博士(医学)		外科学特別演習 外科学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 講師 (平16.4)	5日
103	専	講師	ヒラタ シンタロウ 平田 信太郎 <平成31年4月>		博士(医学)		リウマチ・膠原病学特別演習 リウマチ・膠原病学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学病院 講師 (平28.9)	5日
104	専	講師	キナガ ハスガ 岸川 暢介 <平成31年4月>		博士(医学)		総合診療医学特別演習 総合診療医学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学病院 講師 (平25.4)	5日
105	専	講師	ムラタ ユウジ 村上 祐司 <平成31年4月>		博士(医学)		がん放射線療法演習 放射線腫瘍学特別研究	1後~2 1~3	6 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 講師 (平17.4)	5日
106	専	講師	イワモト ヒロシ 岩本 博志 <平成31年4月>		博士(医学)		分子内科学特別研究	1~3	12	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 講師 (平22.4)	5日
107	専	講師	タカハシ テツヤ 高橋 哲也 <平成31年4月>		博士(医学)		脳神経内科学特別研究	1~3	12	1	広島大学病院 講師 (平18.3)	5日
108	専	講師	タカミガ マサキ 工田 昌也 <平成31年4月>		医学博士		耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学 特別演習 耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学 特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学病院 講師 (平7.4)	5日
109	専	講師	ハヤシトウ キズカ 林堂 安貴 <平成31年4月>		博士(歯学)		分子口腔医学・顎顔面外科学特別演習 分子口腔医学・顎顔面外科学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学病院 講師 (平10.10)	5日
110	専	講師	クボ カズ 久保 隆靖 <平成31年4月>		博士(歯学)		先端歯科補綴学特別演習 先端歯科補綴学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学病院 講師 (平5.4)	5日
111	専	講師	クレモト コウイチ(カ) 晃一 呉本(晃) 晃一 <平成31年4月>		博士(歯学)		先端歯科補綴学特別演習 先端歯科補綴学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学病院 講師 (平23.10)	5日
112	専	講師	カキ マサト 加来 真人 <平成31年4月>		博士(歯学)		歯科矯正学特別研究	1~3	12	1	広島大学病院 講師 (平12.4)	5日
113	専	講師	クニマツ リョウ 國松 亮 <平成31年4月>		博士(歯学)		歯科矯正学特別研究	1~3	12	1	広島大学病院 講師 (平25.4)	5日
114	専	講師	ソノ ケイイ 孫 継英 <平成31年4月>		博士(医学)		細胞修復制御学特別演習 細胞修復制御学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 講師 (平16.10)	5日
115	専	助教	コバヤカワ マコト 小早川 誠 <平成31年4月>		博士(医学)		臨床腫瘍学※ がん緩和医療演習 緩和ケアカンファレンス	1① 1後~2 2前	0.1 6 2	1 1 1	広島大学病院 助教 (平29.3)	5日
116	専	助教	ミカミ ユキオ 三上 幸夫 <平成31年4月>		博士(医学)		臨床腫瘍学※	1①	0.1	1	広島大学病院 助教 (平28.4)	5日
117	専	助教	ヤナセ コウキ 柳瀬 雄輝 <平成31年4月>		博士(医薬学)		薬物治療学※	1③	0.2	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 助教 (平21.5)	5日
118	専	助教	ヨシイ ミチコ 吉井 美智子 <平成31年4月>		薬学博士		薬物治療学※	1③	0.2	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 助教 (平2.8)	5日
119	専	助教	ヒラタ エイジ 平田 英司 <平成31年4月>		博士(医学)		がん診療各論※	1①	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 助教 (平24.10)	5日

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 医歯薬学専攻 博士課程)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
120	専	助教	オヒサ マサキ 大久 真幸 <平成31年4月>		博士(理学)		疫学・疾病制御学特別演習 臨床研究の基礎および実践 疫学・疾病制御学特別研究	1通 1後 1～3	4 2 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平27.4)	5日
121	専	助教	エキ ヒロキ 恵木 浩之 <平成31年4月>		博士(医学)		消化器・移植外科学特別演習 消化器・移植外科学特別研究	1通 1～3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平27.10)	5日
122	専	助教	イゲ ケンタロウ 井手 健太郎 <平成31年4月>		博士(医学)		消化器・移植外科学特別演習 消化器・移植外科学特別研究	1通 1～3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平20.9)	5日
123	専	助教	オヒラ マサヒロ 大平 真裕 <平成31年4月>		博士(医学)		消化器・移植外科学特別演習 消化器・移植外科学特別研究	1通 1～3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平25.4)	5日
124	専	助教	タハラ ヒロユキ 田原 裕之 <平成31年4月>		博士(医学)		消化器・移植外科学特別演習 消化器・移植外科学特別研究	1通 1～3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平27.10)	5日
125	専	助教	クロダ シンタロウ 黒田 慎太郎 <平成31年4月>		博士(医学)		消化器・移植外科学特別演習 消化器・移植外科学特別研究	1通 1～3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平28.4)	5日
126	専	助教	アキ トモキ 秋田 智之 <平成31年4月>		博士(理学)		疫学・疾病制御学特別研究 臨床研究の基礎および実践	1～3 1後	12 2	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平29.10)	5日
127	専	助教	ヤマモト タケ 山本屋 武 <平成31年4月>		博士(医学)		医化学特別研究	1～3	12	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平27.4)	5日
128	専	助教	スギヤマ アキ 杉山 文 <平成31年4月>		博士(医学)		疫学・疾病制御学特別研究	1～3	12	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平28.1)	5日
129	専	助教	クリハラ シヨウ 栗原 将 <平成31年4月>		博士(医学)		外科学特別研究	1～3	12	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平30.1)	5日
130	専	助教	イノ ケン 石野 岳志 <平成31年4月>		博士(医学)		耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学 特別演習 耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学 特別研究	1通 1～3	4 12	1 1	広島大学病院 助教 (平15.4)	5日
131	専	助教	ヒラ イサオ 平田 伊佐雄 <平成31年4月>		博士(工学)		生体材料学特別演習 生体材料学特別研究	1通 1～3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平14.4)	5日
132	専	助教	キカガリ ミチノリ 北川 道憲 <平成31年4月>		博士(理学)		口腔生理学特別演習 口腔生理学特別研究	1通 1～3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平23.4)	5日
133	専	助教	フシヨウ ヒサコ 古庄 寿子 <平成31年4月>		博士(歯学)		口腔顎顔面病理病態学特別演習 口腔顎顔面病理病態学特別研究	1通 1～3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平26.4)	5日
134	専	助教	オサキ ヨウヘイ 岡崎 洋平 <平成31年4月>		博士(歯学)		先端歯科補綴学特別演習 先端歯科補綴学特別研究	1通 1～3	4 12	1 1	広島大学病院 助教 (平26.5)	5日
135	専	助教	オカダ シンスケ 岡田 信輔 <平成31年4月>		博士(歯学)		先端歯科補綴学特別演習 先端歯科補綴学特別研究	1通 1～3	4 12	1 1	広島大学病院 病院助教 (平27.6)	5日
136	専	助教	モリタ コウジ 森田 晃司 <平成31年4月>		博士(歯学)		先端歯科補綴学特別演習 先端歯科補綴学特別研究	1通 1～3	4 12	1 1	広島大学病院 助教 (平23.4)	5日
137	専	助教	コトケ キヨリ 是竹 克紀 <平成31年4月>		博士(歯学)		先端歯科補綴学特別演習 先端歯科補綴学特別研究	1通 1～3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平14.4)	5日

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 医歯薬学専攻 博士課程)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
138	専	助教	トイ カズヤ 土井 一矢 <平成31年4月>		博士 (歯学)		先端歯科補綴学特別演習 先端歯科補綴学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平21.11)	5日
139	専	助教	ツカ ヒロキ 柄 博紀 <平成31年4月>		博士 (歯学)		先端歯科補綴学特別演習 先端歯科補綴学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学病院 病院助教 (平27.4)	5日
140	専	助教	マキハラ ユウスケ 牧原 勇介 <平成31年4月>		博士 (歯学)		先端歯科補綴学特別演習 先端歯科補綴学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平28.4)	5日
141	専	助教	アサカリ ユキ 麻川 由起 <平成31年4月>		博士 (歯学)		歯科矯正学特別研究	1~3	12	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平21.4)	5日
142	専	助教	ヒロセ ナオト 廣瀬 尚人 <平成31年4月>		博士 (歯学)		歯科矯正学特別研究	1~3	12	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平25.11)	5日
143	専	助教	アヲカ テツヤ 粟田 哲也 <平成31年4月>		博士 (歯学)		歯科矯正学特別研究	1~3	12	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平29.4)	5日
144	専	助教	ヨシミ ユキ 吉見 友希 <平成31年4月>		博士 (歯学)		歯科矯正学特別研究	1~3	12	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平28.4)	5日
145	専	助教	サノハ セイゴウ 佐能 正剛 <平成31年4月>		博士 (医薬学)		生体機能分子動態学特別演習 生体機能分子動態学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平21.4)	5日
146	専	助教	タカゴシ タカノリ 塔越 崇範 <平成31年4月>		博士 (薬学)		病院薬剤学特別演習 病院薬剤学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学病院 助教 (平19.3)	5日
147	専	助教	オホシラ リョウスケ 大澤 亮介 <平成31年4月>		博士 (生命科学)		分子疫学特別演習 分子疫学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 助教 (平25.7)	5日
148	専	助教	ホシコシ ヤスリ 堀越 保則 <平成31年4月>		博士 (生命科学)		細胞修復制御学特別研究	1~3	12	1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 助教 (平25.8)	5日
149	兼任	教授	コイケ カズヒロ 小池 一彦 <平成31年4月>		博士 (水産学)		スベシヤリスト型SDGsアイ デアマイニング学生セミ ナー	1・2・3①	1	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 教授 (平19.1)	
150	兼任	教授	カワイ コウイチロウ 河合 幸一郎 <平成31年4月>		医学博士		普遍的平和を目指して※	1・2・3④	0.3	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 教授 (平6.1)	
151	兼任	教授	ナカノボ タクキ 中坪 孝之 <平成31年4月>		理学博士		普遍的平和を目指して※	1・2・3④	0.3	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 教授 (平3.4)	
152	兼任	教授	ヤネノ ハラ ヒロカズ 柳原 宏和 <平成31年4月>		博士 (理学)		データサイエンス	1・2・3④	2	1	広島大学大学院理学研究科 教授 (平18.7)	
153	兼任	教授	クリタ タクオ 栗田 多喜夫 <平成31年4月>		博士 (工学)		パターン認識と機械学習	1・2・3②	2	1	広島大学大学院工学研究科 教授 (平22.4)	
154	兼任	教授	ミス トシユキ 三須 敏幸 <平成31年4月>		博士 (理学)		データサイエンティスト養成 リーダーシップ手法 高度イノベーション人材のた めのキャリアマネジメント 長期インターンシップ イノベーション演習	1・2・3 1・2・3① 1・2・3②④ 1・2・3 1・2・3③	1 1 1 2	1 1 1 1	広島大学グローバルキャリ アデザインセンター 教授 (平26.4)	
155	兼任	教授	マツハラ シンヤ 松浦 伸也 <平成31年4月>		医学博士		生命・医療倫理学B※ 放射線統合医科学※ 放射線ゲノム疾患学特別演習 幹細胞機能学特別演習 放射線ゲノム疾患学特別研究 幹細胞機能学特別研究	1① 1① 1通 1通 1~3 1~3	0.1 0.3 4 4 12 12	1 1 1 1 1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 教授 (平7.8)	
156	兼任	教授	シュナミ ナサ 宿南 知佐 <平成31年4月>		博士 (歯学)		研究方法論B※ バイオメディカルサイエンス の創生展開※ 口腔生化学特別演習 口腔生化学特別研究	1① 1② 1通 1~3	0.1 0.1 4 12	1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平25.7)	

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 医歯薬学専攻 博士課程)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
157	兼任	教授	タシロ タシロ 田代 聡 <平成31年4月>		博士(医学)		研究方法論B※ 細胞修復制御学特別演習 細胞修復制御学特別研究	1① 1通 1~3	0.1 4 12	1 1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 教授 (平12.9)	
158	兼任	教授	アヰワリ ヒデノ 相澤 秀紀 <平成31年4月>		博士(医学)		バイオメディカルサイエンス の創生展開※ 神経生物学特別演習 神経生物学特別研究	1③ 1通 1~3	0.1 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平27.6)	
159	兼任	教授	マツナミ カツシ 松浪 勝義 <平成31年4月>		博士(医学)		バイオメディカルサイエンス の創生展開※	1③	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平16.6)	
160	兼任	教授	オリヤマ サエ 折山 早苗 <平成31年4月>		博士(看護学)		多職種連携B※	1①	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平28.4)	
161	兼任	教授	キリト ヒカリ 桐本 光 <平成31年4月>		博士(医学)		多職種連携B※	1①	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平29.6)	
162	兼任	教授	ウツカシ ススム 浦川 将 <平成31年4月>		博士(医学)		多職種連携B※	1①	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平28.3)	
163	兼任	教授	ナイトリ マコ 内藤 真理子 <平成31年4月>		博士(歯学)		多職種連携B※	1①	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平30.4)	
164	兼任	教授	イマスミ カスミ 今泉 和則 <平成31年4月>		博士(医学)		分子細胞情報学特別演習 分子細胞情報学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平22.9)	
165	兼任	教授	サイノ リオ 酒井 規雄 <平成31年4月>		博士(医学)		神経薬理学特別演習 神経薬理学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平14.4)	
166	兼任	教授	タケノ ユキオ 武島 幸男 <平成31年4月>		博士(医学)		病理学特別演習 病理学特別研究 死因究明特別研究	1通 1~3 1~3	4 12 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平3.4)	
167	兼任	教授	カガチ カマサ 坂口 剛正 <平成31年4月>		博士(医学)		ウイルス学特別演習 免疫学特別演習 ウイルス学特別研究 免疫学特別研究	1通 1通 1~3 1~3	4 4 12 12	1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (昭62.4)	
168	兼任	教授	ヤマウキ シゲト 山脇 成人 <平成31年4月>		医学博士		精神神経医科学特別演習	1通	4	1	広島大学社会産学連携室 特任教授 (平2.5)	
169	兼任	教授	カハト ケン 河本 健 <平成31年4月>		医学博士		英語論文修辞学	2後	2	1	広島大学社会産学連携室 教授 (平6.3)	
170	兼任	教授	シヨコ ユウジ 吉子 裕二 <平成31年4月>		博士(歯学)		硬組織代謝生物学特別演習 硬組織代謝生物学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平6.6)	
171	兼任	教授	カニタ ケンジ 神谷 研二 <平成31年4月>		医学博士		分子発がん制御学特別演習 分子発がん制御学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学医療政策室 特任教授 (昭62.10)	
172	兼任	准教授	ホリ ケンジ 細野 賢治 <平成31年4月>		博士(農学)		SDGsの観点から見た地 域開発セミナー	1・2・3	1	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 准教授 (平21.2)	
173	兼任	准教授	ヤマネ タツオ 山根 達郎 <平成31年4月>		博士(国際 公共政策)		普遍的平和を目指して※	1・2・3④	0.3	1	広島大学大学院国際協力研 究科 准教授 (平25.4)	
174	兼任	准教授	カガトモコ 掛江 朋子 <平成31年4月>		博士(学術)		普遍的平和を目指して※	1・2・3④	0.3	1	広島大学大学院国際協力研 究科 准教授 (平29.10)	
175	兼任	准教授	ササカ カブミ 笹岡 貴史 <平成31年4月>		博士(情報学)		生体医工学イノベーションB※	1①	0.1	1	広島大学社会産学連携室 准教授 (平30.2)	
176	兼任	准教授	ヤマキ タカ 山崎 琢磨 <平成31年4月>		博士(医学)		関節外科学特別演習	1通	4	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 寄附講座准教授 (平20.1)	
177	兼任	講師	コバヤシ ユウシ 小林 剛 <平成31年4月>		博士(医学)		消化器・移植外科学特別演習 消化器・移植外科学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 特任講師 (平21.4)	
178	兼任	講師	オカ(カサキ) ヒロコ 岡(赤崎) 広子 <平成31年4月>		博士(歯 学)		法歯学特別演習 法歯学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 特任講師 (平19.4)	

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 医歯薬学専攻 博士課程)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
179	兼任	講師	ミヤモト タケオ 宮本 達雄 <平成31年4月>		博士(医学)		放射線総合医科学※	1①	0.1	1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 講師 (平20.8)	
180	兼任	助教	カヤマ リアキ 金山 範明 <平成31年4月>		博士(心理学)		生体工学イノベーションB ※	1①	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 特任助教 (平25.7)	
181	兼任	助教	ハツリ タケオ 服部 拓也 <平成31年4月>		博士(医学)		死因究明特別研究	1～3	12	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 特任助教 (平29.10)	
182	兼任	教授	タナカ コウ 田中 剛 <平成31年4月>		博士(医学)		医療情報リテラシー活用※	1・2・3③	0.1	1	広島県 健康福祉局長 (平30.4)	
183	兼任	教授	タカハシ リオ 高橋 規郎 <平成31年4月>		理学博士		生命・医療倫理学B※	1①	0.1	1	(公財)放射線影響研 究 所 顧問 (平26.4)	
184	兼任	教授	ノダガキ タカヒデ 農澤 隆秀 <平成31年4月>		博士(工学)		生体工学イノベーションB※ 精神神経医科学特別演習	1① 1通	0.1 4	1 1	マツダ株式会社 技術研究所 技監 (平27.1)	
185	兼任	教授	サカモト カズオ 坂本 和夫 <平成31年4月>		修士(工学)		生体工学イノベーションB ※	1①	0.1	1	マツダ株式会社 技術研究所革新研究創成部 門 研究長 (平30.4)	
186	兼任	教授	タカミ アキヒデ 高見 明秀 <平成31年4月>		博士(工学)		生体工学イノベーションB ※ 精神神経医科学特別演習	1① 1通	0.1 4	1 1	マツダ株式会社 技術研究所 所長 (平29.10)	
187	兼任	教授	シバヤマ ケイコ 柴山 恵吾 <平成31年4月>		博士(医学)		細菌学特別演習 細菌学特別研究	1通 1～3	4 12	1 1	国立感染症研究所 細菌第 二部 部長 (平23.4)	
188	兼任	教授	スガノ イモトキ 菅井 基行 <平成31年4月>		歯学博士		細菌学特別演習 細菌学特別研究	1通 1～3	4 12	1 1	国立感染症研究所 薬剤耐 性研究センター センター長 (平30.1)	
189	兼任	教授	タカミ トオル 内匠 透 <平成31年4月>		医学博士		統合バイオ特別演習 統合バイオ特別研究	1通 1～3	4 12	1 1	独立行政法人 理化学研 究 所 脳科学総合研究セン ター 精神生物学研究チ ーム チームリーダー (平28.4)	
190	兼任	教授	ササキ アツオ 佐々木 敦朗 <平成31年4月>		博士(医学)		分子病理学特別演習	1通	4	1	米国シンシナティ大学医学 部 教授 (平24.7)	
191	兼任	教授	イスイ トシオ 乾 敏郎 <平成31年4月>		文学博士		精神神経医科学特別演習	1通	4	1	追手門学院大学心理学部 教授 (平27.4)	
192	兼任	教授	フナモト ヨシリ 船間 芳憲 <平成31年4月>		学士(工学)		放射線診断学特別演習	1通	4	1	熊本大学大学院生命科学研 究部 教授 (平28.4)	
193	兼任	教授	カウリ タケフミ 加藤 忠史 <平成31年4月>		博士(医学)		精神病態制御学特別演習 精神病態制御学特別研究	1通 1～3	4 12	1 1	独立行政法人 理化学研 究 所 脳科学総合研究セン ター 疾患メカニズムコア長 (平27.4)	
194	兼任	教授	タニヤマ キヨミ 谷山 清己 <平成31年4月>		医学博士		がん臨床制御学特別演習 がん臨床制御学特別研究	1通 1～3	4 12	1 1	国立病院機構 呉医療セン ター・中国がんセンター 院長 (平26.4)	
195	兼任	教授	シモセ ショウジ 下瀬 省二 <平成31年4月>		博士(医学)		がん臨床制御学特別演習 がん臨床制御学特別研究	1通 1～3	4 12	1 1	国立病院機構 呉医療セン ター・中国がんセンター 統括診療部長 (平27.4)	

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 医歯薬学専攻 博士課程)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
196	兼任	教授	カバヤシ ミル 竹林 実 <平成31年4月>		博士(医学)		がん臨床制御学特別演習 がん臨床制御学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	国立病院機構 呉医療セン ター・中国がんセンター 精神科科長・副臨床研究部 室長 (平28.4)	
197	兼任	教授	タノ ヒロカ 田代 裕尊 <平成31年4月>		博士(医学)		がん臨床制御学特別演習 がん臨床制御学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	国立病院機構 呉医療セン ター・中国がんセンター 診療部長 (平27.4)	
198	兼任	教授	オヒデノリ 越智 秀典 <平成31年4月>		博士(医学)		消化器・代謝内科学特別研究	1~3	12	1	中国電力株式会社中電病院 内科医師 (平30.4)	
199	兼任	教授	カウダニ ナセ 向谷 知世 <平成31年4月>		博士(理学)		消化器・代謝内科学特別研究	1~3	12	1	株式会社フェニックスバイ オ 常務取締役部長 (平26.6)	
200	兼任	教授	カハシ ショウイチ 高橋 祥一 <平成31年4月>		博士(医学)		消化器・代謝内科学特別研究	1~3	12	1	医療法人社団うすい会 高 陽ニュータウン病院 副院長 (平25.4)	
201	兼任	教授	キタダイ ケイゴ 北台 靖彦 <平成31年4月>		博士(医学)		消化器・代謝内科学特別研究	1~3	12	1	県立広島大学人間文化学部 健康科学科 教授 (平28.4)	
202	兼任	教授	クヤマ コヨ 久山 佳代 <平成31年4月>		博士(歯学)		口腔顎顔面病理形態学特別演 習	1通	4	1	日本大学松戸歯学部 教授 (平19.4)	
203	兼任	教授	ノダ アサオ 野田 朝男 <平成31年4月>		理学博士		放射線誘発突然変異解析特別 演習 放射線誘発突然変異解析特別 研究	1通 1~3	4 12	1 1	公益財団法人 放射線影響 研究所 分子生物科学部 副部長 (平14.2)	
204	兼任	教授	オノダ コウタロウ 小笹 晃太郎 <平成31年4月>		医学博士		医療情報リテラシー活用※ 放射線健康影響疫学特別演習 放射線健康影響疫学特別研究 がん重粒子線治療法特別研究	1・2・3③ 1通 1~3 1~3	0.1 4 12 12	1 1 1 1	公益財団法人放射線影響研 究所 疫学部長 (平20.11)	
205	兼任	教授	クサノキ ヨシフミ 楠 洋一郎 <平成31年4月>		医学博士		生体ゲノム制御機能特別演習 生体ゲノム制御機能特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	公益財団法人 放射線影響 研究所 分子生物科学部長 (平23.4)	
206	兼任	教授	ハヤシ トモリ 林 奉権 <平成31年4月>		薬学博士		生体ゲノム制御機能特別演習 生体ゲノム制御機能特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	公益財団法人 放射線影響 研究所分子生物科学部 副部長 (平27.4)	
207	兼任	教授	ツジ ヒロシ 辻 比呂志 <平成31年4月>		医学博士		がん重粒子線治療法特別演習	1通	4	1	国立研究開発法人 量子科 学技術研究開発機構 放射 線医学総合研究所 重粒子線治療研究部長 (平19.4)	
208	兼任	教授	フクミ アキミ 福村 明史 <平成31年4月>		博士(工学)		がん重粒子線治療法特別演習 がん重粒子線治療法特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	国立研究開発法人 量子科 学技術研究開発機構 放射 線医学総合研究所 研究企画室次長・(併) 臨床研究クラスター放射線 品質管理室長 (平19.4)	
209	兼任	教授	キヌマ シヅコ 柿沼 志津子 <平成31年4月>		薬学博士		低線量放射線安全研究特別演 習 低線量放射線安全研究特別研 究	1通 1~3	4 12	1 1	国立研究開発法人 量子科 学技術研究開発機構 放射 線医学総合研究所 放射線影響研究部長 (平28.4)	

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 医歯薬学専攻 博士課程)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週あたり平 均 日 数
210	兼任	教授	ナノ タカシ 仲野 高志 <平成31年4月>		理学博士		低線量放射線安全研究特別演習 低線量放射線安全研究特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 計測・線量評価部 内部被ばく線量評価チーム 主任研究員 (平19.4)	
211	兼任	教授	タツキ ヒデアキ 立崎 英夫 <平成31年4月>		博士 (医学)		緊急被ばく医療開発特別演習 緊急被ばく医療開発特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 被ばく医療センター長 (平19.4)	
212	兼任	准教授	ニシカワ カズオ 西川 一男 <平成31年4月>		博士 (工学)		生体工学イノベーションB※ 精神神経医科学特別演習	1① 1通	0.1 4	1 1	マツダ株式会社 技術研究所 先進車両構造研究部門 部門統括研究員 (平24.4)	
213	兼任	准教授	イシダ ユウジ 石田 雄二 <平成31年4月>		博士 (理学)		消化器・代謝内科学特別研究	1~3	12	1	株式会社フェニックスパイオ 常務取締役部長 (平19.4)	
214	兼任	准教授	ウチムラ アツシ 内村 有邦 <平成31年4月>		博士 (理学)		放射線誘発突然変異解析特別演習 放射線誘発突然変異解析特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	公益財団法人放射線影響研究所 分子生物学部 分子遺伝学研究室 室長 (平29.4)	
215	兼任	准教授	サカタ リツ 坂田 律 <平成31年4月>		博士 (医学)		放射線健康影響疫学特別演習 放射線健康影響疫学特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	公益財団法人 放射線影響研究所 疫学部 主任研究員 (平18.4)	
216	兼任	准教授	イシイ レイコ 伊藤 玲子 <平成31年4月>		博士 (歯学)		生体ゲノム制御機能特別演習 生体ゲノム制御機能特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	公益財団法人 放射線影響研究所 分子生物学部 細胞生物学研究室 副主任研究員 (平19.4)	
217	兼任	准教授	ニシイ リュウイチ 西井 龍一 <平成31年4月>		博士 (医学)		分子イメージング診断法特別演習 分子イメージング診断法特別研究	1通 1~3	4 12	1 1	国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 臨床研究クラスター 分子イメージング診断治療研究部 主任研究員 (平28.4)	

別記様式第3号 (その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教 員 の 氏 名 等												
(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程前期)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
1	専	教授	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞ ドウリ ヨシキ 工藤 美樹 ＜平成31年4月＞		医学博士		医療情報リテラシー※ 生命・医療倫理学A※	1・2③ 1①	0.1 0.3	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平14.11)	5日
2	専	教授	モリカワ リノブ 森川 則文 ＜平成31年4月＞		博士(薬学)		生命・医療倫理学A※ 薬物治療学特論【隔年】 薬物治療学特論演習 薬物治療学特別研究	1① 1① 1通 1後～2	0.1 2 4 12	1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平14.4)	5日
3	専	教授	アリヒロ コウジ 有廣 光司 ＜平成31年4月＞		博士(医学)		医療情報リテラシー※ 生命・医療倫理学A※ 病因病態学※	1・2③ 1① 1後	0.1 0.1 0.1	1 1 1	広島大学病院 教授 (平14.4)	5日
4	専	教授	スギヤマ カズヒロ 杉山 一彦 ＜平成31年4月＞		博士(医学)		生命・医療倫理学A※	1①	0.1	1	広島大学病院 教授 (平4.4)	5日
5	専	教授	マツハラ シンヤ 松浦 伸也 ＜平成31年4月＞		医学博士		生命・医療倫理学A※ 特別演習 特別研究	1① 1通 1～2	0.1 4 8	1 1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 教授 (平7.8)	5日
6	専	教授	ヨシヅミ マサオ 吉栖 正生 ＜平成31年4月＞		博士(医学)		研究方法論A※ 生命医療科学論※ 人体の機能※ 特別演習 特別研究	1① 1① 1前 1通 1～2	0.2 0.1 0.7 4 8	1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平14.4)	5日
7	専	教授	ハシモト コウイチ 橋本 浩一 ＜平成31年4月＞		博士(医学)		研究方法論A※ 人体の機能※ 特別演習 特別研究	1① 1前 1通 1～2	0.1 0.2 4 8	1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平22.7)	5日
8	専	教授	オザワ コウイチ 小澤 孝一郎 ＜平成31年4月＞		薬学博士		研究方法論A※ 細胞内情報伝達学特論【隔年】 治療薬効学特論【隔年】 細胞内情報伝達学特論演習 治療薬効学特論演習 細胞内情報伝達学特別研究 治療薬効学特別研究	1① 1③ 1④ 1通 1通 1後～2 1後～2	0.1 2 2 4 4 12 12	1 1 1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平4.7)	5日
9	専	教授	ヒヤマ エイウ 檜山 英三 ＜平成31年4月＞		医学博士		研究方法論A※ 特別演習 特別研究	1① 1通 1～2	0.1 4 8	1 1 1	広島大学自然科学研究支援 開発センター 教授 (平1.7)	5日
10	専	教授	タシロ サトシ 田代 聡 ＜平成31年4月＞		博士(医学)		研究方法論A※ 人体の機能※ 特別演習 特別研究	1① 1前 1通 1～2	0.1 0.1 4 8	1 1 1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 教授 (平12.9)	5日
11	専	教授	オガシラ ヒロキ 大段 秀樹 ＜平成31年4月＞		博士(医学)		生体医工学イノベーションA※ 生命医療科学論※ 健康生活科学※ 臨床医歯学総論※	1① 1① 1③ 1後	0.4 0.2 0.2 0.7	1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平15.4)	5日
12	専	教授	タナカ ジュンコ 田中 純子 ＜平成31年4月＞		医学博士		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health※ SDGsへの学問的アプローチ A ※ 医療情報リテラシー※ 医学統計パッケージ演習 生命医療科学論※ 予防医学・健康指導特論A※ 予防医学・健康指導特論B※ 疫学基礎論※ 臨床研究方法論※ 生物統計学・臨床統計基礎論※ 環境保健学概論※ 医療政策・国際保健概論※ 公衆衛生学特別研究(疫学) 公衆衛生学特別研究(生物統計学) 公衆衛生学特別研究(国際保健・環境保健学) 疫学調査分析演習 特別演習 特別研究	1・2④ 1・2① 1・2③ 1③ 1① 1① 1③ 1前 1後 1前 1前 1前 1後～2 1後～2 1後～2 2前 1通 1～2	0.1 0.1 0.1 1 0.1 0.4 0.4 0.6 0.4 0.3 0.3 6 6 6 2 4 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平2.4)	5日

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程前期)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
23	専	教授	ハマダ ヒロノブ 濱田 泰伸 <平成31年4月>		博士(医学)		予防医学・健康指導特論B※ 保健科学特論III(実験研究)※ 病態生理学 生体機能解析制御科学特論 生体機能情報科学特論 生体機能解析制御科学特別演習 生体機能情報科学特別演習 生体機能解析制御科学特別研究 生体機能情報科学特別研究	1③ 1前 1前 1前 1前 1前・後 1前・後 1～2 1～2	0.1 0.2 2 2 2 2 10 10	1 1 1 1 1 2 2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平22.4)	5日
24	専	教授	ナカノ ヒロエ 中谷 久恵 <平成31年4月>		博士(看護学)		保健科学特論I(調査研究)※ 地域・在宅看護方法学特論 コンサルテーション論 地域・在宅看護方法学特別演習 地域・在宅看護方法学特別研究 慢性疾患ケア看護学特論5 地域・在宅看護方法学教育演習 地域・在宅看護方法学臨床教育実習 地域・在宅看護方法学総合臨床教育実習	1前 1前 2前 1前・後 1～2 2前 1通 1通 1通	0.2 2 2 2 10 2 1 1 1	1 1 1 2 1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平23.9)	5日
25	専	教授	カハシ マサキ 梯 正之 <平成31年4月>		医学博士		保健科学特論I(調査研究)※ Statistics in Health Science 健康情報学特論 健康情報学解析特論 健康情報学教育演習 健康情報学特別演習 健康情報学特別研究 健康情報学臨床教育実習 健康情報学総合臨床教育実習 環境保健学概論※	1前 1後 1前 1前 1通 1前・後 1～2 1通 1通 1前	0.2 2 2 2 1 2 10 1 1 0.1	1 1 1 2 1 2 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (昭60.9)	5日
26	専	教授	ミツタ ヨシ 宮下 美香 <平成31年4月>		博士(保健学)		保健科学特論I(調査研究)※ 老年・がん看護方法学特論 看護研究 病態生理学 老年・がん看護方法学特別演習 老年・がん看護方法学特別研究 がん看護学特論1 がん看護学特論2 がん看護学特論3 がん看護学特論4 がん看護学特論5 がん看護学演習1 がん看護学演習2 がん看護学実習1 がん看護学実習2 がん看護学実習3 がん看護学実習4 がん看護学実習5 がん看護学課題研究 老年・がん看護方法学教育演習 老年・がん看護方法学臨床教育実習 老年・がん看護方法学総合臨床教育実習	1前 1前 1前 1前 1前・後 1～2 1前 1前 1前 1前 1後 1通 1通 1後 1後 1後 1前 1後 2通 1通 1通 1通	0.2 2 2 2 2 10 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1	1 1 1 1 2 10 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平16.4)	5日
27	専	教授	コハシ トシオ 小林 敏生 <平成31年4月>		博士(医学)		保健科学特論I(調査研究)※ 健康推進科学特論 成人健康学特論 臨床薬理学 健康推進科学特別演習 成人健康学特別演習 健康推進科学特別研究 成人健康学特別研究 健康開発科学教育演習 健康開発科学臨床教育実習 健康開発科学総合臨床教育実習 医療政策・国際保健概論※	1前 1後 1前 1後 1前・後 1前・後 1～2 1～2 1通 1通 1通 1前	0.2 2 2 2 2 2 10 10 1 1 1 0.1	1 1 1 1 2 2 1 1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平15.4)	5日
28	専	教授	ハナノ ヒデアキ 花岡 秀明 <平成31年4月>		博士(保健学)		保健科学特論I(調査研究)※ 保健科学特論III(実験研究)※ 作業機能制御科学特論 作業機能制御科学特別演習 作業機能制御科学特別研究	1前 1前 1前 1前・後 1～2	0.2 0.8 2 2 10	1 1 2 2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平18.7)	5日
29	専	教授	ミヤグチ ヒロキ 宮口 英樹 <平成31年4月>		博士(保健学)		保健科学特論I(調査研究)※ 保健科学特論II(質的研究)※ 作業行動探索科学特論 作業行動探索科学特別演習 作業行動探索科学特別研究	1前 1後 1前 1前・後 1～2	0.2 0.2 2 2 10	1 1 1 2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究所 教授 (平16.4)	5日

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程前期)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
30	専	教授	コクショウ ヒロコ 國生 拓子 <平成31年4月>		看護学修士		保健科学特論Ⅱ(質的研究)※ 精神保健看護方法学特論 看護倫理 コンサルテーション論 精神保健看護方法学特別演習 精神保健看護方法学特別研究 精神保健看護方法学教育演習 精神保健看護方法学臨床教育 実習 精神保健看護方法学総合臨床 教育実習	1後 1前 1前 2前 1前・後 1～2 1通 1通 1通	0.2 2 2 2 2 10 1 1 1	1 1 1 1 2 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平17.9)	5日
31	専	教授	オホira ミコ 大平 光子 <平成31年4月>		博士(看護学)		保健科学特論Ⅱ(質的研究)※ 助産・母性看護方法学特論※ 看護理論 助産・母性看護方法学特別演 習 助産・母性看護方法学特別研 究 助産・母性看護方法学教育演 習 助産・母性看護方法学臨床教 育実習 助産・母性看護方法学総合臨 床教育実習	1後 2前 1後 1前・後 1～2 1通 1通 1通	0.2 1.7 2 2 10 1 1 1	1 1 1 2 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平25.4)	5日
32	専	教授	ソウエ イチコ 祖父江 育子 <平成31年4月>		博士(医学)		保健科学特論Ⅱ(質的研究)※ 小児看護方法学特論 看護倫理 小児看護方法学特別演習 小児看護方法学特別研究 小児看護方法学教育演習 小児看護方法学臨床教育実習 小児看護方法学総合臨床教育 実習	1後 1後 1前 1前・後 1～2 1通 1通 1通	0.2 2 2 2 10 1 1 1	1 1 1 2 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平23.5)	5日
33	専	教授	オヤマ サエ 折山 早苗 <平成31年4月>		博士(看護学)		多職種連携A※ 保健科学特論Ⅱ(質的研究)※ 基礎看護方法学特論 基礎看護方法学特別演習 基礎看護方法学特別研究 基礎看護方法学教育演習 基礎看護方法学臨床教育実習 基礎看護方法学総合臨床教育 実習	1① 1後 1前 1前・後 1～2 1通 1通 1通	0.1 0.2 2 2 10 1 1 1	1 1 1 2 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平28.4)	5日
34	専	教授	コガシ ルイ 弓削 類 <平成31年4月>		博士(医学)		保健科学特論Ⅲ(実験研究)※ 生体環境適応科学特論 生体環境適応科学特別演習 生体環境適応科学特別研究	1前 1前 1前・後 1～2	0.2 2 2 10	1 1 2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平5.10)	5日
35	専	教授	キリト ヒカリ 桐本 光 <平成31年4月>		博士(医学)		多職種連携A※ 保健科学特論Ⅲ(実験研究)※ 感覚運動神経科学特論 感覚運動神経科学特別演習 感覚運動神経科学特別研究	1① 1前 1前 1前・後 1～2	0.1 0.2 2 2 10	1 1 1 2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平29.6)	5日
36	専	教授	スガワリ トモカ 砂川 融 <平成31年4月>		博士(医学)		保健科学特論Ⅲ(実験研究)※ 上肢機能解析制御科学特論 上肢機能解析制御科学特別演 習 上肢機能解析制御科学特別研 究	1前 1前 1前・後 1～2	0.2 2 2 10	1 1 2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平18.4)	5日
37	専	教授	ウツカワ ススム 浦川 将 <平成31年4月>		博士(医学)		多職種連携A※ 保健科学特論Ⅲ(実験研究)※ 生体構造学特論 生体運動・動作解析学特論 運動器機能医科学特論 生体構造学特別演習 生体運動・動作解析学特別演習 運動器機能医科学特別演習 生体構造学特別研究 生体運動・動作解析学特別研 究 運動器機能医科学特別研究	1① 1前 1前 1前 1前 1前・後 1前・後 1前・後 1～2 1～2 1～2	0.1 0.2 2 2 2 2 2 2 10 10 10	1 1 1 1 1 2 2 2 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平28.3)	5日

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程前期)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
38	専	教授	ウラベ ユキオ 浦邊 幸夫 <平成31年4月>		博士(医学)		保健科学特論Ⅲ(実験研究)※ スポーツリハビリテーション 学特論 スポーツリハビリテーション 学特別演習 スポーツリハビリテーション 学特別研究	1前 1前 1前・後 1～2	0.2 2 2 10	1 1 2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平5.4)	5日
39	専	教授	カサキ ヒロミ 川崎 裕美 <平成31年4月>		博士(医学)		地域・学校看護方法学特論 看護研究 地域・学校看護方法学特別演習 地域・学校看護方法学特別研究 地域・学校看護方法学教育演習 地域・学校看護方法学臨床地 教育実習 地域・学校看護方法学総合臨 床教育実習	1前 1前 1前・後 1～2 1通 1通 1通	2 2 2 10 1 1 1	1 1 2 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平13.4)	5日
40	専	教授	サイノ ノリオ 酒井 規雄 <平成31年4月>		博士(医学)		臨床薬理学 総合薬理学※ 特別演習 特別研究	1後 1後 1通 1～2	2 0.5 4 8	1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平14.4)	5日
41	専	教授	カサキ ツヨシ 片岡 健 <平成31年4月>		医学博士		がん看護学特論1 成人健康学教育演習 成人健康学臨床教育実習 成人健康学総合臨床教育実習	1前 1通 1通 1通	2 1 1 1	1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平6.6)	5日
42	専	教授	カガオ マサカ 長尾 正崇 <平成31年4月>		医学博士		臨床法医学概論※ 公衆衛生学特別研究(社会科 学・行動科学) 特別演習 特別研究	1前 1後～2 1通 1～2	1.6 6 4 8	1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平20.1)	5日
43	専	教授	タヅマ ススム 田妻 進 <平成31年4月>		医学博士		総合医療実践学特論※ 公衆衛生学特別研究(保健行 政・医療管理学)	1後 1後～2	0.7 6	1 1	広島大学病院 教授 (昭62.10)	5日
44	専	教授	ウメト セイジ 梅本 誠治 <平成31年4月>		医学博士		生物統計学・臨床統計基礎論※ 総合医療実践学特論※	1前 1後	0.2 0.1	1 1	広島大学病院 教授 (平28.2)	5日
45	専	教授	オカガ ヒロキ 大毛 宏喜 <平成31年4月>		博士(医学)		国際感染症概論	1前	1	1	広島大学病院 教授 (平16.4)	5日
46	専	教授	イハ タツオ 一戸 辰夫 <平成31年4月>		博士(医学)		臨床歯科学総論※	1後	0.2	1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 教授 (平25.1)	5日
47	専	教授	マルヤマ ヒロフミ 丸山 博文 <平成31年4月>		博士(医学)		臨床歯科学総論※	1後	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平10.9)	5日
48	専	教授	タニモト コウタロウ 谷本 幸太郎 <平成31年4月>		博士(歯学)		口腔健康科学特論※	1前	0.2	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平11.10)	5日
49	専	教授	スギヤマ エイジ 杉山 英二 <平成31年4月>		博士(医学)		臨床歯科学総論※	1後	0.1	1	広島大学病院 教授 (平21.1)	5日
50	専	教授	タケモト トシノブ 竹本 俊伸 <平成31年4月>		歯学博士		口腔健康科学特論※ 歯科衛生士教育学特論 歯科衛生士教育学演習B 歯科衛生士教育学特別研究	1前 1前・後 1～2 1～2	0.2 2 4 10	1 2 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平3.4)	5日
51	専	教授	ムラヤマ ケン 村山 長 <平成31年4月>		博士(工学)		口腔健康科学特論※ 情報システム工学特論 医療システム工学演習A 医療システム工学演習B 医療システム工学特別研究	1前 1前・後 1～2 1～2 1～2	0.2 2 4 4 10	1 2 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平1.4)	5日
52	専	教授	アベリ ヒデアキ 相澤 秀紀 <平成31年4月>		博士(医学)		人体の構造※ 人体解剖学実習 組織学実習 特別演習 特別研究	1前 1後 1前 1通 1～2	0.4 2 1 4 8	1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平27.6)	5日

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程前期)

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
53	専	教授	ヨシコ ユウジ 吉子 裕二 <平成31年4月>		博士(歯学)		人体の構造※ 人体解剖学実習 組織学実習 特別演習 特別研究	1前 1後 1前 1通 1～2	0.2 2 1 4 8	1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平6.6)	5日
54	専	教授	ナイトリ マコ 内藤 真理子 <平成31年4月>		博士(歯学)		多職種連携A※ 口腔衛生教育学特論 顎口腔発達・機能学特論 顎口腔発達・機能学演習A 顎口腔発達・機能学演習B 顎口腔発達・機能学特別研究	1① 1前・後 1前・後 1～2 1～2 1～2	0.1 2 2 4 4 10	1 2 2 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平30.4)	5日
55	専	教授	イマズミ カズノリ 今泉 和則 <平成31年4月>		博士(医学)		人体の機能※ 特別演習 特別研究	1前 1通 1～2	0.2 4 8	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平22.9)	5日
56	専	教授	スキタ マコト 杉田 誠 <平成31年4月>		博士(歯学)		人体の機能※ 特別演習 特別研究	1前 1通 1～2	0.1 4 8	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平3.4)	5日
57	専	教授	タケノ ユキオ 武島 幸男 <平成31年4月>		博士(医学)		病因病態学※ 特別演習 特別研究	1後 1通 1～2	0.6 4 8	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平3.4)	5日
58	専	教授	ヒガシ ユキヒト 東 幸仁 <平成31年4月>		博士(医学)		病因病態学※ 特別演習 特別研究	1後 1通 1～2	0.2 4 8	1 1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 教授 (平14.7)	5日
59	専	教授	カケチ ケイマサ 坂口 剛正 <平成31年4月>		博士(医学)		生体防御学※ 特別演習 特別研究	1後 1通 1～2	0.4 4 8	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (昭62.4)	5日
60	専	教授	タカハシ イチロウ 高橋 一郎 <平成31年4月>		歯学博士		生体防御学※ 特別演習 特別研究	1後 1通 1～2	0.2 4 8	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平14.4)	5日
61	専	教授	カナメツ タカシ 兼松 隆 <平成31年4月>		博士(歯学)		総合薬理学※ 特別演習 特別研究	1後 1通 1～2	0.3 4 8	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平21.2)	5日
62	専	教授	カニタ ヒロキ 紙谷 浩之 <平成31年4月>		薬学博士		薬科学特論※ 核酸分析化学特論【隔年】 核酸分析化学特論演習 核酸分析化学特別研究	1① 1② 1通 1後～2	0.4 2 4 12	1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平26.7)	5日
63	専	教授	ヤスタ ヒロシ 保田 浩志 <平成31年4月>		博士(工学)		分子生物学と放射線防護※ 特別演習 特別研究	1前 1通 1～2	0.7 4 8	1 1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 教授 (平27.10)	5日
64	専	教授	コケノ イチロウ 古武 弥一郎 <平成31年4月>		博士(薬学)		薬科学特論※ 生体機能分子動態学特論【隔年】 生体機能分子動態学特論演習 分子神経毒性学特論演習 生体機能分子動態学特別研究	1① 1② 1通 1通 1後～2	0.1 2 4 4 12	1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平13.4)	5日
65	専	教授	タカノ ミキヒサ 高野 幹久 <平成31年4月>		薬学博士		薬科学特論※ 薬物動態解析・制御科学特論【隔年】 薬物動態解析・制御科学特論演習 医薬品創剤科学特論演習 薬物動態解析・制御科学特別研究	1① 1③ 1通 1通 1後～2	0.1 2 4 4 12	1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平8.6)	5日
66	専	教授	カガミ ヒデシ 川上 秀史 <平成31年4月>		博士(医学)		分子生物学と放射線防護※ 特別演習 特別研究	1前 1通 1～2	0.2 4 8	1 1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 教授 (平5.4)	5日
67	専	教授	クロダ テロウ 黒田 照夫 <平成31年4月>		博士(薬学)		薬科学特論※ 微生物医薬品開発学特論【隔年】 微生物医薬品開発学特論演習 微生物医薬品開発学特別研究	1① 1③ 1通 1後～2	0.1 2 4 12	1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平28.4)	5日
68	専	教授	イナハ トシヤ 稲葉 俊哉 <平成31年4月>		博士(医学)		分子生物学と放射線防護※ 特別演習 特別研究	1前 1通 1～2	0.1 4 8	1 1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 教授 (平13.1)	5日

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程前期)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
69	専	教授	マツミ カヨシ 松浪 勝義 <平成31年4月>		博士(医学)		生薬学特論【隔年】 生薬学特論演習 生薬学特別研究	1① 1通 1後～2	2 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平16.6)	5日
70	専	教授	クモト タケ 熊本 卓哉 <平成31年4月>		博士(薬学)		創薬合成化学特論【隔年】 創薬合成化学特論演習 創薬合成化学特別研究	1① 1通 1後～2	2 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平29.4)	5日
71	専	教授	コイケ トシ 小池 透 <平成31年4月>		薬学博士		医薬分子機能科学特論【隔年】 医薬分子機能科学特論演習 医薬分子機能科学特別研究	1② 1通 1後～2	2 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (昭61.4)	5日
72	専	教授	アライ カズオ 栗井 和夫 <平成31年4月>		医学博士		医療情報リテラシー※ 放射線診断学・核医学	1・2③ 1前	0.1 1	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平22.2)	5日
73	専	教授	タハラ ヒデトシ 田原 栄俊 <平成31年4月>		博士(薬学)		細胞再生機構特論【隔年】 細胞再生機構特論演習 細胞再生機構特別研究	1② 1通 1後～2	2 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平6.10)	5日
74	専	教授	モリカミ リツ 森岡 徳光 <平成31年4月>		博士(薬学)		薬効解析科学特論【隔年】 薬効解析科学特論演習 分子薬理学特論演習 薬効解析科学特別研究	1③ 1通 1通 1後～2	2 4 4 12	1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平14.4)	5日
75	専	教授	マツオ ヒロアキ 松尾 裕彰 <平成31年4月>		博士(医学)		多職種連携A※ 応用薬物治療学特論【隔年】 応用薬物治療学特論演習 応用薬物治療学特別研究	1① 1④ 1通 1後～2	0.1 2 4 12	1 1 1 1	広島大学病院 教授 (平18.3)	5日
76	専	教授	シマ ノブキ 志馬 伸朗 <平成31年4月>		博士(医学)		多職種連携A※	1①	0.3	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平27.9)	5日
77	専	教授	キムラ ヒロアキ 木村 浩彰 <平成31年4月>		博士(医学)		多職種連携A※	1①	0.1	1	広島大学病院 教授 (平15.4)	5日
78	専	教授	カネト ナオ 柿本 直也 <平成31年4月>		博士(歯学)		多職種連携A※	1①	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平28.10)	5日
79	専	教授	イヅミ リオ 飯塚 徳男 <平成31年4月>		博士(医学)		漢方診療学特論【隔年】 漢方診療学特論演習 漢方診療学特別研究	1④ 1通 1後～2	2 4 12	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平28.3)	5日
80	専	教授	シマル コウスケ 外丸 祐介 <平成31年4月>		博士(生物 環境調節 学)		特別演習 特別研究	1通 1～2	4 8	1 1	広島大学自然科学研究支援 開発センター 教授 (平17.2)	5日
81	専	教授	カト コリイ 加藤 功一 <平成31年4月>		博士(工学)		特別演習 特別研究	1通 1～2	4 8	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平23.4)	5日
82	専	教授	テヤマ リュウジ 寺山 隆司 <平成31年4月>		博士(医学)		特別演習 特別研究	1通 1～2	4 8	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平30.3)	5日
83	専	教授	カガチ ヒロキ 河口 浩之 <平成31年4月>		歯学博士		特別演習 特別研究	1通 1～2	4 8	1 1	広島大学病院 教授 (平29.7)	5日
84	専	教授	ヒロシ ノブキ 廣橋 伸之 <平成31年4月>		博士(医学)		特別演習 特別研究	1通 1～2	4 8	1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 教授 (平19.4)	5日
85	専	准教授	モリ ヒロキ 森野 豊之 <平成31年4月>		博士(医学)		医療情報リテラシー※	1・2③	0.1	1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 准教授 (平18.3)	5日
86	専	准教授	ヨシダ ミツシ 吉田 光由 <平成31年4月>		博士(歯学)		生命・医療倫理学A※ 栄養学※	1① 1③	0.1 0.1	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平28.3)	5日
87	専	准教授	サトウ ケンイチ 佐藤 健一 <平成31年4月>		博士(理学)		研究方法論A※ 分子生物学と放射線防護※	1① 1前	0.1 0.1	1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 准教授 (平8.4)	5日

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程前期)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
88	専	准教授	カホ マサキ 金子 雅幸 <平成31年4月>		博士(薬学)		研究方法論A※	1①	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平26.7)	5日
89	専	准教授	キノタ エイジ 木下 英司 <平成31年4月>		博士(薬学)		研究方法論A※ 生物物理化学特論演習	1① 1通	0.1 4	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平10.4)	5日
90	専	准教授	チャヤマ ヒロミ 茶山 弘美 <平成31年4月>		博士(医学)		スタートアップ生命科学コー スワーク	1①	1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平24.4)	5日
91	専	准教授	ホウ タクヒコ 久保 忠彦 <平成31年4月>		博士(医学)		生命医療科学論※	1①	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平17.4)	5日
92	専	准教授	ヨシカ(ソノガ) ミチ 吉川(園田) 峰加 <平成31年4月>		博士(歯学)		栄養学※	1③	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平20.1)	5日
93	専	准教授	ホリミ ナオキ 細見 直永 <平成31年4月>		博士(医学)		予防医学・健康指導特論A※	1①	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平21.9)	5日
94	専	准教授	ヤマモト ヒデキ 山本 秀也 <平成31年4月>		博士(医学)		予防医学・健康指導特論A※	1①	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平13.4)	5日
95	専	准教授	ヨシダキ ミチヲ 横崎 典哉 <平成31年4月>		博士(医学)		予防医学・健康指導特論B※	1③	0.1	1	広島大学病院 准教授 (平9.10)	5日
96	専	准教授	ヒヤマ トオル 日山 亨 <平成31年4月>		博士(医学)		予防医学・健康指導特論B※	1③	0.1	1	広島大学保健管理センター 准教授 (平14.10)	5日
97	専	准教授	ラフマン モハメド モシウル RAHMAN MD MOSHULUR <平成31年4月>		博士(医学)		SDGsへの学問的アプローチ A※ Health Communication and Health Promotion Research Methodology in Health Science Epidemiology and Disease Prevention Global Health Challenges and Solutions I	1・2① 1③ 1① 1前 1後	0.1 1 1 2 2	1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平29.10)	5日
98	専	准教授	セキガキ キヨカズ 関川 清一 <平成31年4月>		博士(保健学)		生体機能解析制御科学特論 生体機能解析制御科学特別演習	1前 1前・後	2 2	1 2	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平15.4)	5日
99	専	准教授	ナメ アキラ 奈女良 昭 <平成31年4月>		博士(薬学)		臨床法医学概論※	1前	0.4	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平8.1)	5日
100	専	准教授	カノ ケイ 菅野 啓司 <平成31年4月>		博士(医学)		総合医療実践学特論※	1後	0.1	1	広島大学病院 准教授 (平18.11)	5日
101	専	准教授	ウエダ ヒロシ 上田 宏 <平成31年4月>		博士(歯学)		臨床歯医学総論※	1後	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平10.4)	5日
102	専	准教授	シメエ サイジ 下江 宰司 <平成31年4月>		博士(歯学)		機能修復工学特論 生体構造・機能修復学演習A 生体構造・機能修復学演習B 生体構造・機能修復学特別研究	1前・後 1～2 1～2 1～2	2 4 4 10	2 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平16.4)	5日
103	専	准教授	カマダ ヒデアキ 鎌田 英明 <平成31年4月>		農学博士		人体の機能※	1前	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平18.4)	5日
104	専	准教授	イシガ マリ 石田 万里 <平成31年4月>		博士(医学)		人体の機能※	1前	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平14.10)	5日
105	専	准教授	ミヤチ ムツミ 宮内 睦美 <平成31年4月>		博士(歯学)		病因病態学※	1後	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (昭59.5)	5日
106	専	准教授	オウエ ナオヒデ 大上 直秀 <平成31年4月>		博士(医学)		病因病態学※	1後	0.2	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平14.4)	5日

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程前期)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
107	専	准教授	イエイ 入江 崇 <平成31年4月>		博士(薬学)		生体防御学※	1後	0.2	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平17.8)	5日
108	専	准教授	カガヒト 仲 一仁 <平成31年4月>		博士(医学)		分子生物学と放射線防護※	1前	0.1	1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 准教授 (平27.4)	5日
109	専	准教授	カイ ヒデヒコ 河合 秀彦 <平成31年4月>		博士(医学)		分子生物学と放射線防護※ 構造生物学特論演習	1前 1通	0.1 4	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平15.11)	5日
110	専	准教授	クマガイ 勉 熊谷 孝則 <平成31年4月>		博士(薬学)		抗生物質合成学特論演習	1通	4	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平7.4)	5日
111	専	准教授	カハシ リョウ 高橋 陵宇 <平成31年4月>		博士(工学)		細胞がん化機構特論演習	1通	4	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平30.4)	5日
112	専	准教授	ユメト リョウコ 湯元 良子 <平成31年4月>		博士(薬学)		医薬品創剤科学特論演習 薬物動態解析・制御科学特別 研究	1通 1後～2	4 12	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (昭54.5)	5日
113	専	准教授	ホノ トオル 細井 徹 <平成31年4月>		博士(薬学)		分子治療薬効学特論演習	1通	4	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平16.8)	5日
114	専	准教授	ヨコオウ トモハル 横大路 智治 <平成31年4月>		博士(薬学)		応用薬物治療学特論演習 応用薬物治療学特別研究	1通 1後～2	4 12	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平23.10)	5日
115	専	准教授	イワノ カズヨウ 猪川 和朗 <平成31年4月>		博士(薬学)		薬物治療情報学特論演習	1通	4	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平15.7)	5日
116	専	准教授	ヤマノ サチコ 山野 幸子 <平成31年4月>		博士(薬学)		生薬・漢方医療学特論演習	1通	4	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平21.4)	5日
117	専	講師	オカダ サトシ 岡田 賢 <平成31年4月>		博士(医学)		生命・医療倫理学A※	1①	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平27.6)	5日
118	専	講師	ヨネダ マサユキ 米田 真康 <平成31年4月>		博士(医学)		予防医学・健康指導特論A※	1①	0.1	1	広島大学病院 講師 (平26.4)	5日
119	専	講師	タケカ カズコ 竹中 和子 <平成31年4月>		教育学修士		小児看護方法学特論 小児看護方法学特別演習	1後 1前・後	2 2	1 2	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平16.4)	5日
120	専	講師	ニイノ マミ 二井谷 真由美 <平成31年4月>		博士(看護学)		成人健康学特論	1前	2	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平23.4)	5日
121	専	講師	オホシキ ミキ 大塔 美樹 <平成31年4月>		博士(保健学)		地域・在宅看護方法学特別演習 がん看護学特論3 がん看護学演習2	1前・後 1前 1後	2 2 2	2 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平24.4)	5日
122	専	講師	マエダ リアキ 前田 慶明 <平成31年4月>		博士(保健学)		スポーツリハビリテーション 学特論 スポーツリハビリテーション 学特別演習 スポーツリハビリテーション 学特別研究	1前 1前・後 1～2	2 2 10	1 2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平23.7)	5日
123	専	講師	カハシ マコト 高橋 真 <平成31年4月>		博士(学術)		生体運動・動作解析学特論 生体運動・動作解析学特別演習 生体運動・動作解析学特別研究	1前 1前・後 1～2	2 2 10	1 2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平19.4)	5日
124	専	講師	フジタ ナオト 藤田 直人 <平成31年4月>		博士(保健学)		運動器機能医科学特論 運動器機能医科学特別演習 運動器機能医科学特別研究	1前 1前・後 1～2	2 2 10	1 2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平25.4)	5日
125	専	講師	イヅキ ナミ 石附 智奈美 <平成31年4月>		博士(保健 医療学)		作業行動探索科学特論 作業行動探索科学特別演習	1前 1前・後	2 2	1 2	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平18.4)	5日

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程前期)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
126	専	講師	クルマガニ ヒロシ 車谷 洋 <平成31年4月>		博士 (保健学)		上肢機能解析制御科学特論	1前	2	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平24.4)	5日
127	専	講師	わかば 浩介 岸川 暢介 <平成31年4月>		博士 (医学)		総合医療実践学特論※	1後	0.1	1	広島大学病院 講師 (平20.4)	5日
128	専	講師	カガチ ヒロシ 川口 浩史 <平成31年4月>		博士 (医学)		臨床医歯学総論※	1後	0.1	1	広島大学病院 講師 (平22.12)	5日
129	専	講師	アハタ ヒロシ 相方 浩 <平成31年4月>		博士 (医学)		臨床医歯学総論※	1後	0.1	1	広島大学病院 講師 (平17.4)	5日
130	専	講師	ヤマタ ヒデシ 山下 英尚 <平成31年4月>		博士 (医学)		臨床医歯学総論※	1後	0.1	1	広島大学病院 講師 (平15.10)	5日
131	専	講師	マツモト アツキ 松本 厚枝 <平成31年4月>		博士 (歯学)		口腔衛生管理学特論 歯科衛生士教育学演習A	1前・後 1～2	2 4	2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平9.4)	5日
132	専	講師	ノノウ マキ 野宗 万喜 <平成31年4月>		修士 (保健学)		学校健康教育学特論 口腔保健学研究特論 口腔保健学研究演習B 口腔保健学特別研究	1前・後 1前・後 1～2 1～2	2 2 4 10	2 2 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平20.4)	5日
133	専	講師	ミネ ムツ子 峯 裕一 <平成31年4月>		博士 (口腔 健康科学)		探索口腔科学特論	1前・後	2	2	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平30.4)	5日
134	専	講師	タモト ムミ 竹本 裕美 <平成31年4月>		医学博士		人体の機能※	1前	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (昭61.4)	5日
135	専	講師	サハラ ヒサコ 笹原 妃佐子 <平成31年4月>		博士 (歯学)		口腔保健学研究演習A	1～2	4	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (昭56.4)	5日
136	専	講師	コホト ヒロキ 小久保 博樹 <平成31年4月>		博士 (理学)		人体の機能※	1前	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平24.2)	5日
137	専	講師	アマテイヤ ウィッシュワ ジー AMATYA VISHWA JEET <平成31年4月>		博士 (医学)		病因病態学※	1後	0.5	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平17.5)	5日
138	専	講師	セウタニ カズヒロ 仙谷 和弘 <平成31年4月>		博士 (医学)		病因病態学※	1後	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平20.4)	5日
139	専	講師	ミヤモト タカオ 宮本 達雄 <平成31年4月>		博士 (医学)		分子生物学と放射線防護※ 先端的神経細胞科学※	1前 1・2④	0.1 0.2	1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 講師 (平20.8)	5日
140	専	講師	ソノ ケイ 孫 継英 <平成31年4月>		博士 (医学)		分子生物学と放射線防護※	1前	0.1	1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 講師 (平16.10)	5日
141	専	講師	ミハラ ケイロウ 三原 圭一朗 <平成31年4月>		博士 (医学)		分子生物学と放射線防護※	1前	0.1	1	広島大学病院 講師 (平15.1)	5日
142	専	助教	オホヒサ マサキ 大久 真幸 <平成31年4月>		博士 (理学)		医学統計パッケージ演習 疫学基礎論※ 臨床研究方法論※ 生物統計学・臨床統計基礎論 ※ 疫学調査分析演習	1③ 1前 1後 1前 2前	1 0.4 0.5 0.1 2	1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平27.4)	5日
143	専	助教	アキタ トモキ 秋田 智之 <平成31年4月>		博士 (理学)		医学統計パッケージ演習 疫学基礎論※ 臨床研究方法論※ 生物統計学・臨床統計基礎論 ※ 公衆衛生学特別研究 (生物統計学) 疫学調査分析演習	1③ 1前 1後 1前 1後～2 2前	1 0.6 0.9 0.2 6 2	1 1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平29.10)	5日
144	専	助教	スギヤマ アキ 杉山 文 <平成31年4月>		博士 (医学)		予防医学・健康指導特論A※ 予防医学・健康指導特論B※ 疫学基礎論※ 公衆衛生学特別研究 (疫学) 疫学調査分析演習	1① 1③ 1前 1後～2 2前	0.1 0.1 0.2 6 2	1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平28.1)	5日
145	専	助教	ヤマサキ サトコ 山崎 智子 <平成31年4月>		修士 (看護学)		看護研究 地域・学校看護方法学特別演習	1前 1前・後	2 2	1 2	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平20.4)	5日

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程前期)

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
146	専	助教	カコリ ジュン 角甲 純 <平成31年4月>		修士(保健学)		がん看護学特論2 がん看護学特論4 がん看護学演習2 がん看護学実習2 がん看護学実習3 がん看護学実習5 がん看護学課題研究	1前 1前 1後 1後 1後 1後 2通	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健学研究科 助教 (平30.4)	5日
147	専	助教	カサリ ナ 加澤 佳奈 <平成31年4月>		修士(看護学)		慢性疾患ケア看護学特論1 慢性疾患ケア看護学特論5 慢性疾患ケア看護学演習1 慢性疾患ケア看護学演習2 慢性疾患ケア看護学実習1 慢性疾患ケア看護学実習4 慢性疾患ケア看護学実習5 慢性疾患ケア看護学課題研究	1前 2前 1後 2前 1後 2後 2後 2通	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健学研究科 助教 (平29.4)	5日
148	専	助教	オホタ ムイロウ 大谷 裕一郎 <平成31年4月>		博士(医学)		総合医療実践学特論※	1後	0.2	1	広島大学病院 助教 (平29.4)	5日
149	専	助教	ミヤコ ダイスケ 宮森 大輔 <平成31年4月>		修士(公衆衛生学)		総合医療実践学特論※	1後	0.2	1	広島大学病院 助教 (平29.3)	5日
150	専	助教	キムラ カズキ 木村 一紀 <平成31年4月>		学士(医学)		総合医療実践学特論※	1後	0.1	1	広島大学病院 助教 (平30.4)	5日
151	専	助教	カシマ サチ 鹿嶋 小緒里 <平成31年4月>		博士(環境学)		環境保健学概論※ 医療政策・国際保健概論※	1前 1前	0.1 0.1	1 1	広島大学大学院医歯薬保健学研究科 助教 (平22.4)	5日
152	専	助教	ミエミ 三木 恵美 <平成31年4月>		博士(保健学)		感覚運動神経科学特別演習 感覚運動神経科学特別研究	1前・後 1~2	2 10	2 1	広島大学大学院医歯薬保健学研究科 助教 (平23.4)	5日
153	専	助教	サカグイ ジュンペイ 笹代 純平 <平成31年4月>		博士(保健学)		スポーツリハビリテーション学特別研究	1~2	10	1	広島大学大学院医歯薬保健学研究科 助教 (平30.4)	5日
154	専	助教	セリガ マサヒロ 芹川 正浩 <平成31年4月>		博士(医学)		臨床医歯学総論※	1後	0.1	1	広島大学病院 助教 (平29.3)	5日
155	専	助教	ウラベ サシ 占部 智 <平成31年4月>		博士(医学)		臨床医歯学総論※	1後	0.1	1	広島大学病院 助教 (平29.3)	5日
156	専	助教	マツイ コウジ 松井 浩二 <平成31年4月>		医学士		人体の構造※	1前	0.2	1	広島大学大学院医歯薬保健学研究科 助教 (昭62.4)	5日
157	専	助教	キタガリ ミチヲ 北川 道憲 <平成31年4月>		博士(理学)		人体の機能※	1前	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健学研究科 助教 (平23.4)	5日
158	専	助教	クニタ ケイ 楠谷 桂 <平成31年4月>		博士(医学)		病因病態学※	1後	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健学研究科 助教 (平20.4)	5日
159	専	助教	ヒサツネ ジュンゾウ 久恒 順三 <平成31年4月>		博士(医学)		生体防御学※	1後	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健学研究科 助教 (平21.1)	5日
160	専	助教	カヤマ シズオ 鹿山 鎮男 <平成31年4月>		博士(歯学)		生体防御学※	1後	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健学研究科 助教 (平26.4)	5日
161	専	助教	クボタ アキコ 久保田 明子 <平成31年4月>		修士(文学)		分子生物学と放射線防護※	1前	0.1	1	広島大学原爆放射線医科学研究所 助教 (平27.7)	5日
162	専	助教	オノ ヨシヲ 大野 芳典 <平成31年4月>		博士(医学)		分子生物学と放射線防護※	1前	0.1	1	広島大学原爆放射線医科学研究所 助教 (平21.4)	5日
163	専	助教	タニモト ケイジ 谷本 圭司 <平成31年4月>		博士(歯学)		分子生物学と放射線防護※	1前	0.1	1	広島大学原爆放射線医科学研究所 助教 (平13.4)	5日
164	専	助教	サノリ セイコウ 佐能 正剛 <平成31年4月>		博士(歯学)		生体機能分子動態学特論演習 生体機能分子動態学特別研究	1通 1後~2	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健学研究科 助教 (平21.4)	5日

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程前期)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
165	専	助教	カミ マサシ 川見 昌史 <平成31年4月>		博士(薬科学)		薬物動態解析・制御科学特論 演習 薬物動態解析・制御科学特別 研究	1通 1後～2	4 12	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平26.4)	5日
166	専	助教	サコシ タケ 埴越 崇範 <平成31年4月>		博士(薬学)		応用薬物治療学特論演習 応用薬物治療学特別研究	1通 1後～2	4 12	1 1	広島大学病院 助教 (平19.3)	5日
167	兼任	教授	カハコウイロウ 河合 幸一郎 <平成31年4月>		医学博士		Hiroshimaから世界平 和を考える※	1・2③	0.1	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 教授 (平6.1)	
168	兼任	教授	ナカノ マサキ 中野 孝之 <平成31年4月>		理学博士		Hiroshimaから世界平 和を考える※	1・2③	0.1	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 教授 (平3.4)	
169	兼任	教授	カハノ リウキ 川野 徳幸 <平成31年4月>		博士(医学)		Hiroshimaから世界平 和を考える※	1・2③	0.3	1	広島大学平和センター 教授 (平10.6)	
170	兼任	教授	ヨシダ ヨウイチロウ 吉田 雄一朗 <平成31年4月>		修士(経済学)		Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace※	1・2③	0.1	1	広島大学大学院国際協力研 究科 教授 (平25.4)	
171	兼任	教授	チヨウ シュンキョウ 張 峻屹 <平成31年4月>		博士(工学)		Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace※	1・2③	0.3	1	広島大学大学院国際協力研 究科 教授 (平14.10)	
172	兼任	教授	ヨシダ ヨシム 吉田 修 <平成31年4月>		法学修士		Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace※	1・2③	0.1	1	広島大学大学院社会科学研 究科 教授 (平7.2)	
173	兼任	教授	カタケギ マコト 片柳 真理 <平成31年4月>		Ph. D. (法 学) (英国)		Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace※ SDGsへの学問的アプ ローチ B※	1・2③ 1・2③	0.1 0.2	1 1	広島大学大学院国際協力研 究科 教授 (平26.4)	
174	兼任	教授	カネゴ シンジ 金子 慎治 <平成31年4月>		博士(工学)		Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace※	1・2③	0.1	1	広島大学大学院国際協力研 究科 教授 (平21.4)	
175	兼任	教授	イチハシ マサル 市橋 勝 <平成31年4月>		博士(理学)		Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace※	1・2③	0.1	1	広島大学大学院国際協力研 究科 教授 (平6.4)	
176	兼任	教授	シミス キンヤ 清水 欽也 <平成31年4月>		Ph. D. (米国)		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health※	1・2④	0.3	1	広島大学大学院国際協力研 究科 教授 (平12.4)	
177	兼任	教授	マハラジヤン ケシヤブ ラル MAHARJAN, KESHAVLALL <平成31年4月>		農学博士		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health※	1・2④	0.1	1	広島大学大学院国際協力研 究科 教授 (平2.2)	
178	兼任	教授	ババ タケ 馬場 卓也 <平成31年4月>		博士(教育学)		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health※ SDGsへの学問的アプ ローチ A※	1・2④ 1・2①	0.2 0.2	1 1	広島大学大学院国際協力研 究科 教授 (平13.7)	
179	兼任	教授	イシガ ヨコ 石田 洋子 <平成31年4月>		博士(国際 協力学)		SDGsへの学問的アプ ローチ A※	1・2①	0.1	1	広島大学教育開発国際協力 研究センター 教授 (平27.10)	
180	兼任	教授	サネカ ヒロミ 実岡 寛文 <平成31年4月>		農学博士		SDGsへの学問的アプ ローチ A※	1・2①	0.1	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 教授 (昭58.4)	
181	兼任	教授	ナガタ リョウタ 永田 良太 <平成31年4月>		博士(教育学)		SDGsへの学問的アプ ローチ A※	1・2①	0.1	1	広島大学大学院教育学研究 科 教授 (平30.4)	
182	兼任	教授	コイケ カズヒロ 小池 一彦 <平成31年4月>		博士(水産学)		SDGsへの学問的アプ ローチ B※	1・2③	0.1	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 教授 (平19.1)	

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程前期)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
183	兼任	教授	カワイ ケンジ 河合 研至 <平成31年4月>		工学博士		SDGsへの学問的ア プローチ B※	1・2③	0.1	1	広島大学大学院工学研究科 教授 (平22.4)	
184	兼任	教授	サカタ キコ 坂田 桐子 <平成31年4月>		博士(学術)		ダイバーシティの理解 ※	1・2②	0.1	1	広島大学大学院総合科学研 究科 教授 (平21.4)	
185	兼任	教授	イノベ マチ 大池 真知子 <平成31年4月>		博士(人文 科学)		ダイバーシティの理解 ※	1・2②	0.1	1	広島大学ダイバーシティ研 究センター 教授 (平29.5)	
186	兼任	教授	ヤシハラ ヒロカズ 柳原 宏和 <平成31年4月>		博士(理学)		データリテラシー※	1・2①	0.5	1	広島大学大学院理学研究科 教授 (平29.3)	
187	兼任	教授	モリ レイコ 森 玲子 <平成31年4月>		M.A.(社会 学修士) (米国)		人文社会系キャリアマ ネジメント	1・2②③	2	1	広島大学グローバルキャリ アデザインセンター 教授 (平16.8)	
188	兼任	教授	シュウジ 知 宿南 知佐 <平成31年4月>		博士(歯学)		研究方法論A※ 特別演習 特別研究	1① 1通 1～2	0.1 4 8	1 1 1	広島大学大学院歯歯薬保健 学研究科 教授 (平25.7)	
189	兼任	教授	マツモト マサトシ 松本 正俊 <平成31年4月>		博士(医学)		総合医療実践学特論※ 医療政策・国際保健概論※	1後 1前	0.1 0.1	1 1	広島大学大学院歯歯薬保健 学研究科 寄附講座教授 (平22.4)	
190	兼任	教授	イシイ タク 石井 抱 <平成31年4月>		博士(工学)		医用機器工学演習B	1～2	4	1	広島大学大学院工学研究科 教授 (平15.4)	
191	兼任	教授	スギヤマ マサリ 杉山 政則 <平成31年4月>		工学博士		薬科学特論※ 未病・予防医学特論【隔年】 未病・予防医学特論演習 未病・予防医学特別研究	1① 1④ 1通 1後～2	0.1 2 4 12	1 1 1 1	広島大学大学院歯歯薬保健 学研究科 共同研究講座教授 (平28.4)	
192	兼任	教授	キチ ユカ 菊池 裕 <平成31年4月>		博士(農学)		セルゲイナミクス・ゲノミク ス学特論【隔年】※	1・2④	0.5	1	広島大学大学院理学研究科 教授 (平19.4)	
193	兼任	教授	オキノ ハジメ 荻野 肇 <平成31年4月>		博士(理学)		セルゲイナミクス・ゲノミク ス学特論【隔年】※	1・2④	0.6	1	広島大学両生類研究セン ター 教授 (平29.1)	
194	兼任	教授	サイトリ ユキコ 斎藤 祐見子 <平成31年4月>		博士(理学)		先端的神経細胞科学※	1・2④	0.6	1	広島大学大学院総合科学研 究科 教授 (平18.10)	
195	兼任	教授	フカウ ケイ 古川 康雄 <平成31年4月>		学術博士		先端的神経細胞科学※	1・2④	0.6	1	広島大学大学院総合科学研 究科 教授 (平4.4)	
196	兼任	教授	アキ ツネヒコ 秋 庸裕 <平成31年4月>		博士(工学)		細胞機能科学A【隔年】※	1・2②	0.9	1	広島大学大学院先端物質科 学研究科 教授 (平8.4)	
197	兼任	教授	カワモト セイジ 河本 正次 <平成31年4月>		博士(農学)		細胞機能科学B【隔年】※	1・2④	1	1	広島大学大学院先端物質科 学研究科 教授 (平9.4)	
198	兼任	教授	イノベ ヒロシ 井出 博 <平成31年4月>		工学博士		遺伝子化学A【隔年】※	1・2④	0.4	1	広島大学大学院理学研究科 教授 (平8.4)	
199	兼任	教授	スズキ タカ 鈴木 卓弥 <平成31年4月>		博士(農学)		食品栄養機能学 I	1・2①	2	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 教授 (平22.1)	
200	兼任	教授	ナカノ ヒロユキ 中野 宏幸 <平成31年4月>		農学博士		食品衛生微生物学 I ※	1・2①	1	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 教授 (昭57.12)	
201	兼任	教授	シマモト タカシ 島本 整 <平成31年4月>		学術博士		食品衛生微生物学 I ※	1・2①	0.9	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 教授 (平10.1)	
202	兼任	教授	ホリウチ ヒロユキ 堀内 浩幸 <平成31年4月>		博士(学術)		応用動物生命科学 I ※	1・2②	0.6	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 教授 (平4.1)	
203	兼任	教授	シマダ マサキ 島田 昌之 <平成31年4月>		博士(獣医学)		応用動物生命科学 I ※	1・2②	0.6	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 教授 (平11.4)	

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程前期)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
204	兼任	教授	サボノギ ヨシロ 三本木 至宏 <平成31年4月>		農学博士		応用分子細胞生物学Ⅰ※	1・2②	0.5	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 教授 (平14.4)	
205	兼任	教授	セキ コウキ 関 恒樹 <平成31年4月>		博士(文学)		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health※	1・2④	0.1	1	広島大学大学院国際協力研 究科 教授 (平14.4)	
206	兼任	准教授	ヤマネ タツオ 山根 達郎 <平成31年4月>		博士(国際 公共政策)		Hiroshimaから世界平 和を考える※	1・2③	0.3	1	広島大学大学院国際協力研 究科 准教授 (平25.4)	
207	兼任	准教授	コヤマ ミチオ 小宮山 道夫 <平成31年4月>		修士(教育学)		Hiroshimaから世界平 和を考える※	1・2③	0.3	1	広島大学国際室 准教授 (平28.12)	
208	兼任	准教授	ハセガワ ユウジ 長谷川 祐治 <平成31年4月>		博士(環境学)		SDGsへの学問的アプ ローチ B※	1・2③	0.1	1	広島大学大学院総合科学研 究科 准教授 (平30.4)	
209	兼任	准教授	ヒビノ タカシ 日比野 忠史 <平成31年4月>		博士(工学)		SDGsへの学問的アプ ローチ B※	1・2③	0.1	1	広島大学大学院工学研究科 准教授 (平29.4)	
210	兼任	准教授	ヘイズカワイ リホ ヘイズ櫻井 里穂 <平成31年4月>		博士(国際 比較教育 学)		ダイバーシティの理解 ※	1・2②	0.1	1	広島大学教育開発国際協力 センター 准教授 (平21.4)	
211	兼任	准教授	ミヨジ ジュンイチ 宮尾 淳一 <平成31年4月>		工学博士		データリテラシー※	1・2①	0.5	1	広島大学大学院工学研究科 准教授 (平19.4)	
212	兼任	准教授	ササカ タカシ 笹岡 貴史 <平成31年4月>		博士(情報学)		生体医工学イノベーションA※	1①	0.1	1	広島大学社会産学連携室 准教授 (平30.2)	
213	兼任	准教授	タマキ トオル 玉木 徹 <平成31年4月>		博士(工学)		医療情報・画像処理工学演習B	1~2	4	1	広島大学大学院工学研究科 准教授 (平17.10)	
214	兼任	准教授	オホノ シュウイチ 小澤 修一 <平成31年4月>		博士(理学)		放射線診断物理学 放射線治療物理学 放射線治療物理学演習 放射線計測学演習	1前 1前 1後 1後	1 2 2 2	1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 特任准教授 (平24.4)	
215	兼任	准教授	スズキ アツシ 鈴木 厚 <平成31年4月>		博士(薬学)		セルダイナミクス・ゲノミク ス学特論【隔年】※	1・2④	0.2	1	広島大学両生類研究セン ター 准教授 (平11.6)	
216	兼任	准教授	サトウ アキコ 佐藤 明子 <平成31年4月>		博士(生物科学)		先端的神経細胞科学※	1・2④	0.6	1	広島大学大学院総合科学研 究科 准教授 (平24.4)	
217	兼任	准教授	ミズノ マサキ 水沼 正樹 <平成31年4月>		博士(工学)		細胞機能科学A【隔年】※	1・2②	1	1	広島大学大学院先端物質科 学研究科 准教授 (平13.8)	
218	兼任	准教授	ナカノ ミチコ 中ノ 三弥子 <平成31年4月>		博士(薬学)		細胞機能科学B【隔年】※	1・2④	1	1	広島大学大学院先端物質科 学研究科 准教授 (平22.4)	
219	兼任	准教授	イセリン 李 聖林 <平成31年4月>		博士(環境学)		数理生物学	1・2③	2	1	広島大学大学院理学研究科 准教授 (平29.4)	
220	兼任	准教授	トウシ ユウイチ 富樫 祐一 <平成31年4月>		博士(学術)		数理生物学	1・2③	2	1	広島大学大学院理学研究科 准教授 (平29.4)	
221	兼任	准教授	ニシノリ マサヒデ 西堀 正英 <平成31年4月>		博士(農学)		応用動物生命科学Ⅰ※	1・2②	0.6	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 准教授 (平3.1)	
222	兼任	准教授	フナト コウイチ 船戸 耕一 <平成31年4月>		博士(薬学)		応用分子細胞生物学Ⅰ※	1・2②	0.5	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 准教授 (平16.3)	
223	兼任	准教授	クニコシ ヒサト 国吉 久人 <平成31年4月>		博士(農学)		応用分子細胞生物学Ⅰ※	1・2②	0.4	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 准教授 (平12.11)	
224	兼任	講師	サノ コウイチロウ 佐野 浩一郎 <平成31年4月>		博士(経済学)		SDGsへの学問的アプ ローチ B※	1・2③	0.1	1	広島大学大学院社会科学研 究科 講師 (平26.10)	
225	兼任	講師	フジウリ ユキチ 藤川 楡吉 <平成31年4月>		博士(農学)		応用分子細胞生物学Ⅰ※	1・2②	0.5	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 講師 (平20.3)	
226	兼任	助教	キタカシ ヨコ 北椏 陽子 <平成31年4月>		博士(文学)		ダイバーシティの理解※	1・2②	0.7	1	広島大学ダイバーシティ研 究センター 助教 (平29.1)	

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程前期)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
227	兼任	助教	カナマ リアキ 金山 範明 <平成31年4月>		博士(心理学)		生体医工学イノベーションA※	1①	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 特任助教 (平25.7)	
228	兼任	助教	ツネツミ ミコ 恒松 美輪子 <平成31年4月>		博士(保健学)		健康情報学特論 健康情報学特別演習	1前 1前・後	2 2	1 2	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 特任助教 (平25.3)	
229	兼任	助教	イモリ シンペイ 伊森 晋平 <平成31年4月>		博士(理学)		生物統計学・臨床統計基礎論※	1前	0.1	1	広島大学大学院理学研究科 助教 (平30.1)	
230	兼任	助教	サイキ アキコ 齊木 愛希子 <平成31年4月>		博士(工学)		人体の構造※	1前	0.2	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 特任助教 (平28.3)	
231	兼任	助教	タカハシ ハルコ 高橋 治子 <平成31年4月>		博士(学術)		セルダイナミクス・ゲ ノミクス学特論【隔 年】※	1・2④	0.5	1	広島大学大学院理学研究科 助教 (平30.4)	
232	兼任	助教	ツダ マサカ 津田 雅貴 <平成31年4月>		博士(医学)		遺伝子化学A【隔年】※	1・2④	0.1	1	広島大学大学院理学研究科 助教 (平30.2)	
233	兼任	教授	オグサ コウタロウ 小笹 晃太郎 <平成31年4月>		医学博士		医療情報リテラシー※	1・2③	0.1	1	公益財団法人放射線影響研 究所 疫学部長 (平20.11)	
234	兼任	教授	タカゴウ 田中 剛 <平成31年4月>		医学博士		医療情報リテラシー※	1・2③	0.1	1	広島県 健康福祉局長 (平30.4)	
235	兼任	教授	ハラダ シン 原田 淳 <平成31年4月>		博士(工学)		ストレスマネジメント 理工系キャリアマネジメント	1・2③ 1・2②	2 2	1 1	県立広島大学教授 (平23.4)	
236	兼任	教授	タカハシ ノオ 高橋 規郎 <平成31年4月>		理学博士		生命・医療倫理学A※	1①	0.1	1	(公財)放射線影響研 究所 顧問 (平26.4)	
237	兼任	教授	ノリナリ タカヒデ 農澤 隆秀 <平成31年4月>		博士(工学)		生体医工学イノベーションA※	1①	0.1	1	マツダ株式会社 技術研究所 技監 (平27.1)	
238	兼任	教授	サカモト カズオ 坂本 和夫 <平成31年4月>		修士(技術経営)		生体医工学イノベーションA※	1①	0.1	1	マツダ株式会社 技術研究所革新研究創成部 門 研究長 (平30.4)	
239	兼任	教授	タカミ アキヒデ 高見 明秀 <平成31年4月>		博士(工学)		生体医工学イノベーションA※	1①	0.1	1	マツダ株式会社 技術研究所 所長 (平29.10)	
240	兼任	教授	カサヒ デゴ 加藤 秀夫 <平成31年4月>		医学博士		栄養学※	1③	0.1	1	東北女子大学家政学部 学部長 (平25.4)	
241	兼任	教授	アマノ ショウ 天野 秀昭 <平成31年4月>		歯学博士		栄養学※ 口腔健康科学特論※	1③ 1前	0.1 0.1	1 1	広島大学名誉教授 (平30.4)	
242	兼任	教授	ワタナベ ヒロシ 渡邊 敦光 <平成31年4月>		医学博士		健康生活科学※ 環境保健学概論※	1③ 1前	0.1 0.1	1 1	広島大学名誉教授 (平17.4)	
243	兼任	教授	ワタナベ カズオ 渡邊 一雄 <平成31年4月>		理学博士		健康生活科学※	1③	0.1	1	広島大学名誉教授 (平18.4)	
244	兼任	教授	セヤマ イッセイ 瀬山 一正 <平成31年4月>		医学博士		健康生活科学※	1③	0.1	1	広島大学名誉教授 (平14.4)	
245	兼任	教授	タナカ ハルヒコ 田中 春彦 <平成31年4月>		理学博士		健康生活科学※	1③	0.1	1	広島大学名誉教授 (平18.4)	
246	兼任	教授	ウスイ アキラ 碓井 亞 <平成31年4月>		医学博士		健康生活科学※	1③	0.1	1	広島大学名誉教授 (平20.4)	
247	兼任	教授	シマ ヒロム 三嶋 弘 <平成31年4月>		医学博士		健康生活科学※	1③	0.1	1	広島大学名誉教授 (平18.4)	
248	兼任	教授	ホシ マサハル 星 正治 <平成31年4月>		理学博士		健康生活科学※	1③	0.1	1	広島大学名誉教授 (平24.4)	
249	兼任	教授	タケイ ナブオ 武市 宣雄 <平成31年4月>		医学博士		健康生活科学※	1③	0.1	1	広島大学名誉教授 (平18.4)	
250	兼任	教授	ササキ クミコ 佐々木 くみ子 <平成31年4月>		教育学修士		助産・母性看護方法学特論※	2前	0.1	1	鳥取大学医学部保健学科 教授 (平26.4)	

教 員 の 氏 名 等

（ 医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程前期 ）

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
251	兼任	教授	ヤマノ 貴代 <平成31年4月>		看護学博士		助産・母性看護方法学特論※	2前	0.2	1	愛媛大学医学部看護学科 教授 (平28.4)	
252	兼任	教授	タカシ 美由紀 <平成31年4月>		学術博士		看護理論	1後	2	1	安田女子大学看護学部 教 授 (平27.4)	
253	兼任	教授	サライ シノブ 櫻井 しのぶ <平成31年4月>		博士(医学)		看護理論 看護研究	1後 1前	2 2	1 1	順天堂大学医療看護学部 教授 (平26.4)	
254	兼任	教授	オモリ 貴秀 大森 貴秀 <平成31年4月>		文学修士		看護研究	1前	2	1	慶應義塾大学 助教 (平29.4)	
255	兼任	教授	ウラベ ナコ 塚本 尚子 <平成31年4月>		博士(保健学)		看護研究	1前	2	1	上智大学総合人間科学看護 学科 教授 (平25.4)	
256	兼任	教授	ウツミ シオリ 宇佐美 しおり <平成31年4月>		博士(看護学)		看護倫理	1前	2	1	熊本大学大学院生命科学研 究部保健学系 教授 (平28.4)	
257	兼任	教授	キノカ タツル 木下 千鶴 <平成31年4月>		修士(看護学)		コンサルテーション論	2前	2	1	杏林大学医学部付属病院 副看護部長 (平26.4)	
258	兼任	教授	ナカ ヨシロ 仲田 義啓 <平成31年4月>		薬学博士		臨床薬理学	1後	2	1	広島大学名誉教授 (平28.4)	
259	兼任	教授	ヤマシキ アキミ 山崎 あけみ <平成31年4月>		学術博士		助産・母性看護方法開発学特 別演習	1前・後	2	2	大阪大学大学院医学系研究 科 教授 (平27.4)	
260	兼任	教授	ナカ マスミ 中野 真寿美 <平成31年4月>		博士(看護学)		慢性疾患ケア看護学特論 1	1前	2	1	広島市立安佐市民病院 副院長・看護部長 (平24.4)	
261	兼任	教授	クロエ ユリコ 黒江 ゆり子 <平成31年4月>		博士(人間・環境学)		慢性疾患ケア看護学特論 3	1後	2	1	岐阜県立看護大学看護学部 教授・学長 (平15.4)	
262	兼任	教授	ソエガ ヨシコ 添田 百合子 <平成31年4月>		修士(看護学)		慢性疾患ケア看護学特論 4	1後	2	1	創価大学看護学部 准教授 (平24.4)	
263	兼任	教授	カミ フヨ 岡 美智代 <平成31年4月>		博士(医学)		慢性疾患ケア看護学特論 4	1後	2	1	群馬大学大学院保健学研究 科 教授 (平27.4)	
264	兼任	教授	ナカマ ノリコ 中山 法子 <平成31年4月>		修士(保健 医療学)		慢性疾患ケア看護学特論 4	1後	2	1	糖尿病ケアサポートオフィ ス 代表 (平29.4)	
265	兼任	教授	エリック ジェー グラント ERIC J GRANT <平成31年4月>		PhD.(疫 学) (米国)		疫学基礎論※	1前	0.1	1	公益財団法人 放射線影響 研究所 主席研究員 (平28.4)	
266	兼任	教授	ニシカ マサコ 西川 正子 <平成31年4月>		博士(医学)		臨床研究方法論※	1後	0.2	1	東京慈恵医科大学臨床研究 支援センター 教授 (平26.4)	
267	兼任	教授	キムラ タツシ 木村 達志 <平成31年4月>		博士(保健学)		生体機能解析制御科学特論	1前	2	1	桜花学園大学保育学部 教授 (平20.4)	
268	兼任	教授	イダ タケユキ 飯田 忠行 <平成31年4月>		博士(医学)		作業行動探索科学特論	1前	2	1	県立広島大学保健福祉学部 教授 (平28.4)	
269	兼任	教授	ハシダ ケン 林田 賢史 <平成31年4月>		博士(社会 健康医学)		環境保健学概論※	1前	0.1	1	産業医科大学病院医療情報 部 部長 (平27.4)	
270	兼任	教授	オオノ タカ 大瀧 慈 <平成31年4月>		理学博士		環境保健学概論※	1前	0.1	1	広島大学名誉教授 (平28.4)	
271	兼任	教授	ヨシノブ タカシ 頼藤 貴志 <平成31年4月>		医学博士		環境保健学概論※	1前	0.1	1	岡山大学大学院環境生命科 学研究科 准教授 (平27.4)	
272	兼任	教授	クハラ マサオ 桑原 正雄 <平成31年4月>		医学博士		医療政策・国際保健概論※	1前	0.1	1	広島県感染症・疾病管理セ ンター センター長 (平25.4)	
273	兼任	教授	ヤマサキ ケンジ 山崎 健次 <平成31年4月>		歯学学士		医療政策・国際保健概論※	1前	0.1	1	(一社)広島県歯科医師会 副会長 (平27.6)	
274	兼任	教授	カシノキ エフコ 柏樹 悦郎 <平成31年4月>		学士(医学)		医療政策・国際保健概論※	1前	0.1	1	厚生労働省広島検疫所 所長 (平27.4)	

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程前期)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
275	兼任	教授	トイ ヒロユキ 土居 弘幸 <平成31年4月>		医学博士		医療政策・国際保健概論※	1前	0.1	1	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 教授 (平15.4)	
276	兼任	教授	オイカ トモシ 及川 友好 <平成31年4月>		博士(医学)		スポーツリハビリテーション 学特別研究	1~2	10	1	南相馬市立総合病院 院長 (平29.4)	
277	兼任	教授	ニシムラ フサリ 西村 英紀 <平成31年4月>		博士(歯学)		口腔健康科学特論※	1前	0.2	1	九州大学大学院歯学研究院 教授 (平25.4)	
278	兼任	教授	ウチダ カズコ 内田 嘉壽子 <平成31年4月>		博士(歯学)		口腔健康科学特論※	1前	0.1	1	有限会社かづきれいこ 社長 (平1.4)	
279	兼任	教授	マキヒラ セイヨウ 牧平 清超 <平成31年4月>		博士(歯学)		口腔健康科学特論※	1前	0.1	1	九州大学大学院歯学研究院 准教授 (平22.4)	
280	兼任	教授	モリタ カツヤ 森田 克也 <平成31年4月>		薬学博士		総合薬理学※	1後	0.2	1	広島文化学園大学看護学部 教授 (平25.4)	
281	兼任	教授	イダノ トキミ 飯田 理文 <平成31年4月>		博士(薬学)		薬科学特論※	1①	0.1	1	中外製薬株式会社トランス レーショナルクリニカルリ サーチ企画部 臨床薬理解析グループマネ ジャー (平22.1)	
282	兼任	教授	ヨシザキ ケンイチ 吉澤 健一 <平成31年4月>		博士(医薬学)		薬科学特論※	1①	0.1	1	日本イーライリリー株式会 社 安全性メディカル・疫学/ データベース研究専門課長 (平17.3)	
283	兼任	教授	コマツ ヤスオ 小松 康雄 <平成31年4月>		博士(薬学)		薬科学特論※	1①	0.1	1	国立研究開発法人 産業技 術総合研究所生命工学領域 研究戦略部研究企画室 総括主幹 (平29.4)	
284	兼任	教授	カズミ マコト 加登住 真 <平成31年4月>		学士(文学)		薬科学特論※	1①	0.1	1	株式会社キャンパス 取締役最高財務責任者 (平17.9)	
285	兼任	教授	カンダ ヤスリ 諫田 泰成 <平成31年4月>		博士(薬学)		薬科学特論※	1①	0.1	1	国立医薬品食品衛生研究所 薬理部長 (平29.4)	
286	兼任	教授	ウエハラ ヒデト 植原 秀人 <平成31年4月>		修士(薬学)		薬科学特論※	1①	0.1	1	日本たばこ産業(株) 医 薬総合研究所 生産技術研 究所 副所長 (平24.4)	
287	兼任	教授	コンドウ ヒロサト 近藤 裕郷 <平成31年4月>		薬学博士		薬科学特論※	1①	0.1	1	国立研究開発法人 医薬基 盤・健康・栄養研究所 所長 (平30.4)	
288	兼任	教授	ヤシガシ シンイチロウ 安永 晋一郎 <平成31年4月>		医学博士		分子生物学と放射線防護※	1前	0.1	1	福岡大学医学部医学科 生化学講座 主任教授 (平27.4)	
289	兼任	教授	ハラシマ ヒデアキ 原島 秀吉 <平成31年4月>		薬学博士		核酸分析化学特論【隔年】	1②	2	1	北海道大学大学院薬学研 究院 教授 (平21.4)	
290	兼任	教授	オノ マサカ 笈田 将皇 <平成31年4月>		博士(医学)		画像診断物理学演習	1後	2	1	岡山大学大学院保健学研究 科 准教授 (平25.4)	
291	兼任	教授	ヤシマツ ヒロ 矢嶋 信浩 <平成31年4月>		理学博士		未病・予防医学特論【隔年】	1④	2	1	マイメタゲノム株式会社 代表取締役社長 (平28.2)	
292	兼任	教授	ニシオ ナリツ 西尾 慎治 <平成31年4月>		博士(医学)		科学英語	1前	1	1	東京女子医科大学大学院医 学研究科 教授 (平28.4)	
293	兼任	教授	カミトキ 内匠 透 <平成31年4月>		医学博士		特別演習 特別研究	1通 1~2	4 8	1 1	独立行政法人 理化学研 究所 脳科学総合研究セン ター 精神生物学研究チー ム チームリーダー (平28.4)	
294	兼任	准教授	ニシカワ カズオ 西川 一男 <平成31年4月>		博士(工学)		生体医工学イノベーション※	1①	0.1	1	マツダ株式会社 技術研 究所 先進車両構造研究部門 部門統括研究長 (平24.4)	
295	兼任	准教授	ウチキ ヨシコ 妻木 陽子 <平成31年4月>		博士(栄養学)		栄養学※	1③	0.1	1	広島女学院大学生活科学部 准教授 (平29.4)	

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程前期)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
296	兼任	准教授	ハギノラ(ハコダテ) シュウコ 萩原(迫田) 修子 <平成31年4月>		文学修士		看護倫理	1前	2	1	熊本学園大学商学部 教授 (平24.4)	
297	兼任	准教授	ババ アツコ 馬場 敦子 <平成31年4月>		修士(看護学)		慢性疾患ケア看護学特論4	1後	2	1	神戸女子大学看護学部 講師 (平27.4)	
298	兼任	准教授	カサキ ヨシノブ 高崎 洋介 <平成31年4月>		博士(医学)		疫学基礎論※	1前	0.1	1	JICA技術協力プロジェクト チーフアドバイザー (平28.7)	
299	兼任	准教授	イワサキ 泰昌 岩崎 泰昌 <平成31年4月>		博士(医学)		総合医療実践学特論※	1後	0.2	1	独立行政法人国立病院機構 呉医療センター・中国がん センター 救命救急セン ター 部長 (平28.4)	
300	兼任	准教授	コノヨリ 陽一 河野 陽一 <平成31年4月>		博士(薬学)		薬科学特論※	1①	0.1	1	独立行政法人 医薬品医療 機器総合機構 新薬審査第 五部 審査役 (平26.8)	
301	兼任	准教授	コサキ 展慶 小坂 展慶 <平成31年4月>		博士(理学)		薬科学特論※	1①	0.1	1	東京医科歯科大学連携講座 細胞外小胞創薬研究講座 客員准教授 (平29.4)	
302	兼任	准教授	カサキ 紀子 岡崎 紀子 <平成31年4月>		修士(薬学)		薬科学特論※	1①	0.1	1	ノボノルディスクファーマ 株式会社 社長室 室長 (平25.8)	
303	兼任	准教授	タケノコ 祐介 唯保 祐介 <平成31年4月>		博士(薬学)		薬科学特論※	1①	0.1	1	日本ベーリンガーインゲル ハイム株式会社 医薬開発 本部 臨床薬物動態部 部員 (平19.4)	
304	兼任	准教授	イノ 克俊 井戸 克俊 <平成31年4月>		博士(医学)		薬科学特論※	1①	0.1	1	エーザイ株式会社 ニュー ロロジービジネスグループ 筑波研究部プロファイリン グ グループ長 (平13.4)	
305	兼任	准教授	ナカノ 雄一郎 成田 雄一郎 <平成31年4月>		博士(工学)		核医学物理学 核医学物理学演習	1後 2前	1 2	1 1	医療法人雄心会 青森新 都 市病院 医学物理室長 (平29.1)	
306	兼任	准教授	ケンゾウ 雅浩 権丈 雅浩 <平成31年4月>		学士(医学)		放射線安全演習	1後	2	1	広島県立広島がん高精度放 射線治療センター 副センター長 (平27.9)	
307	兼任	准教授	リー デイビッド クリストフ ー LEE DAVID CHRISTOPHE <平成31年4月>		M.A. (哲 学) (英国)		English Communication	1④	2	1	英会話講師 (平22.9)	
308	兼任	准教授	マツカ 凜 松岡 凜 <平成31年4月>		工学修士		医療統計学	1前	1	1	順天堂大学臨床研究支援セ ンター 客員准教授 (平20.4)	
309	兼任	准教授	オオヒロシ 洋 大津 洋 <平成31年4月>		修士(数理学)		医療統計学	1前	1	1	国立研究開発法人国立国際 医療研究センター 臨床研 究センター 医療情報解析 研究部 臨床疫学研究室長 (平27.4)	
310	兼任	准教授	アカハネ 恵一 赤羽 恵一 <平成31年4月>		医学博士		保健物理学	1後	2	1	国立研究開発法人 量子化 学技術研究開発機構 放射 線医学総合研究所 計測・ 線量評価部 外部被ばく線量評価チーム リーダー (平28.4)	
311	兼任	准教授	テラトウ 宏明 寺東 宏明 <平成31年4月>		博士(理学)		遺伝子化学A【隔年】※	1・2④	1.4	1	佐賀大学総合分析実験セン ター 准教授 (平22.4)	
312	兼任	講師	ミズミ 幸子 三角 幸子 <平成31年4月>		経営学修士		Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace※	1・2③	0.1	1	JICA中国国際センター 所長 (平30.4)	
313	兼任	講師	クモト 美穂子 隈元 美穂子 <平成31年4月>		Master's of Internatio nal Affairs (米国)		SDGsへの学問的アプローチ A※	1・2①	0.1	1	国連ユニタール(国連訓練 調査研究所) 広島事務所長 (平26.1)	
314	兼任	講師	カワモト 亮之 川本 亮之 <平成31年4月>		学士(社会学)		SDGsへの学問的アプローチ B※	1・2③	0.1	1	大崎上島町総務企画課企画 調整係長 (平28.4)	

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程前期)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週あたり平 均 日 数
315	兼任	教授	タカ コウ 田中 剛 <平成31年4月>		医学博士		医療情報リテラシー※	1・2③	0.1	1	広島県 健康福祉局長 (平30.4)	
316	兼任	講師	コバヤシ ケン 横林 賢一 <平成31年4月>		博士(医学)		総合医療実践学特論※	1後	0.2	1	医療法人ほーむけあ ほーむけあクリニック 院長 (平29.4)	
317	兼任	講師	キムラ トモキ 木村 友昭 <平成31年4月>		博士(医学)		環境保健学概論※	1前	0.1	1	一般財団法人MOA健康科学 センター 業務執行理事・研究部 次長 (平26.6)	

教 員 の 氏 名 等												
(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程後期)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
1	専	教授	マツウラ シンヤ 松浦 伸也 <平成31年4月>		医学博士		生命・医療倫理学B※ 放射線総合医科学※ 特別演習 特別研究	1① 1① 1～2 1～3	0.1 0.3 4 6	1 1 1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 教授 (平7.8)	5日
2	専	教授	ヨシミ マサオ 吉栖 正生 <平成31年4月>		博士(医学)		研究方法論B※ 特別演習 特別研究	1① 1～2 1～3	0.2 4 6	1 1 1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 教授 (平14.4)	5日
3	専	教授	ヒヤマ エイウ 檜山 英三 <平成31年4月>		医学博士		研究方法論B※ 特別演習 特別研究	1① 1～2 1～3	0.1 4 6	1 1 1	広島大学自然科学研究支援 開発センター 教授 (平1.7)	5日
4	専	教授	タノ トシ 田代 聡 <平成31年4月>		博士(医学)		研究方法論B※ 特別演習 特別研究	1① 1～2 1～3	0.1 4 6	1 1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 教授 (平12.9)	5日
5	専	教授	アベノ ヒロノリ 相澤 秀紀 <平成31年4月>		博士(医学)		バイオメディカルサイエンス の創生展開※ 特別演習 特別研究	1③ 1～2 1～3	0.1 4 6	1 1 1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 教授 (平27.6)	5日
6	専	教授	マツノ カツシ 松浪 勝義 <平成31年4月>		博士(医学)		バイオメディカルサイエンス の創生展開※ 生薬学特別演習 生薬学特別研究	1③ 1～2 1～3	0.1 4 6	1 1 1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 教授 (平16.6)	5日
7	専	教授	モリヤマ(奥本) ミチ子 森山(奥本) 美知子 <平成31年4月>		博士(医学)		Environment and Health Research Methodology and Health System Management ヘルスプロモーション研究法 論※ Advanced Research Methodology in Health Science Global Health Challenges and Solutions II 成人看護方法開発学特講 成人看護方法開発学特講演習 看護開発科学特別研究	1① 1③ 1後 1前 1後 1前 1前・後 1～3	1 1 0.2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 2 2 1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 教授 (平14.4)	5日
8	専	教授	スガノ トシユキ 砂川 融 <平成31年4月>		博士(医学)		ヘルスプロモーション研究法 論※ 上肢機能解析制御科学特講 上肢機能解析制御科学特講演習 心身機能生活制御科学特別研究	1後 1前 1前・後 1～3	0.8 2 2 6	1 1 2 1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 教授 (平18.4)	5日
9	専	教授	オヤマ オサエ 折山 早苗 <平成31年4月>		博士(看護学)		多職種連携B※ ヘルスプロモーション研究法 論※ 基礎看護技術開発学特講 基礎看護技術開発学特講演習 看護開発科学特別研究	1① 1後 1前 1前・後 1～3	0.1 0.2 2 2 6	1 1 1 2 1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 教授 (平28.4)	5日
10	専	教授	ソノエ イクオ 祖父江 育子 <平成31年4月>		博士(医学)		ヘルスプロモーション研究法 論※ 小児看護方法開発学特講 小児看護方法開発学特講演習 看護開発科学特別研究	1後 1前 1前・後 1～3	0.2 2 2 6	1 1 2 1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 教授 (平23.5)	5日
11	専	教授	ウラベ ユキオ 浦邊 幸夫 <平成31年4月>		博士(医学)		ヘルスプロモーション研究法 論※ スポーツリハビリテーション 学特講 スポーツリハビリテーション 学特講演習 心身機能生活制御科学特別研究	1後 1前 1前・後 1～3	0.2 2 2 6	1 1 2 1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 教授 (平5.4)	5日
12	専	教授	ウラハ シム 浦川 将 <平成31年4月>		博士(医学)		多職種連携B※ ヘルスプロモーション研究法 論※ 生体構造学特講 生体運動・動作解析学特講 運動器機能医科学特講 生体構造学特講演習 生体運動・動作解析学特講演習 運動器機能医科学特講演習 心身機能生活制御科学特別研究	1① 1後 1前 1前 1前 1前・後 1前・後 1前・後 1～3	0.1 0.2 2 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 2 2 1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 教授 (平28.3)	5日
13	専	教授	キリト ヒカリ 桐本 光 <平成31年4月>		博士(医学)		多職種連携B※ ヘルスプロモーション研究法 論※ 感覚運動神経科学特講 感覚運動神経科学特講演習 心身機能生活制御科学特別研究	1① 1後 1前 1前・後 1～3	0.1 0.2 2 2 6	1 1 1 2 1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 教授 (平29.6)	5日
14	専	教授	カハシ マサキ 梯 正之 <平成31年4月>		医学博士		Advanced Statistics in Health Science 健康情報学特講 健康情報学特講演習 看護開発科学特別研究	1後 1前 1前・後 1～3	2 2 2 6	1 1 2 1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 教授 (昭60.9)	5日

教員の氏名等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程後期)

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 (就任年月)	申請に係る職務に 従事する 週当たり平均 日数
15	専	教授	コバヤシトシ 小林 敏生 <平成31年4月>		博士(医学)		健康推進科学特講 成人健康学特講 健康推進科学特講演習 成人健康学特講演習 看護開発科学特別研究	1前 1前 1前・後 1前・後 1～3	2 2 2 2 6	1 1 2 2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平15.4)	5日
16	専	教授	オビラミコ 大平 光子 <平成31年4月>		博士(看護学)		助産・母性看護方法開発学特講 助産・母性看護方法開発学特 講演習 看護開発科学特別研究	1前 1前・後 1～3	2 2 6	1 2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平25.4)	5日
17	専	教授	ミヤタミ 宮下 美香 <平成31年4月>		博士(保健学)		老年・がん看護方法開発学特講 老年・がん看護方法開発学特 講演習 看護開発科学特別研究	1前 1前・後 1～3	2 2 6	1 2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平16.4)	5日
18	専	教授	コシヨウヒロコ 國生 拓子 <平成31年4月>		看護学修士		精神保健看護方法開発学特講 精神保健看護方法開発学特講演習 看護開発科学特別研究	1前 1前・後 1～3	2 2 6	1 2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平17.9)	5日
19	専	教授	ナカノヒロエ 中谷 久恵 <平成31年4月>		博士(看護学)		地域・在宅看護方法開発学特講 地域・在宅看護方法開発学特講演習 看護開発科学特別研究	1前 1前・後 1～3	2 2 6	1 2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平23.9)	5日
20	専	教授	カガキヒロミ 川崎 裕美 <平成31年4月>		博士(医学)		地域・学校看護方法開発学特講 地域・学校看護方法開発学特講演習 看護開発科学特別研究	1前 1前・後 1～3	2 2 6	1 2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平13.4)	5日
21	専	教授	ハマダ ヒロフミ 濱田 泰伸 <平成31年4月>		博士(医学)		生体機能解析制御科学特講 生体機能情報科学特講 生体機能解析制御科学特講演習 生体機能情報科学特講演習 心身機能生活制御科学特別研究	1前 1前 1前・後 1前・後 1～3	2 2 2 2 6	1 1 2 2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平22.4)	5日
22	専	教授	ユサノヒロ 弓削 類 <平成31年4月>		博士(医学)		生体環境適応科学特講 生体環境適応科学特講演習 心身機能生活制御科学特別研究	1前 1前・後 1～3	2 2 6	1 2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平5.10)	5日
23	専	教授	ミヤガチ ヒロキ 宮口 英樹 <平成31年4月>		博士(保健学)		作業行動探索科学特講 作業行動探索科学特講演習 心身機能生活制御科学特別研究	1前 1前・後 1～3	2 2 6	1 2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平16.4)	5日
24	専	教授	ハナオヒデアキ 花岡 秀明 <平成31年4月>		博士(保健学)		作業機能制御科学特講 作業機能制御科学特講演習 心身機能生活制御科学特別研究	1前 1前・後 1～3	2 2 6	1 2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平18.7)	5日
25	専	教授	オカムラヒロシ 岡村 仁 <平成31年4月>		医学博士		精神機能制御科学特講 精神機能制御科学特講演習 心身機能生活制御科学特別研究	1前 1前・後 1～3	2 2 6	1 2 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平12.4)	5日
26	専	教授	ニカハヒロキ 二川 浩樹 <平成31年4月>		歯学博士		口腔健康科学特講Ⅰ※ 口腔健康科学特講Ⅱ※ 応用口腔生物工学特別演習 口腔リハビリテーション工学 特別演習 応用口腔生物・リハビリテー ション工学特別研究	1前 1前 1～2 1～2 1～3	0.8 1.1 4 4 6	1 1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平2.4)	5日
27	専	教授	サカグチ タカマサ 坂口 剛正 <平成31年4月>		博士(医学)		口腔健康科学特講Ⅰ※ 特別演習 特別研究	1前 1～2 1～3	0.6 4 6	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (昭62.4)	5日
28	専	教授	サトウ タカヒロ 里田 隆博 <平成31年4月>		歯学博士		生体構造・機能修復学特別演習 生体構造・機能修復学特別研究	1～2 1～3	4 6	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (昭59.4)	5日
29	専	教授	ムラヤマ タカシ 村山 長 <平成31年4月>		博士(工学)		医療システム工学特別演習 医療システム工学特別研究	1～2 1～3	4 6	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平1.4)	5日
30	専	教授	タケモト シノブ 竹本 俊伸 <平成31年4月>		歯学博士		口腔保健・衛生学特別演習 口腔保健管理学特別演習 口腔保健・衛生学特別研究 口腔保健管理学特別研究	1～2 1～2 1～3 1～3	4 4 6 6	1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平3.4)	5日
31	専	教授	ナカムラ マコ 内藤 真理子 <平成31年4月>		博士(歯学)		多職種連携B※ 口腔保健発達機能学特別演習 口腔健康増進学特別演習 口腔保健発達・健康増進学特 別研究	1① 1～2 1～2 1～3	0.1 4 4 6	1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平30.4)	5日
32	専	教授	タカノ ミキチ 高野 幹久 <平成31年4月>		薬学博士		薬科学特講※ 薬物動態解析・制御科学特別演習 薬物動態解析・制御科学特別研究	1①② 1～2 1～3	0.1 4 6	2 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平8.6)	5日
33	専	教授	クロダ テロオ 黒田 照夫 <平成31年4月>		博士(薬学)		薬科学特講※ 微生物医薬品開発学特別演習 微生物医薬品開発学特別研究	1①② 1～2 1～3	0.1 4 6	2 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平28.4)	5日

教員の氏名等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程後期)

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る職務に從事する 週当たり平均日数
34	専	教授	クマト クナ 熊本 卓哉 <平成31年4月>		博士(薬学)		創薬合成化学特別演習 創薬合成化学特別研究	1~2 1~3	4 6	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平29.4)	5日
35	専	教授	コイトウ 小池 透 <平成31年4月>		薬学博士		医薬分子機能科学特別演習 医薬分子機能科学特別研究	1~2 1~3	4 6	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (昭61.4)	5日
36	専	教授	モリカミ 森岡 徳光 <平成31年4月>		博士(薬学)		薬効解析科学特別演習 薬効解析科学特別研究	1~2 1~3	4 6	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平14.4)	5日
37	専	教授	イマスミ カズノ 今泉 和則 <平成31年4月>		博士(医学)		特別演習 特別研究	1~2 1~3	4 6	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平22.9)	5日
38	専	教授	サカイ ノブ 酒井 規雄 <平成31年4月>		博士(医学)		特別演習 特別研究	1~2 1~3	4 6	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平14.4)	5日
39	専	教授	タケノ マネオ 武島 幸男 <平成31年4月>		博士(医学)		特別演習 特別研究	1~2 1~3	4 6	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平3.4)	5日
40	専	教授	ヨシコウジ 吉子 裕二 <平成31年4月>		博士(歯学)		特別演習 特別研究	1~2 1~3	4 6	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平6.6)	5日
41	専	准教授	ラフマン モハメド モシウ RAHMAN MD MOSHIUR <平成31年4月>		博士(医学)		Environment and Health Research Methodology and Health System Management Advanced Research Methodology in Health Science Global Health Challenges and Solutions II	1① 1③ 1前 1後	1 1 2 2	1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平29.10)	5日
42	専	准教授	シカガキ 清一 関川 清一 <平成31年4月>		博士(保健学)		生体機能解析制御科学特講 生体機能解析制御科学特講演習	1前 1前・後	2 2	1 2	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平15.4)	5日
43	専	准教授	シモエ サシ 下江 幸司 <平成31年4月>		博士(歯学)		生体構造・機能修復学特別演習 生体構造・機能修復学特別研究	1~2 1~3	4 6	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (平16.4)	5日
44	専	准教授	ユヱリョウコ 湯元 良子 <平成31年4月>		博士(薬学)		薬物動態解析・制御科学特別演習	1~2	4	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 准教授 (昭54.5)	5日
45	専	講師	フジモト マチコ 藤本(松山) 紗央里 <平成31年4月>		博士(看護学)		助産・母性看護方法開発学特 講演習	1前・後	2	2	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平15.10)	5日
46	専	講師	オホキ ミチ 大裕 美樹 <平成31年4月>		博士(保健学)		地域・在宅看護方法開発学特 講演習	1前・後	2	2	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平24.4)	5日
47	専	講師	マエダ リアキ 前田 慶明 <平成31年4月>		博士(保健学)		スポーツリハビリテーション 学特講 スポーツリハビリテーション 学特講演習	1前 1前・後	2 2	1 2	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平23.7)	5日
48	専	講師	フジタ ナオ 藤田 直人 <平成31年4月>		博士(保健学)		運動器機能医科学特講 運動器機能医科学特講演習	1前 1前・後	2 2	1 2	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平25.4)	5日
49	専	講師	タカハシ マコト 高橋 真 <平成31年4月>		博士(学術)		生体運動・動作解析学特講演習	1前・後	2	2	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平19.4)	5日
50	専	助教	カミ マサシ 川見 昌史 <平成31年4月>		博士(薬科学)		薬物動態解析・制御科学特別 演習	1~2	4	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平26.4)	5日
51	兼担	教授	コイトウ カズヒコ 小池 一彦 <平成31年4月>		博士(水産学)		スペシャリスト型SDGs アイディアマイニング 学生セミナー	1・2・3①	1	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 教授 (平19.1)	
52	兼担	教授	カワイ コウイチロウ 河合 幸一郎 <平成31年4月>		医学博士		普遍的平和を目指して※	1・2・3④	0.3	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 教授 (平6.1)	

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程後期)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る職 務に従事す る 週当たりの平 均 日 数
53	兼担	教授	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月> フクナカ ナホキ 中塚 孝之 <平成31年4月>		理学博士		普遍的平和を目指して※	1・2・3④	0.3	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 教授 (平3.4)	
54	兼担	教授	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月> フキハラ ヒロカズ 柳原 宏和 <平成31年4月>		博士(理学)		データサイエンス	1・2・3④	2	1	広島大学大学院理学研究科 教授 (平18.7)	
55	兼担	教授	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月> クワタ タキオ 栗田 多喜夫 <平成31年4月>		博士(工学)		パターン認識と機械学習	1・2・3②	2	1	広島大学大学院工学研究科 教授 (平22.4)	
56	兼担	教授	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月> ミズトシキ 三須 敏幸 <平成31年4月>		博士(理学)		データサイエンティスト養成 リーダーシップ手法 高度イノベーション人 財のためのキャリアマ ネジメント 長期インターンシップ イノベーション演習	1・2・3 1・2・3① 1・2・3②③ 1・2・3	1 1 1 2	1 1 1 2	広島大学グローバルキャリ アデザインセンター 教授 (平26.4)	
57	兼担	教授	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月> タナ ジュンコ 田中 純子 <平成31年4月>		医学博士		医療情報リテラシー活用※ 臨床腫瘍学※ 特別演習 特別研究	1・2・3③ 1① 1~2 1~3	0.1 0.1 4 6	1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平2.4)	
58	兼担	教授	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月> タノウキ 工藤 美樹 <平成31年4月>		医学博士		医療情報リテラシー活用※ 生命・医療倫理学B※ バイオメディカルサイエンス の創生展開※	1・2・3③ 1① 1③	0.1 0.3 0.1	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平14.11)	
59	兼担	教授	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月> モリカワ リアミ 森川 則文 <平成31年4月>		博士(薬学)		生命・医療倫理学B※	1①	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平14.4)	
60	兼担	教授	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月> アヲヒロ コウジ 有廣 光司 <平成31年4月>		博士(医学)		医療情報リテラシー活用※ 生命・医療倫理学B※ 臨床腫瘍学※	1・2・3③ 1① 1①	0.1 0.1 0.1	1 1 1	広島大学病院 教授 (平14.4)	
61	兼担	教授	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月> スギヤマ カズヒコ 杉山 一彦 <平成31年4月>		博士(医学)		生命・医療倫理学B※ 臨床腫瘍学※	1① 1①	0.1 0.1	1 1	広島大学病院 教授 (平4.4)	
62	兼担	教授	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月> アライ カズオ 栗井 和夫 <平成31年4月>		医学博士		医療情報リテラシー活用※	1・2・3③	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平22.2)	
63	兼担	教授	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月> ハツリ ノボル 服部 登 <平成31年4月>		博士(医学)		医療情報リテラシー活用※	1・2・3③	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平17.4)	
64	兼担	教授	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月> シマ ノブアキ 志馬 伸朗 <平成31年4月>		博士(医学)		多職種連携B※	1①	0.3	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平27.9)	
65	兼担	教授	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月> キダ ヒロキ 木村 浩彰 <平成31年4月>		博士(医学)		多職種連携B※	1①	0.1	1	広島大学病院 教授 (平15.4)	
66	兼担	教授	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月> キネト ナツ 柿本 直也 <平成31年4月>		博士(歯学)		多職種連携B※	1①	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平28.10)	
67	兼担	教授	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月> ハシモト コウイチ 橋本 浩一 <平成31年4月>		博士(医学)		研究方法論B※ 特別演習 特別研究	1① 1~2 1~3	0.1 4 6	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平22.7)	
68	兼担	教授	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月> シノナメ ナリ 宿南 知佐 <平成31年4月>		博士(歯学)		研究方法論B※ バイオメディカルサイエンス の創生展開※ 特別演習 特別研究	1① 1③ 1~2 1~3	0.1 0.1 4 6	1 1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平25.7)	
69	兼担	教授	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月> オザワ コウイチロウ 小澤 孝一郎 <平成31年4月>		薬学博士		研究方法論B※ 薬物治療学※	1① 1③	0.1 0.4	1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平4.7)	
70	兼担	教授	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月> アサノ トモヨウ 浅野 知一郎 <平成31年4月>		博士(医学)		バイオメディカルサイエンス の創生展開※ 特別演習 特別研究	1③ 1~2 1~3	0.2 4 6	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平18.4)	
71	兼担	教授	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月> カトウ コウイチ 加藤 功一 <平成31年4月>		博士(工学)		バイオメディカルサイエンス の創生展開※ 特別演習 特別研究	1③ 1~2 1~3	0.1 4 6	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平23.4)	
72	兼担	教授	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月> ハラ ヒデトシ 田原 栄俊 <平成31年4月>		博士(薬学)		バイオメディカルサイエンス の創生展開※	1③	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 教授 (平6.10)	

教員の氏名等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程後期)

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る職務に従事する週当たり平均日数
73	兼担	教授	材ガシ ヒデキ 大段 秀樹 <平成31年4月>		博士(医学)		バイオメディカルサイエンスの創生展開※ 生体医工学イノベーションB※	1③ 1①	0.1 0.4	1 1	広島大学大学院医歯薬保健学研究科教授 (平15.4)	
74	兼担	教授	ナガタ ヤス 永田 靖 <平成31年4月>		医学博士		臨床腫瘍学※ 放射線統合医科学※ がん診療各論※	1① 1① 1①	0.2 0.1 0.3	1 1 1	広島大学大学院医歯薬保健学研究科教授 (平20.1)	
75	兼担	教授	ウダノ モリト 岡田 守人 <平成31年4月>		博士(医学)		臨床腫瘍学※	1①	0.1	1	広島大学原爆放射線医科学研究所教授 (平19.4)	
76	兼担	教授	マツノ ヒロキ 松尾 裕彰 <平成31年4月>		博士(医学)		多職種連携B※ 臨床腫瘍学※	1① 1①	0.1 0.1	1 1	広島大学病院教授 (平18.3)	
77	兼担	教授	ウダノ ヒロキ 岡本 泰昌 <平成31年4月>		博士(医学)		臨床腫瘍学※	1①	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健学研究科教授 (平11.4)	
78	兼担	教授	キヌタ ヒロシ 保田 浩志 <平成31年4月>		博士(工学)		放射線統合医科学※ 特別演習 特別研究	1① 1~2 1~3	0.1 4 6	1 1 1	広島大学原爆放射線医科学研究所教授 (平27.10)	
79	兼担	教授	ヒガシ ユキヒト 東 幸仁 <平成31年4月>		博士(医学)		放射線統合医科学※ 特別演習 特別研究	1① 1~2 1~3	0.1 4 6	1 1 1	広島大学原爆放射線医科学研究所教授 (平14.7)	
80	兼担	教授	イハノ トシ 稲葉 俊哉 <平成31年4月>		博士(医学)		放射線統合医科学※ 特別演習 特別研究	1① 1~2 1~3	0.1 4 6	1 1 1	広島大学原爆放射線医科学研究所教授 (平13.1)	
81	兼担	教授	イハノ タカオ 一戸 辰夫 <平成31年4月>		博士(医学)		がん診療各論※	1①	0.1	1	広島大学原爆放射線医科学研究所教授 (平25.1)	
82	兼担	教授	ウダノ ヒロキ 大毛 宏喜 <平成31年4月>		博士(医学)		口腔健康科学特講I※	1前	0.6	1	広島大学病院教授 (平16.4)	
83	兼担	教授	カニタ ヒロキ 紙谷 浩之 <平成31年4月>		薬学博士		薬科学特講※	1①②	0.4	2	広島大学大学院医歯薬保健学研究科教授 (平26.7)	
84	兼担	教授	コケノ ヤシロウ 古武 弥一郎 <平成31年4月>		博士(薬学)		薬科学特講※	1①②	0.1	2	広島大学大学院医歯薬保健学研究科教授 (平13.4)	
85	兼担	教授	スギヤマ マサノブ 杉山 政則 <平成31年4月>		工学博士		薬科学特講※ 未病・予防医学特別演習 未病・予防医学特別研究	1①② 1~2 1~3	0.1 4 6	2 1 1	広島大学大学院医歯薬保健学研究科共同研究講座教授 (平28.4)	
86	兼担	教授	カワトウ タカシ 河本 健 <平成31年4月>		医学博士		英語論文修辞学	1前・後	2	2	広島大学社会産学連携室教授 (平6.3)	
87	兼担	教授	イカミ コウジ 池上 浩司 <平成31年4月>		博士(理学)		特別演習 特別研究	1~2 1~3	4 6	1 1	広島大学大学院医歯薬保健学研究科教授 (平30.4)	
88	兼担	教授	ナガノ マサカ 長尾 正崇 <平成31年4月>		医学博士		特別演習 特別研究	1~2 1~3	4 6	1 1	広島大学大学院医歯薬保健学研究科教授 (平20.1)	
89	兼担	教授	ノマル コウスケ 外丸 祐介 <平成31年4月>		博士(生物環境調節学)		特別演習 特別研究	1~2 1~3	4 6	1 1	広島大学自然科学研究支援開発センター教授 (平17.2)	
90	兼担	教授	テラヤマ リウジ 寺山 隆司 <平成31年4月>		博士(医学)		特別演習 特別研究	1~2 1~3	4 6	1 1	広島大学大学院医歯薬保健学研究科教授 (平30.3)	
91	兼担	教授	スギタ マコト 杉田 誠 <平成31年4月>		博士(歯学)		特別演習 特別研究	1~2 1~3	4 6	1 1	広島大学大学院医歯薬保健学研究科教授 (平3.4)	
92	兼担	教授	カネツ タカシ 兼松 隆 <平成31年4月>		博士(歯学)		特別演習 特別研究	1~2 1~3	4 6	1 1	広島大学大学院医歯薬保健学研究科教授 (平21.2)	

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程後期)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 職務に 従事す る 週当た り平均 日 数
93	兼担	教授	カノウ イロウ 高橋 一郎 <平成31年4月>		歯学博士		特別演習 特別研究	1~2 1~3	4 6	1 1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 教授 (平14.4)	
94	兼担	教授	カガチ ヒロユキ 河口 浩之 <平成31年4月>		歯学博士		特別演習 特別研究	1~2 1~3	4 6	1 1	広島大学病院 教授 (平29.7)	
95	兼担	教授	カガミ ヒロシ 川上 秀史 <平成31年4月>		博士(医学)		特別演習 特別研究	1~2 1~3	4 6	1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 教授 (平5.4)	
96	兼担	教授	ヒロシ ノブユキ 廣橋 伸之 <平成31年4月>		博士(医学)		特別演習 特別研究	1~2 1~3	4 6	1 1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 教授 (平19.4)	
97	兼担	准教授	ホリ ケンジ 細野 賢治 <平成31年4月>		博士(農学)		SDGsの観点から見た地 域開発セミナー	1・2・3	1	1	広島大学大学院生物圏科学 研究科 准教授 (平21.2)	
98	兼担	准教授	ヤマノ タカオ 山根 達郎 <平成31年4月>		博士(国際 公共政策)		普遍的平和を目指して※	1・2・3④	0.3	1	広島大学大学院国際協力研 究科 准教授 (平25.4)	
99	兼担	准教授	カエ トモコ 掛江 朋子 <平成31年4月>		博士(学術)		普遍的平和を目指して※	1・2・3④	0.3	1	広島大学大学院国際協力研 究科 准教授 (平29.10)	
100	兼担	准教授	モリ ヒロユキ 森野 豊之 <平成31年4月>		博士(医学)		医療情報リテラシー活用※	1・2・3③	0.1	1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 准教授 (平18.3)	
101	兼担	准教授	オウラ ナホト 大上 直秀 <平成31年4月>		博士(医学)		医療情報リテラシー活用※	1・2・3③	0.1	1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 准教授 (平14.4)	
102	兼担	准教授	ヨシダ ミツヨシ 吉田 光由 <平成31年4月>		博士(歯学)		生命・医療倫理学B※	1①	0.1	1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 准教授 (平28.3)	
103	兼担	准教授	サトウ ケンイチ 佐藤 健一 <平成31年4月>		博士(理学)		研究方法論B※	1①	0.1	1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 准教授 (平8.4)	
104	兼担	准教授	オノ マサユキ 金子 雅幸 <平成31年4月>		博士(薬学)		研究方法論B※	1①	0.1	1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 准教授 (平26.7)	
105	兼担	准教授	キノシタ エイジ 木下 英司 <平成31年4月>		博士(薬学)		研究方法論B※	1①	0.1	1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 准教授 (平10.4)	
106	兼担	准教授	チヤマ ヒロミ 茶山 弘美 <平成31年4月>		博士(医学)		アドバンスド生命科学コース ワーク	1③	1	1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 准教授 (平24.4)	
107	兼担	准教授	サカハ カズミ 笹岡 貴史 <平成31年4月>		博士(情報学)		生体工学イノベーションB※	1①	0.1	1	広島大学社会産学連携室 准教授 (平30.2)	
108	兼担	准教授	カワイ ヒデヒコ 河合 秀彦 <平成31年4月>		博士(医学)		放射線総合医科学※	1①	0.1	1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 准教授 (平15.11)	
109	兼担	准教授	ホワイ トモ 細井 徹 <平成31年4月>		博士(薬学)		薬物治療学※	1③	0.2	1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 准教授 (平16.8)	
110	兼担	准教授	テイジマ シュン 亭島 淳 <平成31年4月>		博士(医学)		がん診療各論※	1①	0.1	1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 准教授 (平16.10)	
111	兼担	准教授	オノヘ カズアキ 田邊 和照 <平成31年4月>		博士(医学)		がん診療各論※	1①	0.1	1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 准教授 (平16.8)	
112	兼担	准教授	カチ マチアキ 武知 正晃 <平成31年4月>		博士(歯学)		口腔健康科学特講II※	1前	0.9	1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 准教授 (平18.10)	
113	兼担	准教授	ヘイズ クレア ネルソ HAYES CLAIR NELSON <平成31年4月>		博士(生物学)		English Presentation	1前・後	2	2	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 准教授 (平22.6)	
114	兼担	講師	カガト サトシ 岡田 賢 <平成31年4月>		博士(医学)		生命・医療倫理学B※	1①	0.1	1	広島大学大学院歯薬保健 学研究科 講師 (平27.6)	

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程後期)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る職 務に従事す る 週当たり平 均日数
115	兼任	講師	アマイヤ ウィシワ ジェット AMAYYA VISHWA JEET <平成31年4月>		博士(医学)		バイオメディカルサイエンス の創生展開※	1③	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 講師 (平17.5)	
116	兼任	講師	ミヤモト タカオ 宮本 達雄 <平成31年4月>		博士(医学)		放射線統合医科学※	1①	0.1	1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 講師 (平20.8)	
117	兼任	講師	ミハラ ケイロウ 三原 圭一朗 <平成31年4月>		博士(医学)		放射線統合医科学※	1①	0.1	1	広島大学病院 講師 (平15.1)	
118	兼任	講師	カハ イサヲ 河合 幹雄 <平成31年4月>		学士(医学)※		がん診療各論※	1①	0.1	1	広島大学病院 講師 (平28.4)	
119	兼任	講師	アベタ ヒロシ 相方 浩 <平成31年4月>		博士(医学)		がん診療各論※	1①	0.1	1	広島大学病院 講師 (平17.4)	
120	兼任	講師	カトヤ カズキ 角舎 学行 <平成31年4月>		博士(医学)		がん診療各論※	1①	0.1	1	広島大学原爆放射線医科学 研究所 講師 (平23.4)	
121	兼任	助教	カヤマ ノブキ 金山 範明 <平成31年4月>		博士(心理学)		生体工学イノベーション※	1①	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 特任助教 (平25.7)	
122	兼任	助教	コノカワ マコト 小早川 誠 <平成31年4月>		博士(医学)		臨床腫瘍学※	1①	0.1	1	広島大学病院 助教 (平29.3)	
123	兼任	助教	ミナミ ユキオ 三上 幸夫 <平成31年4月>		博士(医学)		臨床腫瘍学※	1①	0.1	1	広島大学病院 助教 (平28.4)	
124	兼任	助教	ヤナギ ユキヲ 柳瀬 雄輝 <平成31年4月>		博士(医薬学)		薬物治療学※	1③	0.2	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平21.5)	
125	兼任	助教	ヨシイ ミチコ 吉井 美智子 <平成31年4月>		薬学博士		薬物治療学※	1③	0.2	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平2.8)	
126	兼任	助教	ヒラタ エイジ 平田 英司 <平成31年4月>		博士(医学)		がん診療各論※	1①	0.1	1	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 助教 (平24.10)	
127	兼任	助教	ツネツ ミコ 恒松 美輪子 <平成31年4月>		博士(保健学)		健康情報学特講 健康情報学特講演習	1前 1前・後	2 2	1 2	広島大学大学院医歯薬保健 学研究科 特任助教 (平25.3)	
128	兼任	教授	オギサキ コウロウ 小笹 晃太郎 <平成31年4月>		医学博士		医療情報リテラシー活用※	1・2・3③	0.1	1	公益財団法人放射線影響研 究所 疫学部長 (平20.11)	
129	兼任	教授	タカ コウウ 田中 剛 <平成31年4月>		博士(医学)		医療情報リテラシー活用※	1・2・3③	0.1	1	広島県 健康福祉局長 (平30.4)	
130	兼任	教授	タカハシ ノブオ 高橋 規郎 <平成31年4月>		理学博士		生命・医療倫理学B※	1①	0.1	1	(公財)放射線影響研 究所 顧問 (平26.4)	
131	兼任	教授	ノノガキ タカヒデ 農澤 隆秀 <平成31年4月>		博士(工学)		生体工学イノベーション※	1①	0.1	1	マツダ株式会社 技術研究所 技監 (平27.1)	
132	兼任	教授	サカモト カズオ 坂本 和夫 <平成31年4月>		修士(技術経営)		生体工学イノベーション※	1①	0.1	1	マツダ株式会社 技術研究所革新研究創成部 門 研究長 (平30.4)	
133	兼任	教授	タカミ アキヒデ 高見 明秀 <平成31年4月>		博士(工学)		生体工学イノベーション※	1①	0.1	1	マツダ株式会社 技術研究所 所長 (平29.10)	
134	兼任	教授	ヨコエ キヨコ 横尾 京子 <平成31年4月>		博士(保健学)		助産・母性看護方法開発学特講	1前	2	1	広島大学 名誉教授 (平25.4)	
135	兼任	教授	イダノ トシム 飯田 理文 <平成31年4月>		博士(薬学)		薬科学特講※	1①②	0.1	2	中外製薬株式会社トランス レーションクリニカルリ サーチ企画部 臨床薬理解析グループマネ ージャー (平22.1)	

教 員 の 氏 名 等

(医系科学研究科 総合健康科学専攻 博士課程後期)

調書 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年 齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る 週当たり平 均 日 数
136	兼任	教授	ヨシヅキ ケンイチ 吉澤 健一 <平成31年4月>		博士(医学)		薬科学特講※	1①②	0.1	2	日本イーライリリー株式会 社 安全性メディカル・疫学/ データベース研究専門課長 (平17.3)	
137	兼任	教授	コマツ ケイオ 小松 康雄 <平成31年4月>		博士(薬学)		薬科学特講※	1①②	0.1	2	国立研究開発法人 産業技 術総合研究所生命工学領域 研究戦略部研究企画室 総括主幹 (平29.4)	
138	兼任	教授	カスミ マコト 加登住 真 <平成31年4月>		学士(文学)		薬科学特講※	1①②	0.1	2	株式会社キャンパス 取締役最高財務責任者 (平17.9)	
139	兼任	教授	カンダ ケイシ 諫田 泰成 <平成31年4月>		博士(薬学)		薬科学特講※	1①②	0.1	2	国立医薬品食品衛生研究所 薬理部長 (平29.4)	
140	兼任	教授	ウヰハラ ヒデト 植原 秀人 <平成31年4月>		修士(薬学)		薬科学特講※	1①②	0.1	2	日本たばこ産業(株) 医 薬総合研究所 生産技術研 究所 副所長 (平24.4)	
141	兼任	教授	コンドウ ヒロサト 近藤 裕郷 <平成31年4月>		薬学博士		薬科学特講※	1①②	0.1	2	国立研究開発法人 医薬基 盤・健康・栄養研究所 所長 (平30.4)	
142	兼任	教授	タケミ トオル 内匠 透 <平成31年4月>		医学博士		特別演習 特別研究	1~2 1~3	4 6	1 1	独立行政法人 理化学研究 所 脳科学総合研究セン ター 精神生物学研究チー ム チームリーダー (平28.4)	
143	兼任	准教授	ニシカワ カズオ 西川 一男 <平成31年4月>		博士(工学)		生体医工学イノベーションB※	1①	0.1	1	マツダ株式会社 技術研究 所 先進車両構造研究部門 部門統括研究員 (平24.4)	
144	兼任	准教授	アイダ ママドヴァ AIDA MAMADOVA <平成31年4月>		博士(医学)		Global Health Challenges and Solutions II	1後	2	1	金沢大学国際機構 准教授 (平30.4)	
145	兼任	准教授	コウノ ヨウイチ 河野 陽一 <平成31年4月>		博士(薬学)		薬科学特講※	1①②	0.1	2	独立行政法人 医薬品医療 機器総合機構 新薬審査第 五部 審査役 (平26.8)	
146	兼任	准教授	コサカ ノブヨシ 小坂 展慶 <平成31年4月>		博士(理学)		薬科学特講※	1①②	0.1	2	東京医科大学産学連携講座 細胞外小胞創薬研究講座 客員准教授 (平29.4)	
147	兼任	准教授	カサキキ リコ 岡崎 紀子 <平成31年4月>		修士(薬学)		薬科学特講※	1①②	0.1	2	ノボルディスプレイファーマ 株式会社 社長室 室長 (平25.8)	
148	兼任	准教授	タケノコ ユウスケ 唯保 祐介 <平成31年4月>		博士(薬学)		薬科学特講※	1①②	0.1	2	日本ペーリンガーインゲル ハイム株式会社 医薬開発 本部 臨床薬物動態部 部員 (平19.4)	
149	兼任	准教授	イト カツシ 井戸 克俊 <平成31年4月>		博士(医学)		薬科学特講※	1①②	0.1	2	エーザイ株式会社 ニュー ロロジービジネスグループ 筑波研究部プロファイリン グ グループ長 (平13.4)	

国立大学法人広島大学 設置等に関わる組織の移行表

平成30年度	入学定員 編入学定員 収容定員			平成31年度	入学定員 編入学定員 収容定員			変更の事由
広島大学				広島大学				
総合科学部				総合科学部				
総合科学科	120		480	総合科学科	120		480	
国際共創学科	40		160	国際共創学科	40		160	
文学部		3年次		文学部		3年次		
人文学科	130	10	540	人文学科	130	10	540	
教育学部				教育学部				
第一類(学校教育系)	157		628	第一類(学校教育系)	157		628	
第二類(科学文化教育系)	82		328	第二類(科学文化教育系)	82		328	
第三類(言語文化教育系)	73		292	第三類(言語文化教育系)	73		292	
第四類(生涯活動教育系)	81		324	第四類(生涯活動教育系)	81		324	
第五類(人間形成基礎系)	52		208	第五類(人間形成基礎系)	52		208	
法学部		3年次		法学部		3年次		
法学科 昼間コース	140	10	580	法学科 昼間コース	140	10	580	
法学科 夜間主コース	30	10	140	法学科 夜間主コース	30	10	140	
経済学部		3年次		経済学部		3年次		
経済学科 昼間コース	150	5	610	経済学科 昼間コース	150	5	610	
経済学科 夜間主コース	45	5	190	経済学科 夜間主コース	45	5	190	
理学部				理学部				
数学科	47		188	数学科	47		188	
物理学科	66		264	物理学科	66		264	
化学科	59		236	化学科	59		236	
生物科学科	34		136	生物科学科	34		136	
地球惑星システム学科	24		96	地球惑星システム学科	24		96	
		3年次				3年次		
		10	20			10	20	
医学部				医学部				
医学科	105		630	医学科	105		630	
保健学科	120		480	保健学科	120		480	
歯学部				歯学部				
歯学科	53		318	歯学科	53		318	
口腔健康科学科	40		160	口腔健康科学科	40		160	
薬学部				薬学部				
薬学科	38		228	薬学科	38		228	
薬科学科	22		88	薬科学科	22		88	
工学部		3年次		工学部		3年次		
第一類(機械・輸送・材料・エネルギー系)	150	5	610	第一類(機械・輸送・材料・エネルギー系)	150	5	610	
第二類(電気電子・システム情報系)	90	3	366	第二類(電気電子・システム情報系)	90	3	366	
第三類(応用化学・生物工学・化学工学系)	115	4	468	第三類(応用化学・生物工学・化学工学系)	115	4	468	
第四類(建設・環境系)	90	3	366	第四類(建設・環境系)	90	3	366	
生物生産学部		3年次		生物生産学部		3年次		
生物生産学科	90	10	380	生物生産学科	90	10	380	
情報科学部		3年次		情報科学部		3年次		
情報科学科	80	5	330	情報科学科	80	5	330	
		3年次				3年次		
	2,323	80	9,844		2,323	80	9,844	

平成30年度	入学定員	編入学定員	収容定員	平成31年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
広島大学大学院				広島大学大学院				
総合科学研究科				総合科学研究科				
総合科学専攻(M)	60		120	総合科学専攻(M)	50		100	定員変更(△10)
総合科学専攻(D)	20		60	総合科学専攻(D)	17		51	定員変更(△3)
文学研究科				文学研究科				
人文学専攻(M)	64		128	人文学専攻(M)	64		128	
人文学専攻(D)	32		96	人文学専攻(D)	32		96	
教育学研究科				教育学研究科				
教職開発専攻(P)	20		40	教職開発専攻(P)	20		40	
学習開発学専攻(M)	20		40	学習開発学専攻(M)	20		40	
教科教育学専攻(M)	80		160	教科教育学専攻(M)	80		160	
日本語教育学専攻(M)	14		28	日本語教育学専攻(M)	14		28	
教育学専攻(M)	14		28	教育学専攻(M)	14		28	
心理学専攻(M)	19		38	心理学専攻(M)	19		38	
高等教育学専攻(M)	5		10	高等教育学専攻(M)	5		10	
教育学習科学専攻(D)	49		147	教育学習科学専攻(D)	49		147	
社会科学研究科				社会科学研究科				
法政システム専攻(M)	24		48	法政システム専攻(M)	24		48	
法政システム専攻(D)	5		15	法政システム専攻(D)	5		15	
社会経済システム専攻(M)	28		56	社会経済システム専攻(M)	28		56	
社会経済システム専攻(D)	8		24	社会経済システム専攻(D)	8		24	
マネジメント専攻(M)	28		56	マネジメント専攻(M)	28		56	
マネジメント専攻(D)	14		42	マネジメント専攻(D)	14		42	
理学研究科				理学研究科				
数学専攻(M)	22		44	数学専攻(M)	22		44	
数学専攻(D)	11		33	数学専攻(D)	11		33	
物理学専攻(M)	30		60	物理学専攻(M)	30		60	
物理学専攻(D)	13		69	物理学専攻(D)	13		69	
化学専攻(M)	23		46	化学専攻(M)	23		46	
化学専攻(D)	11		33	化学専攻(D)	11		33	
生物科学専攻(M)	24		48	生物科学専攻(M)	0		0	平成31年4月学生募集停止
生物科学専攻(D)	12		36	生物科学専攻(D)	0		0	平成31年4月学生募集停止
地球惑星システム学専攻(M)	10		20	地球惑星システム学専攻(M)	10		20	
地球惑星システム学専攻(D)	5		15	地球惑星システム学専攻(D)	5		15	
数理分子生命理学専攻(M)	23		46	数理分子生命理学専攻(M)	0		0	平成31年4月学生募集停止
数理分子生命理学専攻(D)	11		33	数理分子生命理学専攻(D)	0		0	平成31年4月学生募集停止
先端物質科学研究科				先端物質科学研究科				
量子物質科学専攻(M)	25		50	量子物質科学専攻(M)	25		50	
量子物質科学専攻(D)	12		36	量子物質科学専攻(D)	12		36	
分子生命機能科学専攻(M)	24		48	分子生命機能科学専攻(M)	0		0	平成31年4月学生募集停止
分子生命機能科学専攻(D)	11		33	分子生命機能科学専攻(D)	0		0	平成31年4月学生募集停止
半導体集積科学専攻(M)	15		30	半導体集積科学専攻(M)	15		30	
半導体集積科学専攻(D)	7		21	半導体集積科学専攻(D)	7		21	
医歯薬保健学研究科				<u>医歯薬保健学研究科</u>				平成31年4月学生募集停止
医歯薬学専攻(D)	97		388	医歯薬学専攻(D)	0		0	
口腔健康科学専攻(M)	12		24	口腔健康科学専攻(M)	0		0	
口腔健康科学専攻(D)	4		12	口腔健康科学専攻(D)	0		0	
薬科学専攻(M)	18		36	薬科学専攻(M)	0		0	
薬科学専攻(D)	3		9	薬科学専攻(D)	0		0	
保健学専攻(M)	34		68	保健学専攻(M)	0		0	
保健学専攻(D)	15		45	保健学専攻(D)	0		0	
医歯科学専攻(M)	12		24	医歯科学専攻(M)	0		0	
工学研究科				工学研究科				
機械システム工学専攻(M)	28		56	機械システム工学専攻(M)	28		56	
機械システム工学専攻(D)	9		27	機械システム工学専攻(D)	9		27	
機械物理工学専攻(M)	30		60	機械物理工学専攻(M)	30		60	
機械物理工学専攻(D)	10		30	機械物理工学専攻(D)	10		30	

平成30年度	入学定員	編入学定員	収容定員	平成31年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
システムサイバネティクス専攻(M)	34		68	システムサイバネティクス専攻(M)	34		68	
システムサイバネティクス専攻(D)	11		33	システムサイバネティクス専攻(D)	11		33	
情報工学専攻(M)	37		74	情報工学専攻(M)	37		74	
情報工学専攻(D)	13		39	情報工学専攻(D)	13		39	
化学工学専攻(M)	24		48	化学工学専攻(M)	24		48	
化学工学専攻(D)	8		24	化学工学専攻(D)	8		24	
応用化学専攻(M)	26		52	応用化学専攻(M)	26		52	
応用化学専攻(D)	9		27	応用化学専攻(D)	9		27	
社会基盤環境工学専攻(M)	20		40	社会基盤環境工学専攻(M)	20		40	
社会基盤環境工学専攻(D)	7		21	社会基盤環境工学専攻(D)	7		21	
輸送・環境システム専攻(M)	20		40	輸送・環境システム専攻(M)	20		40	
輸送・環境システム専攻(D)	7		21	輸送・環境システム専攻(D)	7		21	
建築学専攻(M)	21		42	建築学専攻(M)	21		42	
建築学専攻(D)	7		21	建築学専攻(D)	7		21	
生物圏科学研究科				<u>生物圏科学研究科</u>				平成31年4月学生募集停止
生物資源科学専攻(M)	30		60		0		0	
生物資源科学専攻(D)	12		36		0		0	
生物機能開発学専攻(M)	24		48		0		0	
生物機能開発学専攻(D)	12		36		0		0	
環境循環系制御学専攻(M)	19		38		0		0	
環境循環系制御学専攻(D)	9		27		0		0	
国際協力研究科				国際協力研究科				
開発科学専攻(M)	43		86	開発科学専攻(M)	43		86	
開発科学専攻(D)	22		66	開発科学専攻(D)	22		66	
教育文化専攻(M)	28		56	教育文化専攻(M)	28		56	
教育文化専攻(D)	14		42	教育文化専攻(D)	14		42	
				<u>統合生命科学</u> 研究科				研究科の設置(事前伺い)
				統合生命科学専攻(M)	170		340	
				統合生命科学専攻(D)	70		210	
				<u>医系科学</u> 研究科				研究科の設置(事前伺い)
				医歯薬学専攻(D)	97		388	
				総合健康科学専攻(M)	76		152	
				総合健康科学専攻(D)	25		75	
法務研究科				法務研究科				
法務専攻(P)	20		60	法務専攻(P)	20		60	
	1,542		3,721		1,561		3,762	